

取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。

RAV4

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ）	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた）	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	8
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 12
検索のしかた 13
イラスト目次 14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 28
安全なドライブのために 29
シートベルト 31
SRS エアバッグ 34
排気ガスに対する注意 40

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート 42

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 56
ハイブリッドシステムの注意 61

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 65
オートアラーム 66

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 70
計器類 75
マルチインフォメーションディスプレイ 80
ヘッドアップディスプレイ 91

3 運転する前に

3-1. キー
キー 98
デジタルキー 101

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 105
バックドア 111
スマートエントリー＆スタートシステム 125

3-3. シートの調整
フロントシート 131
リヤシート 132
ヘッドレスト 135

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 137
インナーミラー 138
デジタルインナーミラー 139
ドアミラー 147

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 149
パノラマムーンルーフ 152
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 155

3-6. お好み設定
マイセッティング 159

4 運転

4-1. 運転にあたって
運転にあたって 163
荷物を積むときの注意 170

4-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ 172
EV ドライブモード 177
トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車） 179
トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車） 182
方向指示レバー 187
パーキングブレーキ 188
ブレーキホールド 192

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 195
アダプティブハイ ビームシステム（AHS） 198
オートマチックハ イビーム（AHB） 202
フォグランプスイッチ 205
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 206
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 209

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 211

4-5. 運転支援装置について

運転支援システム情報 213
Toyota Safety Sense 217
ドライバーモニター 226
プリクラッシュセーフティ（PCS） 228
レーントレーシングアシスト（LTA） 238
レーンチェンジアシスト（LCA） 242
レーンディパーチャーアラート（LDA） 246
プロアクティブドライビングアシスト（PDA） 253
フロントクロストラフィックアラート（FCTA） 257
発進遅れ告知機能 259
ロードサインアシスト（RSA） .. 260
レーダークルーズコントロール . 263
クルーズコントロール 274
ドライバー異常時対応システム . 277
トヨタチームメイト アドバンスト ドライブ（渋滞時支援） 280
ITS Connect 284
ブラインドスポットモニター（BSM） 290
安心降車アシスト 296
後方車両への接近警報 300
後方車両接近告知 302
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能） 304
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） 308
クリアランスソナー 310
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 319
リヤカメラディテクション（RCD） 324
パーキングサポートブレーキ（PKSB） 327
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物） 331
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 335
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者） 336
急加速抑制 338
プラスサポート（販売店装着オプション） 342
トヨタチームメイト アドバンスト パーク 347
ドライブモードセレクトスイッチ 374
マルチテレインセレクト 375
ダウンヒルアシストコントロールシステム 377
運転を補助する装置 379

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 386
寒冷時の運転 388

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

“All auto” 制御 392
オートエアコン 393
ステアリングヒーター／シートヒーター & フロントシートベンチレーション 400

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 403

5-3. 収納装備

収納装備一覧 406
ラゲージルーム内装備 410

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 415
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム 425
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 434

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 438
内装の手入れ 442

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 444
ガレージジャッキ 446
ウォッシャー液の補充 447
タイヤについて 448
タイヤ空気圧について 450
エアコンフィルターの交換 451
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 453
電子キーの電池交換 456
ヒューズの点検・交換 458
電球（バルブ）の交換 461

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 468
非常点滅灯（ハザードランプ） 469
発炎筒 469
車両を緊急停止するには 470
水没・冠水したときは 471
車中泊が必要なときは 472

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 473
警告灯がついたときは 478
警告メッセージが表示されたときは 485
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 492
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 503
ハイブリッドシステムが始動できないときは 509
キーをなくしたときは 511
給油扉が開かないときは 511
電子キーが正常に働かないときは 512
補機バッテリーがあがったときは 514
オーバーヒートしたときは 519
スタックしたときは 522

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 526

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 531

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 556

8-4. オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報 557

さくいん

こんなときは（症状別さくいん） 560
車から音が鳴ったときは（音さくいん） 562
アルファベット順さくいん 565
五十音順さくいん 566

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.9 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

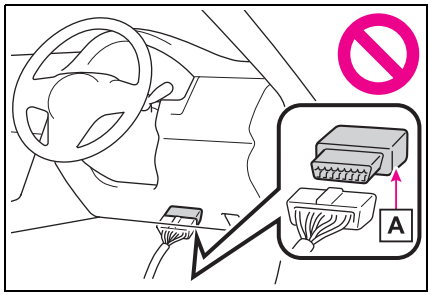
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターA などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ（マルチメディアシステム除く）※1

※1グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺・ドライバーモニターのカメラ画像）※2

※2車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

- 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます。）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術、商品開発、品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録しま

す。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

ソフトウェアアップデートについて

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● ハイブリッドシステム
● EFI コンピュータ
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● SRS エアバッグ
● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯

域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.342）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

高電圧部品に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り使いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次の通りです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリーパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。
ご購入いただきましたアクセサリーパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。
商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO_2 排出量の低減が見込まれます。
持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリーパーツ取扱説明書掲

載サイト：
お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。
URL：https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

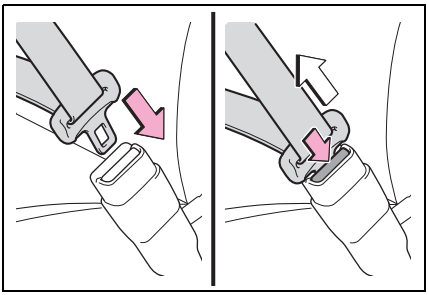
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

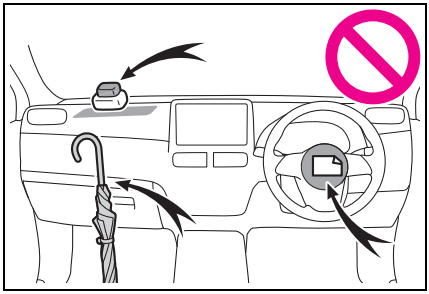
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



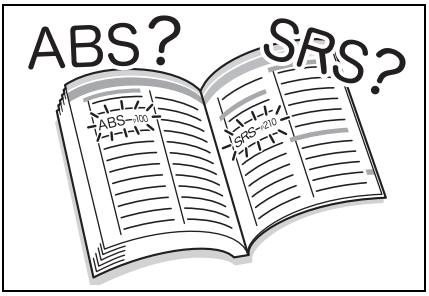
記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	**してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでください**という意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

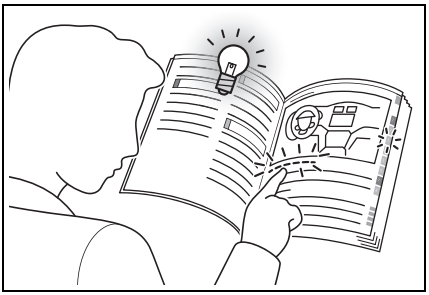
●五十音順さくいん：→P.566

●アルファベット順さくいん：→P.565



■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.14



■ 症状や音から探す

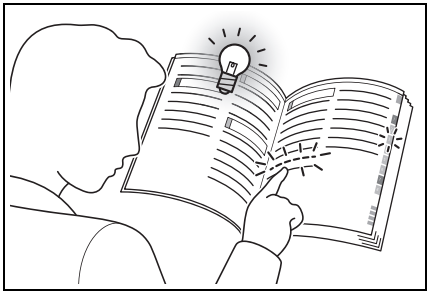
●こんなときは（症状別さくいん）：→P.560

●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.562



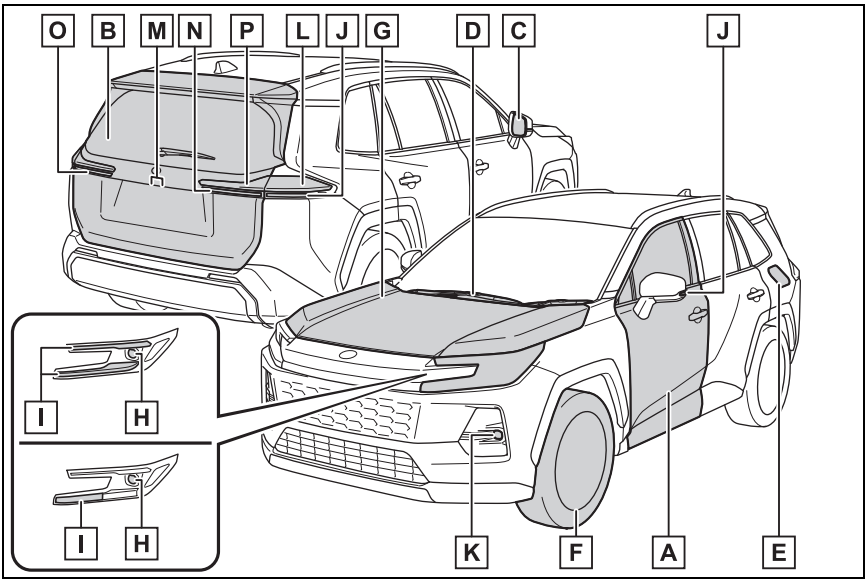
■ タイトルから探す

●目次：→P.2



イラスト目次

■外観



A ドア P.105

施錠／解錠 P.105, 109

ドアガラスの開閉 P.149

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.512

警告メッセージ P.485

B バックドア P.111

施錠／解錠 P.112

車内から開ける P.113

車外から開ける P.112

警告メッセージ P.485

C ドアミラー P.147

鏡面の角度調整 P.147

ミラーの格納 P.148

曇りを取る（ミラーヒーター） P.395

D ワイパー P.206

冬季の注意 P.388
凍結防止（ウインドシールドデアイサー） P.398
洗車時の注意（雨滴感知式ワイパー装着車） P.440

E 給油口 P.211
給油方法 P.211
燃料の種類・燃料タンク容量 P.526

F タイヤ P.448
サイズ・空気圧 P.529
冬用タイヤ・タイヤチェーン P.388
点検・ローテーション P.448
パンク時の対処 P.492, 503

G ボンネット P.444
開け方 P.444
エンジンオイル P.526
オーバーヒート時の対処 P.519
警告メッセージ P.485

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換について：P.461）

H ヘッドランプ P.195

I 車幅灯・方向指示灯・デイタイムランニングランプ P.187, 195

J 方向指示灯 P.187

K フロントフォグランプ P.205

L 尾灯・制動灯 P.195

M 番号灯 P.195

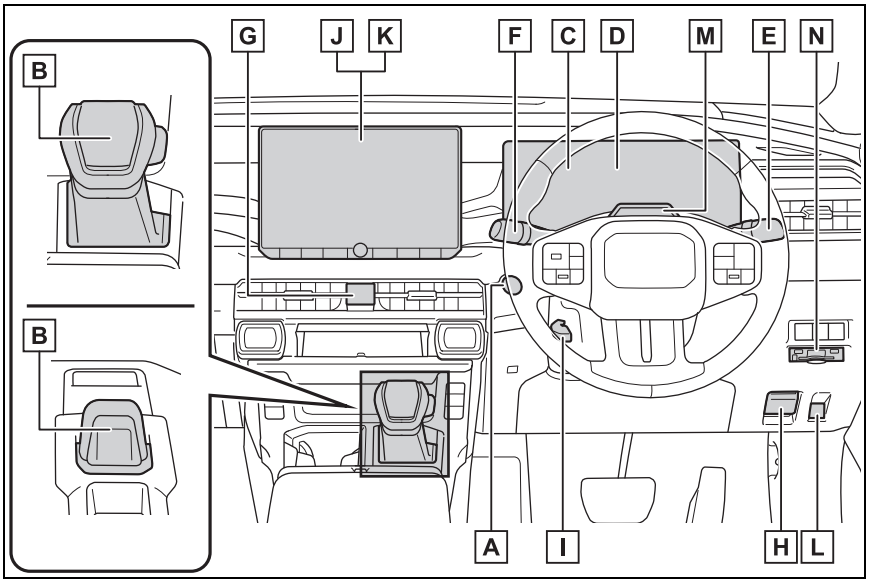
N 後退灯
シフトポジションを R にする P.179, 182
リヤフォグランプ P.205

O 後退灯

シフトポジションを R にする P.179, 182

P 尾灯 P.195

■インストルメントパネル



A パワースイッチ P.172

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.172, 175

ハイブリッドシステムの緊急停止 P.470

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.509

警告メッセージ P.485

B シフトレバー（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車） P.179

シフトポジションの切りかえ P.179

けん引時の注意 P.473

シフトレバーが動かないときの対処 P.180

シフトレバー（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車） P.182

シフトポジションの切りかえ P.183

けん引時の注意 P.473

C メーター P.75

見方・明るさの調整 P.75, 86

警告灯／表示灯 P.70
警告灯点灯時の対処 P.478

D マルチインフォメーションディスプレイ P.80
表示内容 P.80
エネルギーモニター P.85
警告メッセージ表示時の対処 P.485

E 方向指示レバー P.187
ランプスイッチ P.195
ヘッドランプ・車幅灯・デイタイムランニングランプ・尾灯・番号灯 P.195
アダプティブハイビームシステム★ P.198
オートマチックハイビーム P.202
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ P.205

F ワイパー&ウォッシャースイッチ P.206, 209
使い方 P.206, 209
ウォッシャー液の補充 P.447

G 非常点滅灯スイッチ P.469

H ボンネット解除レバー P.444

I ハンドル位置調整レバー P.137
調整方法 P.137

J オートエアコン P.393
操作方法 P.393
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.395

K オーディオ ※
音楽を聴く
電話をかける・受ける（ハンズフリー）

L 給油扉オープナースイッチ P.212

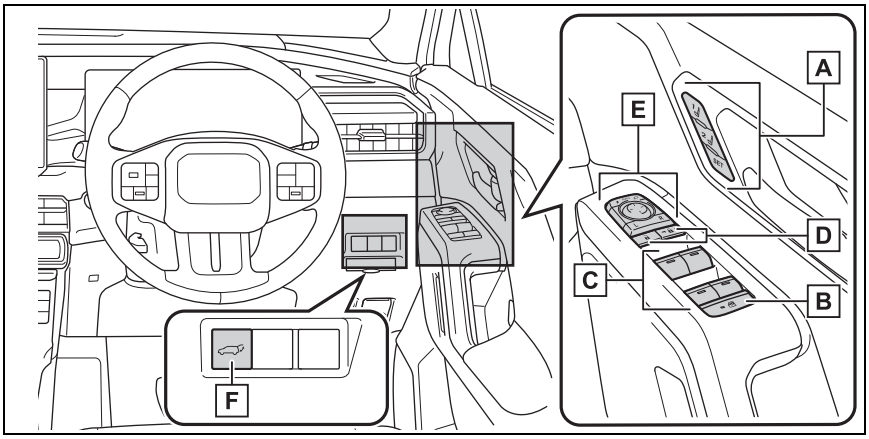
M ドライバーモニターカメラ★ P.226

N ETC2.0 システム ※

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

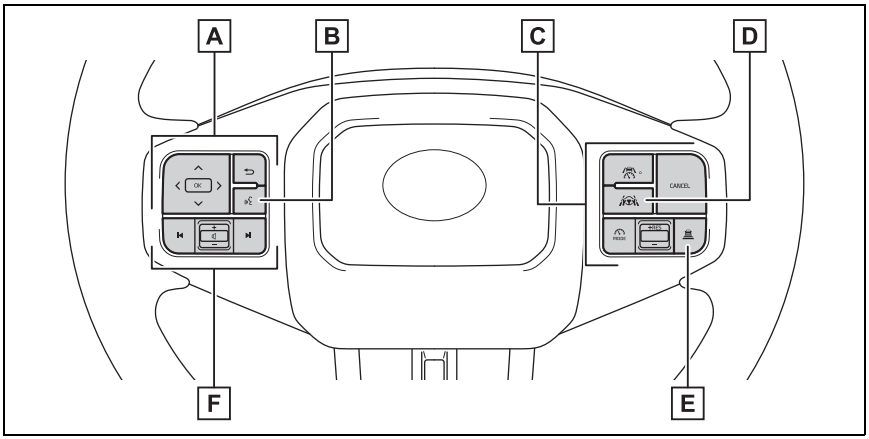
※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■スイッチ類



A ドライビングポジションメモリースイッチ★ P.156
B ウインドウロックスイッチ P.151
C パワーウインドウスイッチ P.149
D ドアロックスイッチ P.109
E ドアミラースイッチ P.147
F パワーバックドアスイッチ P.112

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.81

B トークスイッチ ※

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.263

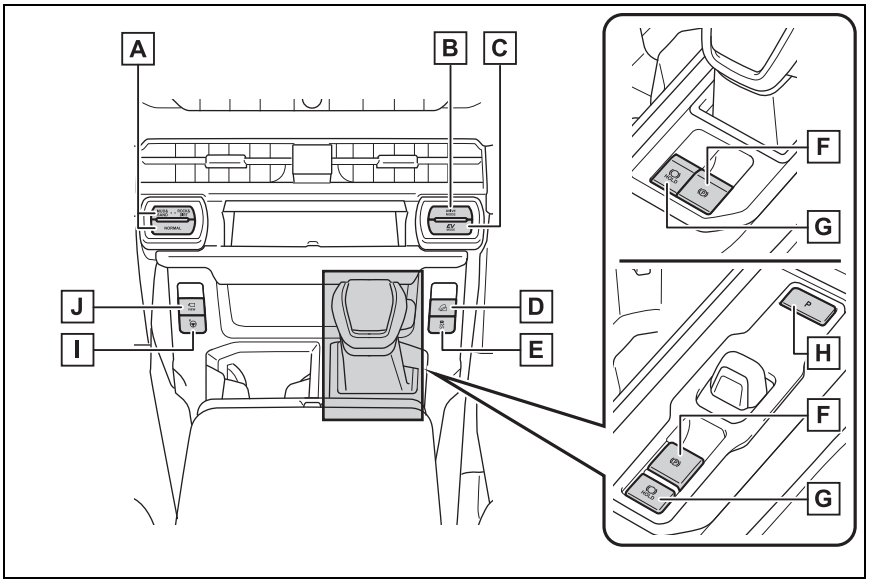
クルーズコントロール P.274

D レーントレーシングアシスト（LTA）スイッチ P.238

E 車間距離切りかえスイッチ P.265

F オーディオスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



A マルチテレインセレクトスイッチ P.375

B ドライブモードセレクトスイッチ P.374

C EV ドライブモードスイッチ P.177

D DAC スイッチ P.377

E VSC OFF スイッチ P.380

F パーキングブレーキスイッチ P.188
かける・解除する P.188
冬季の注意 P.389
警告ブザー・警告メッセージ P.190, 191, 478

G ブレーキホールドスイッチ P.192

H P ポジションスイッチ★ P.183

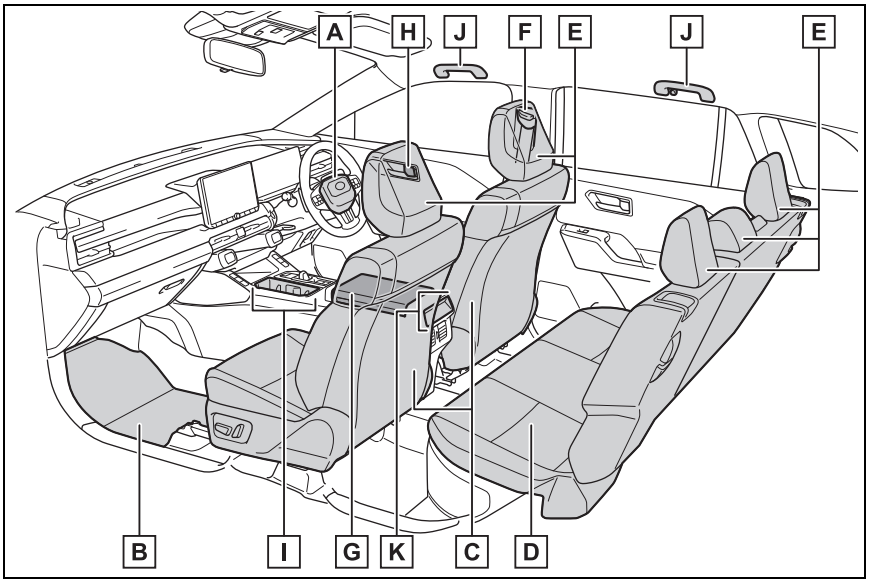
I アドバンストパーク（駐車支援システム）メインスイッチ★ P.355

J カメラスイッチ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■室内



A SRS エアバッグ P.34

B フロアマット P.28

C フロントシート P.131

D リヤシート P.132

E ヘッドレスト P.135

F シートベルト P.31

G コンソールボックス P.407

H ロックレバー P.109

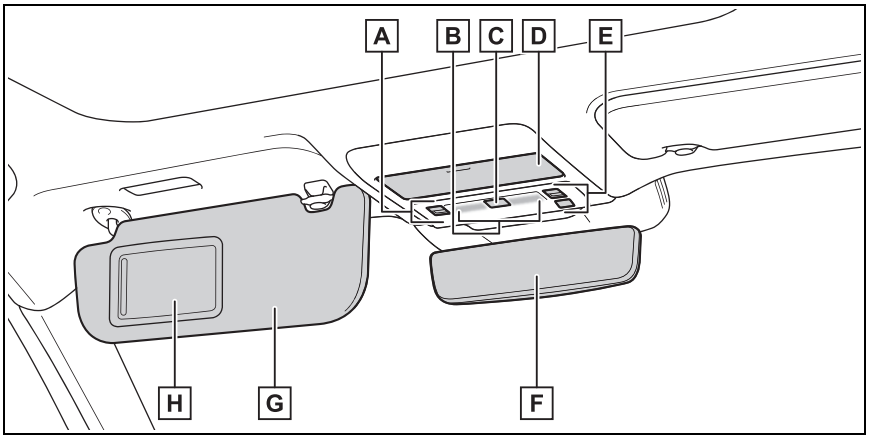
I カップホルダー P.408

J アシストグリップ P.424

K リヤシートヒータースイッチ★ P.401

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■天井



A 電動サンシェードスイッチ★ P.152

B インテリアランプ※1 ..... P.404
パーソナルランプ P.405

C ヘルプネットボタン※2

D 小物入れ P.409

E パノラマムーンルーフスイッチ★ P.152

F インナーミラー★ P.138
デジタルインナーミラー★ P.139

G サンバイザー※3 ..... P.415

H バニティミラー P.415

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※2別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※3やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.44）


AIRBAG

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 28
安全なドライブのために 29
シートベルト 31
SRS エアバッグ 34
排気ガスに対する注意 40

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 41
チャイルドシート 42

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 56
ハイブリッドシステムの注意 61

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 65
オートアラーム 66

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

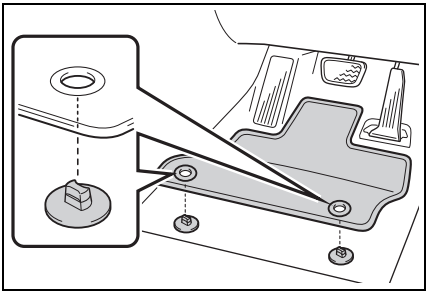
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

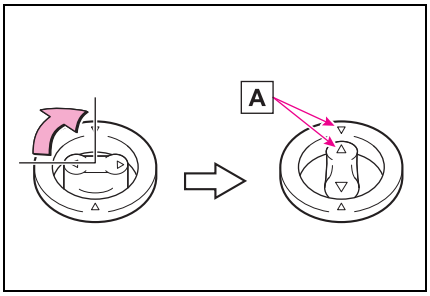
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

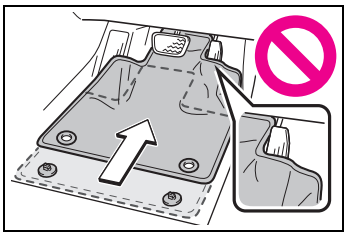
■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

⚠ 警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

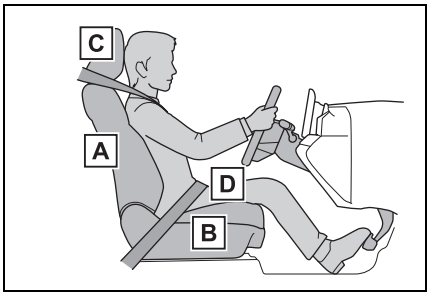


●ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがＰの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには



A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.131）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.131）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.135）

D シートベルトを正しく着用する（→P.32）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.32）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.42）

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー★・デジタルインナーミラー★・ドアミラーを正しく調整してください。（→P.138, 139, 147）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

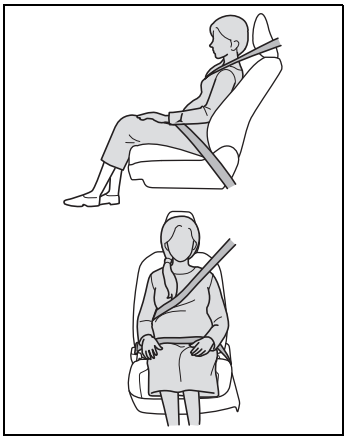
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.32)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまを乗せるとき

→P.53

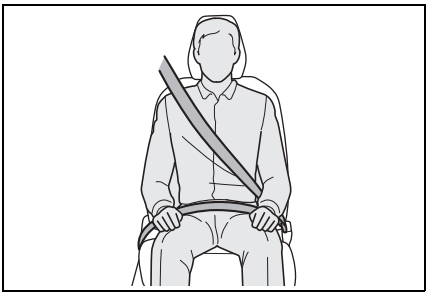
■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

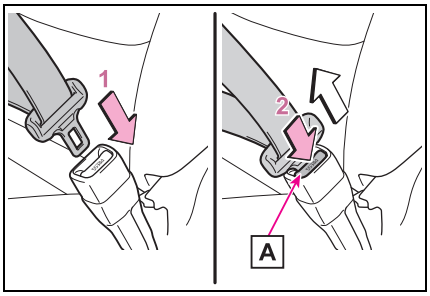
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.31)

着け方・はずし方



1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンA を押す

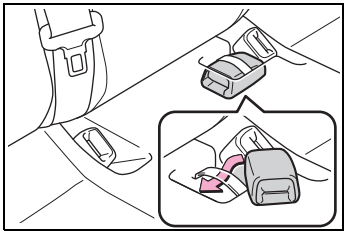
知識

■シートベルトロックの解除方法

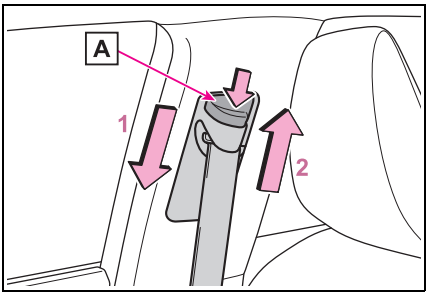
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタンA を押しながら、アジャスターを下げる

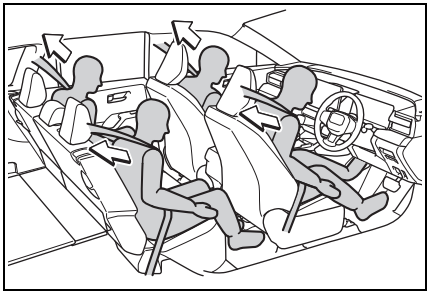
2 解除ボタンA を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

⚠警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

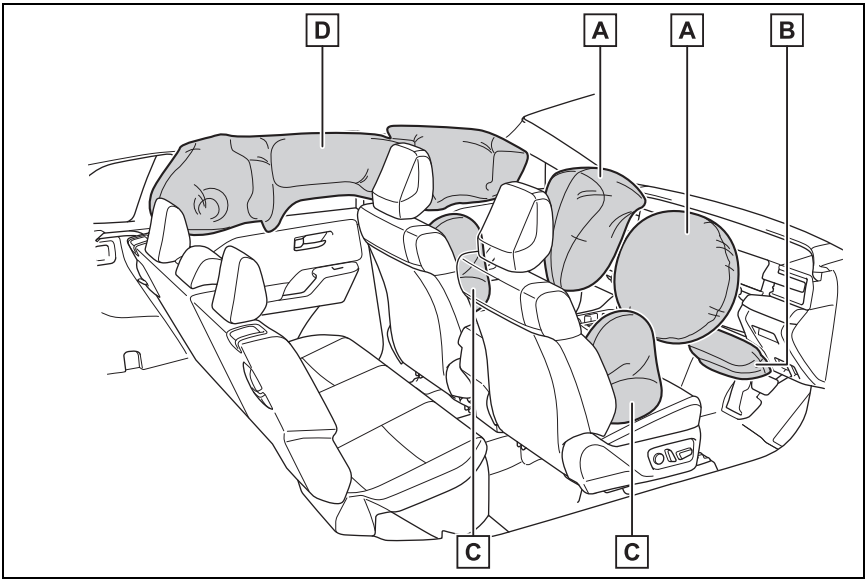
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）
運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ
運転者の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ
フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ
フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ近辺の部品の一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.64）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.107）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.380）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.403）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.469）

■緊急通報について

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・車両に一定以上の衝撃を受けた
・オペレーターからの呼びかけに応答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・フロント SRS エアバッグ
・SRS ニーエアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
・シートベルトプリテンショナー
・SRS ニーエアバッグ

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

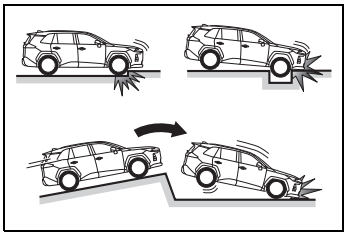
●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
・SRS サイドエアバッグ
・SRS カーテンシールドエアバッグ

●車両側面のどちらかに衝突があった場合でも、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

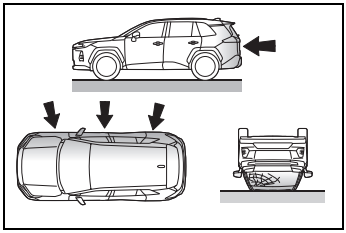
●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

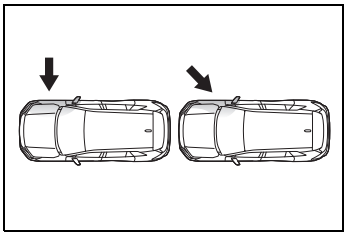


■SRS エアバッグが作動しないとき

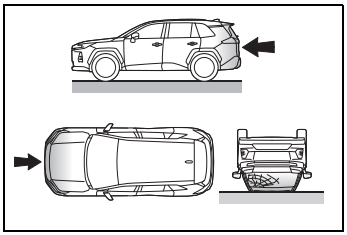
●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



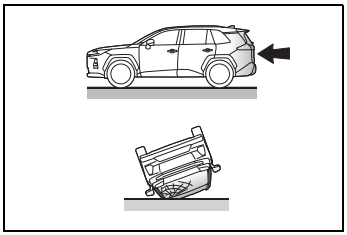
●次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS サイドエアバッグ



●次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
・ SRS カーテンシールドエアバッグ

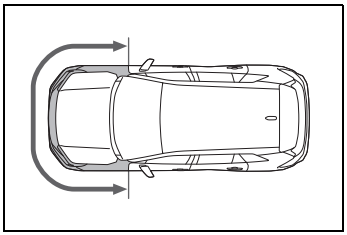


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

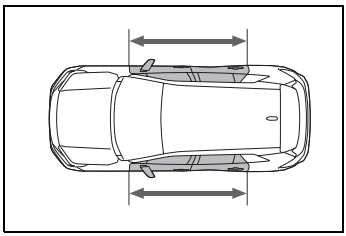
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
・ フロント SRS エアバッグ
・ SRS ニーエアバッグ



●次のエアバッグはふくらまなかったが、

事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき
・ SRS サイドエアバッグ
・ SRS カーテンシールドエアバッグ



●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

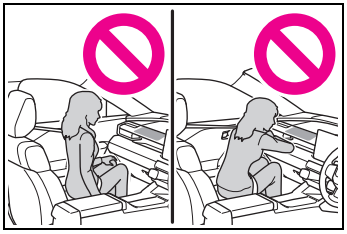
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

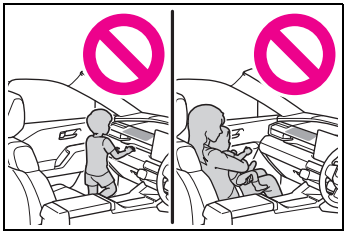
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.42)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



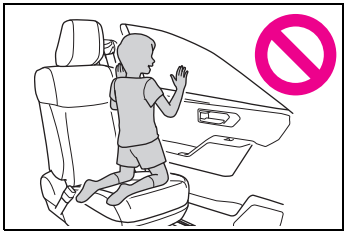
⚠警告

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

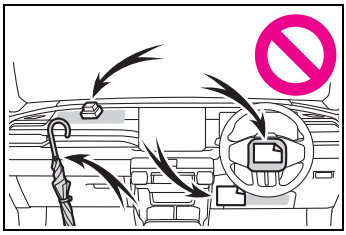
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



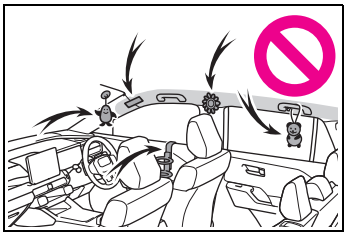
●ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.496）



●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠警告

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●次の部品周辺の修理・取りはずし・改造

・ハンドル
・インストルメントパネル
・ダッシュボード
・シート
・シート表皮
・フロントピラー
・センターピラー
・リヤピラー
・ルーフサイドレール
・フロントドアパネル
・フロントドアトリム
・フロントドアスピーカー

●フロントドアパネルの穴あけなどの改造

●次の部品やその周辺の修理・改造

・フロントフェンダー
・フロントバンパー
・車内側面部

●次の部品、または装置の取り付け

・グリルガード
・除雪装置
・ウインチ

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.42）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.109）・ウインドウロックスイッチ（→P.151）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

⚠ 警告

■お子さまを乗せるとき

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.42）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。
  トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.42

チャイルドシートを使用するときは：P.43

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.46

チャイルドシートの取り付け方法：P.50
・ シートベルトで固定する：P.51
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.53
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.54

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
  (→P.46)

⚠ 警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.46）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

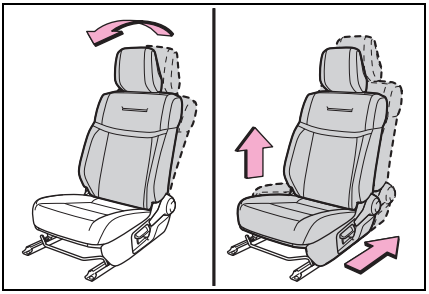
● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

シートの高さが調整できる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

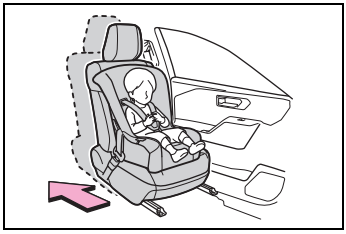
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
  うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠警告



⚠警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

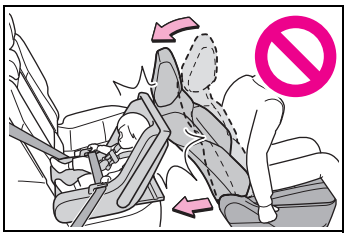


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

⚠ 警告

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

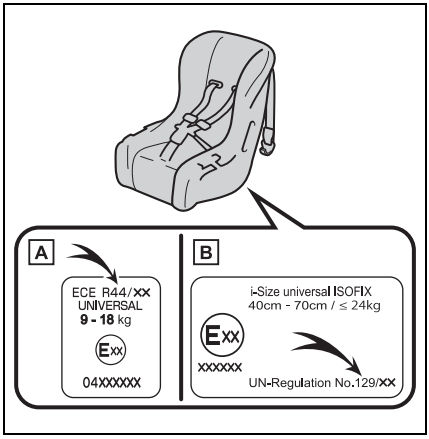
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.49）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク※2

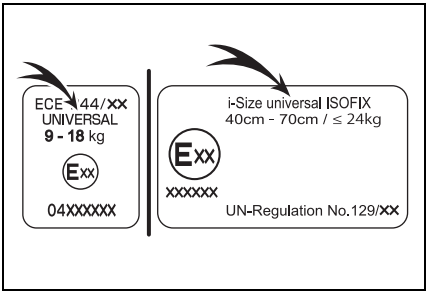
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク※2

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

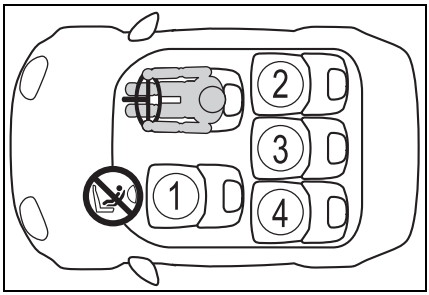
- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L
③ ※2, 3	U
④ ※2, 3	U L

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF 車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.49）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



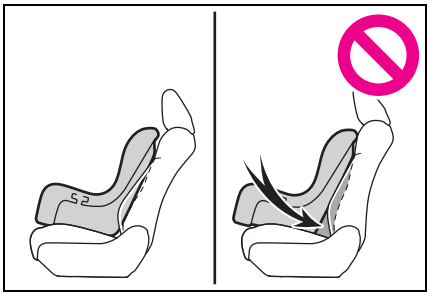
トップテザーアンカレッジが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1, R2X, R2, R3	×	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記

の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

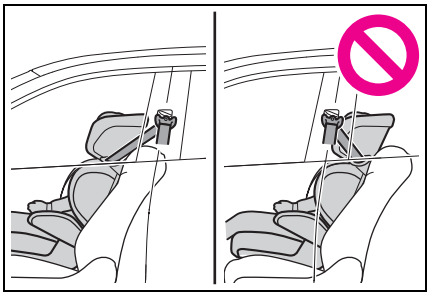
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm（体重：～13kg）	後向き	×	○	×	○
	月齢15か月以上かつ、身長：76～100cm（体重：～18kg）	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm（体重：15～36kg）	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用でき

ず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

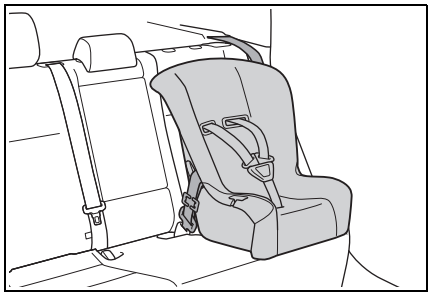
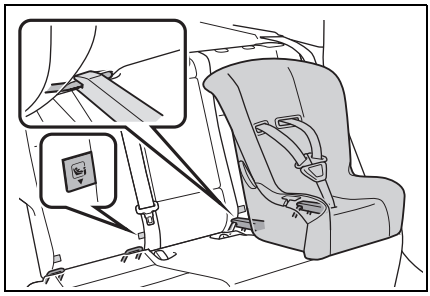
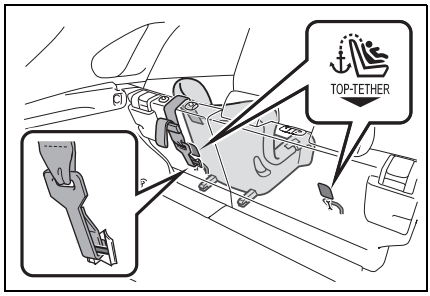
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.51
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.53
テザーベルトを固定する		P.54

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46, 47）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.43）

2 背もたれを可能な限り起こす

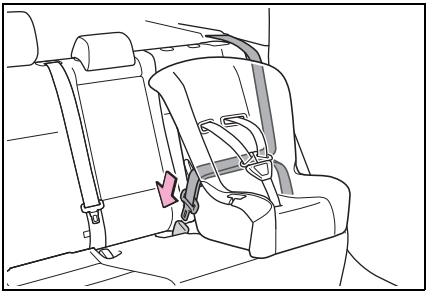
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：背もたれとチャイルドシートのあ

いだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.135）

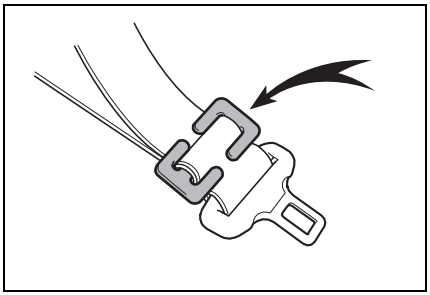
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.53）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

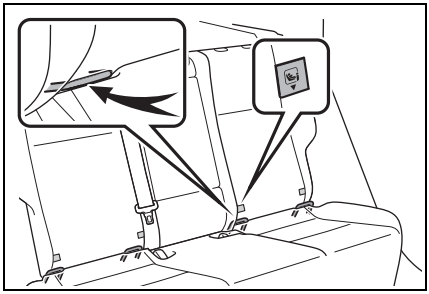
⚠ 警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.46, 47)

1 背もたれを可能な限り起こす

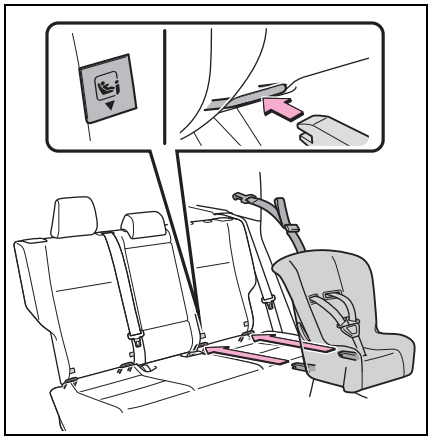
前向きにチャイルドシートを取り付けるとき:背もたれとチャイルドシートのあいだにすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.135)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けま

す。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.53）

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

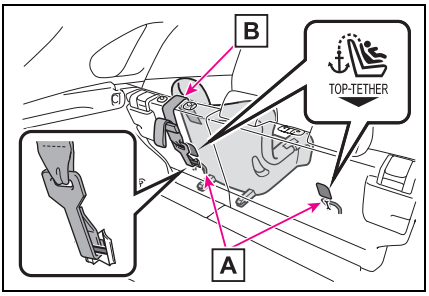
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

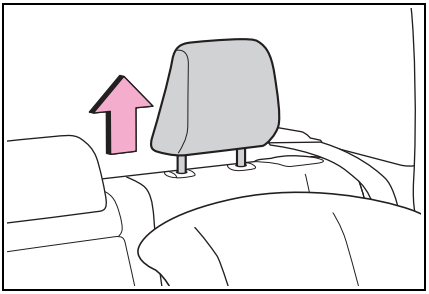
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

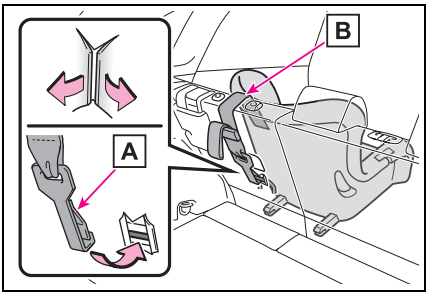
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。（→P.135）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.53)
ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

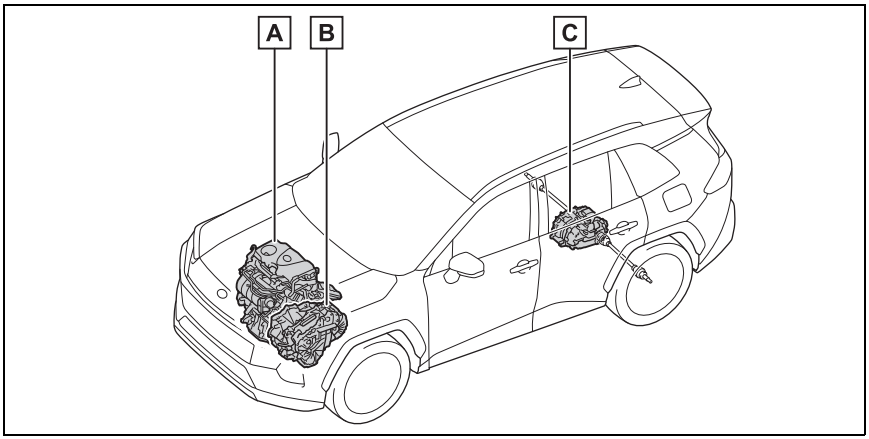
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという 2 つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。

シフトポジションが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
（→P.57）

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

知識

■回生ブレーキについて

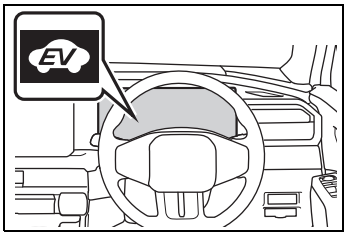
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターの動力のみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

EV インジケーターの作動／非作動を設定できます。（→P.86）



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないことがあり、燃費が低下する場合があります。※

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 急加速・急減速をくり返したとき
- 長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき

※ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.516

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2 ～ 3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がな

いことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、シフトポジションをPにしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下部にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理・廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。この音は、車内にも聞こえることがあります。車速が約25km/hをこえると徐々に消音します。

知識

■作動音について

●次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。
・周囲の騒音が大きい場合
・雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

●次の状態のとき、音圧と音色が変化する場合があります。
・炎天下または寒冷地に長時間駐車した場合
・高圧洗浄機の水がスピーカーに直接かかった場合
・スピーカーの前面に泥・雪・氷などが付着したり、スピーカーの全体が凍結したりした場合

■車速連動制御について

音量と音色は車速に連動して変化します。

■フェードイン／フェードアウト制御について

音の鳴り始めは音量が徐々に大きくなり、音が止まるときは音量が徐々に小さくなります。

■後退時の制御について

車両後方まで音が届くように、後退時は音量が大きくなります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「車両接近通報装置故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してくだ

さい。

先読みエコドライブ※

※お客様の走りを次回の支援に反映するため、けん引など、車両の状態が大きく変わるような場合は、“先読みエコドライブの機能の利用をしない”に設定することを推奨します。

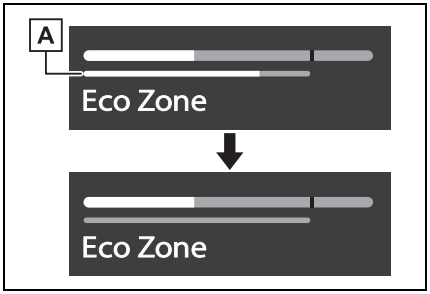
本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

過去のドライバーの行動をデータベースに蓄積し、どこで減速・停止をするかを予測します。減速・停止行動を蓄積した地点に対して減速支援を行うことで、駆動用電池の充電量を増やすことができます。

- アイコンの強調表示後、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.82）のアクセル操作の目安（A）の表示が消えることで、余分な加速をし続けないように支援します。（アクセルOFF案内）



- アクセルOFF案内に従ってアクセルペダルを離した際に、走行状況に応じてエンジンブレーキ力を高めます。

■ 先読みSOC※制御

電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

- 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。
- 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけて充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

※SOCは駆動用電池残量です。

知識

■先読みSOC制御について

本機能はナビの案内稼働中、かつそのルート上に車両がいる場合に実施されます。（駐車場などでは実施されません）

■先読みEVドライブ（エリア適応）

駆動用電池残量を調整し、ナビゲーショ

ンに登録された自宅周辺で自動的に EV ドライブモードに切り替えます。

■先読み EV ドライブ（エリア適応）について

●本機能は自宅を目的地にルート案内することで有効になります。

●EV ドライブモード中は暖房性能が低下する場合があります。

暖房性能の効きが悪いと感じられたときは EV ドライブモードスイッチを押し、EV ドライブモードを解除してください。

●リモートスタートを使用された場合、EV ドライブモードが解除されるケースがあります。

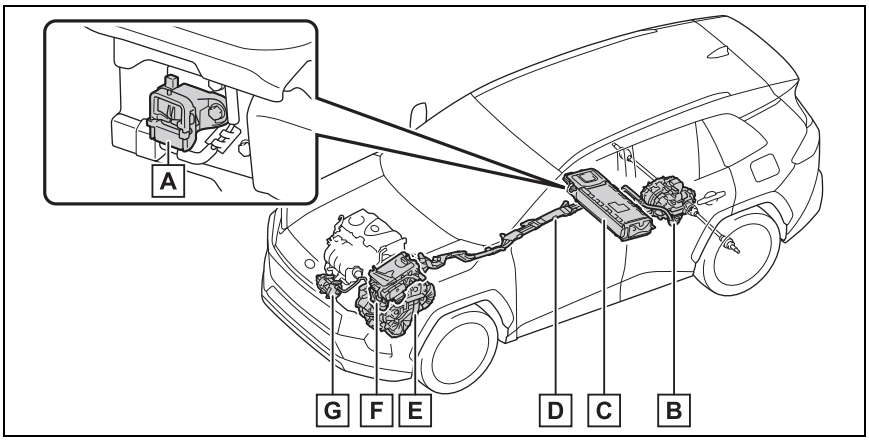
●システム状況によっては EV ドライブモードに切りかえられないケースがあります。

例）ハイブリッドシステムが高温・低温のとき、駆動用電池の充電が低いとき、車速が高いときなど

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため⚠表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A サービスプラグ

B リヤ電気モーター

C 駆動用電池

D 高電圧ケーブル（オレンジ色）

E フロント電気モーター

F パワーコントロールユニット

G エアコンコンプレッサー

知識

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.483）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 9.5L です。車両

の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

⚠警告

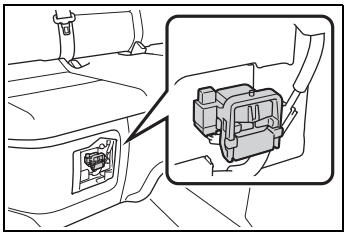
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをＰにして、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

⚠ 警告

●駆動輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→P.473)

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駆動用電池について

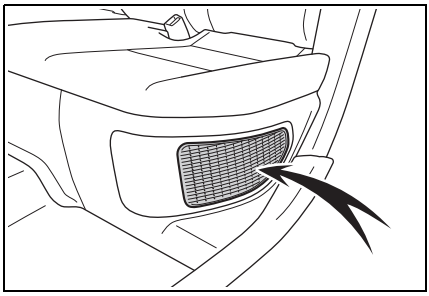
駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバー・荷物・カーペットなどで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→P.453)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。

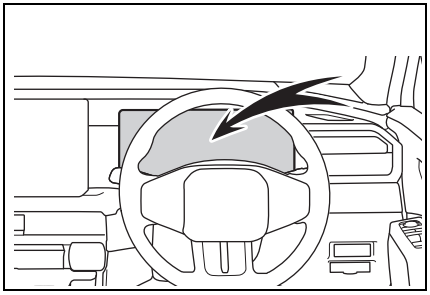
緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。
警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

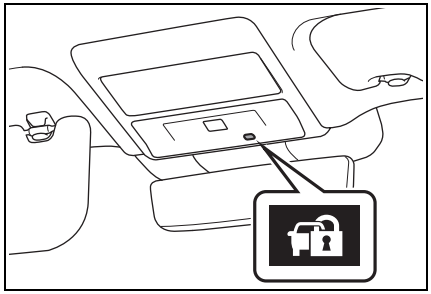
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

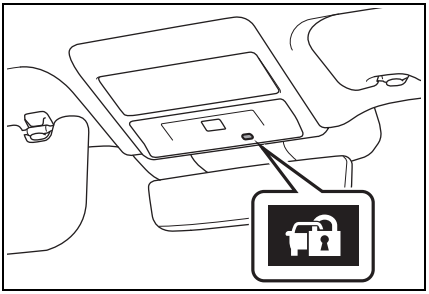
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■T-Connect（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラス・パノラマムーンルーフ★の閉め忘れを、メールやスマートフォンアプリへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態などをスマートフォンアプリで確認できます。

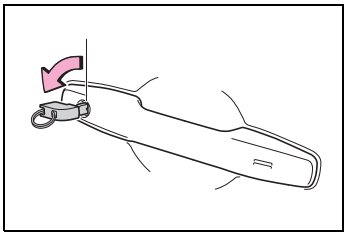
詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

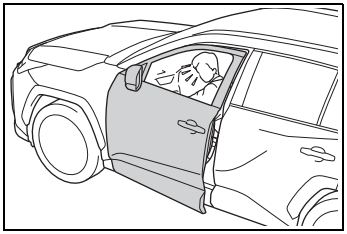
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

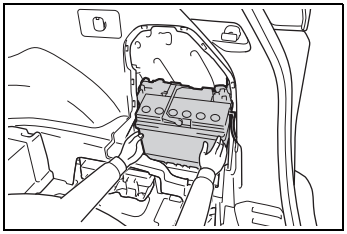
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき



●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.514）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（→P.531）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

走行に関する情報表示 2

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 70
計器類 75
マルチインフォメーションディスプレイ 80
ヘッドアップディスプレイ 91

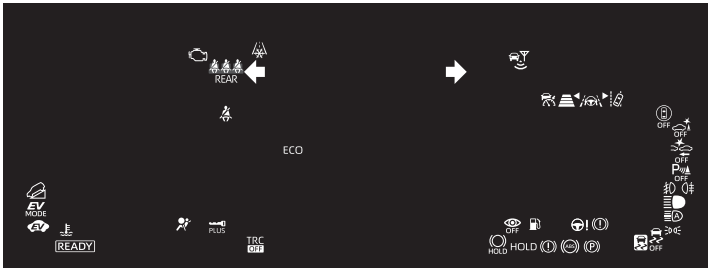
警告灯／表示灯

メーター・ドアミラー・オーバーヘッドコンソールの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

メーター表示タイプを切りかえることができます。(→P.86)

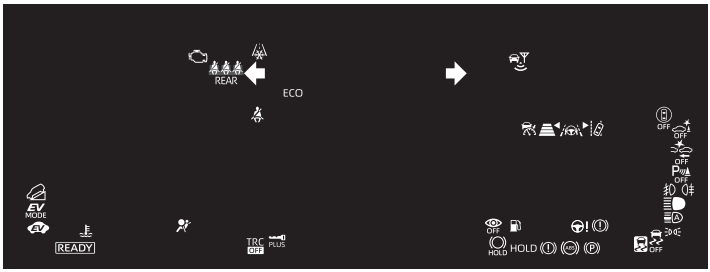
▶ シンプル／ 1 メーター／地図★／運転支援システム情報／ ECO



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 2 メーター



実際の表示内容は、イラストと異なる場合があります。

警告灯一覧

システム異常などを警告します。


（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.478）


（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1（→P.478）


充電警告灯 ※2（→P.478）


高水温警告灯（→P.479）


ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※2（→P.479）


油圧警告灯 ※2（→P.479）


エンジン警告灯 ※1（→P.479）


SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1（→P.479）


ABS &ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.480）


（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.480）


（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1（→P.480）


PCS 警告灯 ※1（→P.480）


（黄色）
LTA 表示灯（→P.480）


（黄色）
LDA 表示灯（→P.480）


（黄色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.481）


（黄色）
レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯（→P.481）


（黄色）
クルーズコントロール表示灯（→P.481）


ドライバーモニター警告灯 ※1 ★（→P.481）


運転支援警告灯 ※1（→P.481）


クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.482）


PKSB OFF 表示灯 ※1（→P.482）


スリップ表示灯 ※1（→P.482）


ペダル誤操作警告灯 ※2（→P.483）


（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.483）


（点滅）
パーキングブレーキ表示灯（→P.483）


（黄色）
燃料残量警告灯（→P.483）


運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.484）


リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.484）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯

します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。


方向指示表示灯（→P.187）


尾灯表示灯（→P.195）


ハイビーム表示灯（→P.197）


フロントフォグランプ表示灯（→P.205）


リヤフォグランプ表示灯（→P.205）


スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※1（→P.172）


クリアランスソナー OFF 表示灯 ※2, 3（→P.311）


クリアランスソナー検知表示灯★（→P.311）


PKSB OFF 表示灯 ※2, 3（→P.328）


（点滅）
スリップ表示灯 ※2（→P.482）


ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯（→P.377）


TRC OFF 表示灯（→P.380）


VSC OFF 表示灯 ※2, 3（→P.380）


（白色）
AHS 表示灯★／ AHB 表示灯（→P.198, 202）


（緑色）
AHS 表示灯★／ AHB 表示灯（→P.198, 202）


（緑色）
AHS 表示灯★（→P.198）


（緑色）
AHS 表示灯★／ AHB 表示灯（→P.198, 202）


PCS 警告灯 ※2, 3（→P.237）


（緑色）
LTA 表示灯（→P.241）


（白色）
LTA 表示灯（→P.241）


（緑色）
LCA 表示灯★（→P.245）


（白色）
LCA 表示灯★（→P.245）


（赤色）
LDA 表示灯（→P.251）


（白色）
LDA 表示灯（→P.251）



LDA OFF 表示灯（→P.251）


（緑色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.265）


（白色）
レーダークルーズコントロール表示灯（→P.265）


（緑色）
車間距離表示灯（→P.265）


（白色）
車間距離表示灯（→P.265）


トヨタチームメイト アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）表示灯★（→P.283）



（緑色）
レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯（→P.269）



（白色）
レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯（→P.269）


（緑色）
クルーズコントロール表示灯（→P.274）


（白色）
クルーズコントロール表示灯（→P.274）



（白色）
運転支援 OFF 表示灯 ※2, 3（→P.74）


ドライバーモニター表示灯 ※2★（→P.227）



ドライバーモニター OFF 表示灯 ※3★（→P.228）


ドアミラーインジケーター※2, 4（→P.290, 296, 319）



ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※2（→P.192）



ブレーキホールド作動表示灯 ※2（→P.192）


セキュリティ表示灯 ※5（→P.65, 66）



READY インジケーター（→P.172）


低温表示灯 ※6（→P.79）


ITS Connect アイコン（→P.285）★


ITS Connect アイコン（→P.285）★


ITS Connect アイコン（→P.285）★



（緑色）
プラスサポート表示灯★（→P.342）



EV インジケーター（→P.57）



パーキングブレーキ表示灯（→P.188）



EV ドライブモード表示灯（→P.177）



エコドライブモード表示灯（→P.374）



スポーツモード表示灯（→P.374）



CUSTOM モード表示灯（→P.374）



SNOW モード表示灯
(→P.374)



MUD&SAND モード表示灯★
(→P.376)



ROCK&DIRT モード表示灯★
(→P.376)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※2作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3システムが OFF のときに点灯します。

※4ドアミラーに表示されます。

※5オーバーヘッドコンソールに表示されます。

※6外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

知識

■クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両 (→P.311) は、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

■運転支援 OFF 表示灯

次のシステムのいずれかが停止、または設定が OFF になっています。

マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

- 後方車両への接近警報
- リヤカメラディテクション（RCD）
- ブラインドスポットモニター（BSM）
- リヤクロストラフィックアラート（RCTA）
- 安心降車アシスト
- ドライバー異常時対応システム
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

計器類

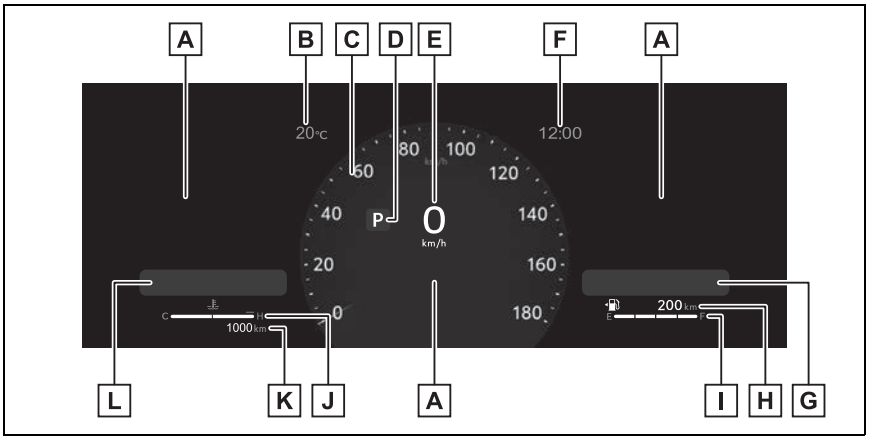
走行に関する各種の情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

■ 計器類の位置

メーター表示タイプを切りかえることができます。(→P.86)

▶ シンプル／ 1 メーター／地図★／運転支援システム情報／ ECO



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.80)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.485)

B 外気温 (→P.79)

C アナログメーター (1 メーター のみ)

お好みのメーターに変更することができます。(→P.86)

アナログスピードメーター :

車両の走行速度を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター :

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.78)

D シフトポジション／シフトレンジ ※

(→P.179, 182)

E デジタルスピードメーター ※

車両の走行速度を示します。

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G ウィジェット（燃費グラフ）

燃費グラフの一部を簡易表示します。（→P.82）

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。（→P.82）

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→P.78）

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

K オドメーター

走行した総距離を表示します。

L ウィジェット（オーディオ連携表示）

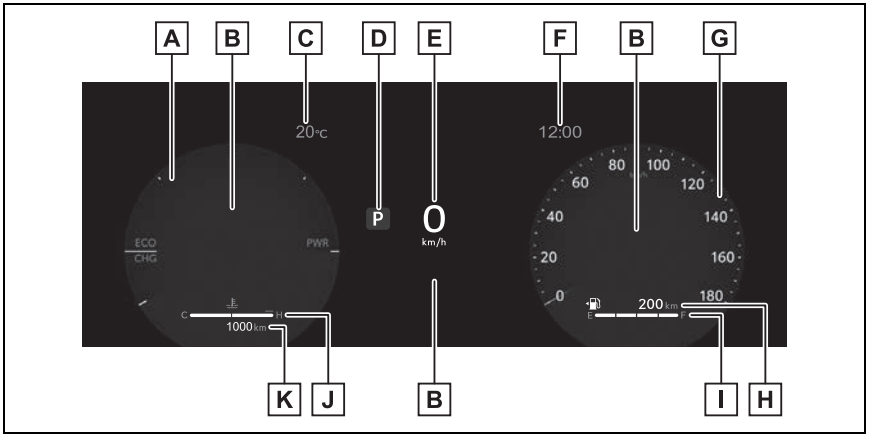
オーディオ連携表示の一部を簡易表示します。（→P.84）

コンテンツ一覧が表示されているときは、ウィジェットが非表示になります。（→P.82）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 現在選択中のメーター表示タイプや、割込み表示の有無など、表示状態によっては、表示される位置が異なることがあります。

▶ 2 メーター



A ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.78)

B マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.80)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.485)

C 外気温 (→P.79)

D シフトポジション／シフトレンジ※ (→P.179, 182)

E デジタルスピードメーター※

車両の走行速度を示します。

F 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

G アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。(→P.78)

I 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

J 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

K オドメーター

走行した総距離を表示します。

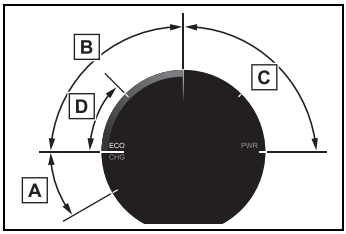
※ 現在選択中のメーター表示タイプや、割込み表示の有無など、表示状態によっては、表示される位置が異なることがあります。

知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

D ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

●READYインジケーターが点灯していないとき

●シフトポジションがDまたはS以外のとき

■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.78）

●「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■燃料計と航続可能距離の手動更新について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 パワースイッチを OFF にする

3 メーター操作スイッチの OK を押したまま、パワースイッチを ON にする

4 そのまま約 5 秒間 OK を押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温表示について

●外気温度を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横にが点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.81

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの⚙で、計器類の表示を変更できます。（→P.86）

⚠警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトポジション／シフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

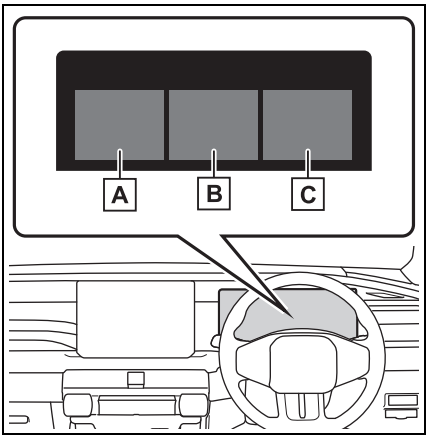
水温計の表示が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.519）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更するともできます。

ディスプレイの表示

マルチインフォメーションディスプレイの各エリアには、次の情報が表示されます。



A コンテンツ表示エリア（左）

B コンテンツ表示エリア（中央）

C コンテンツ表示エリア（右）

■ **コンテンツ表示エリア（中央）**

- 地図表示★（→P.88）
- 運転支援システム情報（→P.213）
- 燃費画面（→P.88）
- ブランク（非表示）（→P.86）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **コンテンツ表示エリア（左）**

- 燃費グラフ（→P.82）
- エコアクセルガイド／エコジャッジ（→P.82）
- 始動後走行時間／ EV 走行比率（→P.84）
- ナビゲーションシステム連携表示★（→P.84）
- オーディオシステム連携表示（→P.84）
- ドライブインフォメーション（→P.84）
- トリップインフォメーション A（→P.84）
- トリップインフォメーション B（→P.84）
- エネルギーモニター（→P.85）
- 4WD 作動状態表示（→P.85）
- 警告メッセージ
- 設定（→P.86）
- ブランク（非表示）（→P.86）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **コンテンツ表示エリア（右）**

- 運転支援システム情報表示※1（→P.88）
- ナビゲーションシステム連携表示※2★（→P.84）

※1 メーター表示タイプが「運転支援システム情報」以外のとき

※2 メーター表示タイプが「運転支援シス

テム情報」のとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠警告

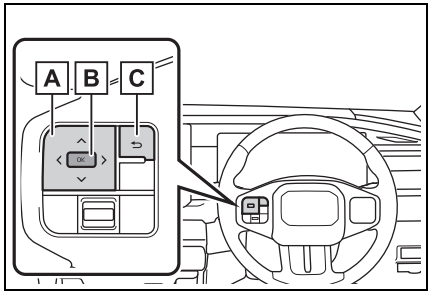
■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.79

メーター操作スイッチ



A ＜／＞：ページの切りかえ・カーソル移動

∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り

B 短押し：決定

長押し：リセット・詳細項目表示・カーソル表示

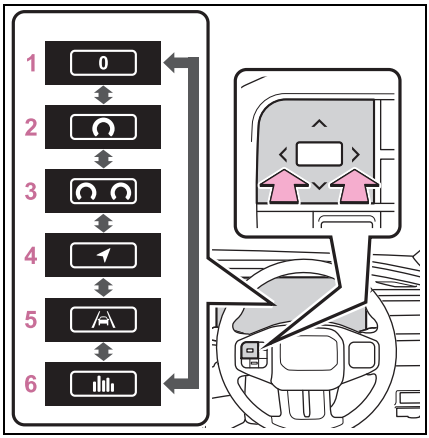
C ひとつ前の画面にもどる

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って表示を切りかえることができます。

■ ページの切りかえ

メーター操作スイッチの＜または＞を押してページを切りかえます。



1 シンプル
2 1メーター
3 2メーター
4 ナビゲーション★
5 運転支援システム情報※
6 ECO

※詳しくは「運転支援システム情報」を参照してください。（→P.213）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メータータイプの設定

マルチインフォメーションディス

プレイの⚙から、それぞれのメータータイプの表示内容を設定することができます。(→P.533)

■ コンテンツ表示項目の切りかえ

メーター操作スイッチの∧または∨を押してコンテンツ表示エリア(左)の項目を切りかえることができます。

■ 表示項目の設定

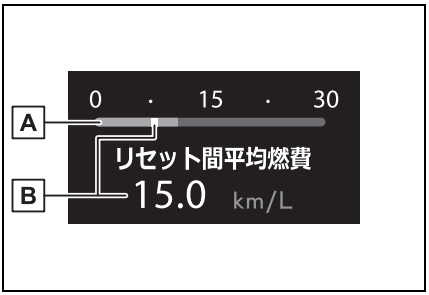
マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、コンテンツ表示エリア(左)の表示内容を設定することができます。(→P.533)

⚠ 警告

■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

燃費グラフ



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

始動後・リセット間のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

⚙画面の「燃費グラフ」で選択した燃費が表示されます。(→P.86)

※1 表示される燃費は参考として利用してください。

※2 始動後平均燃費は、ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

※3 リセット間平均燃費の表示中に

OK を押し続けると、リセットされます。

エコアクセルガイド／エコジャッジ

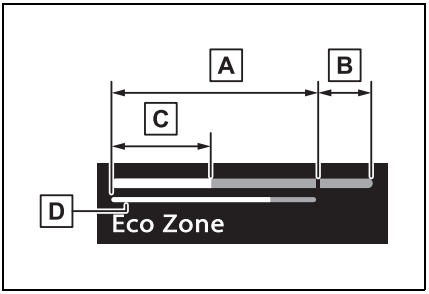
走行状況に適したアクセル操作の目安や、走行状況を評価して採点結果を表示します。



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

■ エコアクセルガイドの見方



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

D アクセル操作の目安

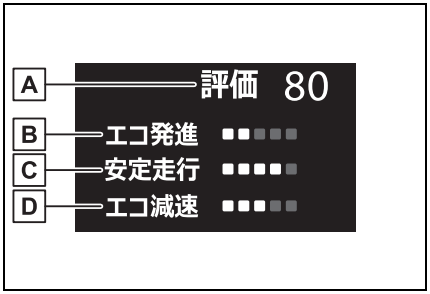
発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

■ エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

走行中は 3 つの走行状況がそれぞれのアイコンで表示されます。

各採点項目のゲージは、それぞれ次の意味を示しています。

状況	表示
未評価	
評価が低い	
評価が高い	

発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

知識

■エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件

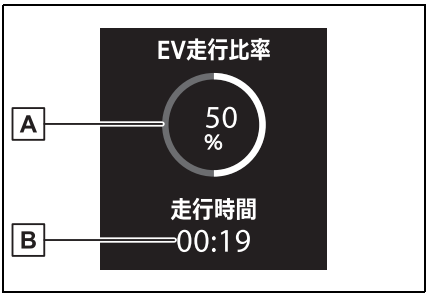
次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

●ハイブリッドシステムインジケーター

が作動していないとき

●レーダークルーズコントロールを使用しているとき

始動後走行時間／ EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

ナビゲーションシステム連携表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

● 目的地の名称または住所
● ターンバイターン案内
● 目的地への距離
● 走行を推奨するレーン
● 次に分岐する交差点までの距離と分岐方向

オーディオシステム連携表示

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

ドライブインフォメーション

⚙画面の「ドライブインフォ項目選択」で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

・ 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示※
・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示※
・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示※

※ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

トリップインフォメーション

⚙画面の「TRIP A 項目選択」「TRIP B 項目選択」で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示※
・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示※
・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示※

※ OK を押し続けるとリセットされます。

エネルギーモニター

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示について

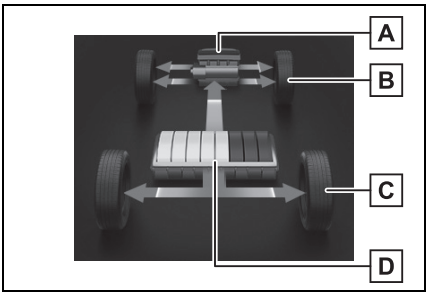
エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき

青：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A エンジン

B フロントタイヤ

C リヤタイヤ

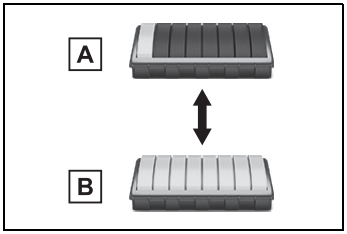
D 駆動用電池

知識

■駆動用電池の表示について

駆動用電池の残量に応じて、8 段階で表示されます。

実際の表示内容とは異なる場合があります。



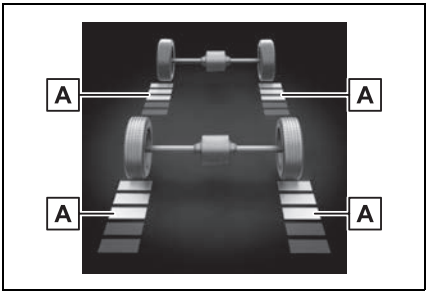
A 少ない

B 多い

■駆動用電池の残量警告について

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

4WD 作動状態表示



A 駆動力表示

0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる

場合があります。

ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

設定

メーター操作スイッチを操作してご希望の項目を選択することで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押してコンテンツ表示エリア（左）から⚙を選択し、OKを押す

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能の ON ／ OFF やブザー音量などを設定する項目ではOK、調整値などを切りかる項目では＜または＞を押して設定を切りかえます。

機能の作動内容を変更できる項目では、OKを押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

3 設定が完了したら、メーター操作スイッチの↩を押す

■ メーター輝度調整

メーター輝度を調整できます。

■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.91）

ヘッドアップディスプレイの設定を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車両設定

● PBD（パワーバックドア）（→P.112）

次の設定を変更することができます。

・ 機能の ON ／ OFF

パワーバックドアの作動／非作動を変更することができます。

・ ハンズフリー

ハンズフリーの作動／非作動を変更することができます。

・ 開位置調節

パワーバックドアが全開したときの停止位置を変更することができます。

● 接近時アンロック（→P.106）

接近時アンロック機能の作動／非作動を変更することができます。

● 降車オートロック（→P.105）

降車オートロック機能の作動／非作動を変更することができます。

● リヤシートリマインダー（→P.108）

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を変更することができます。

● 警告ブザー

警告ブザーの音量を一括で切りかえることができます。

■ 表示設定

● 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位の単位を選択することができます。

● メータータイプ（→P.75）

メータータイプの設定ができます。（→P.81）

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● インフォメーション設定

コンテンツ表示エリア（左）に表示させる項目の設定ができます。（→P.80）

● ドライブインフォ項目選択

ドライブインフォメーション（→P.84）に表示する項目の種類を選択することができます。

● TRIP A 項目選択

トリップインフォメーション A（→P.84）に表示する項目の種類を選択することができます。

● TRIP B 項目選択

トリップインフォメーション B（→P.84）に表示する項目の種類を選択することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示／非表示を、項目ごとに変更することができます。

● カレンダー

年・月・日を設定することができます。（マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります）

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■メーターの輝度について（昼輝度と夜輝度）

メーターの輝度には昼輝度と夜輝度があり、それぞれの輝度のレベルを調整することができます。

昼輝度と夜輝度は、次のときに切りかわります。

●昼輝度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき

●夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

■設定画面の操作について

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

⚠ 警告

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

地図表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステムと連携して、マルチインフォメーションディスプレイに地図情報を表示します。

運転支援システム情報表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- レーントレーシングアシスト（LTA）（→P.238）
- レーンチェンジアシスト（LCA）★（→P.242）
- レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246）
- レーダークルーズコントロール（→P.263）
- クルーズコントロール（→P.274）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃費画面

ページの切りかえ（→P.80）でを選択することで、コンテンツ表示エリア（中央）に燃費に関する情報を表示できます。

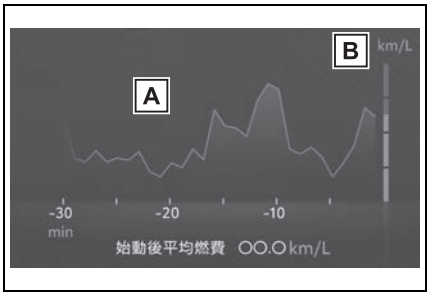
■ 瞬間燃費画面を表示させるには

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙を選択する

2 “表示設定” 選択し “メータータイプ” を選択して “ECO” を選択する

3 “燃費” を選択し、“グラフ情報切替” を選択して、“燃費推移” を選択する

■ 瞬間燃費画面の見かた



A 過去 30 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

B 瞬間燃費

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

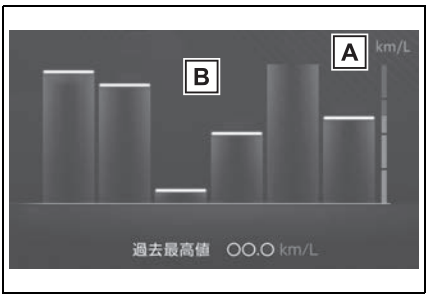
■ 燃費履歴画面を表示させるには

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙を選択する

2 “表示設定” 選択し “メータータイプ” を選択して “ECO” を選択する

3 “燃費” を選択し、“グラフ情報切替” を選択して、“過去燃費” を選択する

■ 燃費履歴画面の見かた



A 最新値表示

B 過去平均燃費表示

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙を選択する

2 “表示設定” 選択し “メータータイプ” を選択して “ECO” を選択する

3 “燃費” を選択し、“過去燃費更新” を選択する

■燃費データをリセットするには

1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙を選択する

2 “表示設定” 選択し “メータータイプ” を選択して “ECO” を選択する

3 “燃費” を選択する

4 “燃費推移消去” または “過去燃費消去” いずれかリセットしたいほうを選択する

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→P.485)

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ パワーバックドア機能の ON 切り替え提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（マルチインフォメーションディスプレイの⚙で “PBD” の機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。

このとき「はい」を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき「はい」を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ 窓閉め提案（高速走行時）

ドアガラスが開いている状態で一定以上の車速になると、ドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき「はい」を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

知識

■カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

パワースイッチを OFF にしたときに表示される項目

パワースイッチを OFF にしたときに、マルチインフォメーションディスプレイに次の項目を表示します。

- 始動後平均燃費 ※
- 始動後走行距離 ※
- 始動後走行時間 ※
- 始動後 EV 走行比率 ※

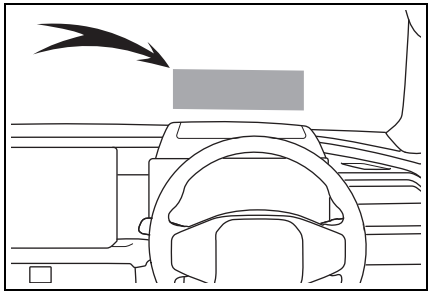
※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

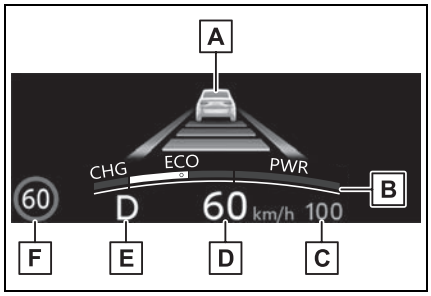
ディスプレイの表示



ヘッドアップディスプレイ表示のタイプを変更することができます。(→P.93)

表示内容は、走行状況・走行モードやヘッドアップディスプレイの表示モードによって異なります。また、状況に応じて割り込み表示されます。

■ フル



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア（→P.94）／ナビゲーションシステム連携表示エリア★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

B ハイブリッドシステムインジケーター表示エリア（→P.95）

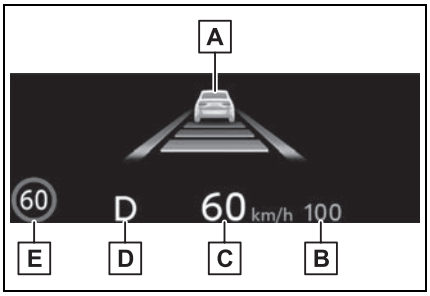
C 設定速度表示エリア（→P.265, 274）

D スピードメーター

E シフトポジション表示（→P.179, 182）

F ロードサインアシスト（RSA）表示エリア（→P.260）

■ スタンダード



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア（→P.94）／ナビゲーションシステム連携表示エリア★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

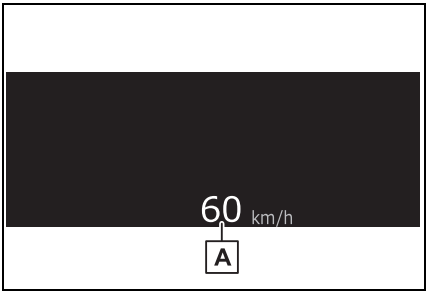
B 設定速度表示エリア（→P.265, 274）

C スピードメーター

D シフトポジション表示（→P.179, 182）

E ロードサインアシスト（RSA）表示エリア（→P.260）

■ ミニマム



A スピードメーター

知識

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。（レーン情報のある交差点の手前 300m 以内にレーン情報のない交差点がある場合、道路形状が工事等で変更になった場合など）

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

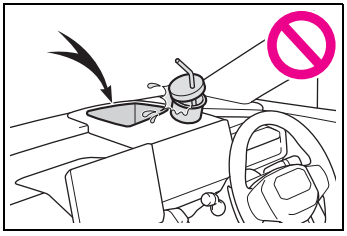
●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

⚠ 注意

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、次の設定を変更することができます。(→P.86)

● ヘッドアップディスプレイの表示／非表示

ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● 表示タイプ

ヘッドアップディスプレイ表示のタイプ(→P.91)を変更することができます。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

●ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

●メーター操作スイッチの⮌からもヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。⮌を押し続けることで表示／非表示が切りかわります。

■ヘッドアップディスプレイの表示補正について

ヘッドアップディスプレイに表示される映像は、表示の高さにあわせて、適切な補正処理が自動的に行われます。

■表示の明るさについて

●マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

●ヘッドアップディスプレイ周辺の温度が高温になると、ヘッドアップディスプレイの保護のため、表示の明るさが徐々に暗くなります。周辺の温度が下がると徐々に元に戻ります。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.155)

⚠ 警告

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素(CO)により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- レーントレーシングアシスト（LTA）（→P.238）
- レーンチェンジアシスト（LCA）★（→P.242）
- レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246）
- レーダークルーズコントロール（→P.263）
- クルーズコントロール（→P.274）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステム連携表示エリア★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

- 目的地の名称または住所
- ターンバイターン案内
- 目的地への距離
- 走行を推奨するレーン
- 次に分岐する交差点までの距離と分岐方向

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

システムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

■ 警告メッセージ

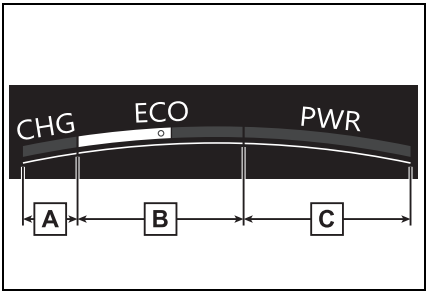
一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

ハイブリッドシステムインジケーター表示エリア



A チャージエリア

B エコエリア

C パワーエリア

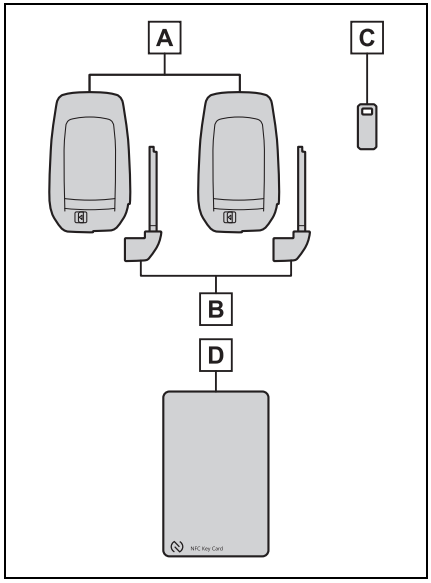
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。詳しくは、P.78 を参照してください。

3-1. キー
キー 98
デジタルキー 101
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア・リヤドア） 105
バックドア 111
スマートエントリー&スタートシステム 125
3-3. シートの調整
フロントシート 131
リヤシート 132
ヘッドレスト 135
3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 137
インナーミラー 138
デジタルインナーミラー 139
ドアミラー 147
3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 149
パノラマムーンルーフ 152
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 155
3-6. お好み設定
マイセッティング 159

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

・スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P.125）
・ワイヤレス機能の作動（→P.100）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D NFC キーカード（→P.101）

知識

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.126）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→P.456）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。（→P.106）

●スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺

に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたとき

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

00

■マルチインフォメーションディスプレイに “新しいキーが登録されました 心当たりがない場合は販売店に問い合わせください” と表示されたとき

追加で新しくキーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちのキー以外に登録されているキーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください” が表示されたとき

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
（→P.456）

■電池の交換方法

→P.456

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

⚠注意

●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■NFC キーカードの破損を防ぐために

次のことをお守りください。

●特殊な環境（高放射線区域など）での使用を避ける

●小銭などの硬いものと一緒に保管しない

●直射日光に長時間さらさない

●湿気やほこりの多い場所に保管しない

●お子さまの手の届かないところに保管する

●薬品に漬けない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

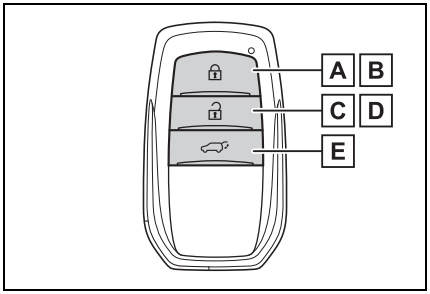
→P.512

■キーを紛失したとき

→P.511

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



A 全ドアを施錠する（→P.105）

B ドアガラスとパノラマムーンルーフ★を閉める ※（→P.105）

C 全ドアを解錠する（→P.105）

D ドアガラスとパノラマムーンルーフ★を開く ※（→P.105）

E パワーバックドアを開閉する（→P.112）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

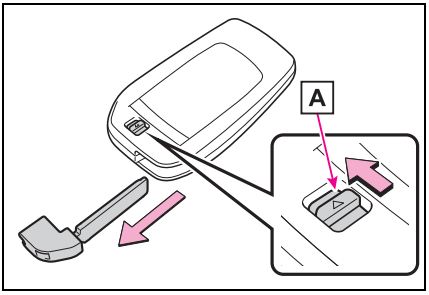
※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーA をスライドさせてキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.512）



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.511

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー

デジタルキーに対応しているスマートフォン（スマートウォッチ）を車両の電子キーの代わりとして利用できます。

また、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL：https://toyota.jp/digital_key/standard/

QR コード：

知識

■NFC キーカードについて

付属の NFC キーカードでドアの解錠 / 施錠および、ハイブリッドシステムの始動をすることができます。

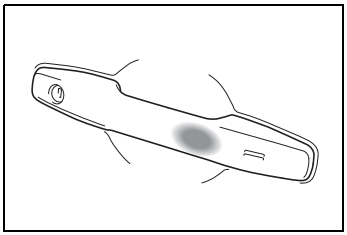
デジタルキーが使用できないときでも、NFC キーカードは使用することできま

す。

■NFCキーカードを使用してドアを解錠/施錠するには

運転席外側の図で示す位置に NFC キーカードの中央をかざしてください。全てのドアが解錠されます。

施錠する場合も同じようにかざすことで、全てのドアを施錠することができます。

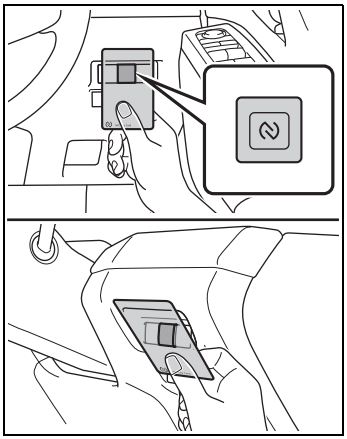


■NFC キーカードを使用してハイブリッドシステムを始動するには

1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏む

手順 3 までブレーキペダルを踏み続けてください。

2 図で示す位置に NFC キーカードの中央をかざす



NFC キーカードを認識するとブザーが鳴り、自動的にパワースイッチが ON へ切りかわります。車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。

3 パワースイッチを短く確実に押す

■デジタルキーの取り扱い

この製品には、総務省指定第CC-25001号のRFID(誘導式読み書き通信設備)が内蔵されています。

JP

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

本製品は電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
・本製品を不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用ください。

・本機は、電波法の基準に適合しています。
・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
・本製品には、総務省指定第CC-24017号のRFID(誘導式読み書き通信設備)が内蔵されています。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.531)

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、T-Connect 契約が必要となります。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

デジタルキーの注意事項

● デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります (詳細は、https://toyota.jp/digital_key/ をご確認ください)。そのため、必要に応じて車両の電子キーも携行してください。

・ スマートフォンが故障した場合
・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

● デジタルキーの利用登録及び登録削除は、車両とサーバー、スマートフォンとサーバーとが通信可能な状態のとき、利用できます。

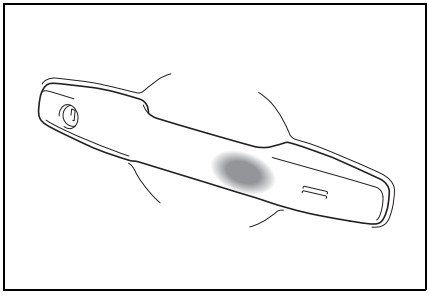
● スマートフォンのバッテリーの充電が必要な状態でも一定時間はデジタルキーを使用することが可能です。

デジタルキーが使用できない場合は電子キーもしくは、NFC キーカードを使用してください。

● お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

● 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。この場合、デジタルキーを下記のイラストの位置にかざして、ドアの解錠操作を実施してください。



● サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。

● デジタルキーをダウンロードしたスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘

れや盗難などには特にご注意ください。

- 万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
- 点検や修理などでトヨタ販売店にお越しの際は、電子キーとNFC キーカードを必ずご持参ください。
- デジタルキーのみではパワーバックドアのクローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能を使用できません。
- デジタルキーシステムは、スマートフォンと通信を行っており、車両操作が検知できない場合は自動的に節電状態に移行します。節電状態では下記の機能が作動しません。その際は、運転席のドアハンドルに触れてドアを解錠してください。なお、節電状態はパワースイッチをON にすることで解除されます。

・接近時オートアンロック

・イルミネーテッドエントリーシステム

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- スマートフォン（デジタルキー）または NFC キーカードと NFC アンテナ間の通信で使用する周波数は、13.56MHz です。この周波数帯は、ISM バンドとしても割り当てられており、高周波電源装置・高周波乾燥機・高周波プラズマ発生器に使用されています。これらの機器ならびにこれらに類する機器が使用されている環境でご使用された場合、通信機能上の損傷を受ける場合がありますのでご注意ください。
また、非接触通信機能は、静電気、電波ノイズや周辺金属等の環境により影響を受ける場合がありますのでご注意ください。
特に製品が金属物に囲まれたり、接したりした場合、通信が正常に機能しないことがあります。

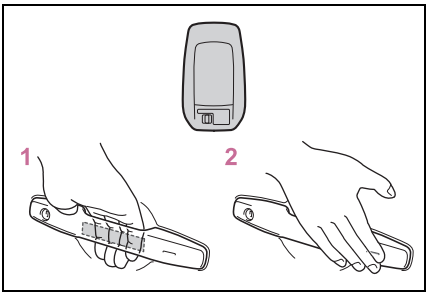
ドア（フロントドア・リヤドア）

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン・ドアロックスイッチ・ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロントドアハンドルを握って解錠する

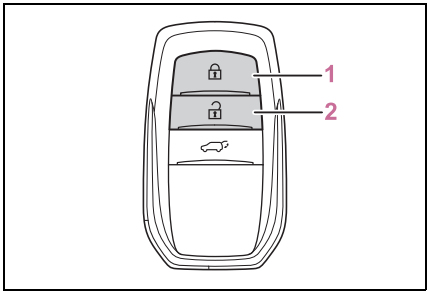
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロントドアハンドル表側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■降車オートロック機能 ※

※ カスタマイズ機能により設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.125）でブザーが“ピピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。(→P.107)

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能 ※1

パワーバックドアの閉作動中 ※1 にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※2

※1カスタマイズ機能により設定変更が必要です。

※2バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する

■接近時オートアンロック機能 ※

※ カスタマイズ機能により設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、作動範囲（電子キーの検知エリア）内に電子キーを持って入ると、ドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能についてご留意いただきたいこと

次のような状況では、接近時オートアンロック機能が作動しない場合があります。

- 車の周辺に電子キーを一定時間以上放置した
- 数日間スマートエントリー & スタートシステムを使用しなかった。

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが “ピッピー” と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■システムを正しく作動させるために

→P.129

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。切りかえ操作は、車内または車から約 1m 以内の範囲で実施してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **2** を行ってく

ださい）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回）	運転席側フロントドアのドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	助手席側フロントドアのドアハンドルを握る、またはバックドアオープンスイッチを押すと全ドア解錠
 車外：“ピピッ”（2 回）	フロントドアのドアハンドルを握る、またはバックドアオープンスイッチを押すと全ドア解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ 🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.66）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■解錠操作のセキュリティ機能

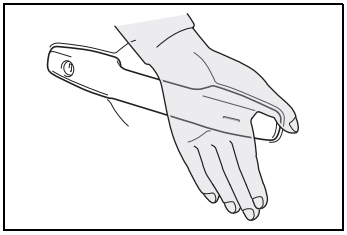
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル側面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

次のような場合、半ドア警告ブザーが鳴ります。すべてのドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

- スマートエントリー＆スタートシステムで施錠操作をしたときに、施錠しようとしたドア以外のドアが開いていた
- ワイヤレス機能で施錠操作をしたときに、いずれかのドアが開いていた

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.67）

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.126

■スマートエントリー& スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.512)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.456)

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.512)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチをOFFにするとブザーが鳴り、約6秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

また、ドアをロックしたときにマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーと非常点滅灯が数秒作動します。

パワースイッチをOFFにしてからリヤドアを開けた場合は、ドアをロックしてもリヤシートリマインダー機能は作動しません。

- リヤドアを開閉したあと約15分以内にハイブリッドシステムを始動した
- ハイブリッドシステムが始動している状態でリヤ ドアを開閉した。

ただし、リヤドアを開けてから2秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→P.537)

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

⚠ 警告

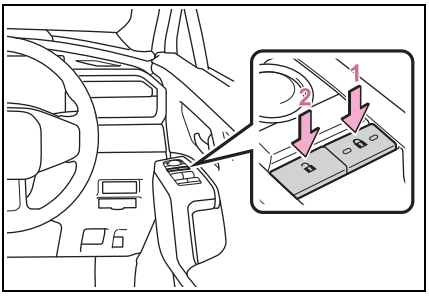
■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフ★を操作するとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

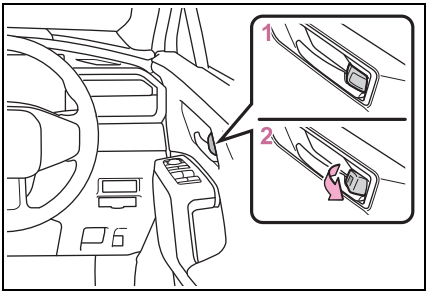
■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

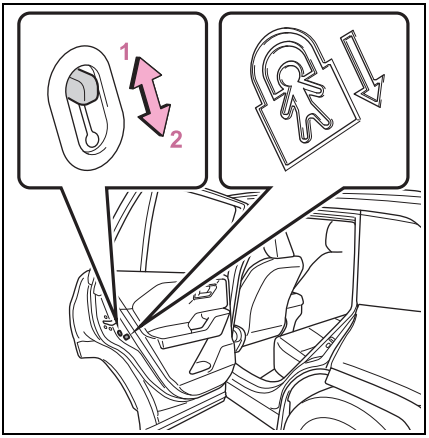
パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.531を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステム作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアハンドルについて

バックドアハンドルにものをかけないでください。
バックドアが突然閉じて、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

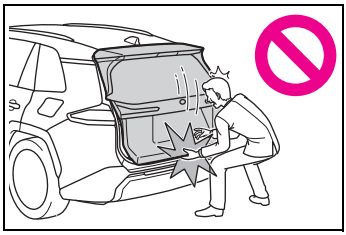
●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

⚠警告

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

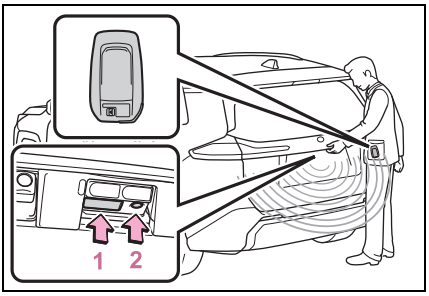


●スピンドルユニット（→P.122）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.105

知識

■作動の合図

→P.107

■解錠操作のセキュリティ機能

→P.107

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

→P.109

バックドアを開閉するには

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

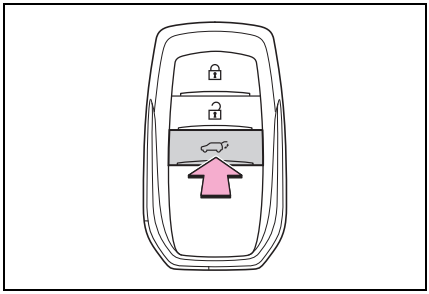
スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。※

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



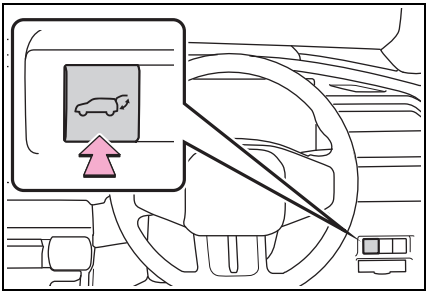
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

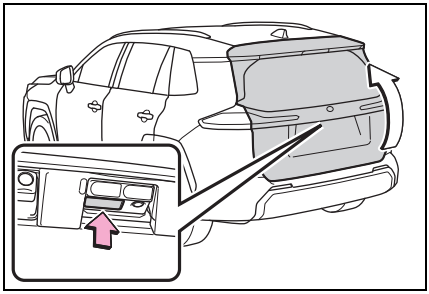
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。

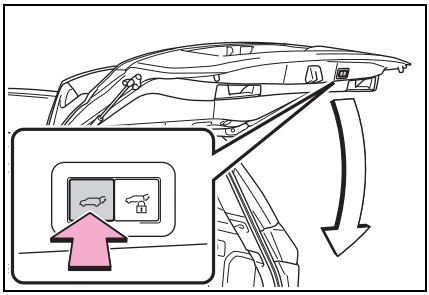


● 閉じる

バックドア下部のスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。



● バックドアを閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ＆ロック機能）

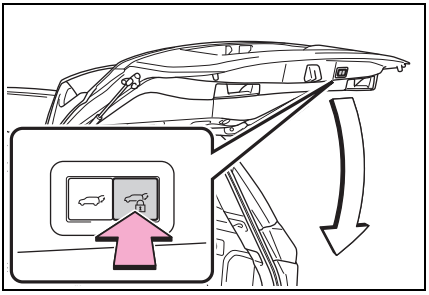
バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部の

スイッチを押す

ブザー音が鳴り、バックドアが自動で閉まります。バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉ま

り施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.107）

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動が停止します。作動が停止した状態から再度スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。

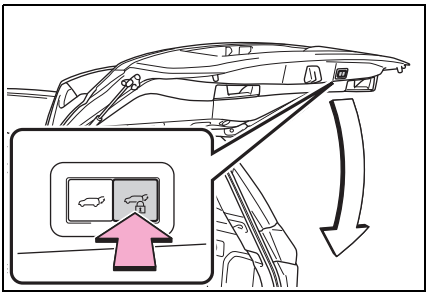


● バックドアから離れて閉じたあと全ドアを施錠する（クローズ&ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じて、電子キーを携帯してバックドア下部のスイッチを押す

ブザー音が鳴り、クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。



2 クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態中にバックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

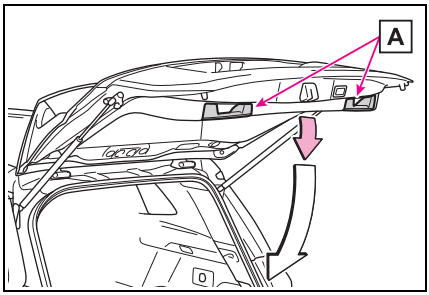
バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 **1** からやり直してください。

■ バックドアハンドルを使用して閉じる

バックドアハンドル A を持ってバックドアを引き下げる

ブザーが鳴りバックドアクローズアシスト機能（→P.117）が作動し、バックドアが自動で閉まります。

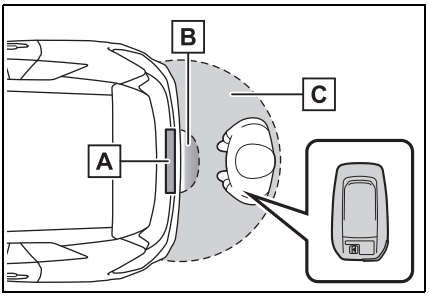


■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア）

リヤバンパー中央の下部に足を近付けて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます。キックセンサーを使

用して開閉するときは、ハンズフリーパワーバックドアの作動がONで（→P.123）、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、リヤバンパー後方のシステム作動範囲内に立つ



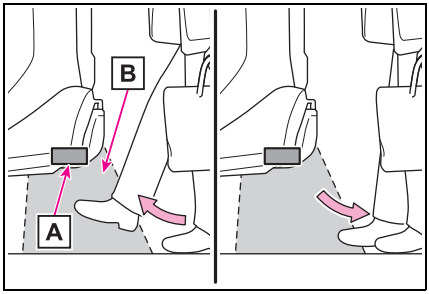
A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア（→P.125）

2 リヤバンパー中央の下部に足を近付けて離す動作を約 1 秒以内に行う

・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・ 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

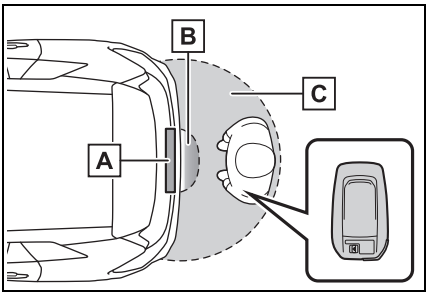
作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

■ キックセンサーを使用してバックドアから離れたあとに閉じて施錠する（ハンズフリークローズ&ロック［ウォークアウェイ］機能）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

リヤバンパー中央の下部に足を近付けて離す動作をし、バックドアから十分に離れることで、バックドアを自動で閉じたあと全ドアを施錠することができます。キックセンサーを使用するときは、キックセンサーの作動がONで（→P.123）、電子キーを携帯していることを確認してください。

1 電子キーを携帯し、リヤバンパー後方のシステム作動範囲内に立つ



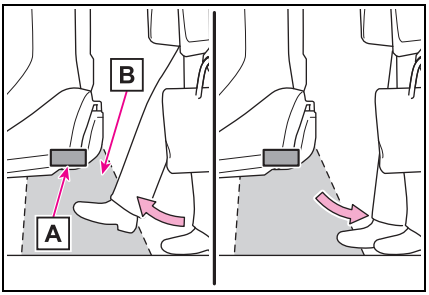
A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア（→P.125）

2 リヤバンパー中央の下部に足を近付けて離す動作を約 1 秒以内に行う

・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・ 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

3 足を引く動作をセンサーが検知すると、ブザー音が鳴りハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態になります。

4 ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態中にバックドアから十分に離れる

バックドアから離れたことを検知すると、作動の合図でお知らせします。バックドアから離れる方向、電子キーの位置や持ち方、周囲の状況によって正しく検知できない場合があります。

バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアも閉まると同時に施錠されます。すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.107）

約 30 秒間バックドアから離れなかったときは、待機状態が解除されます。再度作動させるには、手順 1 からやり直してください。

知識

■ラゲージルームランプ

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 10 分後に自動消灯します。

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●パワーバックドアの作動が ON のとき（→P.123）

●バックドアが解錠されているとき

ただし電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押し続けたときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。（→P.113）

●パワースイッチがONのとき開作動するには、上記に加え、車速が約 3km/h 未満で次のいずれかの条件を満たす必要があります。

・ パーキングブレーキがかかっている
・ ブレーキペダルを踏んでいる
・ シフトポジションが P の位置にある

■パワーバックドアの作動について

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

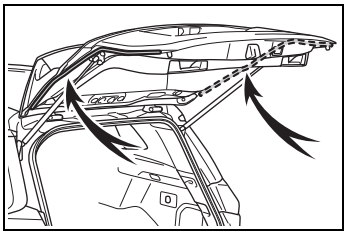
●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り作動が停止します。

●パワーバックドアが自動で閉まっているときに、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、反対方向に少し動き、作動が停止します。

●パワーバックドアが自動で開閉しているときに、バックドアオープンスイッチを押すと、ブザーが鳴り作動が停止します。

■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■落下防止機構

バックドアが自動で開くときに無理な力がかかると、バックドアが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■バックドアクローズアシスト機能

バックドアが開いているときに手動でバックドアを下げると、バックドアクローズアシスト機能が作動 ※ し、自動で全閉します。

※ 作動開始時にブザーが鳴ります。

■予約ドアロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれて

スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.105）、またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.105）

すべてのドアが閉まり施錠されると、作動の合図でお知らせします。（→P.117）

●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能※の作動条件

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能の作動の設定が ON のとき

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●バックドア以外のすべてのドアが閉じているとき

●ブレーキペダルを踏んでいない

●パワースイッチが OFF のとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

■クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能※が正常に作動しない状況

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次のような状況では作動しないことがあります。

●スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ&ロック機能が正常に作動しないとき

●クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

■クローズ&ロック機能の作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていないとき

●バックドア以外のドアがすべて閉じているとき

●パワースイッチが OFF のとき

■クローズ&ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ&ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部のスイッチを押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のスイッチを押したとき

●パワーバックドア下部のスイッチから離れた位置から押したとき

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに自動

で開閉できます。

●ハンズフリーパワーバックドアの作動が ON のとき（→P.123）

●電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.125）

●足をリヤバンパー中央の下部に近付けて離す動作をしたとき

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.125）

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に大量の泥・雪・氷・水などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動を OFF にしてください。

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがあります。

誤作動を防ぐために、電子キーが作動範囲内に入らないようにするか、ハンズフリーパワーバックドアの作動を OFF にしてください。（→P.123）

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れをふき取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーの下部に足を入れながら車両を横切ったとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき

●けん引されるとき

■ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能※の作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

●ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能の作動が ON のとき※

●ハンズフリーパワーバックドアの作動が ON のとき

●車内に電子キーがないとき

●バックドア以外のドアがすべて閉じて

いるとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●電子キーが作動検知エリア内にあるとき

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能※ が正常に作動しない状況

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次のような状況では正常に作動しないことがあります。

●スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

●クローズ&ロック機能が正常に作動しないとき

●ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能が待機状態でバックドアからすばやく離れたとき

●車両に登録された電子キーの本数が増えたとき

●ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しないとき

■補機バッテリーを再接続したとき

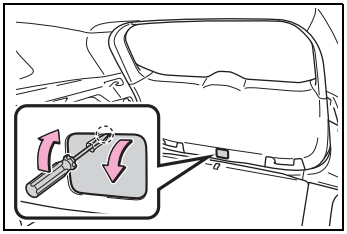
パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■バックドアが開かないとき

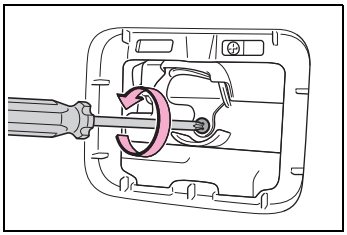
バックドアのロックを内側から解除することができます。

1 カバーをはずす

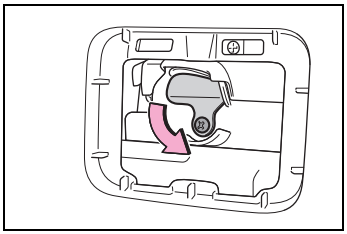
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



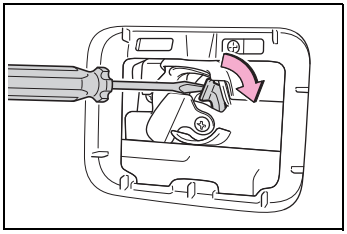
2 ネジをゆるめる



3 カバーをまわす



4 レバーを図のように動かす



5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

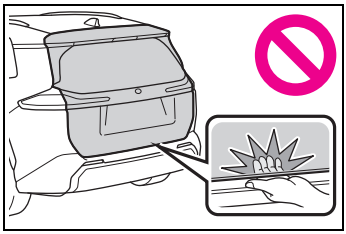
■カスタマイズ機能

パワーバックドアの全開時の開度などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.539）

⚠警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動条件（→P.117）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能※について

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

バックドアから離れると自動でバックドアが閉まり始めます。

周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

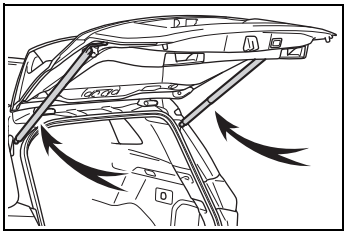
●リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際は、排気管にふれないように注意してください。熱くなっている排気管にふれると、やけどをするおそれがあります。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際、縁石などに足が触れてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因になります。

⚠注意

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.117）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ&ロック機能について

クローズ&ロック機能でパワーバックドアを閉じると、ブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、ブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことを作動の合図でお知らせします。（→P.107）

車から離れるときは、作動の合図を確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサーが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

●リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサーが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・リヤバンパーに傷や破損がある

●リヤバンパーを分解しない

●リヤバンパーにステッカーを貼らない

●リヤバンパーを塗装しない

●パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには

マルチインフォメーションディスプレイやマルチメディアディスプレイから、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.539）

パワーバックドアの設定を変更した場合、

パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイやマルチメディアディスプレイでの設定操作が必要です。

バックドア自動開停止位置調整について

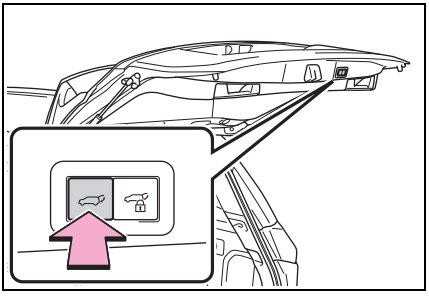
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.112）

2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続け、スイッチから手を離す

設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

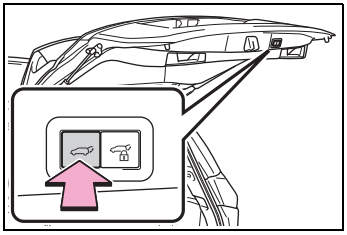


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続けてください。

ブザーが 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.86）

バックドア下部のスイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

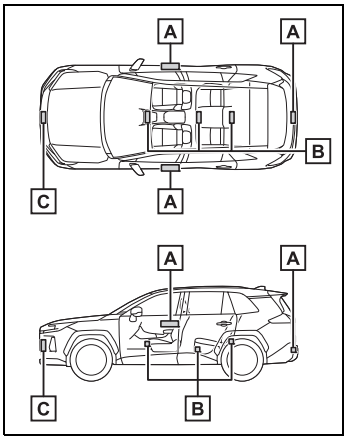
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.105）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.112）
- ハイブリッドシステムを始動する（→P.172）

知識

■アンテナの位置

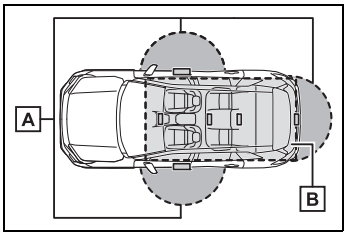


A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C 車外アンテナ（アドバンストパークリモート機能装着車）

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が“ピー”と5秒鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

●車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。

・車の周辺に一定時間電子キーを放置した
・数日間スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

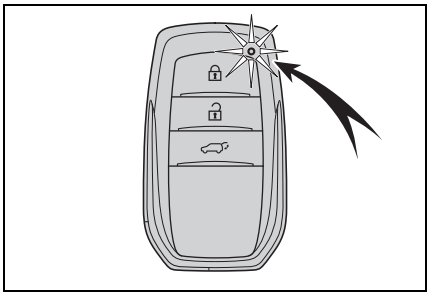
●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を2回押し、電子キーのインジケーターが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■電子キーの機能が停止するとき

電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。
この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード

・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

●ドアハンドルに電子キーを近付けて操作する

●ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。（→P.512）また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.513 を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれている
・ドア解錠時に電子キーと車両との空間を身体で遮っている場合

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では施錠・解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。

その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.126）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■降車オートロック機能※1についてご留意いただきたいこと

※1カスタマイズメニューで作動／非作動を切りかえることができます。

●車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にしてください。（→P.531）
乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。

●洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。

●すべてのドアを閉めたあと（パワーバックドア閉作動中も含む※2）に次の操作をすると、降車オートロック機能が解除されます。
・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す
・降車オートロック機能以外で施錠・解錠する

また、電子キーをカップホルダー底面にある マークにかざすと降車オートロック機能が解除される場合があります。

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉（パワーバックドア閉作動開始も含む※2）してください。

●電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。

●降車オートロック待機状態のときは、スマート エントリー&スタートシステムでの施錠に時間がかかる場合があります。

●すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。※2

●電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.106）とき、ブザーが鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になりません。
・いずれかのドアを開ける

・ブレーキペダルを踏む
・パワースイッチを押す

降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.106）ときは、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。

●降車オートロック機能を一時的に非作動にする（→P.106）ときにブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※2パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（→P.105）の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（→P.531）

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.126）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■電子キーが正常に働かないとき

●ドアの施錠・解錠（→P.512）

●ハイブリッドシステムの始動（→P.513）

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.105, 512）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.513

●ハイブリッドシステムの停止：P.174

⚠警告

■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.125）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠警告

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

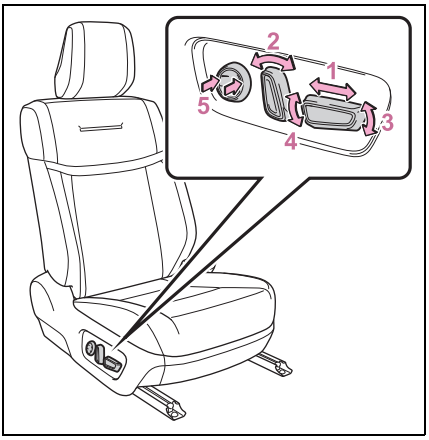
フロントシート

シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。（→P.29）

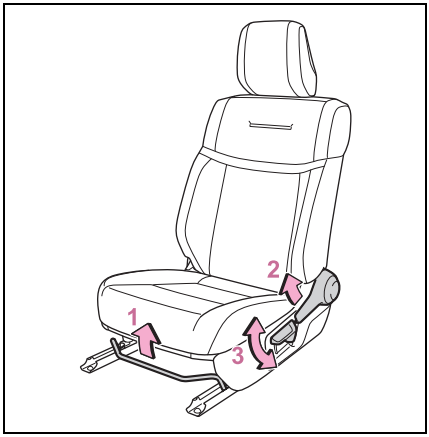
調整するには

▶ パワーシート装着車



1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 クッション前端の上下調整
4 シート全体の上下調整
5 腰部位置調整（運転席のみ）

▶ 助手席マニュアルシート装着車



1 前後位置調整
2 リクライニング調整
3 シート全体の上下調整

知識

■シートを調整するとき

ヘッドレストが天井やサンバイザーなどにあたらないよう注意してください。

警告

■シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
  指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

⚠警告

■リクライニング調整について

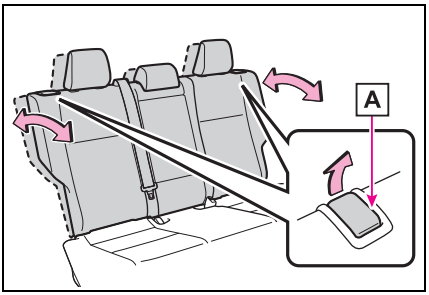
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

リクライニング調整レバーA を引いて、背もたれを調整します。



⚠警告

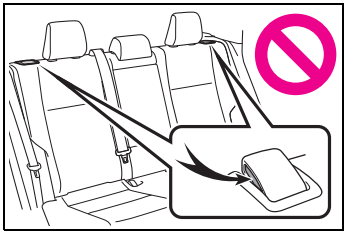
■背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートのあいだや動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。

⚠ 警告

●シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。
背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



背もたれを倒すには

■ 背もたれを倒す前に

1 車を安全な場所に駐車する

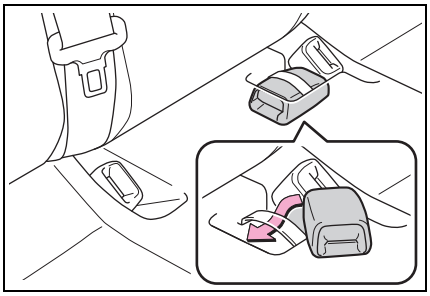
パーキングブレーキをかけ（→P.188）、シフトポジションをPにします。（→P.179, 183）

2 フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P.131）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

3 リヤ中央席のヘッドレストを下げる（→P.135）

4 リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する

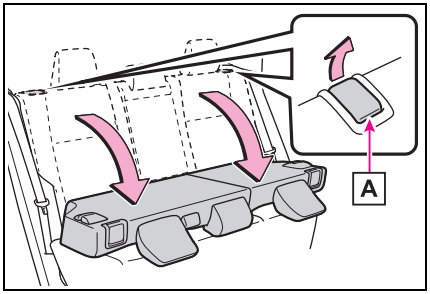


5 リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（→P.424）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

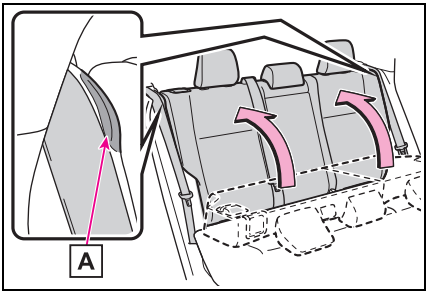
■ 背もたれを倒す

リクライニング調整レバーA を引きながら、背もたれを倒す



■ 背もたれをもとにもどす

シートベルトをシートベルトガイドA にかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。



⚠警告

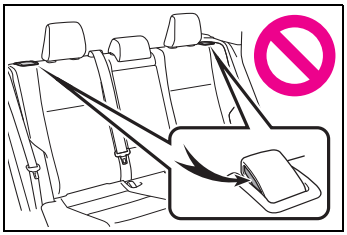
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

- 背もたれを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠警告

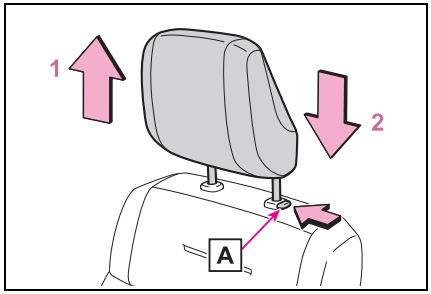
■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- リヤ外側席のヘッドレストは、ヘッドレスト使用前に上下に押してロックしていることを確認する

上下調整するには

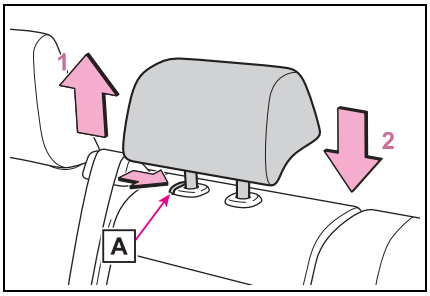
■ フロント席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作します。

■ リヤ中央席



1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作します。

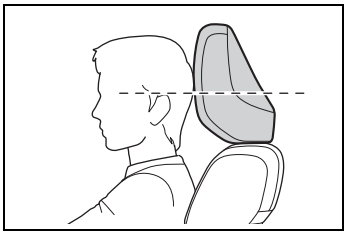
■ リヤ外側席

ヘッドレストの上下位置を調整することはできません。

知識

■ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ中央席について

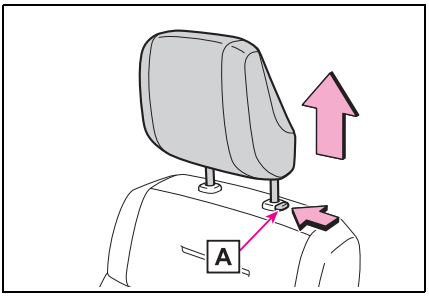
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタンA を押しながらヘッドレストを引き上げる

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P.131)

イラストはフロントシートで代表しています。



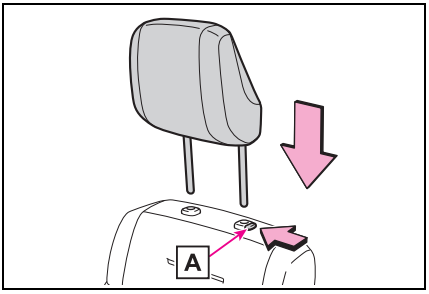
ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席・リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

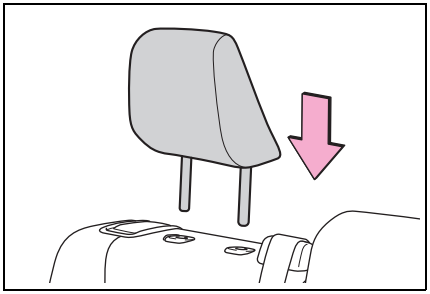
さらに下げるときは、解除ボタンA を押しながら操作してください。

イラストはフロントシートで代表しています。



■ リヤ外側席

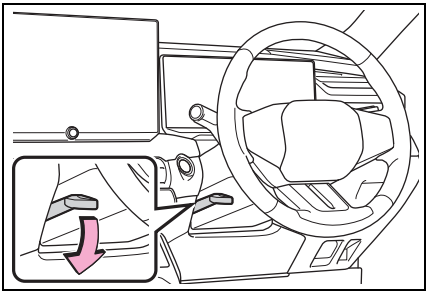
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる



ハンドル

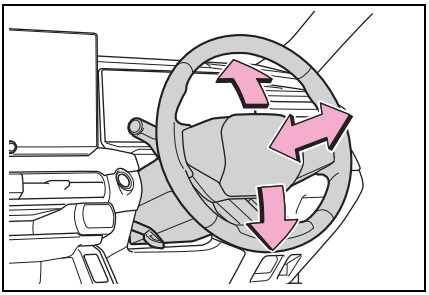
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■走行中の留意事項

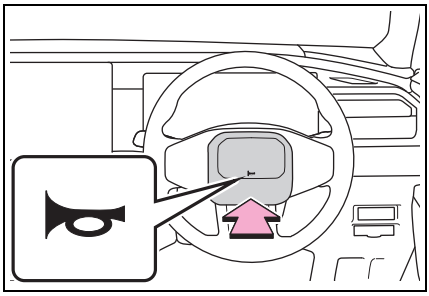
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



インナーミラー★

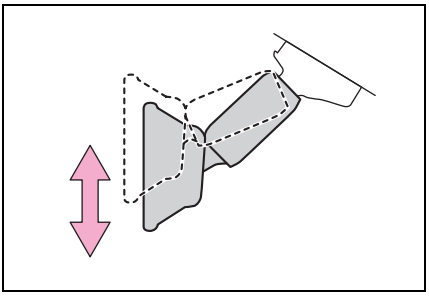
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



⚠警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

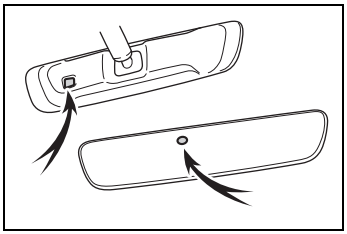
防眩機能について

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーモードからデジタルミラーモードに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができます。

また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

車両後方カメラの映像をドライブレコーダーに録画します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

●走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.142）

・鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

●ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーの取りはずし・改造・分解・塗装などをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠注意

●ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

●ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置・取り付け角度がずれるおそれがあります。

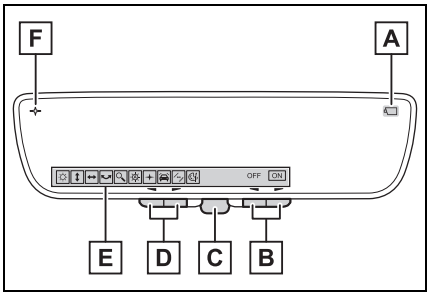
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。

・有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

各部の名称



A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B 選択／調整スイッチ

調整項目の設定を変更します。

C 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

D メニュースイッチ

調整アイコンの表示や、調整項目の移動を行います。

E アイコン表示エリア

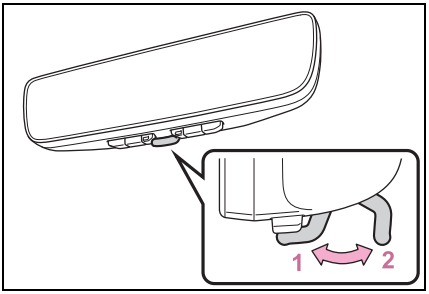
調整アイコン（→P.142）・調整ゲージが表示されます。

F デジタル防眩モードインジケーター

デジタルミラーモード時、防眩機能がON に設定されていることを示します。（→P.142）

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。



1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●雨天時リアガラスに水滴が付いて映像が見にくい場合は、リアワイパを作動させてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、電動サンシェード（パノラマムーンルーフ装着車）を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

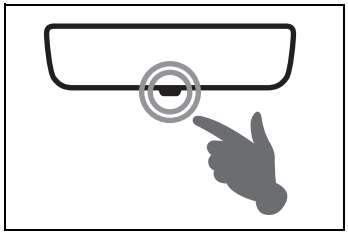
●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調・年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

■システムに異常が発生したとき

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。切りかえレバーを操作し、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

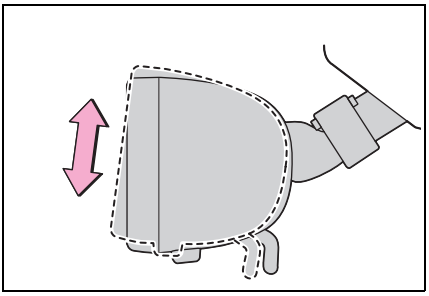


調整するには

■ ミラー本体の上下調整

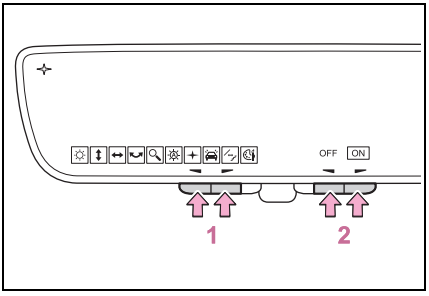
運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON ／ OFF ができます。



1 メニュースイッチを操作し、調整したい項目を選択する

2 選択 / 調整スイッチを操作し、調整したい項目の設定を変更する

約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。 ：時計回りに映像が回転します ：反時計回りに映像が回転します
	ディスプレイの表示映像を拡大／縮小することができます。
	鏡面ミラー時の自動防眩の ON/OFF 設定ができます。※ パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。 パワースイッチを OFF 直後に、パワースイッチを ON した場合、自動防眩機能が OFF になる場合があります。

調整アイコン	設定内容
	デジタル防眩モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。ON にすることで、夜間にディスプレイの表示映像の明るさを抑えて表示し、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑えます。 右側のメニュースイッチを 3 秒長押しすることでも ON ／ OFF を切りかえることができます。
	後方車両接近告知機能の表示を ON/OFF で設定することができます。
	ディスプレイの表示映像のエッジを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の色味を調整することができます。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。

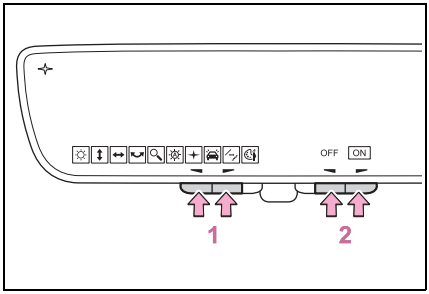
■ 自動防眩機能の ON ／ OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON ／ OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

▶ デジタルミラーモード使用時

→P.142

▶ 鏡面ミラーモード使用時



1 メニュースイッチを操作し、調整したい項目を選択する

2 選択 / 調整スイッチを操作し、調整したい項目の設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、設定画面の表示が消えます。

知識

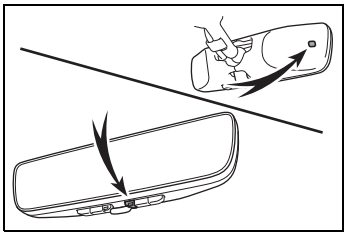
■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 5 秒以上スイッチ操作をしないと、調整アイコンと各調整画面の表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。
- デジタル防眩モードは周囲が暗い場所でのみ働き、周囲の照度環境によっては映像の明るさが抑えられず、後続車のヘッドランプのまぶしさが低減できない場合があります。

●デジタル防眩モードを ON にすると、夜間のドライブレコーダーへの録画映像も暗くなります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



お手入れについて

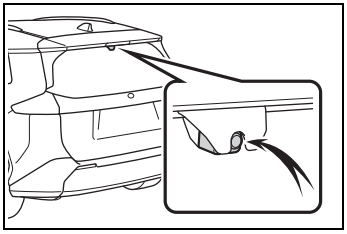
■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に次のような症状で気になったときやお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （パノラマムーンルーフ★からの光があたっているときは、電動サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯などの照明の下で使用した ・排気ガスが映り込んでいる	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	トヨタ販売店で点検を受けてください。
	ラゲージルームの荷物がガラス等に反射して映り込んでいる	・鏡面ミラーモードに切りかえてください。 ・荷物を映りこまない位置に移動するか、黒い布等で覆いガラスへの反射を抑えてください。
	リヤウインドウガラスが曇っている	リヤウインドウデフォッガー（→P.395）を使用し、曇りを取ってください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上にが表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	デジタルインナーミラーの近くに電波を発信する機器（携帯電話など）がある	電波を発信する機器をデジタルインナーミラーから離してください。 症状が改善されない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上のが消灯した	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上にが表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がるとが消えます） ミラーの温度が下がってもが消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.395)

⚠警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

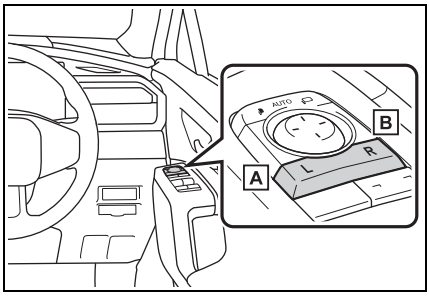
- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

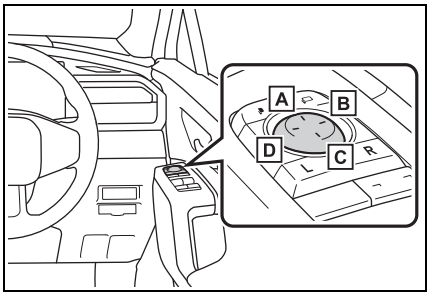
1 調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

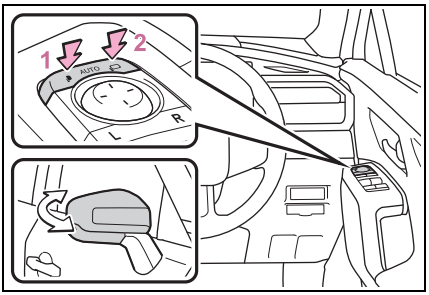
D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

ドアミラーを格納するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

オート電動格納機能の設定がリセットされ、OFF の状態にもどります。機能を ON にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

⚠警告

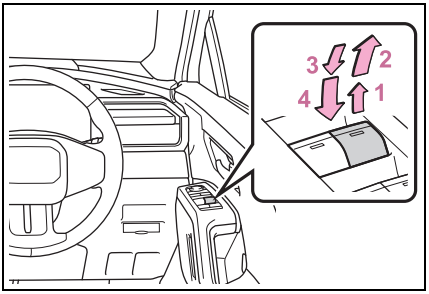
■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。



1 閉める
2 自動全閉 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.512）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.105）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.66）

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーターにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.531）

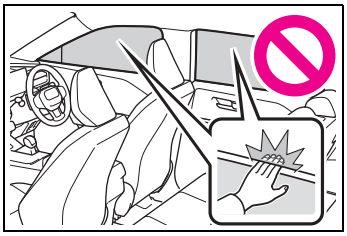
⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.151）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

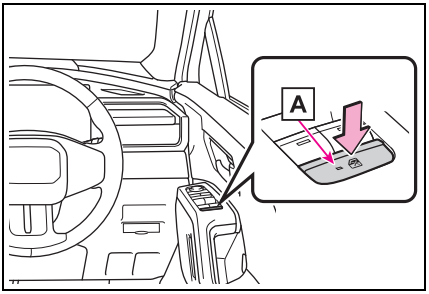
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター[A]が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

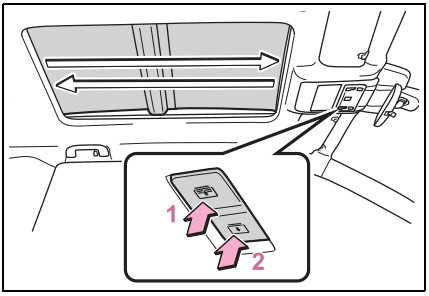
パノラマムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェード・パノラマムーンルーフを操作するには

■ 電動サンシェードを開閉するには



1 開ける※

を押し続けると、自動で全開します。

2 閉める※

を押し続けると、自動で全閉します。

パノラマムーンルーフが完全に閉まっていないときは、電動サンシェードが閉まる前にパノラマムーンルーフが閉まります。

※途中で停止するときは、または、をもう一度押します。

■ パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンするには

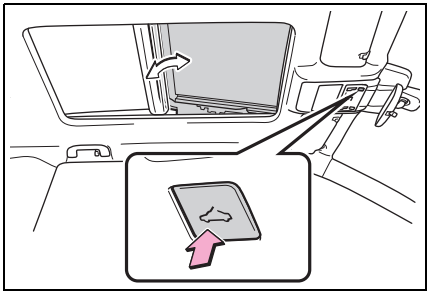
チルトアップするには、スイッチを短く押す※

パノラマムーンルーフをチルトアップすると、電動サンシェードがルーフの半分の位置まで開きます。

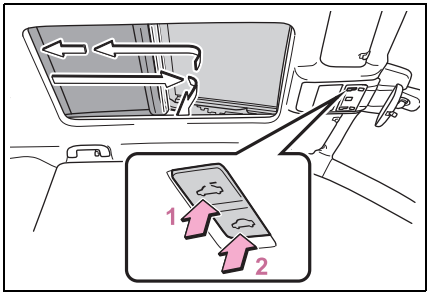
※途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

チルトダウンするには、スイッチを押し続ける

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。



■ パノラマムーンルーフを開閉するには



1 開ける※

を押すと、パノラマムーンルーフと電動サンシェードが開きます。

チルトアップした状態からでも開くことができます。

※途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

2 閉める※

を押すと、パノラマムーンルーフが全閉します。

※途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき

●電動サンシェードを閉めるとき

■パノラマムーンルーフと電動サンシェードの両方を閉じるには

スイッチを押す

電動サンシェードがルーフの半分の位置まで閉まったあと、いったん停止し、パノラマムーンルーフが閉じます。その後、電動サンシェードが全閉します。

■ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでパノラマムーンルーフを開閉できます。※（→P.512）

●ワイヤレスリモコンでパノラマムーンルーフを開閉できます。※（→P.105）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動パノラマムーンルーフ開閉機能でパノラマムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.66）

※トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■パノラマムーンルーフまたは電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

1 車を停止する

2 パワースイッチを ON にする

3 スイッチ、または スイッチを押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※

4 パノラマムーンルーフと電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パノラマムーンルーフ開警告機能

パワースイッチが OFF でパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーターにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

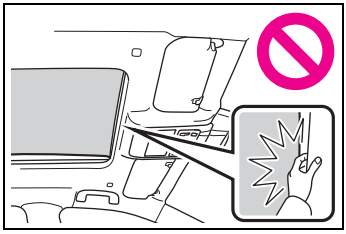
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠警告

■電動サンシェードを開閉するとき

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■パノラマムーンルーフを開けているとき

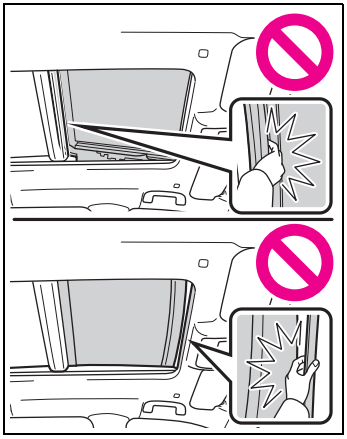
●走行中はルーフから手や顔を出さない

●開口部に腰かけない

■パノラマムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってパノラマムーンルーフを操作するときは、パノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。
いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

⚠ 警告

●挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

⚠ 注意

■パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために

●開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。

●パノラマムーンルーフの表面・端面には、硬いものをぶつけないでください。

■洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動でシート・ヘッドアップディスプレイを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者とゲストとでそれぞれ３パターンまで登録できます。

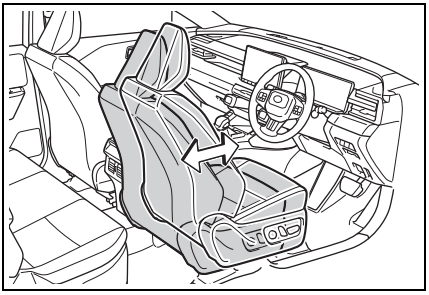
マイセッティングに認証デバイスの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（メモリーコール機能）

マイセッティングについては、P.159 を参照してください。

運転席への乗り降りをしやすくするには（パワーイージーアクセスシステム）

次のすべての操作を行ったとき、シートが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

- 降車時に、シートの位置が最後方に近いときは、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。
- パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、オート作動が停止しマニュアル調整になります。
- 降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■カスタマイズ機能

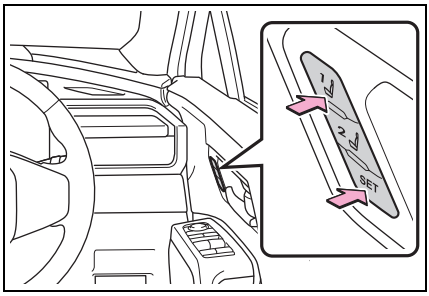
パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.539）

ドライビングポジションをポジションメモリーボタンに登録する／呼び出すには（ポジションメモリー）

■ 登録方法

1. シフトポジションが P の位置にあることを確認する
2. パワースイッチを ON にする
3. 運転席・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
4. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1、2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

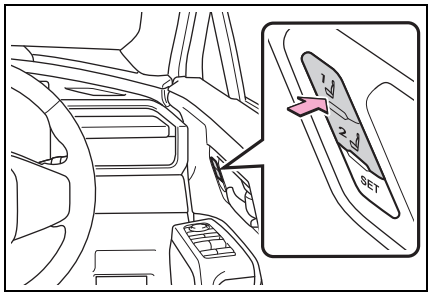
すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



■ 呼び出し方法

1. シフトポジションが P の位置にあることを確認する
2. パワースイッチを ON にする

3 1、2 のうち呼び出したいポジションのボタンを押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET ボタンを押す

●1、2 のボタンを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ヘッドアップディスプレイの表示位置を調整する（ヘッドアップディスプレイのみ作動停止）

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

■登録できるシート位置（→P.131）

次のシート位置が登録できます。

●前後位置調整

●リクライニング調整

●クッション前端の上下調整

●シート全体の上下調整

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）（運転席のみ）

■ マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに認証デバイスの割り当てを登録することで、登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

● 登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● 呼び出し方法

1 運転席ドアをスマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

電子キーまたは、デジタルキーで登録された位置を呼び出す場合は、マイセッティングに登録している電子キーまたは、デジタルキーを携帯してください。

ヘッドアップディスプレイ表示を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

2 パワースイッチを ACC または ON にする

シート・ヘッドアップディスプレイ表示（パワースイッチを ON にしたときのみ）が登録したドライビングポジションに動きます。

● 解除方法

詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

運転席以外のドアをスマートエントリー & スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■挟み込み防止機能

シートが自動で動いているときに人やものが干渉すると、作動が停止します。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3 名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動切りかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーを検出することで個人を特定します。（→P.125）

● デジタルキー

スマートエントリー&スタートシステムがデジタルキーを検出することで個人を特定します。（→P.101）

● 顔認証システム★

ドライバーモニターカメラで登録した顔情報をドアの開閉時に顔認証することで個人を特定します。（→P.226）

顔情報の登録・削除などについては、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーまたは、デジタルキーで個人を特定した場合でも、顔認証による個人の特定が優先されます。

● Bluetooth® デバイス

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。

Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーを検出して個人を特定したときは、Bluetooth® 機器での個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジション（メモリーコール機能）

個人が特定されたあとに、次の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションをＰにしたとき）のドライビングポジションを再生します。

・電子キーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開けます。

・デジタルキーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムで解錠してドアを開けたとき

・顔認証システム★で個人を特定：ドライバーモニターカメラが顔情報を認証したあとにパワースイッチを ON にする

● 表示設定※（メーター・ヘッドアップディスプレイ・マルチメディアディスプレイ）

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの表示設定を再生します。

● 車両設定※（マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアディスプレイで設定できる項目）

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 163
荷物を積むときの注意 170

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 172
EV ドライブモード 177
トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車） 179
トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車） 182
方向指示レバー 187
パーキングブレーキ 188
ブレーキホールド 192

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 195
アダプティブハイ ビームシステム（AHS） 198
オートマチックハ イビーム（AHB） 202
フォグランプスイッチ 205
ワイパー＆ウォッシャー（フロント） 206
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） 209

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 211

4-5. 運転支援装置について

運転支援システム情報 213
Toyota Safety Sense 217
ドライバーモニター 226
プリクラッシュセーフティ（PCS） 228
レーントレーシングアシスト（LTA） 238
レーンチェンジアシスト（LCA） 242
レーンディパーチャーアラート（LDA） 246
プロアクティブドライビングアシスト（PDA） 253
フロントクロストラフィックアラート（FCTA） 257
発進遅れ告知機能 259
ロードサインアシスト（RSA） 260
レーダークルーズコントロール 263
クルーズコントロール 274
ドライバー異常時対応システム 277
トヨタチームメイト アドバンストドライブ（渋滞時支援） 280
ITS Connect 284
ブラインドスポットモニター（BSM） 290
安心降車アシスト 296
後方車両への接近警報 300
後方車両接近告知 302
周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能） 304
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） 308
クリアランスソナー 310
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 319
リヤカメラディテクション（RCD） 324

パーキングサポートブレーキ（PKSB）..... 327
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 331
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 335
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 336
急加速抑制..... 338
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 342
トヨタチームメイト アドバンストパーク..... 347
ドライブモードセレクトスイッチ..... 374
マルチテレインセレクト..... 375
ダウンヒルアシストコントロールシステム..... 377
運転を補助する装置..... 379

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 386
寒冷時の運転..... 388

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.172

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.188）

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→P.189）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.179, 183）

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.188）

3 シフトポジションを P にする（→P.179, 183）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトポジションを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.188）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.188）

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→P.379）

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.386)

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド(→P.82)

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は:

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は:

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は:

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について(ブレーキオーバーライドシステム)

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

→P.78

⚠警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

⚠ 警告

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●枯れ葉や紙くず、布きれなどの可燃物の上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.470 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.179, 182）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラー★・デジタルインナーミラー★の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●オフロード走行を目的とした車ではありません。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

●渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車）

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトレバーを N に入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトポジションを変更するとき（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

●走行中にシフトポジションをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだままシフト操作をしないでください。シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやフロントドアガラス・リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトポジションを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

⚠注意

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.492, 503 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッション・トランスアクスルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。

その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。(エレクトロシフトマチックタイプシフト非装着車のみ)

● R に切りかえたとき ※1

● P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※1

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき、車速の急速な上昇を抑えるためにハ

イブリッドシステム出力を抑制※2することがあります。

※1状況によっては操作できない場合があります。

※2状況によっては出力を抑制できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに「速度抑制中」が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.380）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.380）

また、次のときは急発進の抑制制御は作動しません。

・ マルチテレインセレクトを選択しているとき

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御は急加速抑制（→P.338）に連動して切り変えることができます。

・ 急加速抑制を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

⚠ 警告

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・トノカバー

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こし思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ルーフレールを使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のトヨタ純正キャリアを装着してください。トヨタ純正品以外を装着される場合は、トヨタ純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長・全幅）をこえる荷物を積まないでください。

●走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。

●ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行・急加速・急旋回・急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、ときおり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

●80kg 以上の荷物を積まないでください。

⚠ 注意

■荷物を積むとき

パノラマムーンルーフ★に荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.188）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフトポジションが N と表示されているときは、ハイブリッドシステムを始動できません。ハイブリッドシステムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.183）

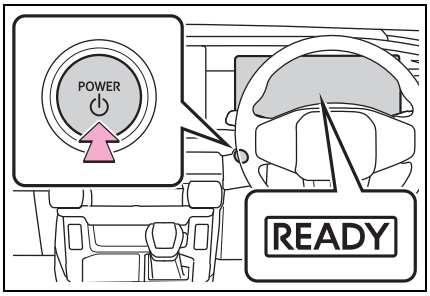
4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。



5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、P.342 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワースイッチ文字照明

状況に応じて、次のようにパワースイッチ文字照明が切りかわります。

- 運転席または助手席ドアが開いているときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチが OFF のとき、電子キーまたはデジタルキーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ文字照明が点滅します。
- パワースイッチが ACC または ON のときは、パワースイッチ文字照明が点灯します。
- パワースイッチを ACC または ON から

OFF にしたときは、パワースイッチ文字照明がしばらく点灯します。

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります（→P.65）。トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.513 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.109）はハイブリッドシステムを始動できます。

■外気温が低いとき

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.57

■補機バッテリーがあがったとき

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.514 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.98

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.126

■ご留意いただきたいこと

→P.127

■マルチインフォメーションディスプレイに “スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→P.64

■電子キーの電池交換

→P.456

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.513 を参照してください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.188）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

3 シフトレバーを P の位置にする（→P.179）

シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください

4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

パワースイッチを押すときは、シフトレバーから手を離してください。

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” や “パワー ON” の表示が消灯していることを確認する

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.188）

3 シフトポジションを P にする（→P.182）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを短く確実に押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” や “パワー ON” の表示が消灯していることを確認する

知識

■シフト制御システムについて（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても OFF にならないことがあります。

その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。

システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P.470)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

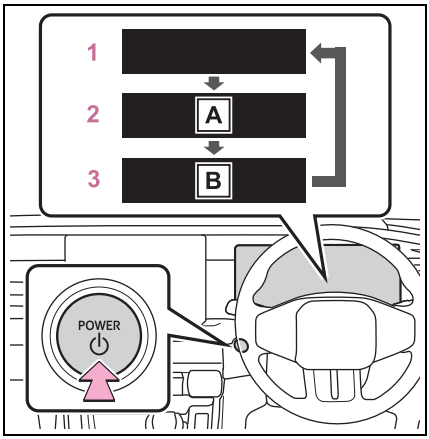
●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを短く確実に押してください。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトポジションを N にし、パワースイッチを短く確実に押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



A アクセサリー

B パワー ON

1 OFF※1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※2

オーディオなどの電装品が使用できます。
マルチインフォメーションディスプレイに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” が表示されます。

※1エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは ON のままになり、OFF になりません。

※2カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.531）

知識

■ACC カスタマイズが OFF のとき

●パワースイッチが OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

●安心降車アシスト作動時、ブザー吹鳴に加え音声でも案内します。

■自動電源 OFF 機能

▶エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、数分以上パワースイッチを ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

●シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままで補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

▶エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

●シフトポジションが P にあるとき、数分以上パワースイッチを ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

●シフトポジションが P にあるとき、パワースイッチが ACC または ON（ハイブリッドシステムが始動していない状態）のときに補機バッテリーの残量が少なくなると、ブザーが鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。そのままの状態を続けると、パワースイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、パワースイッチを ACC または ON したまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “パワー ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止したとき（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車）

シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードはOFFになりません。次の手順でOFFにしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーをPの位置にする

シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください

3 マルチインフォメーションディスプレイに“パワーON”が表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの“パワーON”の表示が消灯していることを確認する

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチはONのままになるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

EV ドライブモード

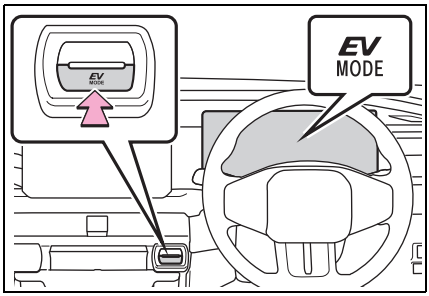
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときはEV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約0℃を下まわるような低温下に長時

間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.85）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

EV ドライブモードに切りかわらないときは、EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.85）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

EV ドライブモードが解除されたときは、しばらく走行してから使用してください。

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

⚠警告

■走行中は

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2（→P.181）

※1燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

※2S モードではシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは変化しません。

●Sモードで走行中にS5またはS4レンジにシフトダウンしたとき（→P.181）

●Dポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→P.374）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.169

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

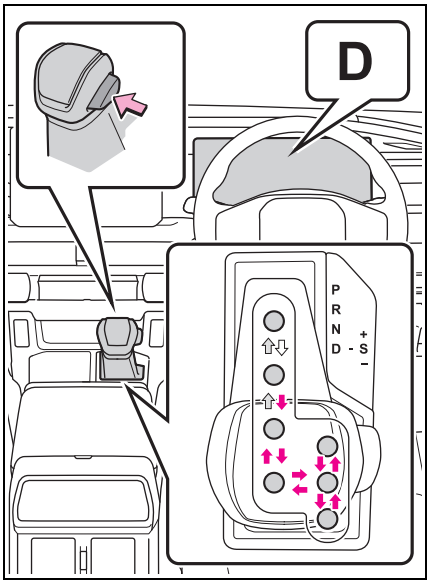
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。横すべりやスピンをして思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



⇦ パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

⇦ シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

⇦ シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを最初に押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチが ON でブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

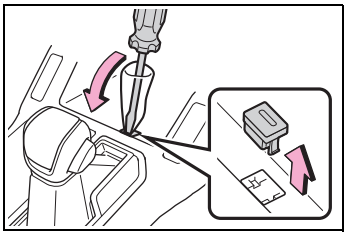
■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押した状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

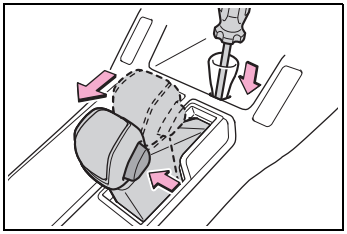
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する（→P.188）
2 パワースイッチを OFF にする
3 ブレーキペダルを踏む
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す
シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



⚠ 警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

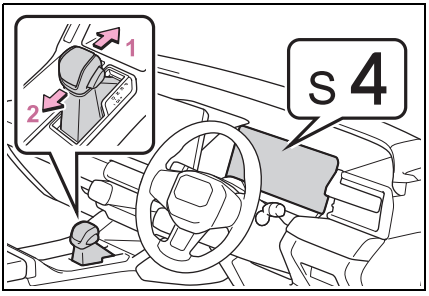
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

→P.374

S モードでのシフトレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーの “－” 側または “＋” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 のあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速等に応じて S4 か S5 に設定されます。

知識

■S モードについて

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。
- S1 から S4 レンジのとき、エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。
- S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “＋” 側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■シフトレバーを S にしても、シフトポジション表示に S が表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

トランスミッション（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

知識

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.169

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.516

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。横すべりやスピンをして思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の充電について

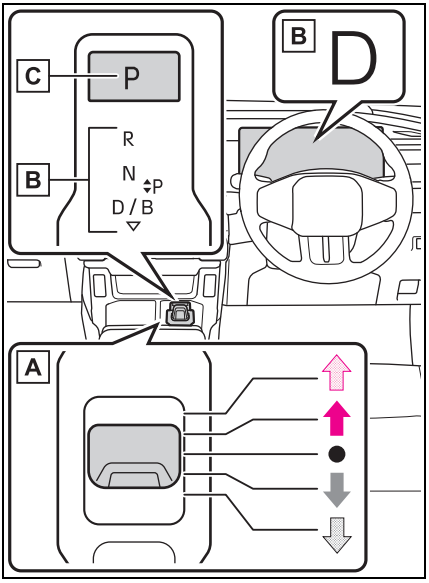
シフトポジションが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.485）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について



前 2 段目

前 1 段目

ホーム位置

後 1 段目

後 2 段目

A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯を確認して、確実に操作してください。

シフトレバーは前後それぞれ 2 段ずつ動かすことができます。

R ポジションに切りかえるには：
ブレーキペダルを踏みながら前方に 2 段動かしてください。※1

D ポジションに切りかえるには：
ブレーキペダルを踏みながら後方に 2 段動かしてください。※2

N ポジションに切りかえるには：
ブレーキペダルを踏みながら、現在のシフトポジションが P・D・B の場合は前方に 1 段、現在のシフトポジションが R の場合は後方に 1 段動かしてください。

B ポジションに切りかえるには：
後方に動かしてください。
現在のシフトポジションが D のときのみ切りかえが可能です。

※1 N からは前方に 1 段の操作で切りかわります。

※2 P・N・B からは後方に 1 段の操作で切りかわります。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーがホーム位置（●）にもどります。

P から N・D・R、および N・D・B・R から P へ、または D・B から R、および R から D へ切りかえるときは、アクセルペダルから足をはなしてブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：
現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：
現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、シフトポジション表示灯の P の位置が点灯しま

す。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

●パワースイッチがOFFまたはACCのときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。(ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません)

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを S に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●走行中に、P ポジションスイッチを押したとき

極低速走行時は、P に切りかわることがあります。

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、D または B から R にシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、D または B から R にシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、R から D にシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、R から D にシフトレバーを操作したとき

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択したとき

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●走行中に、P ポジションスイッチを繰り返し押したとき、またはスイッチを

押し続けたとき

■リバース警告ブザー

シフトポジションをRにするとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションがPに切りかわります。

●パワースイッチがON、かつシフトポジションがP以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります）※

●シフトポジションがP以外の状態で万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
・パワースイッチがON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションがPに切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションがP以外の状態で補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションがPに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.516を参照してください。

⚠警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーがホーム位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Pポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

⚠注意

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

ドライブモードの選択

→P.374

自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションが P に切りかわるまでの間、自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持することができます。

1 停車する

2 ブレーキホールドシステムを OFF にする（→P.193）

3 ハイブリッドシステムが始動していることを確認して、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでパーキングブレーキスイッチを押し続ける

パーキングブレーキのオートモードが OFF になります。

4 シフトポジションを N に切りかえる

5 パーキングブレーキ表示灯が点滅するまで、パーキングブレーキスイッチを押し続ける

6 パワースイッチを押す

シフトポジションが N のままハイブリッドシステムが停止します。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

● シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください。

● 平らな場所で使用してください。必要に応じて輪止めを使用してください。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

⚠ 警告

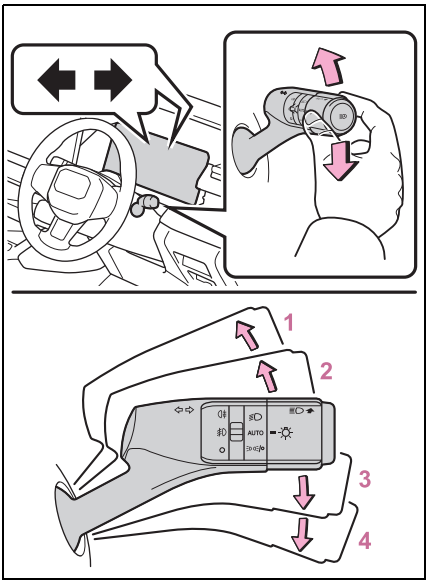
■自動 P ポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションを N に保持するときは

平らな場所で使用してください。
少しでも傾斜がある場合、車が動き思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。必要に応じて輪止めを使用してください。
自走式洗車機を利用するとき以外は使用しないでください。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

左側方向指示灯が 5 回点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中まで動かして離す）

右側方向指示灯が 5 回点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

各方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

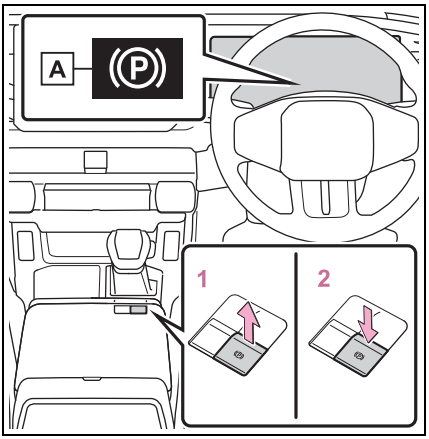
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。
オートモードのときは、パーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

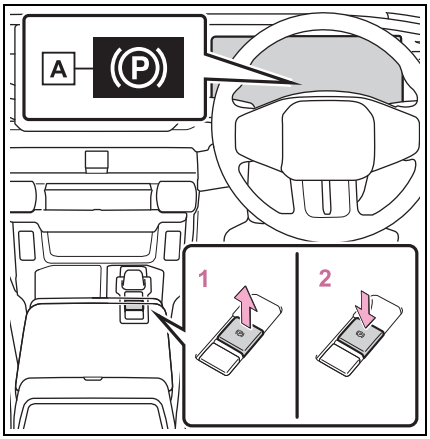
手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車



A パーキングブレーキ表示灯

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・ パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.189)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.483)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイ

にメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。
(→P.188)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

知識

■パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトポジションが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合、手動で解除してください。

オートモードではシフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ハイブリッドシステムオフ時パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ハイブリッドシステムを OFF したとき
- オートモード ON のとき
- ブレーキ警告灯（黄色）が消灯している

■降車時パーキングブレーキ自動作動機能について

次の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

●ブレーキを踏んでいない

●運転席のドアが開いている

●運転席のシートベルトを装着していない

●エンジン警告灯やブレーキ警告灯（黄色）が消灯している。

■自走式洗車機を利用するなどパーキングブレーキを自動で作動させずに、シフトポジション N で車から降りたいときは

次の操作を行うと、降車時パーキングブレーキ自動作動機能を停止することができます。

▶エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車

1 停車する

2 ブレーキホールドシステムを OFF にする

→P.193

3 ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける（オートモードを OFF にする）

4 シフトレバーを N にする

5 ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける

パーキングブレーキ表示灯が点滅します。

次の条件のいずれかを満たしたとき、オートモードが ON に戻ります。

パーキングブレーキ表示灯が点灯または消灯します

●シフトレバーを N 以外にしたとき

●パーキングブレーキスイッチを引いたとき

●ハイブリッドシステムを停止し、再始動したとき

▶エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

→P.186

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点

灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.163

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” が表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯（黄色）が点灯したときは

→P.478

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.389

⚠ 警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■駐車するとき

車から離れるときは、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてください。
車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。（→P.514）

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車

シフトレバーがD・S・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはSのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

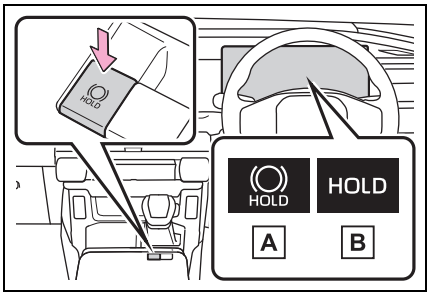
シフトポジションがD・B・NまたはPでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDまたはBのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

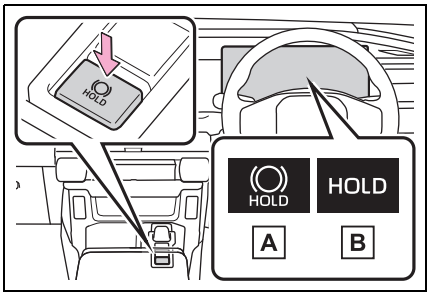
スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯A（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯B（黄）が点灯します。

▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車



▶ エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB 動作が途中で停止しました” や “EPB 故障 販売店で点検してください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯しブレーキを保持できません。ブレーキ保持中に、運転席ドアが閉まっていないことや運転席シートベルトを着用していないことを

検出した場合は、警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

●パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。
（→P.188）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BrakeHold 故障 販売店で 点検してください” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールドシステムと他制御を同時に作動させた場合

次のいずれかのときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● “BrakeHold 作動不可”
・ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動中に、ブレーキホールドスイッチを押した場合

● “BrakeHold 現在使用できません”
・ブレーキホールドシステムが作動中に、DAC スイッチを操作した場合

ブレーキホールドシステムは、ダウンヒルアシストコントロールシステムと同時に作動させることができません。

ブレーキペダルを踏んだ状態でブレーキホールドスイッチを押し、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.483

⚠警告

■次のようなときは、ブレーキホールドシステムを OFF にしてください

- 急坂路
- すべりやすい路面
- 自動洗車機を使用するとき
- けん引されるとき

⚠注意

■駐車するとき

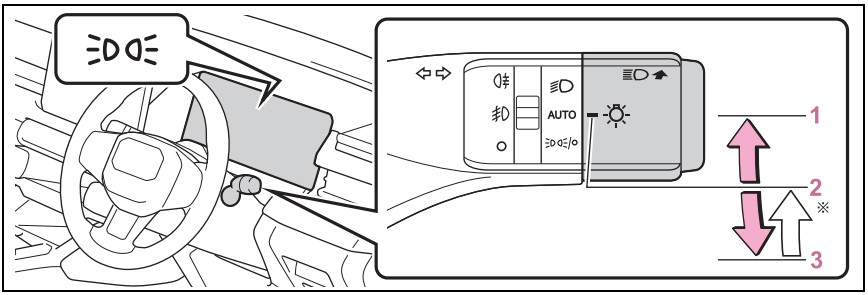
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO	デイタイムランニングランプ（→P.196）が点灯 ※2	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※3

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1 3 の状態に切りかえるには、 スイッチを下にまわした状態で約 1 秒保持してから、手を離します。約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は 2AUTOのまま変化しません。

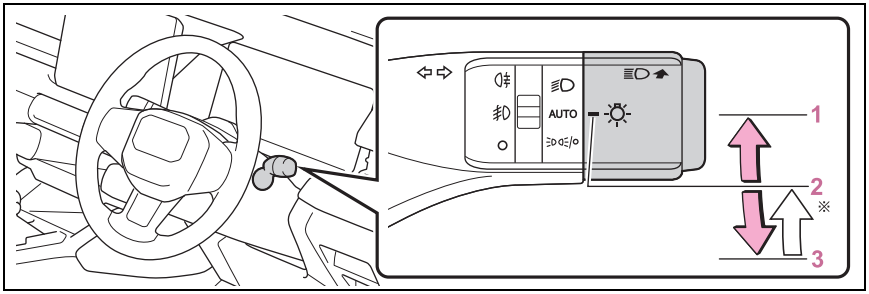
※2 周囲の明るさに従って、尾灯・番号灯・インストルメントパネルのランプが自動的に点灯・消灯します。

※3 停車中から低車速での走行中にのみ、点灯します。ただし、一定の車速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、2AUTOでの点灯状態にもどります。

消灯のしかた

スイッチを 3 の位置で 2 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTO の位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3	ヘッドランプ・スモールランプ・デイタイムランニングランプ（→P.196）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ シフトポジションが P にある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。シフトポジションを P 以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

知識

■AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■デイタイムランニングランプ

日中での走行時、自車が他の運転者から見えやすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、ランプスイッチがAUTOの状態でパーキングブレーキを解除すると、デイタイムランニングランプが自動で点灯します。

●日中は車幅灯がデイタイムランニングランプとして機能します。（車幅灯より明るく点灯します）

●デイタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

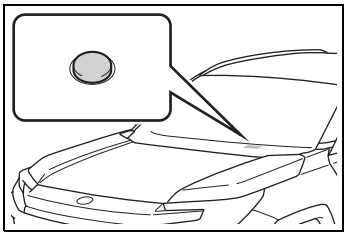
■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウイ

ンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてからの位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で、パワースイッチを OFF にしてから運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 10 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

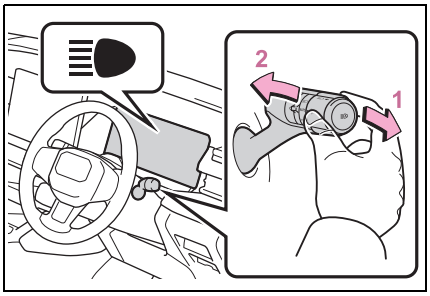
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビーム

に切りかえ

手を離すとレバーがもとの位置にもどります。ロービームにもどしたいときは、レバーを手前に引いて手を離します。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

ハイビームの点灯中にパッシングしたいときは、レバーを 2 回連続で手前に引きます。

アダプティブハイ ビームシステム（AHS）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

システムの制御

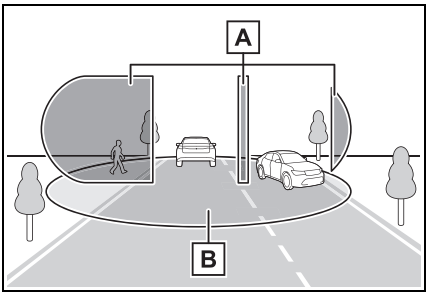
- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。（スイブル機能）※

※ マルチインフォメーションディスプレイで設定変更が必要です。

- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前

方視界の確保を補助します。

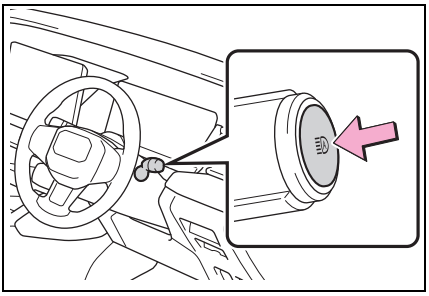


A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

アダプティブハイビームシステムを使うには

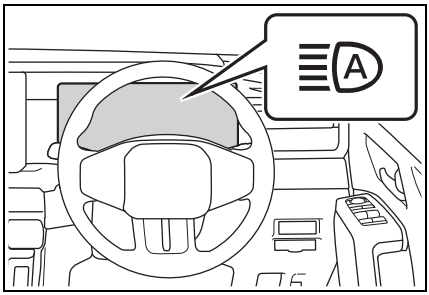
1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは

にする

レバーがもとの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが ON になり、AHS 表示灯が点灯します。



表示灯とシステムの作動状況

アダプティブハイビームシステムの作動状態を示しています。

表示灯	状態
白色	アダプティブハイビームシステムがスタンバイ中
緑色	ロービームで作動中
緑色	ハイビームで作動中
緑色	遮光ハイビームで作動中

知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・ 車速が約 15km/h 以上
・ 車両前方が暗い

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
・ 車速が約 15km/h 以上

・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 12km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームによるスイブル機能が作動します。
・AHS でハイビームを作動中
・スイブル機能が ON のとき
・車速が約 30 ～ 100km/h のとき

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・前方車両が横や斜めを向いているとき
・前方車両の周辺に自発光する光源や反射物が複数存在するとき
・センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両との相対速度や自車両の速度
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.217
・センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することがで

きます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

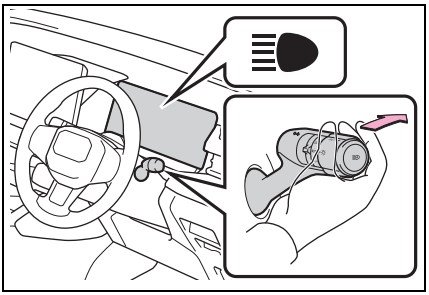
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、レバーを手前に引き、もとの位置にもどします。

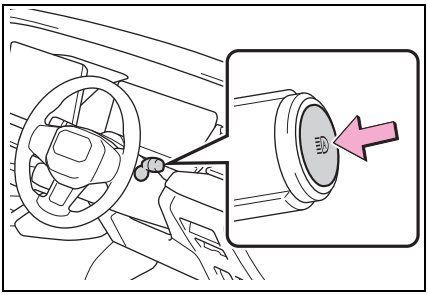


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

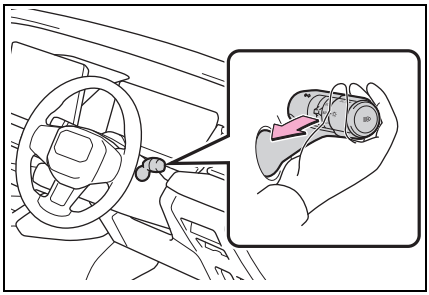


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



オートマチックハ イビーム（AHB）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

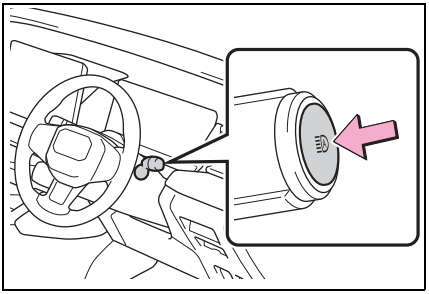
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

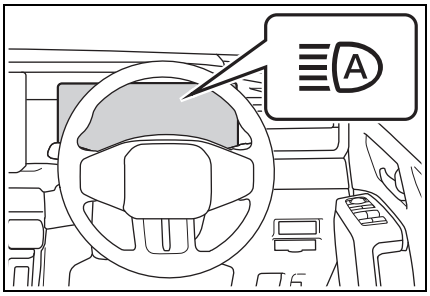
オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチをAUTOまたは にする

レバーがもとの位置にあるとき、オートマチックハイビームが ON になり、AHB 表示灯が点灯します。



表示灯とシステムの作動状況

オートマチックハイビームの作動状態を示しています。

表示灯	状態
白色	オートマチックハイビームがスタンバイ中
緑色	ロービームで作動中
緑色	ハイビームで作動中

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方にランプを点灯した車両がいる
・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・車両が割り込んできたとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が遠方を走行しているとき
・前方車両が無灯火のとき
・前方車両のランプ類の照度が低いとき
・前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
・前方車両が横や斜めを向いているとき
・前方車両の周辺に自発光する光源や反射物が複数存在するとき
・センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両との車間距離
・前方車両との相対速度や自車両の速度
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
・システムを OFF にする必要があるとき：→P.217
・センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223

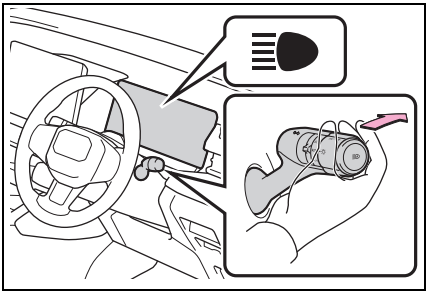
手動制御に切りかえるには

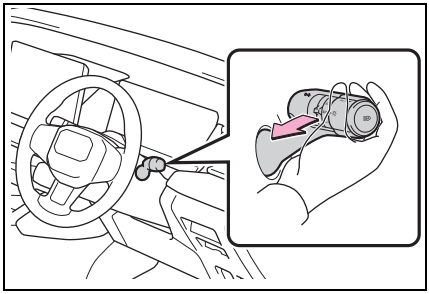
■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーを手前に引き、もとの位置にもどします。



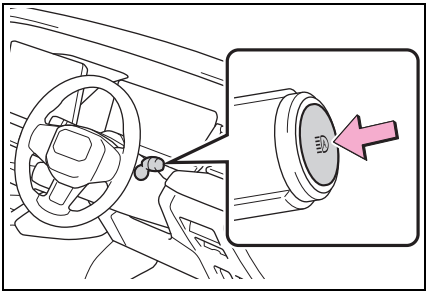


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

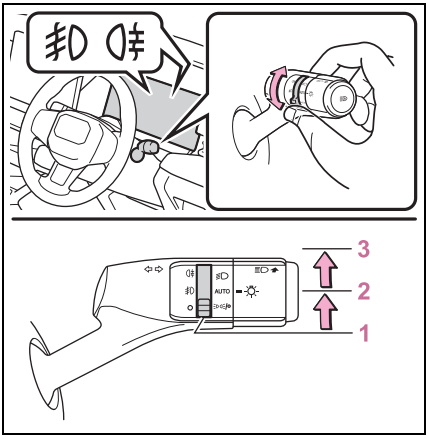
レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

操作のしかた



1 O 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー&ウォッシャー（フロント）

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

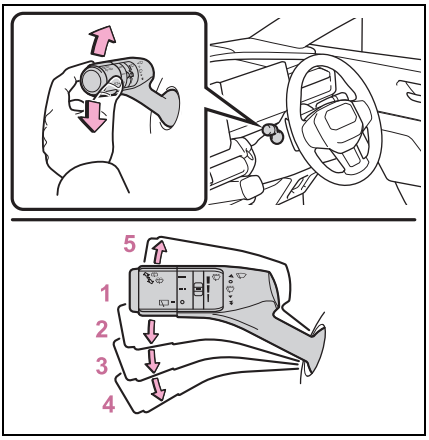
■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

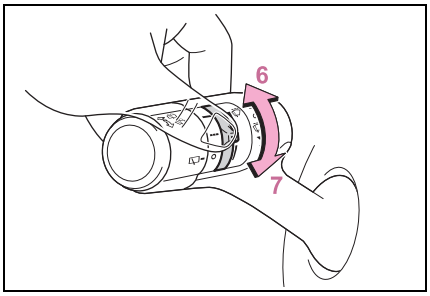
次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調整式ワイパー

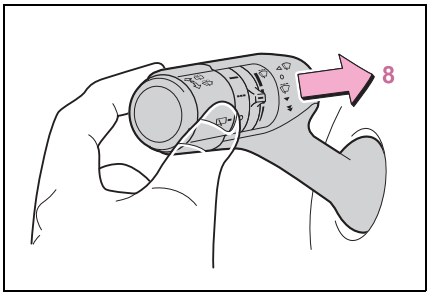


1 O 停止
2 間欠作動（INT）
3 低速作動（LO）
4 高速作動（HI）
5 一時作動（MIST）

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



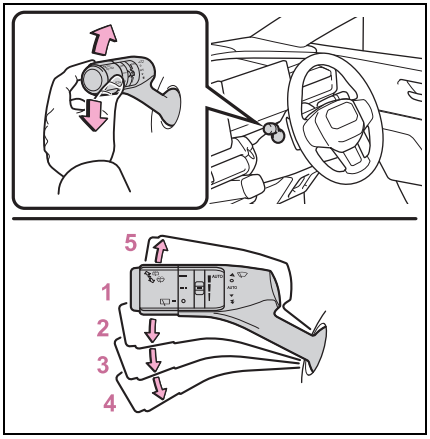
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）
7 間欠ワイパーの作動頻度（減）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

▶ 雨滴感知式ワイパー



1 停止

2 AUTO AUTO モード（AUTO）

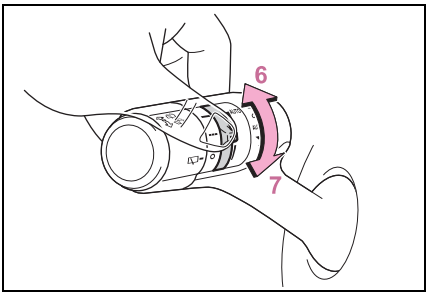
3 低速作動（LO）

4 高速作動（HI）

5 一時作動（MIST）

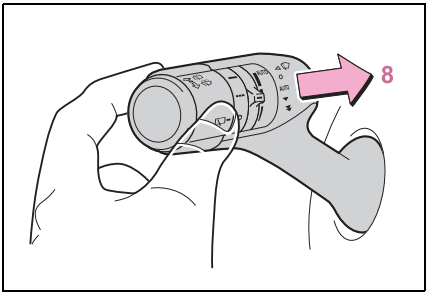
AUTO モードを選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

AUTO モードが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■車速による作動への影響

▶間欠時間調整式ワイパー装着車

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（間欠ワイパーの作動頻度が最大に調整されているときは、低速作動を続けます）

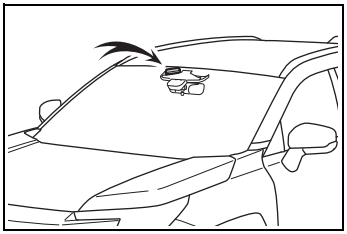
▶雨滴感知式ワイパー装着車

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モード中、かつセンサーが雨滴を検知したとき、雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が85 ℃以上ま

たは－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

⚠警告

■AUTO モード時のワイパー作動について（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

フロントウインドウガラスに撥水コーティングを行うと雨滴感知センサーが雨滴量を正確に感知できず、オート作動が正常に作動しないことがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

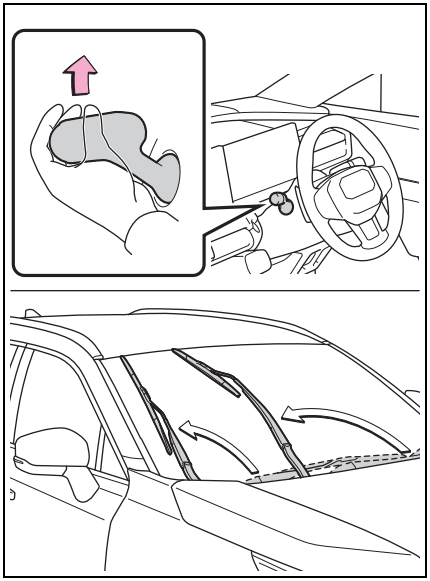
ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

■ サービスポジションへ切りかえる

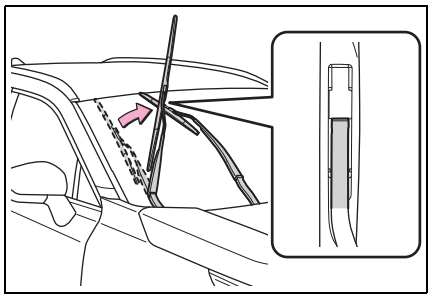
パワースイッチを OFF にしたあと約 45 秒以内に、ワイパースイッチを ⏢ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部を持ってガラス面から引き上げる



知識

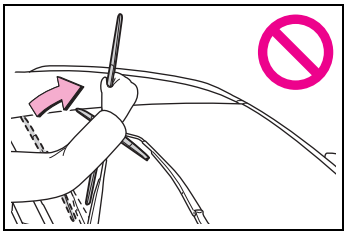
■ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。

注意

■ワイパーを立てるときは

●ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



●ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

レバー操作でリヤワイパーやウォッシャーを作動させることができます。

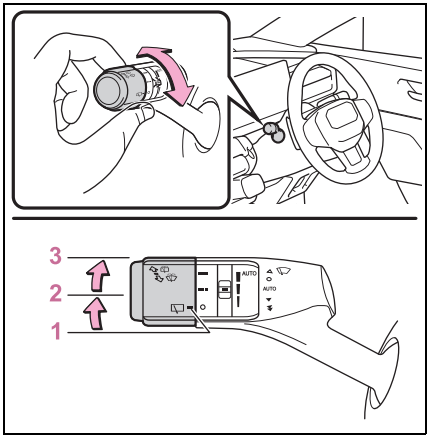
注意

■リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

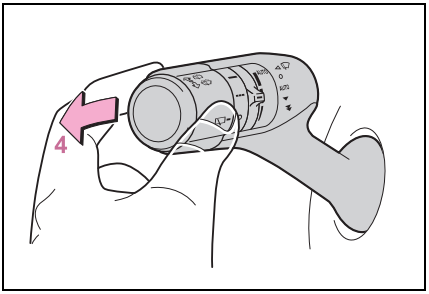
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



1 O 停止

2 ---間欠作動

3 ——通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。

■リバース連動機能

フロントワイパー作動中、かつリヤワイパーを作動させていないとき、シフトポジションを R の位置にすると、リヤワイパーが自動で 1 回作動します。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類について

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

⚠警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。
除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

●エンジンの始動性が悪くなる

●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する

●エンジン出力が低下する

●排気制御システムが正常に機能しない

●燃料系部品が損傷する

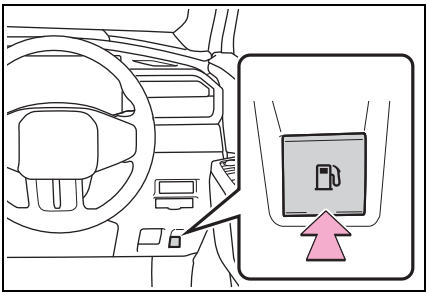
⚠注意

●塗装が損傷する

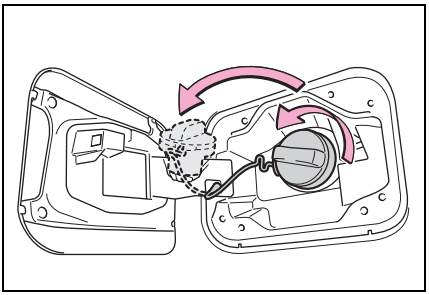
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

給油口を開けるには

1 給油扉オープナースイッチを押して、給油扉を開ける



2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



知識

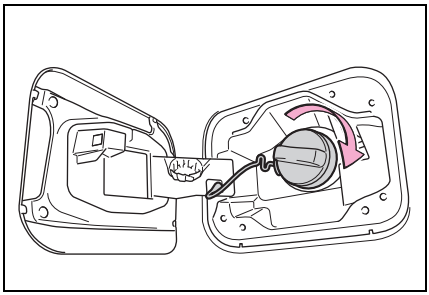
■給油扉が開かないとき

→P.511

給油口を閉めるには

キャップを “カチッ” と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠警告

■キャップが正常に閉まらないとき

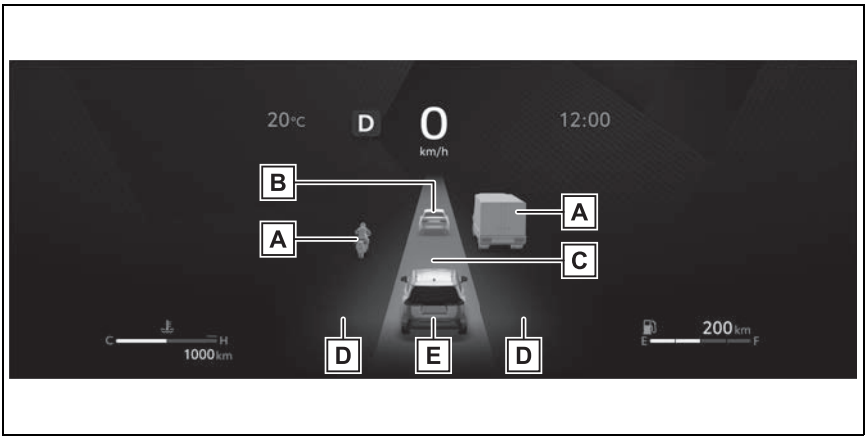
必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転支援システム情報

マルチインフォメーションディスプレイ（→P.80）に自車線・隣接する車線の状況や自車の動き、一部のシステムの作動状況を表示します。

運転支援システム情報表示について

■ 運転支援システム情報表示画面



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 周辺車

B 先行車

C 自車線

D 隣接する車線

E 自車

■ 表示されるシステム

次のシステムの作動状況が表示されます。

表示内容は各システムの項目を参照してください。

● レーントレーシングアシスト（LTA）

→P.238

● レーンチェンジアシスト（LCA）★

→P.242

● レーンディパーチャーアラート（LDA）

→P.246

● プロアクティブドライビングアシスト（PDA）

→P.253

● レーダークルーズコントロール

→P.263

● アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★

→P.280

● ブラインドスポットモニター（BSM）

→P.290

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■周辺状況の表示について

車速が低いときや周辺の状況によっては、隣接する車線の情報が表示されない場合があります。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●周辺のすべての車両・状況がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるわけではありません。ディスプレイの情報を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

システムの停止および機能制限について

次の操作や状況により一部のシステムを停止、または機能の一部を制限する場合があります。マルチインフォメーションディスプレイに “一部の機能停止” または “一部の機能制限” が表示されます。

アイコンを記載しているシステムについては、メッセージと一緒にアイコンが表示されます。

操作や状況	停止するシステム	機能の一部を制限するシステム
プリクラッシュセーフティ（PCS）を OFF にした（→P.237）	・プロアクティブドライビングアシスト（PDA）（→P.253） ・ドライバー異常時対応システム（→P.277）	・レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246）
VSC（ビークルスタビリティコントロール）が OFF（→P.380）	・レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246） ・プロアクティブドライビングアシスト（PDA）（→P.253） ・ドライバー異常時対応システム（→P.277） ・急加速抑制（→P.338）	・プリクラッシュセーフティ（PCS）（→P.228）
TRC（トラクションコントロール）が OFF（→P.380）	・プロアクティブドライビングアシスト（PDA）（→P.253）	・レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246）
ドライバーモニターカメラ★が OFF（→P.228）	—	・レーントレーシングアシスト（LTA）（→P.238） ・レーダークルーズコントロール（→P.263）
ドアミラーが格納されている（→P.147）	・パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）★（→P.331） ・クリアランスソナー（巻き込み警報機能）★（→P.317） ・パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）（→P.335） ・リヤクロストラフィックアラート（RCTA）（→P.319）	—

操作や状況	停止するシステム	機能の一部を制限するシステム
バックドアが開いている（→P.111）	・リヤカメラディテクション（RCD）（→P.324） ・パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）（→P.336）	—
次のいずれかの操作をした マルチテレインセレクトがON（→P.375） ダウンヒルアシストコントロールシステムがON（→P.377）	・プロアクティブドライビングアシスト（PDA）（→P.253） ・急加速抑制（→P.338）	・レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246）
ドア（フロントドア・リヤドア）が開いている（→P.105）	・パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）★（→P.331） ・クリアランスソナー（巻き込み警報機能）★（→P.317）	—
シートベルトが外れている（→P.31）	・プロアクティブドライビングアシスト（PDA）（→P.253）	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。

対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 走行操作に関して注意が必要なときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従い、周囲の状況に応じて適切な操作を行ってください。
- システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。(→P.485)
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引するとき
- けん引されるとき
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき

⚠ 警告

- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき
- トレーラーをけん引する場合に、凍った路面や濡れた路面などの滑りやすい路面を走行しているとき

運転支援装置

■ アダプティブハイビームシステム（AHS）★

→P.198

■ オートマチックハイビーム（AHB）

→P.202

■ プリクラッシュセーフティ（PCS）

→P.228

■ レーントレーシングアシスト（LTA）

→P.238

■ レーンディパーチャーアラート（LDA）

→P.246

■ レーンチェンジアシスト（LCA）★

→P.242

■ フロントクロストラフィックアラート（FCTA）★

→P.257

■ プロアクティブドライビングアシスト（PDA）

→P.253

■ 発進遅れ告知機能

→P.259

■ ロードサインアシスト（RSA）

→P.260

■ レーダークルーズコントロール

→P.263

■ クルーズコントロール

→P.274

■ ドライバー異常時対応システム

→P.277

■ ドライバーモニター★

→P.226

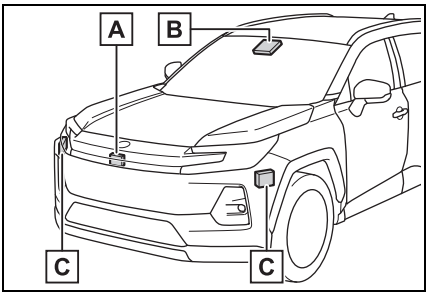
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

▶ フロント



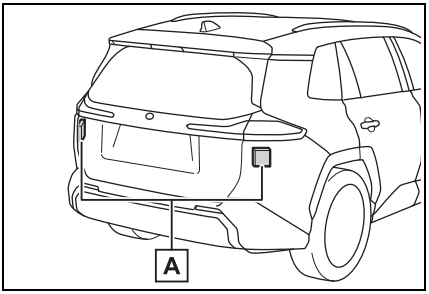
A 前方レーダー

B 前方カメラ

C 前側方レーダー★

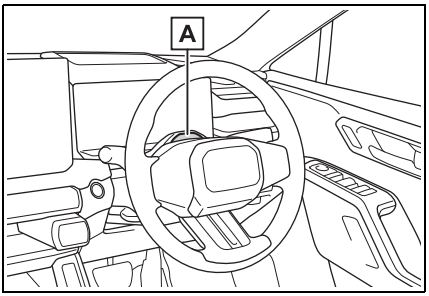
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤ



A 後側方レーダー

■ 運転者の状態を検出するセンサー



A ドライバーモニターカメラ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

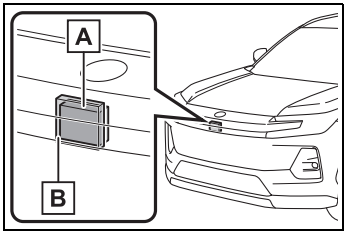
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

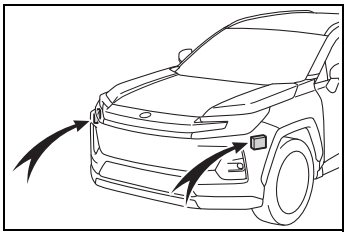


A レーダー

B レーダー専用カバー

警告

●前側方レーダー装着車：前側方レーダー周辺のフロントバンパーは常にきれいにしておく



●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダーの電波を妨害するような用品（ブルバー、ナンバープレートカバー、グリルバッチなど）やナンバープレートを装着しない

●レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパー／リアバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・ レーダーを脱着や交換したとき

・ フロントバンパー／リアバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ヒーター機能付レーダー専用カバーについて

レーダー専用カバーに雪が堆積する可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターが自動的に作動します。お手入れなどでレーダー専用カバー周辺にふれるときは、十分に冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

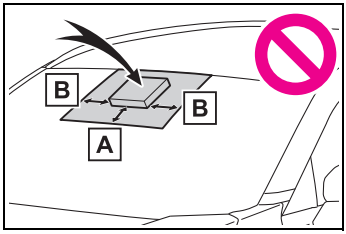
・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇る可能性があるとシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウインドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠警告

■ドライバーモニターカメラ★の取り扱いについて

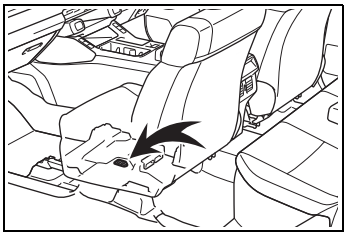
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、ドライバーモニターカメラの故障や誤作動によりシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に強い衝撃を与えない
  強い衝撃を受けると、ドライバーモニターカメラの位置や向きがずれ、運転者を正しく検知できなくなるおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ドライバーモニターカメラを分解・改造しない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- ドライバーモニターカメラおよびその周辺に液体をかけない
- ドライバーモニターカメラの前にものを置いたり、覆ったりしない
- ドライバーモニターカメラのレンズを傷付けない
- ドライバーモニターカメラのレンズをさわったり、汚したりしない
  レンズに指紋や汚れが付着した場合は、レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布でふき取ってください。
- お手入れする際は、樹脂を腐食させるような洗剤・有機溶剤を使用しない

■TSS 制御ユニット冷却用の吸入口について

次のことをお守りください。お守りいただかないと TSS 制御ユニットが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な障害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 吸入口をふさがないでください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

コネクティッドナビ（ディスプレイオーディオ）装着車では以下の機能を継続して利用するためには、T-Connect 利用契約の更新が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- レーンチェンジアシスト（LCA）★

→P.242

- レーダークルーズコントロール：再発進可能時間延長★

→P.264

- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★

→P.280

- ドライバー異常時対応システム：路肩に寄せて停車する機能★

→P.277

★：グレード、オプションなどにより、装

備の有無があります。

■センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

●車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき

●フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき

●外気温が高温または低温のとき

●センサー前面に泥／雨滴／雪／氷／虫／ゴミなどが付着したとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）

●前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき

●夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき

●ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき

●ヘッドランプの光軸がずれているとき

●ヘッドランプが故障しているとき

●対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

●急激な明るさの変化があるとき

●テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

●ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき

●トラス橋など鉄骨部分が多い場所を走行中のとき

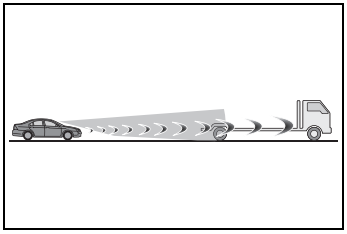
●周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
・トンネル
・砂利道
・轍のある雪道
・壁
・大型トラック
・マンホール
・ガードレール
・鉄板

●周囲に段差や突起物があるとき

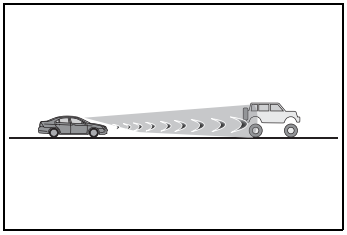
●超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき

●空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

●低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



●対象車両の最低地上高が極端に高いとき



●対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき

●対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき

●トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき

●対象車両との車間距離が極端に短くなったとき

●対象車両の位置がずれているとき

●対象車両に雪や泥などが付着しているとき

●次のような道路を走行しているとき
・急なカーブや曲がりくねった道
・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
・左右に傾きのある道
・路面に深いわだちがある道
・整備されていない荒れた道
・起伏や段差が多い道路

●ハンドル操作が不安定なとき

●車線内での自車の位置が一定でないとき

●本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど

●ホイールアライメントがずれているとき

●凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行するとき

●カーブに対して進入速度が過度に高いとき

●駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき

●駐車場内を走行するとき

●生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

●風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

●車線の幅が極端に狭い、または広いとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

●工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき

●周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき

●同一車線上に複数の白線があるとき

●車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき

●車線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

●本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出しているとき

●VSC、TRC 等の安全システムが作動しているとき

●VSC、TRC 等の安全システムが OFF のとき

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

●ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

●システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ドライバーモニターカメラ★が正常に作動しないおそれがある状況

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次のような状況のとき、ドライバーモニターカメラは運転者の顔を検知できず、機能が正常に作動しないおそれがあります。

●炎天下での駐車後など、車内が高温のとき

●強い光（太陽光や後続車のヘッドラン

プ光など）がドライバーモニターカメラにあたっているとき

●周囲の構造物の影響などで、車内の明るさがひんぱんに変化するとき

●強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が運転者の顔にあたっているとき

●眼鏡・サングラスのレンズに車内や車外からの光が映り込んでいるとき

●助手席や後席の乗員が身を乗り出すなど、ドライバーモニターカメラの検知範囲に複数の顔があるとき

●前に身を乗り出したり、窓から顔を出したりするなど、顔がドライバーモニターカメラの検知範囲から外れているとき

●ハンドルやハンドルを握る手・腕などでドライバーモニターカメラが隠れたとき

●帽子を被っているとき

●眼帯を着用しているとき

●赤外線を通しにくい眼鏡やサングラスをかけているとき

●コンタクトレンズをつけているとき

●マスクを着用しているとき

●笑ったり、眼を細めたりしているとき

●眼・鼻・口や、顔の輪郭が隠れているとき

●眼・鼻・口・顔の輪郭が判定できなくなるような化粧をしているとき

●眼鏡・サングラスのフレームや髪などで眼が隠れているとき

●車内に近赤外線光源を搭載した機器（市販のドライバーモニタリングシステムなど）があるとき

■ソフトウェアアップデート

●T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更ができます。

●ご使用前に必ずシステムの更新内容をお読みください。

●ソフトウェアアップデートのアクティベート中は一部機能の使用が制限されます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

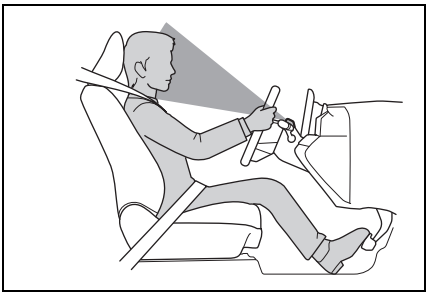
ドライバーモニター

ドライバーモニターカメラを用いる機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の位置・向きや眼の開閉状態等を検知し、運転者が周囲の状況を確認し運転操作できる状態であるかシステムが判断します。

正常に作動するためには、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を撮影する必要があります。ハンドルやシートの位置が高すぎたり、低すぎたりするとドライバーモニターカメラが運転者の顔を一部撮影できず、運転支援システムが一部作動できなかったり、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行ったりすることがあります。



■ 注意喚起機能

次のようなとき、ブザーとディスプレイ表示で注意喚起を行うことがあります。

- 運転者が脇見している／眼を閉じているとシステムが判断したとき
- 運転者の顔が検知できない／姿勢が崩れているとシステムが判断したとき
- 運転者に眠気の兆候があるとシステムが判断したとき

ハンドル／シートの位置が高すぎたり低すぎたりする場合、ドライバーモニターカメラが運転者の顔全体を認識できず、注意喚起を行うことがあります。メーター全体が見える運転姿勢になるようにハンドル／シートの位置を調整してください。

運転姿勢を調整しても注意喚起が継続するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 顔認証システム

マイセッティングの一機能として、ドライバーモニターカメラは顔認証システムのデバイスとして使われます。（→P.159）

■ アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★

（→P.280）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ その他の運転支援装置との連携

次の運転支援装置の一部の機能は、ドライバーモニターカメラにより検知された運転者の状態に応じて制御されます。

- プリクラッシュセーフティ（PCS）

→P.237

- レーンディパーチャーアラート（LDA）

→P.247

● レーダークルーズコントロール（アドバンスト ドライブ［渋滞時支援］装着車）

→P.268

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●注意喚起機能は運転者の不注意行動や姿勢崩れを未然に防ぐものではありません。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●注意喚起機能は運転者の眠気を解消するものではありません。集中力の低下や眠気を感じたら、適度に休憩や仮眠を取り、安全運転に努めてください。

知識

■注意喚起機能

車速が低いときは作動しないことがあります。

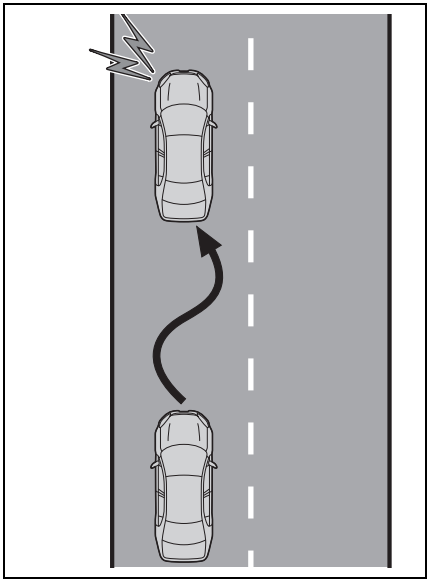
運転者の顔が検知できない場合は、ドライバーモニター表示灯が点灯します。

■ドライバーモニターカメラが正常に作動しないおそれがある状況

→P.224

休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



知識

■休憩提案機能について



次の条件を満たしたとき作動します。

●車速が約 50km/h 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。

■その他の運転支援装置との連携

次の運転支援装置の一部の機能は、休憩提案機能により検知された車両の状態に応じて制御されます。

プリクラッシュセーフティ（PCS）（→P.237）

ドライバーモニターの設定を変更する

ドライバーモニターの設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。(→P.531)

ドライバーモニターカメラ設定がOFFの場合、カメラでの撮影が停止し、ドライバーモニターカメラを用いる機能(→P.226)が停止します。

注意喚起感度設定がOFFの場合、注意喚起機能(→P.226)が停止し、ドライバーモニターOFF表示灯が点灯します。ただし、他機能の動作のためのカメラでの撮影は継続します。

プラスサポートを使用する場合のカスタマイズ設定は以下の通りです。

● 初回プラスサポート用スマートキー(サポキー)でロックを解除した場合

・ドライバーモニターカメラ:ON

・注意喚起感度:高い

● 2回目以降にプラスサポート用スマートキー(サポキー)でロックを解除した場合前回サポキー使用時の設定を引き継ぎ再生します。

プリクラッシュセーフティ(PCS)

進路上の作動対象(→P.229)をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

⚠ 警告

・ 安全にお使いいただくために：
→P.217

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

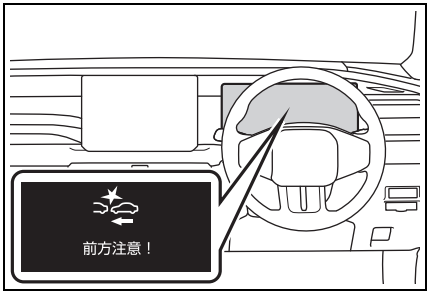
※ 人が乗車している状態を作動対象としています。

機能一覧

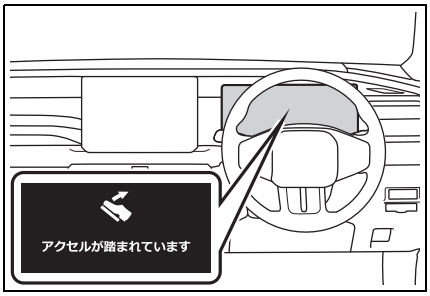
■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



パノラミックビューモニターにもメッセージが表示されます。※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ **緊急時操舵支援**

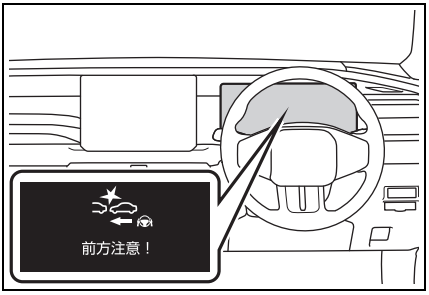
システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すアイコンがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

アクティブ操舵機能装着車：運転者の回避操舵にかかわらず、ブレーキとハンドルの制御を行い、衝突回避の支援や衝突被害の軽減に寄与します。

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

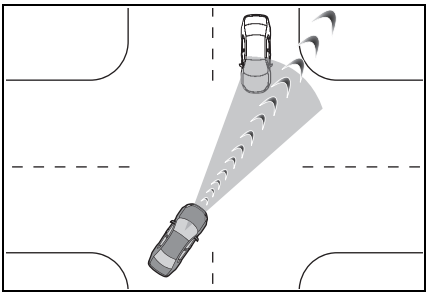


■ **交差点衝突回避支援（右左折）**

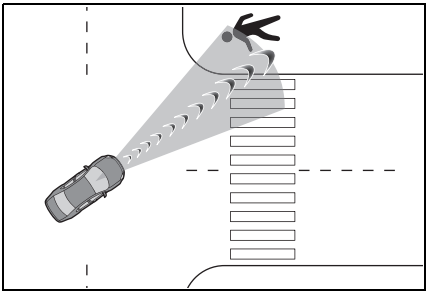
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき



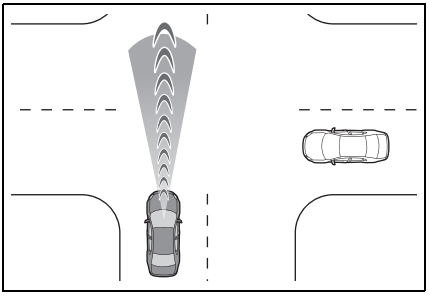
- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ **交差点衝突回避支援（出合頭車両）**

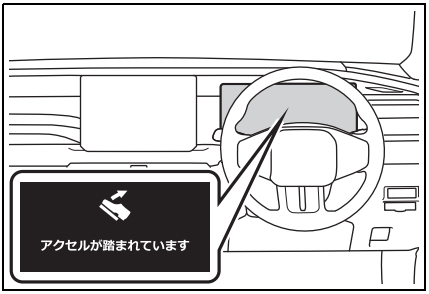
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示します。



パノラミックビューモニターにもメッセージが表示されます。

別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

⚠ 警告

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

⚠ 警告

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯中に、カーブの走行や右左折をしているとき（衝突警報は作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 90km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 90km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 90km/h

作動対象	自車速度	相対速度
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 90km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 90km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 90km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

VSC OFF 表示灯が点灯しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	アクティブ操舵機能★：※ ～ 80km/h	アクティブ操舵機能★：※ ～ 80km/h

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 下限速度：プリクラッシュブレーキでは回避が困難な速度

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しませ

ん。

作動対象	自車速度	対向車速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 10 ～ 75km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—
自転車	約 5 ～ 30km/h	—
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 10 ～ 75km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

▶前側方レーダー非装着車

作動対象	自車速度	相手車速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 80km/h	・自車速度以下 ・約 70km/h 以下

自車速度が約 70km/h 以上のときは、相手車速度が約 70km/h 以下の場合しか作動しません。

相手車速度が自車速度以下の場合しか作動しません。

▶前側方レーダー装着車

作動対象	自車速度	相手車速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 80km/h	約 80km/h 以下

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

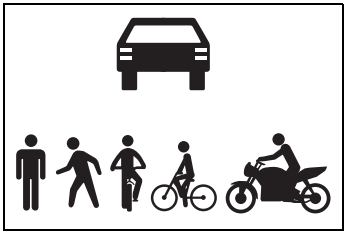
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・アクセルペダルを離す

・ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■作動対象の検出

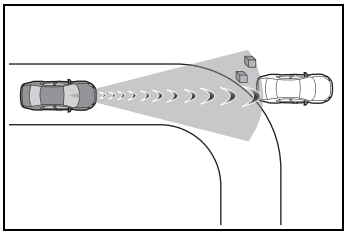
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



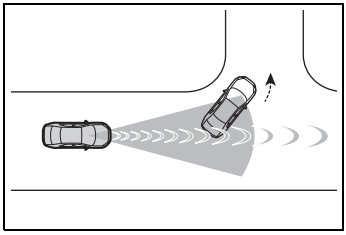
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

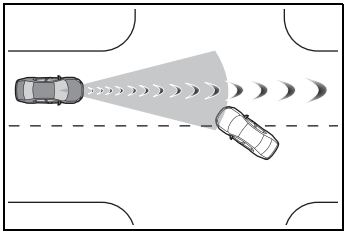
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール／電柱／木／壁など）に近付いたとき
・カーブ入り口／出口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



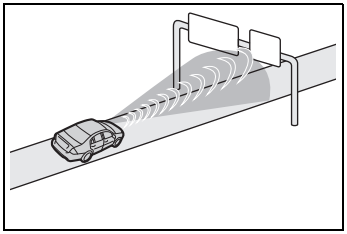
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



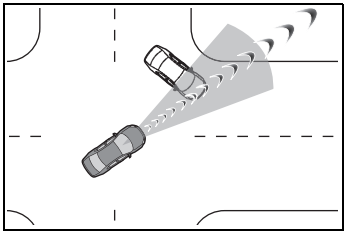
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

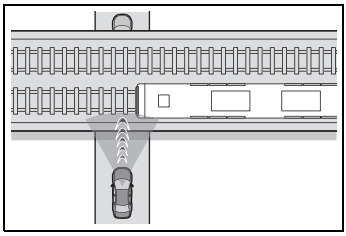


・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
・右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
・交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

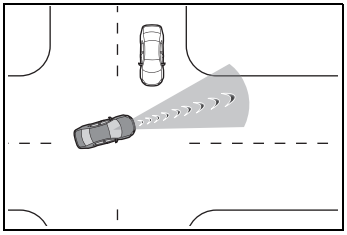
・道路上方／下方を移動するものがあるとき



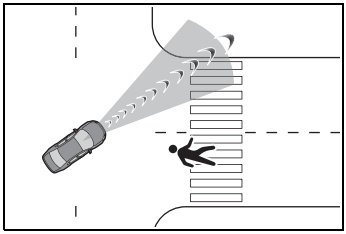
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・斜めを向いている前方車両に近付いたとき
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも 3 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



・右左折中に、横断歩行者／横断自転車が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



・交差点で出会い頭に大型トラック／けん引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
・交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
・交差車両が自車から遠方を交差するとき
・自車と交差車両の間に障害物があるとき
・複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・作動対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
・ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
・壁が傾いていたり、高さが低いとき
・壁がポールなど幅の狭いもののとき
・壁が生垣など草木のとき
・壁に路面などが映りこんでいるとき
・自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

● PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

● システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● ドライバーモニターカメラ装着車：運転者が脇見をしている／眠気の兆候がある等とシステムが判断した場合は、衝突警報が通常より早いタイミングで作動します。

レーントレーシングアシスト（LTA）

LTA の機能

● 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

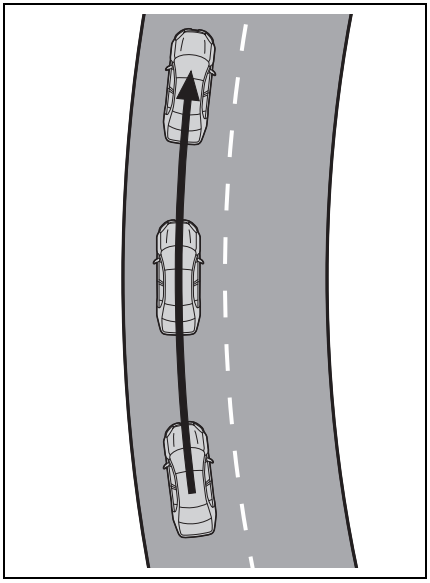
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

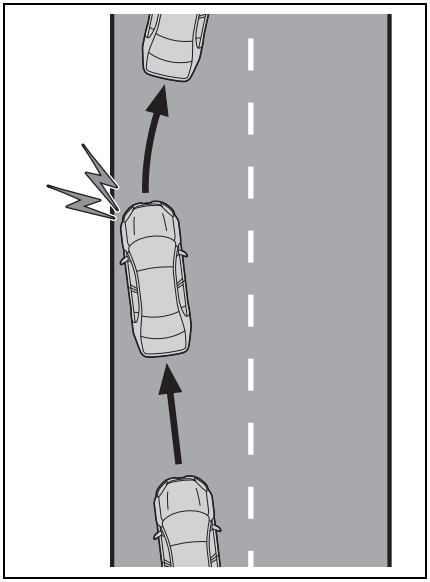
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかり握り直してください。



● 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

●システムが車線を認識しているとき、または先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき

●レーダークルーズコントロールが作動しているとき

●車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●急カーブを走行していないとき

●一定以上の加減速がないとき

●一定以上の操舵力でハンドルを操作していないとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.239）が行われていないとき

●車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

●機能の作動条件（→P.239）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■手放し運転に対する注意喚起について

●手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを操作しない状態が続くと、機能が一時的に解除されます。



●システムがハンドルの操作を検出すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●ドライバーモニターカメラ装着車：ドライバーモニターカメラ設定（→P.228）が ON のとき、運転者の状態に応じて、注意喚起のタイミングが変化します。

■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が正常に作動しないおそれがあります。

●LCA 装着車：次の状況では、手放しをしていても注意喚起が作動しないことがあります。

・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに物や腕等を広い範囲で近づけるとき

●次の状況では、ハンドル操作を正しく検知できず、注意喚起が作動することがあります。

・ハンドルに手を軽く添えて運転しているとき
・ハンドルにカバーを取り付けたとき※
・運転者が手袋をしているとき※
・ハンドルに異物が付着しているとき※
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき※

※LCA 装着車

■LTA 中の車線逸脱に対する注意喚起警報について

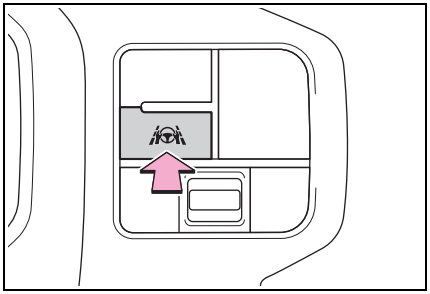
●LDA の設定に関わらず、LTA 作動中は車線逸脱時に警報を実施します。

●車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も実施しません。

システムの ON ／ OFF を変更する

LTA の ON ／ OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。

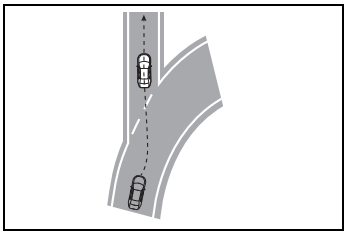


警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車／周辺車が車線変更／進路変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更／進路変更するおそれがあります）



●先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

⚠ 警告

- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 周囲に移動物、構造物があるとき（移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります）
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.224

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	状態
		
白色	灰色	LTA がスタンバイ中
緑色	緑色	LTA が作動中

レーンチェンジアシスト（LCA）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

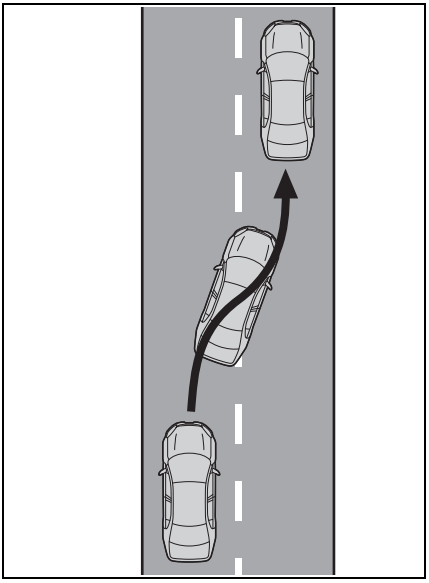
LCA の機能

LTA と連携し、車線変更に必要なハンドル操作を支援します。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

ステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

分岐・合流路での車線変更は作動の対象外です。



⚠ 警告

■LCA をお使いになる前に

●LCA を過信しないでください。

LCA は自動で運転する装置でも車線変更先の並走車や急な接近車両等への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

●LCA が作動途中で解除されたとき、自車両が車線を跨いだまま走行する場合があります。

運転者は自らの責任で適切に進路を修正する必要があります。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LCA を使用してはいけない状況

●高速道路や自動車専用道路でないとき

●車線変更してはいけない車線（対向車線、路肩、工事などで規制されている車線、歩行者や自転車の侵入の可能性がある車線等）のとき

●片側 1 車線の道路を走行しているとき

●自車の走行車線と、車線変更先の車線の間が白線の破線でないとき

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.224

●トレーラなどをけん引しているとき

●ヒッチキャリアなど、車両後方に積載物があるとき

⚠ 警告

■LCA が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.224

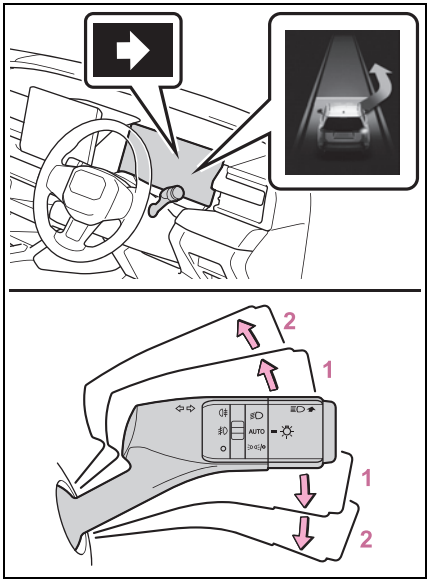
LCA の作動方法

車線変更を安全に行える道路状況であることを確認してください。

LCA インジケータが白色点灯しているときに、方向指示レバーを 1 段目の位置まで操作すると、車線変更方向の表示とともにシステムが作動します。

車線変更が完了すると、方向指示灯は自動で消灯し、再び LTA が作動します。

LCA を利用せず方向指示レバーを 1 段目の位置まで操作して車線変更する場合は LCA のカスタマイズ設定を OFF としてください。



1 1 段目：LCA 作動位置

2 2 段目：LCA 非作動位置

知識

■機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- カスタマイズメニューでレーンチェンジアシストを ON に設定しているとき
- レーダークルーズコントロールおよび LTA が作動しているとき
- LCA インジケータ（白色）が点灯しているとき
- 自車速度が約 60 ～ 140km/h のとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 手放し運転に対する注意喚起（→P.239）が行われていないとき
- ドライバーモニターによる注意喚起（→P.226）が行われていないとき

●システムが高速道路または自動車専用道路（一部を除く）と認識しているとき

●システムが車線変更する側の白線を破線と認識しているとき

●車線中央付近を走行しているとき

●急カーブを走行していないとき

●車線変更する先に車両や構造物が存在しないとき

●自車周辺に接近してくる車両が存在しないとき

●ハイブリッドシステム始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知しているとき

●コネクティッドナビ（車載ナビ非搭載）装着車：コネクティッドサービスのご利用契約中

●ナビゲーションシステムの地図データが正常に取得できているとき

■機能の解除

LCA は以下を含むさまざまな状況で解除されることがあります。その際に、ディスプレイの表示やブザーにより、機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

●作動条件が満たされなくなった場合（→P.243）

●システムが車線を認識できなくなったとき

●方向指示レバーを 2 段目の位置（→P.243）へ操作したとき

●方向指示レバーを車線変更をする方向とは逆方向に操作したとき

●運転者によるハンドルやブレーキの操作をシステムが検知したとき

●手放し運転に対する注意喚起（→P.244）が行われているとき

急な接近車両を検出した場合には、ブザー音、ディスプレイ表示で警報を行うとともに、小さな操舵力をハンドルに加えることで、接近車両へ近づかないよう支援を行う場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

●車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

●次の状況では、手放しを検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。
・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

●次の状況では、手放しをしていても手放し運転警告が作動せず、LCA が継続することがあります。
・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに物や腕等を広い範囲で近づ

けるとき

イズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

システムの ON ／ OFF を変更する

LCA の ON ／ OFF は、カスタマ

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

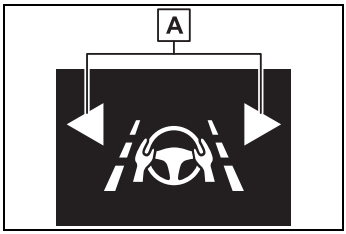
LCA の作動状態を示しています。

表示灯 	LCA 表示	状態
白色	表示なし	他の作動条件（→P.243）を満たせば LCA が作動できる状態
緑色	 緑色矢印／白色線	LCA が作動中
白色		LCA 作動中に自車に接近してくる車両を検知した

知識

■LCA 表示灯

LCA 表示灯は LTA 表示灯の横に表示されます。



A LCA 表示灯

レーンディパーチャーアラート（LDA）

車線または走路※から逸脱した場合、もしくは逸脱する可能性がある場合に、警報により注意をうながしたり、逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

道路または道路脇で歩行者などを検知した場合、車両が近づきすぎないようにハンドル操作の一部を支援したり、衝突の可能性を軽減するためにブレーキ操作の一部を支援します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- LDA は自動で運転するシステムでも事故を完全に防止するシステムでもなく、運転を補助するシステムです。
- システムに頼った運転をすると思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害に至るおそれがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 安全にお使いいただくために：→P.217

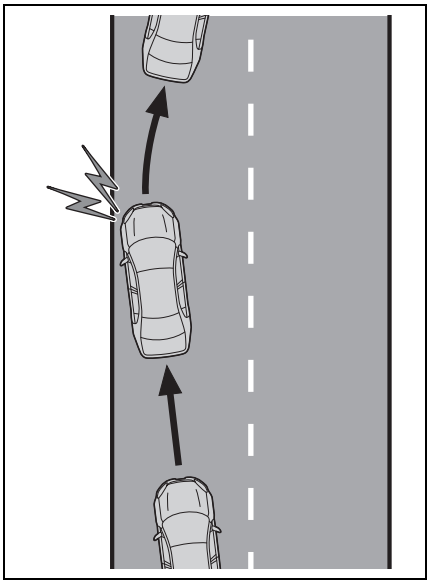
■LDA を OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

基本機能

■ 車線逸脱警報機能

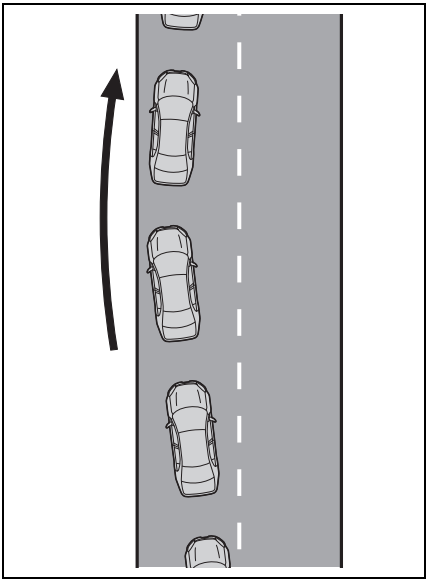
車両が車線または走路から逸脱した場合に、ディスプレイの表示に加えて、ハンドル振動またはブザー、またはハンドル振動＆ブザーにより注意をうながします。



■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いた場合は、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。



知識

■車線逸脱警報機能および車線逸脱抑制機能の作動条件

作動車速は次の通りです。

●車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動します。

ドライバーモニターカメラ装着車：運転者の注意力が低下しているとシステムが判断した場合は約 40km/h 以上のときに作動します。

対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。

次のような状況では、車線逸脱警報機能や車線逸脱抑制機能が作動しません。

●LDA が OFF のとき

●システムが車線または走路を認識していないとき（車線または走路が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）

●VSC を OFF にしているとき

●シフトポジションが R のとき

●プリクラッシュセーフティのブレーキ制御または操舵支援が作動しているとき

次のような状況では、作動車速を満たしていても車線逸脱警報機能や車線逸脱抑制機能が作動しないことがあります。

作動中に作動条件が満たされなくなった場合は、一時的に作動が解除されます。

●狭い車線または走路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●急ブレーキもしくは急加速をしているとき

●逸脱方向と同方向に方向指示灯が点滅しているとき

方向指示灯の点滅中でも、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合に、車線逸脱警報機能と車線逸脱抑制機能が作動します。

●一定以上の操舵力でハンドルを操作しているとき

●車両挙動が不安定なとき

●運転者が歩行者や駐車車両を回避するなど、意図的に車線または走路を逸脱するとシステムが判断したとき

■車線逸脱警報機能および車線逸脱抑制機能の作動について

●車線逸脱抑制機能よりも、運転者のハンドル操作が優先されます。

●ドライバーモニターカメラ装着車：運転者の状態に応じて、走路逸脱に対する車線逸脱警報機能や、車線逸脱抑制機能のタイミングが変化します。

●車速や路面の状態によっては、車線逸脱警報機能と車線逸脱抑制機能の作動が感じにくい場合があります。

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



●車線逸脱抑制機能による操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態だとシステムが判断したとき

・操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。

・操舵支援終了後にハンドルを操作したとシステムが判断しても、一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

⚠警告

■車線逸脱警報機能および車線逸脱抑制機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、機能が正しく作動せず車線または走路から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物が不明瞭または連続的でないとき

●横風や周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.224

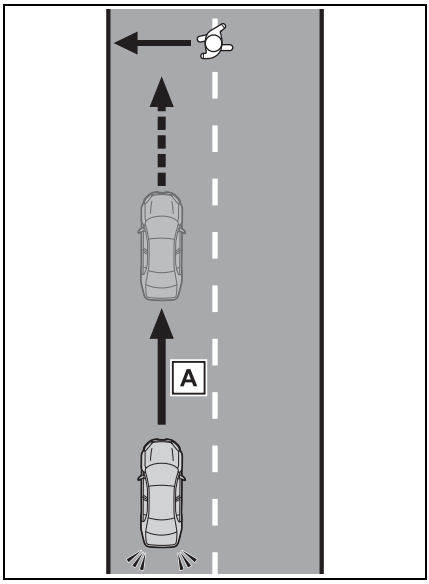
●周囲の状況を検出するセンサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.224

障害物先読みアシスト（OAA）

道路を横断中の歩行者など※を検知した場合に、ディスプレイの表示に加えて、衝突の可能性を軽減するためにブレーキ操作の一部を支援します。

※歩行者や自転車（人が乗車している状態を作動対象としています）



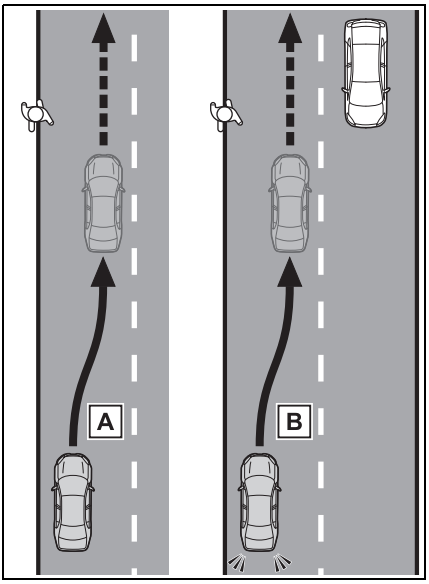
A 減速支援

● 道路脇の歩行者など※を検知した場合に、ディスプレイの表示に加えて、周囲の状況に応じて車両が近づきすぎないようにハンドル操作の一部を支援したり、衝突の可能性を軽減するために

ブレーキ操作の一部を支援します。

ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。

※ 歩行者や駐車車両や自転車（人が乗車している状態を作動対象としています）



A 操舵支援

B 減速 + 操舵支援

知識

■障害物先読みアシストの作動条件

作動速度は次の通りです。

●道路を横断する作動対象に対する支援は車速が約 30km/h ～ 60km/h のときに作動します

●道路脇の作動対象に対する支援は車速が約 30km/h ～ 60km/h のときに作動します

次のような状況では、障害物先読みアシストが作動しません。

●LDA が OFF のとき

●レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしているとき

●プリクラッシュセーフティが OFF のとき

●シフトポジションが P、R または N のとき

●VSC が OFF のとき

●TRC が OFF のとき

●ダウンヒルアシストコントロールが実行されているとき

●マルチテレインセレクトを選択しているとき

次のような状況では、障害物先読みアシストのブレーキ操作の支援が停止します。

●車速が約 15km/h 以下のとき

●周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

次のような状況では、作動車速を満たしていても障害物先読みアシストが作動しないことがあります。

また、作動中に作動条件が満たされなくなった場合は、一時的に作動が解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

●作動対象が遠ざかったとシステムが判断したとき

●ブレーキ操作を行ったとき

●アクセル操作を行ったとき

●一定以上の操舵力でハンドルを操作したとき

●左または右の方向指示灯が点滅しているとき

⚠警告

■障害物先読みアシストが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用しているときなど）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき
- 車線幅が約 4m 以上あるとき
- 車線幅が約 2.5m 以下のとき

⚠ 警告

- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.224

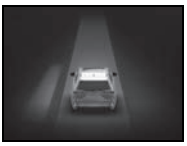
- 周囲の状況を検出するセンサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.224

LDA の設定を変更する

LDA の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。（→P.531）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱警報機能、または車線逸脱抑制機能の状態に応じて、次のような表示灯や作動表示をディスプレイに表示します。

表示灯	作動表示	状態
 白色	消灯	・LDA が OFF
消灯	消灯	・LDA が ON ・作動条件を満たしていない
 白色	消灯	・LDA が ON ・作動条件を満たしている
 赤色	 赤色	・LDA が ON ・作動表示が点灯している方向に対して、車線逸脱警報機能または車線逸脱抑制機能あるいはその両方が作動中

障害物先読みアシストは状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	道路を横断中または道路脇の、歩行者または自転車を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している

プロアクティブドライビングアシスト（PDA）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.254）を検出した場合、ドライバーのブレーキやハンドル操作を支援し、運転負荷を軽減します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは状況に応じてブレーキやステアリング操作の一部を支援し、運転負荷の軽減に寄与することを目的としていますが、支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.255）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。
- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■プロアクティブドライビングアシストを OFF にするとき

- センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
操舵アシスト（SA）	車線を認識しているとき	運転操作を先読みして、ハンドル操作を支援します。	なし
減速アシスト（DA）	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし

知識

■システムの作動車速

●車線に対する操舵支援

約 10 ～ 140km/h

●先行車に対する減速支援

約 20 ～ 140km/h

●カーブに対する減速支援

約 20 ～ 140km/h

●信号のある交差点で右左折する際の減速支援

約 30 ～ 80km/h（信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき）

■システムの作動が停止するとき

●次のときシステムは作動を停止します。

・ レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
・ プリクラッシュセーフティが OFF のとき
・ VSC（ビークルスタビリティコントロール）を OFF にしたとき
・ TRC（トラクションコントロール）を OFF にしたとき
・ マルチテレインセレクトを ON にしたとき
・ ダウンヒルアシストコントロールシステムを ON にしたとき
・ シフトポジションが P、R または N のとき
・ 運転席シートベルトを着用していないとき

●次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します。

・ 車速が約 15km/h 以下のとき
・ 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき

●次のときシステムは作動を停止する場合があります。

・運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
・作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
・車線が検出できなくなった場合
・ブレーキ操作を行った場合
・アクセル操作を行った場合
・一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
・方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点で右左折する際の減速支援を除く）

⚠警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●車線を検知できないおそれがあるとき：→P.224

●作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき

●車線を変更して作動対象などを追いこすとき

●車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

●物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき

●自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき

●道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき

●雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき

●自車に向かって作動対象が近づいてくるとき

●自車や作動対象がふらついているとき

●作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）

●作動対象に急接近したとき

●先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき

●上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき

●作動対象が割り込んできたとき

●横向き、斜め、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき

●駐車車両が横向き、斜め向きのとき

●ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ

●右左折中および右左折後の数秒間

●進路変更中および進路変更後の数秒間

●作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき

●信号機の灯色が黄色のとき

●信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

● プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

● プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。（→P.531）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような作動内容を表示します。

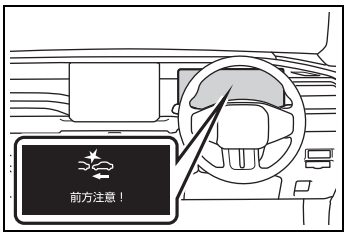
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	作動内容
	車線内常時操舵支援が作動中（作動時は車両横の輝度が増加します）
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するように促す通知
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点で右左折する際の減速支援が作動中

知識

■先行車への減速支援終了後の通知について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示とブザーによって通知し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、通知を停止します。



フロントクロストラフィックアラート（FCTA）★

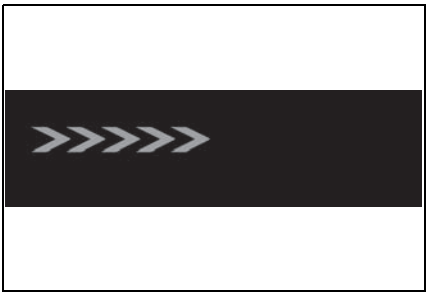
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自車が低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知して運転者へ注意喚起を行います。

システムの制御

● 運転者へ前方を交差する車両が接近していることを、ディスプレイの表示で知らせます。

・ヘッドアップディスプレイ



パノラミックビューモニターにアイコンが表示されます。※

※別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

● 前方を交差する車両が接近しているにも関わらず、運転者が発進しようとしている可能性があるとシステムが判断した場合、さらに、ディスプレイ表示とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。

・マルチインフォメーションディスプレイ



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。FCTA は前方を交差する車両の存在を運転者に知らせる補助的なシステムです。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車両や歩行者がいないことを示すものではありません。

知識

■FCTA システムの作動条件

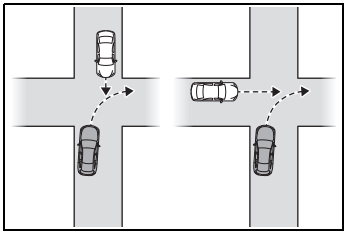
システムは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- 自車速度が約 15km/h 以下のとき
- 前方を交差する接近車両の速度が約 10 ～ 60km/h であるとき
- 先行車がいないとき
- アクセルを強く踏み込んでいないとき
- ブレーキを強く踏み込んでいないとき

■検知対象となる車両の接近が無くてもシステムが作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、検知対象となる車両が存在しない場合でもシステムが作動するおそれがあります。

- ●道路脇の構造物（ガードレール・標識・電柱・街灯・木・草・壁など）に近付いたとき
- ●路上駐車している車両等の横をすり抜けるとき
- ●自車から遠方で車両や歩行者が交差するとき
- ●自車線脇の駐車場等を車両や歩行者が移動しているとき
- ●自転車や歩行者が歩道を通行しているとき
- ●車両や歩行者が自車から遠ざかるとき
- ●交差車両が減速し停止するとき
- ●交差車両が自車直前で右左折するとき
- ●歩行者が自車に接近するとき
- ●対向車が右左折するとき
- ●交差車両より先に自車が交差点を通過するとき
- ●信号待ち時に交差車両が接近するとき
- ●右左折など旋回時に交差車両が存在するとき

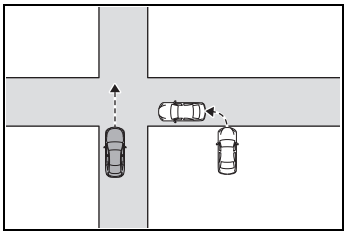


- ●前方から車両が接近し、すれちがうとき
- ●後方から車両が接近し、追い抜かれるとき
- ●自車が車両や歩行者と並走するとき
- ●自車側面に車両や歩行者が接近するとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

例えば次のような状況では、前側方センサーが対象となる車両を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ●交差車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）



- ●交差車両が自車進行方向に対し斜めに接近するとき
- ●交差車両が自車から遠方を交差するとき
- ●自車と交差車両のあいだに障害物があるとき
- ●複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき

FCTA の設定を変更する

- ● FCTA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

発進遅れ告知機能

先行車が発進または信号が青にかわったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■信号機が青にかわっていなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識したとき
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ているとき
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識したとき
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できないとき

発進遅れ告知機能の設定を変更する

発進遅れ告知機能の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。（→P.531）

ロードサインアシスト（RSA）

前方カメラを使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●RSA は、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行いますが、支援の範囲には限りがあります。

■RSA を使用してはいけない状況

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

●センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223

情報提供

● 道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

● 複数の道路標識を表示できます。

RSA 以外の機能により、表示される標識が制限される場合があります。

RSA と他の機能（ナビゲーションシステムなど）で表示される標識情報が異なる場合があります。

知識

■情報提供の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

●システムが標識を認識しているとき

次の条件を満たしたとき、標識の表示が消えます。

●車両がその標識を通過してから一定の距離を走行したとき

●右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

●終わりを示す標識を認識したとき

■情報提供が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

●標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

●標識に光（街灯など）や影が映り込んでいるとき

●電光標識のコントラストが低いとき

●標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

●標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき

●太陽光／反射光／対向車のヘッドランプ光などにより、前方カメラが標識を認識しにくいとき

●悪天候（雨、雪、霧、砂嵐、吹雪など）で前方カメラが標識を認識しにくいとき

●前方カメラが標識を認識する時間が短いとき（右左折で近距離の標識が急に見えたときなど）

●運転の状況（右左折・車線変更など）が誤って判断されたとき

●標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

●標識が自車から遠く離れた位置にあるとき

●システムが対応している標識と類似したものが認識されたとき（標識、電光掲示板、看板、構造物、先行車に貼付されたステッカー、案内標識上の数字など）

●側道の標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

●ロータリー（環状交差路）を走行しているとき

●自車以外の車両を対象にした標識を認識したとき（大型車両などを対象にした標識など）

●補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき

●工事などの通行規制区間に標識があるとき

●規定外の標識、新しく導入された標識があるとき

注意喚起

次の状況では、システムが運転者に注意喚起します。

● 速度超過：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、点滅表示やブザーにより注意をうながします。

● 車両進入禁止：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、点滅表示やブザーにより注意をうながします。

● 赤信号：赤信号を認識している場合に、信号を見落として自車が交差点に進入する可能性があるとシステムが判定したときには、点滅表示やブザーにより注意をうながします。

知識

■注意喚起の作動条件

●速度超過に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 最高速度を表示しているとき
・ 自車の速度が、表示している最高速度値を一定以上超過しているとき

●車両進入禁止に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ 進入禁止標識を 2 つ以上認識しているとき
・ 進入禁止標識の間を通過するとき

●赤信号に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。
・ システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
・ 車速が約 20 ～ 70km/h のとき
・ 一定以上の減速がないとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 一定以上のハンドル操作をしていないとき
・ 先行車がいないとき

■注意喚起が正常に作動しないおそれのある状況

●情報提供の項目に加えて、次のような状況では注意喚起対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
・ 右左折等により標識が検知できないとき
・ 信号機が矢印信号のとき
・ 信号機が点滅信号のとき
・ 信号機の庇で発光部の一部が隠れてい

るとき
・ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
・停止線に対し信号機が遠くにあるとき
・交差点間の距離が近いとき

●情報提供の項目に加えて、次のような状況では注意喚起対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
・標識が通常とは異なる大きさのとき
・標識や信号機が多数あるとき
・自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
・作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別がつきにくい模様・光源・ペイントがあるとき
・信号機の灯色が黄色のとき
・信号機が矢印信号のとき
・予告信号があるとき

情報提供および注意喚起される道路標識などの種類

● 次の種類の対象を表示します。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。（→P.531）

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.268

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.217

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

⚠ 警告

●運転者が操作する過程での支援内容

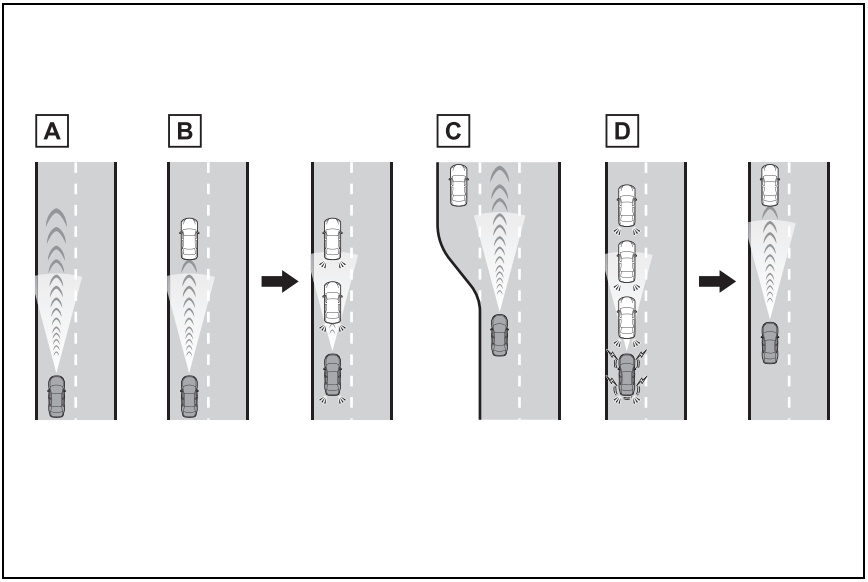
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●歩行者や自転車等が混在している道
- ●高速道路や自動車専用道路の出入り口
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき
- ●乗員や運転者が自車に乗り降りしようとしているとき
- ●センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.223
- ●システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

基本機能



A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行ー追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

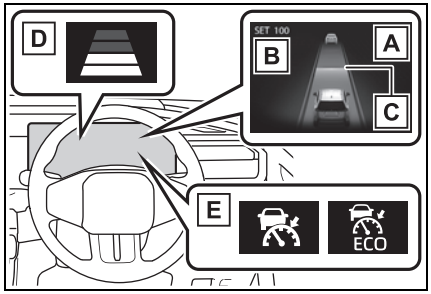
D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、RES スイッチを操作するか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）装着車：高速道路／自動車専用道路の一部を走行中に先行車が停止したときは、続いて停車します。停車してから約 3 分以内に先行車が発進したとシステムが判断すると、ブザーとディスプレイ表示でお知らせし、先行車に続いて発進します。（再発進可能時間延長）

システムの構成部品

■ メーター表示



A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

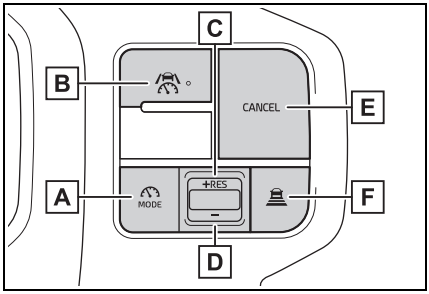
C 設定車間距離

車速や車間設定に応じて前後に動きます

D 車間距離表示灯

E レーダークルーズコントロール表示灯／レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C ＋スイッチ／RES スイッチ

D －スイッチ

E キャンセルスイッチ

F 車間距離切りかえスイッチ

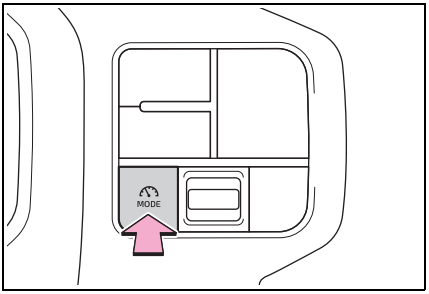
レーダークルーズコントロールを使用する

カスタマイズメニューから“クルーズコントロールへ切替”をOFFにしてクルーズコントロールを無効にします。（→P.531）

■ 速度を設定する

1 走行支援モード選択スイッチを押して、レーダークルーズモードを選択する

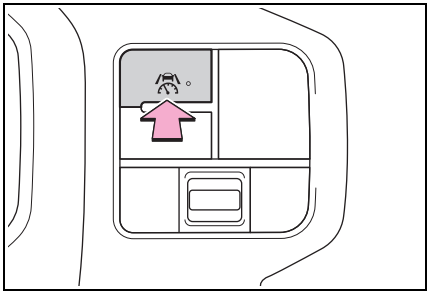
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

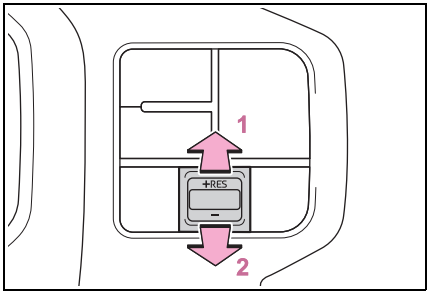
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを操作

長押し調整：スイッチを操作・保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに1km/h

長押し調整：スイッチを保持し続けているあいだ、5km/hずつ

● アクセルペダルで設定速度を上げる

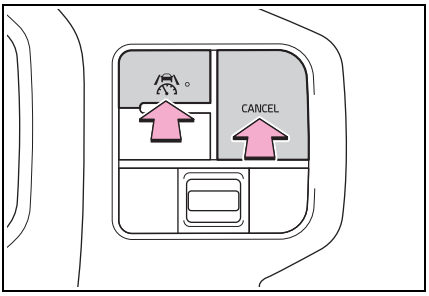
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 ＋スイッチを操作する

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

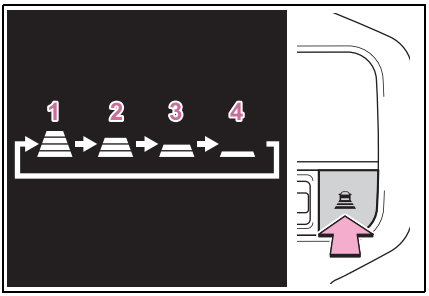
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）



2 制御を復帰させるには、RESスイッチを操作する

■ 車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100km/hの場合）
1	最長	約70m
2	長	約60m
3	中	約45m
4	短	約30m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■設定条件について

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約30km/h以上のとき、希望の設定速度に設定できます。

・車速が約30km/h未満のときに設定すると、約30km/hに設定されます。

・車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、レーダークルーズモード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にRESスイッチを操作した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■レーダークルーズモードの自動解除

次のとき、自動的にレーダークルーズモードが解除されます。

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●走行中に運転席シートベルトを着用していないとき

●プリクラッシュセーフティがOFFのとき

●マルチテレインセレクトを作動させたとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した（自動でパーキングブレーキがかかることがあります。）

●ナビゲーションシステムを利用できないとき

●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.224

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.217

■“クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

クルーズコントロールが停止しています。

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.270）も作動しないおそれがあります。

●割込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき

●自車が車線変更しているとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

■システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●先行車が急ブレーキをかけたとき

●渋滞時等、低速で車線変更したとき

■二輪車や歩行者への減速について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

二輪車や歩行者を検知すると減速する場合があります。

十分に減速できていない状態で二輪車や歩行者に接近したときは、接近警報を鳴らす場合があります。

■再発進可能時間延長の作動条件（アドバンスト ドライブ［渋滞時支援］装着車）

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●コネクティッドナビ（車載ナビ非搭載）装着車：コネクティッドサービスのご利用契約中

●自動車専用道路など限定された道路を走行中

●先行車が存在し、システムが先行車を検知できている

●先行車と自車のあいだに他車が割り込んできていない

●先行車が入れかわっていない

●クリアランスソナーおよび前側方レーダーが前方の物体を検知していない

●ドライバーモニターカメラを OFF にしていない

●運転者が前方を向いているとドライバーモニターカメラが判断している

●ハンドルを操作していない

●ブレーキペダルを操作していない

■走行支援モードの切りかえ

●カスタマイズメニュー で “クルーズコントロールへ切替” を ON にしているときは、走行支援モード選択スイッチでレーダークルーズモードとレーダークルーズエコランモードを選択できません。

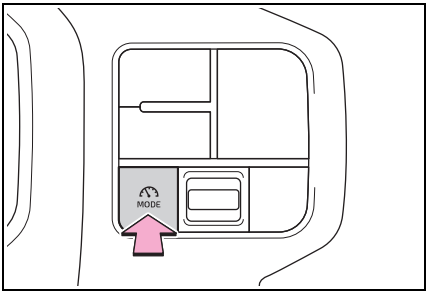
●レーダークルーズモードとレーダークルーズエコランモードの切りかえは走行支援モードを作動させたまま実施することができます。

レーダークルーズコントロール エコランモード

加速抑制と風除け効果表示によって、エコ運転（環境に配慮した走行）を支援します。

■ レーダークルーズコントロール エコランモードを使用する

走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズエコランモードを選択します。



レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯が点灯します。



速度の設定方法、設定速度・車間距離の変更方法、制御の解除・復帰の方法はレーダークルーズモードと同様です。（→P.266）

レーダークルーズモードの基本機能はレーダークルーズエコランモードでも同様に作動します。（→P.264）

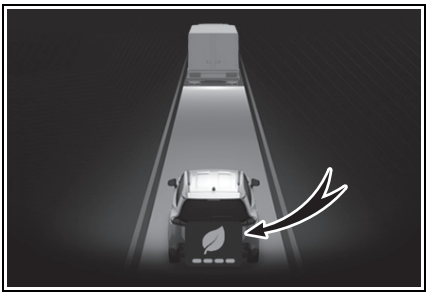
■ 加速抑制

エコ運転を支援するために、状況に応じて加速を緩やかにします。

■ 風除け効果表示

先行車によって自車が得る風除け効果を 5 段階（効果 0 ～ 4）でメーターに表示します。

風除け効果の高い先行車に追従走行することで、エコ運転がより容易に行えます。



● 効果 0 表示

次の条件のとき、効果 0 表示をします。

・車速が低いとき
・先行車が居ないとき
・先行車の風除け効果が小さいとき
・アクセルペダルを操作しているとき
・接近警報が出ているとき

● 効果 1 ～ 4 表示

車速が約 60km/ 以上のとき、先行車の大きさおよび車間距離をもとに算出した効果 1 から 4 の表示を開始します。

知識

■風除け効果表示について

●レーダークルーズエコランモード使用中のときのみ表示されます。

●表示は、実際の風除け効果にもとづいた目安であり、エコ運転をするための参考情報となりますが、効果を保証するものではありません。

●表示を注視し過ぎることなく、常に前方の道路状況や周囲の車両に注意を払い、周囲の状況に応じた適切な車間距離で安全運転を心がけて下さい。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

● 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき

● 先行車が極端な低速走行をしているとき

● 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



A カーブ速度抑制制御表示

知識

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

ドライバーモニター連携機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライバーモニターによる注意喚起が表示されている場合、加速を抑制します。

ドライバーモニターによる注意喚起の表示が消えた場合、加速抑制を終了します。

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い

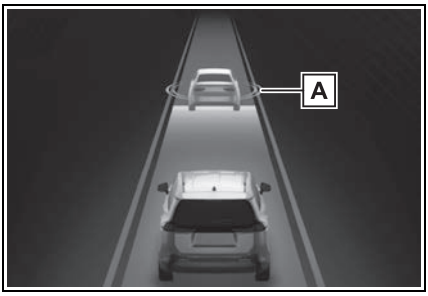
越しを支援します。

約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に通常のレーダークルーズコントロールに切りかわります。

先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。



A 先行車通信マーク

知識

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、レーダークルーズモードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから通常のレーダークルーズコントロールに切りかわる場合があります。

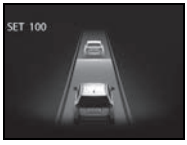
- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき
- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

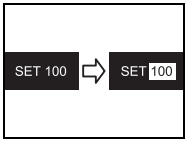
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。（→P.531）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯		マルチインフォメーション ディスプレイ表示		状態
レーダークルーズモード	レーダークルーズエコランモード			
車間距離	車間距離			
白色	白色		なし	レーダークルーズ コントロール OFF
緑色	緑色		設定車間距離：緑色 設定速度 ：緑色	定速走行
緑色	緑色		設定車間距離：緑色 設定速度：緑色 制御対象：白色	追従走行
緑色	緑色		設定車間距離：赤色 設定速度：緑色 制御対象：赤色点滅	接近警報
緑色	緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 制御対象：灰色	アクセルペダルによる加速中

表示灯		マルチインフォメーション ディスプレイ表示		状態
レーダークルーズモード 	レーダークルーズエコランモード 			
車間距離 	車間距離 			
緑色	緑色		設定速度：強調表示	設定速度超過時
緑色	緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 制御対象：灰色	制御停車
緑色	緑色		制御対象：赤色	歩行者表示

- 認識状態によって表示されている対象物の種別が変わることがあります
- ヘッドアップディスプレイ★とマルチインフォメーションの表示が異なる場合があります
- 接近警報表示中、選択しているメータ表示種類によっては路面も点滅します

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

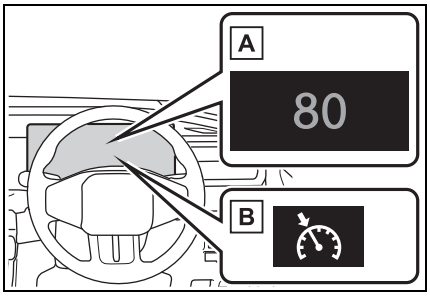
●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき：→P.217

システムの構成部品

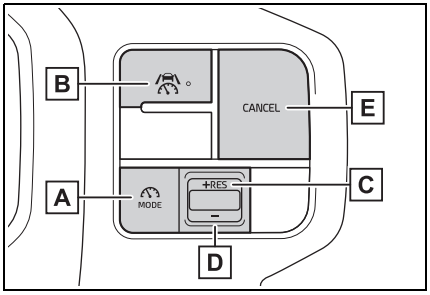
■ メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■ 操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C ＋スイッチ、RES スイッチ

D －スイッチ

E キャンセルスイッチ

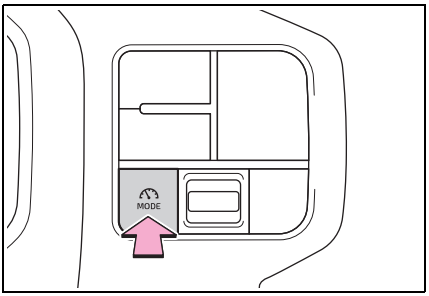
クルーズコントロールを使用する

カスタマイズメニューから“クルーズコントロールへ切替”を ON にしてクルーズコントロールを有効にします。（→P.531）

■ 速度を設定する

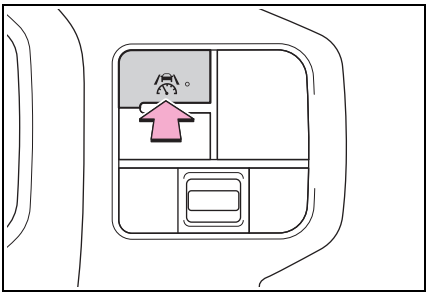
1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

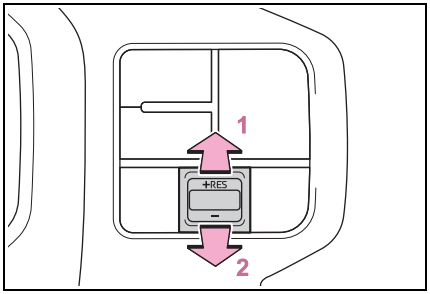
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。



■ 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を下げる

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを保持し続けているあいだ連続して変化

● アクセルペダルで設定速度を上げる

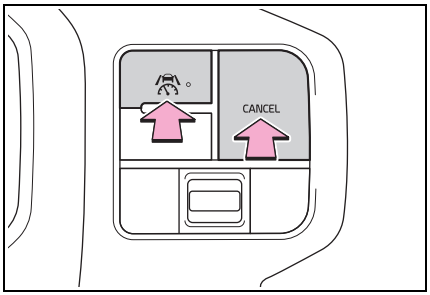
1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 ＋スイッチを操作する

■ 制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。



2 制御を復帰させるには、RES スイッチを操作する

知識

■クルーズコントロールの自動解除

次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- ●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- ●車速が約 30km/h 未満になったとき
- ●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
- ●マルチテレインセレクトを作動させたとき
- ●パーキングブレーキが作動したとき
- ●運転席シートベルトを着用していないとき
- ●システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.224

■走行支援モードの切りかえ

“クルーズコントロールへ切替” が ON のときは、走行支援モード選択スイッチでレーダークルーズモードとレーダークルーズエコランモードを選択できません。

クルーズコントロールモード作動中は走行支援モードを切りかえることができません。他の走行支援モードに切りかえるためには、クルーズコントロールモードの作動を解除する必要があります。

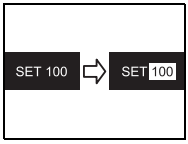
■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

クルーズコントロールが停止しています。

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。走行支援スイッチを短く確実に押してください。

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
白色		なし	クルーズコントロール OFF
緑色		設定速度：緑色	定速走行
緑色		設定速度：強調表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

レーントレーシングアシスト（LTA）作動中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★作動中のハンドル保持警告に運転者が反応しない場合も減速・停車します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

●システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。

●システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。

●本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは 3 つの状態に分けられます。「警告フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停

車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

●レーダークルーズコントロールおよび LTA が作動しているとき

または、アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★作動中のとき

●自車速が 35km/h 以上

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★作動中は 35km/h 以下でも作動します

次のような状況では、ドライバー異常時対応システムが作動しません。

●プリクラッシュセーフティを OFF にしているとき

●VSC（ビークルスタビリティコントロール）を OFF にしているとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

●ドライバー操作が検出されたとき（非常点滅灯スイッチ操作、ハンドル操作、ペダル［アクセルまたはブレーキ］操作がされた時）

●停止保持中、シフトポジションを P にしたとき

●停止保持中、パーキングブレーキ操作をしたとき

●停止保持中、ブレーキ操作およびパーキングブレーキを解除した時

●パワースイッチを OFF にしたとき

■作動時のアクセルペダル操作

システム作動中はアクセルペダル操作による加速が出来ません。

■作動解除時のレーダークルーズコントロールおよび LTA

システムの作動が解除された場合、レーダークルーズコントロールおよび LTA はキャンセルされます。

警告フェーズ

ブザー（早い断続音）とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドルやペダルの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー（連続音）とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

前側方レーダー装着車：また、高速道路または自動車専用道路において、十分な広さを持つ路肩に隣接する第 1 走行車線を走行しており、路肩に障害物がなく、周囲に接近車両がいない場合、可能な範囲で車両を路肩へ寄せながら、減

速して車両を停車させます。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー（連続音）で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

- LTA
- LCA★
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内の場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアをご確認の上、システムをご利用ください。ヘルプネット自動接続には T-Connect 契約が必要な場合があります。詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

トヨタチームメイト アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）は、運転者による状況確認のもと、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線での車線維持・車間維持を支援するシステムです。また、緊急時には減速・停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

→P.222

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）で使用するセンサー

- 周囲の状況を検出するセンサー（→P.219）
- 運転者の状態を検出するセンサー（→P.219）

知識

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

→P.224

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

→P.224

■ドライバーモニターカメラが正常に作動しないおそれがある状況

→P.224

ドライバー異常時対応システム

→P.277

レーダークルーズ再発進可能時間延長

→P.268

渋滞時支援機能

渋滞時支援機能は、一部を除く、高速道路・自動車専用道路の本線において運転者による状況確認の下で車線維持・車間維持を支援するシステムです。



次の条件をすべて満たした場合、渋滞時支援機能が作動します。

システム作動中はハンドルから手を離すことが可能です。

- レーダークルーズコントロール作動中
- LTA 作動中
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の作動条件を満たしている（→P.282）

レーダークルーズコントロール、LTA の内容をご理解いただいた上で、渋滞時支援機能をお使いください。

サービスエリア／パーキングエリア、イ

ンターチェンジ、料金所などに進入する際や、車線変更時は運転者自身の操作で運転を行ってください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●渋滞時支援機能は自動で運転するシステムではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●本システムの操舵アシストは、渋滞中の緩やかな操舵に限定した機能であり、本機能作動中は LDA の逸脱抑制機能は作動しません。何らかの理由で車線を逸脱しそうになった場合は運転者は自らの責任で運転操作してください。

●システムが正常に作動していたとしても、運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●渋滞時支援機能は状況に応じてディスプレイ表示でハンドルの保持を促すことがあります。ハンドルを保持し、運転者自身の操作で安全を確保してください。

●渋滞時支援機能は、次のものを検出しません。必要に応じて自らハンドル・アクセル・ブレーキなどの操作をし回避してください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・路上落下物

・車線外（路肩など）にいる車両

・くぼみ・陥没・ひび割れなどの破損した道路

・動物

・至近距離の車や急な割込み車

■機能を使用してはいけない状況

次のような状況では渋滞時支援機能を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●システムを OFF にする必要があるとき

→P.217

●センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

→P.223

●ドライバーモニターカメラが正常に作動しないおそれがある状況

→P.224

●車線を検知できないおそれがあるとき

→P.224

●トレーラなどをけん引しているとき

●ヒッチキャリアなど、車両後方に積載物があるとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では渋滞時支援機能が正常に作動しないおそれがあります。必要に応じて運転者自身で操作してください。

●自車の前方に割り込みがあったとき

●見通しが悪い状況で走行しているとき

⚠ 警告

- ●車両姿勢が変化しているとき
- ●タイヤの接地面の状態が、左右で著しく異なる場所を走行しているとき
- ●地図情報が最新でないとき
- ●工事区間が周辺にあるとき

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

→P.219

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

→P.220

■フロントウインドウガラスの前方カメラ取り付け部について

→P.221

■ドライバーモニターカメラの取り扱いについて

→P.222

知識

■機能の作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ●システムが車線および先行車／周辺車の軌跡を認識しているとき
- ●レーダークルーズコントロールおよびLTA が作動しているとき
- ●方向指示レバーを操作していないとき
- ●急なカーブを走行していないとき
- ●車線中央付近を走行しているとき
- ●ドライバーの前方監視状態を検知しているとき
- ●高速道路・自動車専用道路の本線を走行しているとき（中央分離帯がポール等で区切られている暫定供用区間や中央分離帯がない自動車専用道路、または工事区間が周辺にある場合を除く）
- ●車速が約 40km/h 以下であるとき（渋滞開始時など、一部条件下では、約 30km/h 以下で機能が開始します）
- ●コネクティッドナビ（車載ナビ非搭載）装着車：コネクティッドサービスのご利用契約中
- ●運転席ドアが閉まっているとき
- ●アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）が ON に設定されているとき
- ●システムを構成する機能や部品が正常な状態であるとき
- ●ドライバーモニターカメラがONに設定されているとき
- ●周囲に高速で走行する車がいないとき
- ●アクセルペダルを操作していないとき

■機能の一時解除

- ●機能の作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- ●機能作動中に作動条件が満たされなくなった場合、ブザー音や表示で一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。お知らせに対して運転者の反応がなかった場合、ドライバー異常時対応システムが作動することがあります。それぞれの表示の意味については以下をご覧ください。（→P.283）
- ●次の状況では、ハンドル操作を検知する性能が低下または検知できなくなるおそれがあります。

・ハンドルにカバーを取り付けたとき
・運転者が手袋をしているとき
・ハンドルに異物が付着しているとき
・部分ウッド部、革の継ぎ目、スポーク部等のセンサ線が無い部分を握っているとき

■制御走行中の運転操作について

●システムによる操舵・加減速制御は、運転者のハンドル、アクセルペダルおよびブレーキペダル操作によって修正することができます。

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定を変更する

アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の設定は、カスタマイズメニューから変更することができます。（→P.531）

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

以下の表示を用いてアドバンスト ドライブ（渋滞時支援）の作動状態を示しています。

ディスプレイ表示		状態	対処
アイコン	メッセージ		
	“ハンドルを操作してください”	渋滞時支援機能が終了	ハンドルを操作する
	“運転して下さい 支援終了しました”	レーダークルーズコントロール／LTA の両方、またはいずれかの作動が終了	運転者自身で速やかに運転操作を行う
	—	割り込みや周辺車両の動きに応じた運転操作が必要	運転者自身で周辺環境に応じて、運転操作を行う
	“渋滞支援を開始できません ドライバーモニターカメラ OFF”	ドライバーモニターカメラが OFF に設定されているため、渋滞時支援機能を開始できない	ドライバーモニターカメラを ON に設定

ITS Connect★

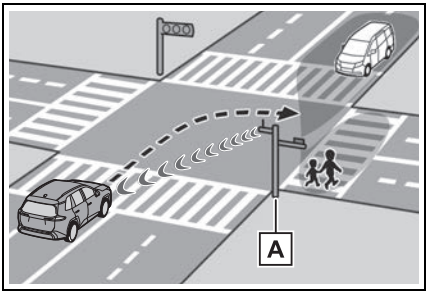
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

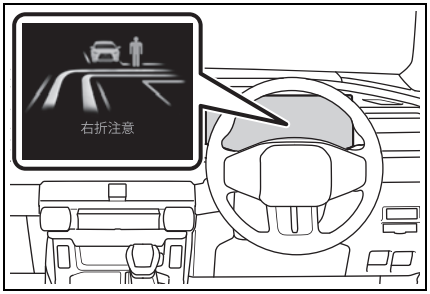
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。
詳細は P.271 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- ©1982-2013, QNX Software Systems Limited. All rights reserved.
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
  機種名：DTU-1030
  型式認定番号：10008
- 本システムは、周波数 760MHz の電波

を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.288）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.286）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

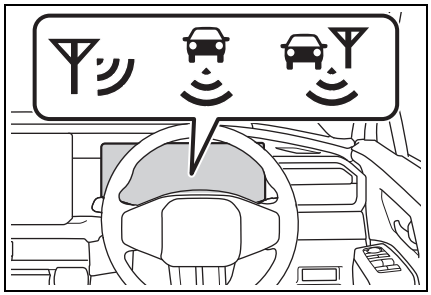
●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、メーターに次のアイコンを

表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

出会い頭注意喚起はパノラミックビューモニターにも表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消

えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

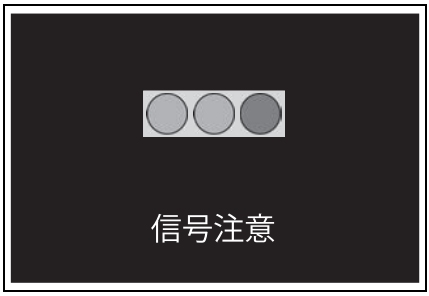
フロントクロストラフィックアラート（FCTA）装着車は低速走行中にも、表示による注意喚起を行います。



- 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

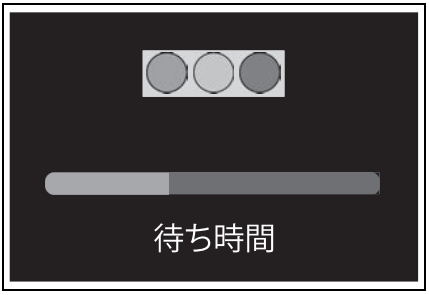
赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。



■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーと音声案内により、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・ トンネルや高架下を通過しているとき
・ ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・ 他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向

車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチメディアディスプレイの から、次の機能の設定を変更することができます。（→P.531）

● ITS Connect

次の機能の ON ／ OFF を切り替えることができます。※1（初期設定：ON）

・赤信号注意喚起
・信号待ち発進準備案内
・右折時注意喚起
・出会い頭注意喚起 ※2
・緊急車両存在通知
・通信利用型レーダクルーズコントロール

● 支援タイミング

次の機能の支援タイミング（早い／遅い）を切り替えることができます。※3, 4（初期設定：早い）

・赤信号注意喚起
・右折時注意喚起
・出会い頭注意喚起 ※5

※1 ITS Connect に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできませ

ん。

※2FCTA 装着車は、FCTA の注意喚起が非作動のときは作動しません。

※3各機能の支援タイミングを個別に変更することはできません。

※4「早い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「遅い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※5FCTA 装着車の場合は、FCTA の注意喚起タイミングと連動します。

知識

■出会い頭注意喚起の支援タイミングについて

出会い頭注意喚起の支援タイミングは、FCTA の注意喚起タイミングと連動して変更されます。

ブラインドスポットモニター（BSM）

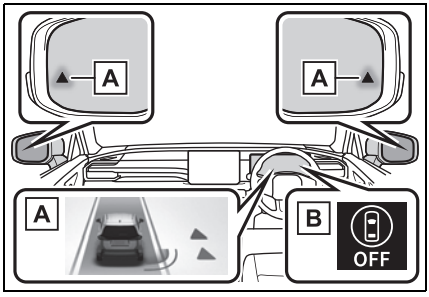
ブラインドスポットモニターは、バンパー内側にあるレーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A ドアミラーインジケーターとメーター表示

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.72）が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴り、メーターにアイコンが表示されます。（→P.72）

B 運転支援 OFF 表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

⚠警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、バンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

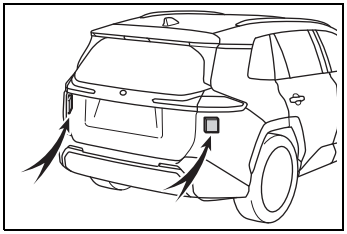
大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

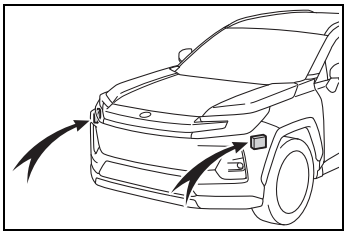
■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.531）

⚠警告

●センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく
センサー周辺のバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.294）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。





●センサーやセンサー周辺のバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のバンパーを塗装しない

●センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない

●センサーやバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●センサーはバンパー表面の塗装の影響を受けやすく、正しい修理をしないと警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。
塗装修理の際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

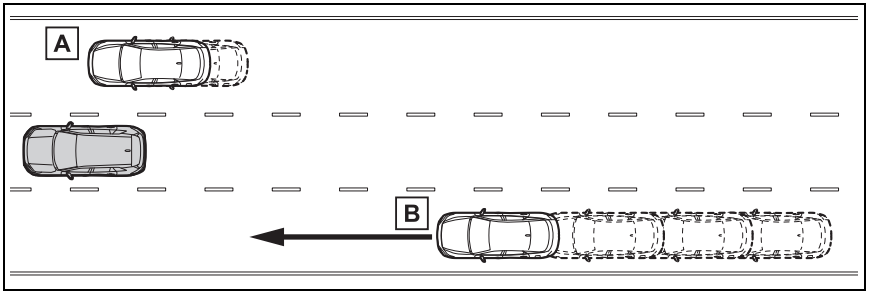
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援 OFF 表示灯（→P.72）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターはレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

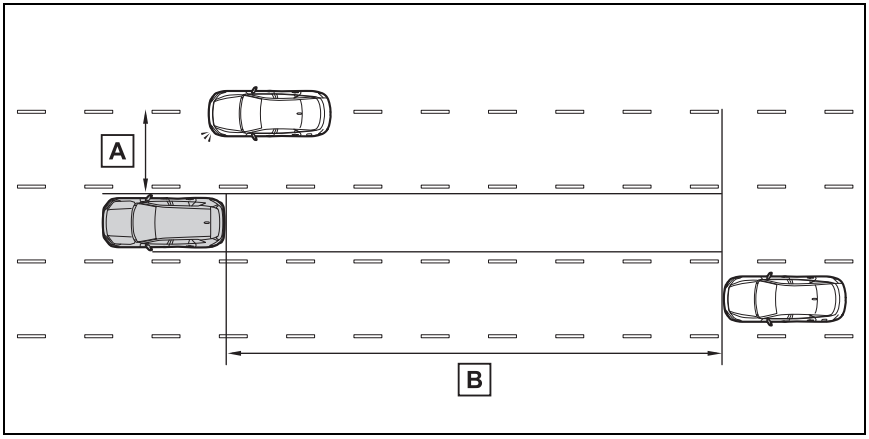


A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両・自転車

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両・自転車

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から最大約 3.5m の領域 ※1

B 車両後方から最大約 70m の領域 ※2

※1 自車から横距離が非常に近い位置を追い越していく二輪車（自転車、バイクなど）に対しては、検知開始が通常より遅くなることがあります。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能がレーンディパーチャーアラート（LDA）にあります。

本機能の作動条件などの詳細については P.246 を参照してください。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が 0km/h より大きいとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両や自転車を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や自転車以外のものを検知対象としません。

- 歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2 つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追いこす他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■ブザーが鳴らない条件

次のような状況では、方向指示レバーを操作していてもドアミラーインジケーターは点滅しますが、ブザーは鳴りません。

- 方向指示レバーを継続して操作したまま、2 台目の車両を検知したとき
- 大きい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき※

※状況によってはブザーが鳴ることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - 過度な高速走行をしているとき
  - 他車の速度が著しく遅いとき
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のバンパーに付着したとき
  - 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
  - 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - 自車と後続車の車間距離が短いとき
  - 検知範囲に入る他車と自車の速度差が

大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブなど、ハンドルを大きく操作しているとき
・起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後
・けん引しているとき

●特に次のような状況では、システムが不要に作動することがあります。
・複数の左折専用レーンまたは右折専用レーンがある交差点を右左折するとき
・後続車が自車の後方から横方向にずれた状態で走行しているとき
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・けん引しているとき

安心降車アシスト

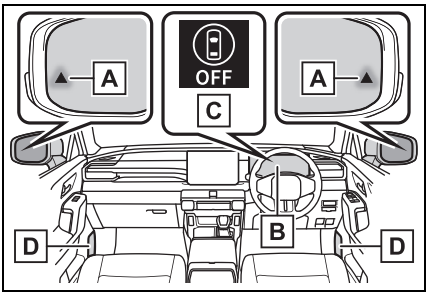
安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.72）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

B マルチインフォメーションディスプレイ

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

パワースイッチを OFF にしたあと安心降車アシストの作動条件を満たさなくなったとき、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。

（車外から全ドア施錠したときは、表示されない場合があります。）

C 運転支援 OFF 表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

D スピーカー

ドアミラーインジケーターが点滅した場合に音声にてシステムが作動したことを通知します。音声による通知が行われた後は、そのドアが全閉されるまで音声による再通知は実施されません。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■音声の通知について

以下のとき、音声による通知は実施されません。

- 車内に乗員がいないと推定されるとき※
- ドアを開いて乗車後、ハイブリッドシステムを始動するまで
- ハイブリッドシステム停止後3分以上経過したとき
- マルチメディアディスプレイの言語設定で音声発話に対応していない言語が設定されているとき
- 外部より全ドアが施錠されているとき
- ハイブリッドシステム停止後、同一のドアが開いている状態が 1 分以上継続しているとき
- マルチメディアシステムの電源が OFF になっているとき
- マルチメディアディスプレイの駐車支援音量設定が OFF となっているとき

※ 各席毎に、走行前のドア開閉で乗車、走行後のドア開閉で降車と判断します。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.531)

⚠警告

■システムを正しく作動させるために

→P.291

安心降車アシストの ON ／ OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.531)

安心降車アシストが OFF になると、運転支援 OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

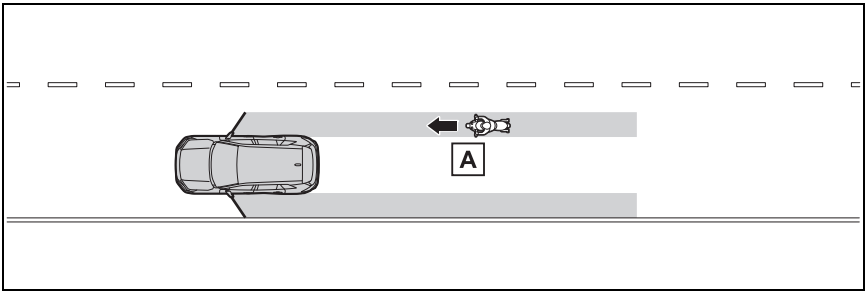
パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

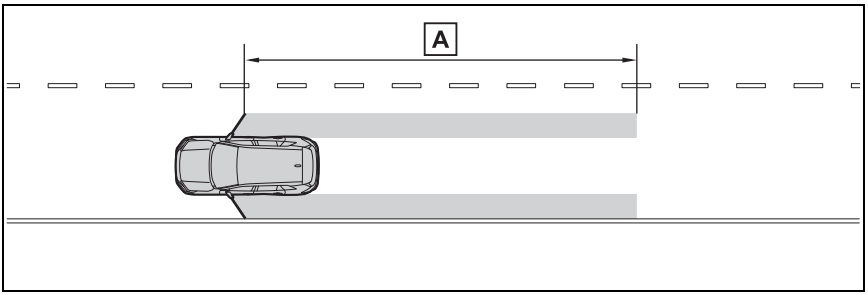
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示、および音声通知によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域 ※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）
- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中

■センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車や車両・自転車以外のものを検知対象としません。
  - 接近する車両・自転車の速度が遅いとき ※
  - ドア（バックドアを除く）を開いたと

きに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※
・真うしろから接近する車両・自転車※
・前方から接近する車両・自転車※
・ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
・歩行者・動物など※

※状況によっては検知をすることがあります。

●安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。
・ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
・自車が完全に停車していないとき

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・隣の駐車車両に後続する車両や自転車
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・発進した直後の車両や自転車
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・接近する車両や自転車が排水溝などの金属のフタ（グレーチング）の上を走行しながら接近しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
・道路に対して傾いて停車しているとき
・斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
・後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
・後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
・接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
・バックドアが開いているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
・車両や自転車が高速で接近するとき
・けん引しているとき
・急勾配の坂道に停車しているとき
・カーブの途中や終了地点に停車しているとき
・隣接車線に停止している車両のうしろから車両や自転車が接近するとき

後方車両への接近警報

後方車両への接近警報は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、後方車両からの追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながすシステムです。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

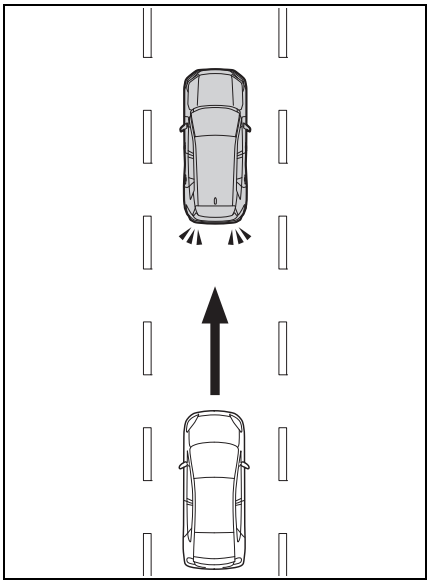
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
後方車両への接近警報は自車の後方から接近してくる車両に追突される可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながす補助的なシステムです。
後方車両への接近警報を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.291

後方車両への接近警報の作動

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



知識

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 非常点滅灯が点滅していないとき
- 自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間
- 自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■センサーが車両を検知する条件

後方車両への接近警報は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両への接近警報は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車、または走行しているとき
- 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどに停車、または走行しているとき
- けん引しているとき
- 後方車両と自車の中心がずれているとき
- 斜め後方から車両が近付いてくるとき
- 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
- 後方車両の周辺に他車が存在するとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
- 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- けん引しているとき
- 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
- 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
- 道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
- 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
- 後方車両が近距離まで急接近したとき
- 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき

後方車両接近告知

後方車両接近告知は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者に後方車両の接近をお知らせすることで、回避要否の判断を支援するシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

後方車両接近告知は自車の後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

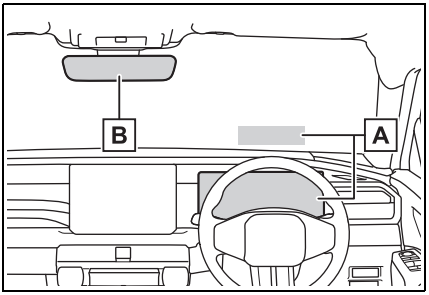
後方車両接近告知を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.291

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ★

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、メッセージとブザーでお知らせします。

B デジタルインナーミラー★

後方車両の通行を妨げる可能性がある場合、ディスプレイのまわりを橙色に点灯してお知らせします。

デジタルインナーミラーのカスタマイズメニューで通知の ON ／ OFF を切りかえることができます（→P.139）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方車両接近告知の ON ／ OFF を切りかえるには

後方車両接近告知の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

知識

■ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■カスタマイズ機能

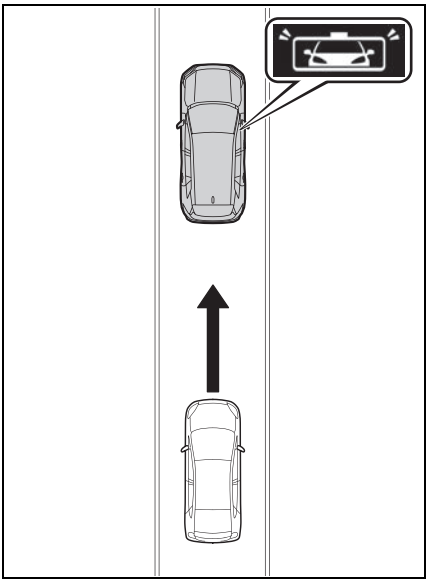
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.531）

後方車両接近告知の作動

後方車両接近告知は後側方レーダーセンサーにより自車の後方から接近してくる車両を検知し、デジタルインナーミラー★の点灯や

マルチインフォメーションディスプレイまたはヘッドアップディスプレイ★の表示とブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■後方車両接近告知の作動条件

後方車両接近告知は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●後方車両接近告知が ON のとき

●シフトポジションが R 以外のとき

●車速が約 60km/h 以上のとき

●方向指示レバーを操作していないとき

●ブレーキペダルを踏んでいないとき

●自車が追い越し車線※または片側1車線の道路を走行、かつ先行車がいないとき

※販売された国（地域）と通行車線が左右で異なる道路を走行する場合、走行車線でも作動することがあります。

■センサーが車両を検知する条件

後方車両接近告知は、同じ車線を走行する後方車両が近づいた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

後方車両接近告知は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■後方車両接近告知が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

・車線がはっきり見えないなど、自車の走行車線を正しく認識できないとき

・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき

・けん引しているとき

・後方車両と自車の中心がずれているとき

・斜め後方から車両が近付いてくるとき

・自車の後方に他車が急に割り込んでき

たとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・後続車が自車に接近した後、一度離れて再度接近してきたとき
・後続車が自車から離れていくとき
・後続車が自車を追い越そうとしているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真うしろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

周辺車両接近時サポート（録画機能、通報提案機能）

周辺車両接近時サポートは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用して至近距離の後方車両を検知し、運転者へ対処方法を提案するシステムです。

ドライブレコーダー（前後方または全周囲）※ が装着されている車両は、ドライブレコーダー（前後方または全周囲）の録画機能を使用して、状況を自動で記録します。

※ 標準装備、メーカーオプションまたはメーカーパッケージオプションのドライブレコーダー（前後方または全周囲）装着の場合に限ります。用品（販売店オプション）のドライブレコーダーではご利用になれません。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

周辺車両接近時サポートは後方車両が至近距離まで接近したときの対処方法を運転者に提案する補助的なシステムです。

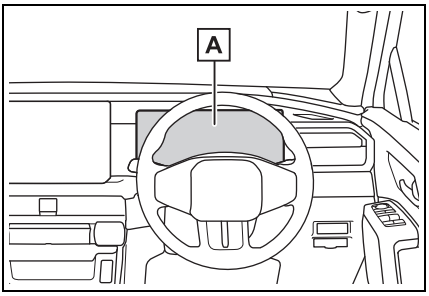
周辺車両接近時サポートを使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.291

システムの構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

警察への通報またはヘルプネットへの接続を提案します。

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF を切りかえるには

周辺車両接近時サポートの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

知識

■音声の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、音声が聞こえづらくなる場合があります。

周辺車両接近時サポートの作動

後方車両が至近距離まで接近したときに、マルチインフォメーションディスプレイと音声で下記の対処方法を提案します。

ドライブレコーダー装着車は、後方車両の映像を記録します。

■ 通報提案

携帯電話をマルチメディアディスプレイとハンズフリー接続しているときは、ハンズフリー電話での警察への通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイで “はい（YES）” を選択、または音声で回答してください。

ハンズフリー電話の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ ヘルプネット接続提案

ヘルプネットを契約しているときは、ヘルプネットセンターへの通報を提案します。

通報する場合は、マルチインフォメーションディスプレイで “はい（YES）” を選択、または音声で回答、またはヘルプネットボタンを押してください。

ヘルプネットの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。



■ イベント録画（ドライブレコーダー［前後方または全周囲］装着車）

車両後方の映像をイベント録画します。

ドライブレコーダー（前後方または全周囲）の詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

知識

■イベント録画の通知（ドライブレコーダー［前後方または全周囲］装着車）

通報提案もヘルプネット接続提案もしない場合は、イベント録画が記録されたことを通知します。

■周辺車両接近時サポートの作動条件

周辺車両接近時サポートは、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- 周辺車両接近時サポートが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 前回作動から約10 分以上経過しているとき

■通報提案の作動条件

通報提案は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- 携帯電話がマルチメディアディスプレイと Bluetooth® でハンズフリー接続されているとき

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

- 携帯電話の電波が圏外でないとき
- 携帯電話が着信中、発信中、通話中でないとき

■ヘルプネット接続提案の作動条件

- 通報提案がされていないとき
- ヘルプネットの契約がされている

■センサーが車両を検知する条件

周辺車両接近時サポートは、同じ車線を走行する後方車両が至近距離にいる状態が続いた状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

周辺車両接近時サポートは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※

●対向車

●隣の車線を走行する他車※

※状況によっては検知をすることがあります。

■周辺車両接近時サポートが正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
・けん引しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・他車の前方に割り込んだとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき

●特に次のような状況では、後続車の接近がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・けん引しているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・自車が右左折するときに後続車が自車の真うしろを通過したとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・後方車両の周辺に複数の車両が存在するとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
・後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・カーブ中に隣接車両がいるとき
・他車の前方に割り込んだとき

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、停車中に後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御することで、二次衝突による被害の軽減に寄与するシステムです。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は停車中に同じ車線を走行する後方車両からの追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキを制御する補助的なシステムです。
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

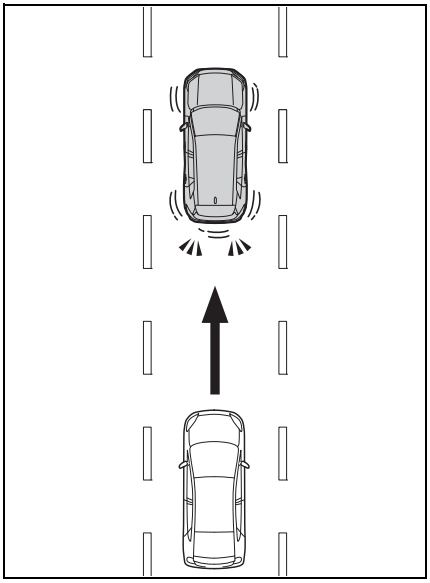
■システムを正しく作動させるために

→P.291

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、停車中に同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が非常に高いと判断したときに、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、追突後の自車速度を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。



知識

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき※
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 前回作動から約7分以上経過しているこ

と

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 0km/h のとき

※ シフトポジションが N のときはブレーキペダル・パーキングブレーキ・ブレーキホールドをいずれも操作していないときは作動しません。

■センサーが車両を検知する条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、同じ車線を走行する後方車両が追突の可能性が非常に高い状況のとき、検知範囲に入った車両を検知します。

■システムが検知しない条件

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●対向車

●隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。

・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面に停車しているとき
・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどで停車しているとき
・ けん引しているとき
・ 停車した直後に後方車両が接近したとき
・ 後方車両と自車の中心がずれているとき
・ 斜め後方から車両が近付いてくるとき
・ 自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・ 後方車両の周辺に他車が存在するとき
・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・ 後続車の高さが自車と違いがありすぎるとき
・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、追突される可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ けん引しているとき
・ 右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・ 道路脇に停車したときなどに、他車が真横を通過するとき
・ 後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・ 後方車両が近距離まで自車に急接近したとき
・ 自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・ 後方車両の周辺にガードレールや壁などの静止物があるとき
・ 停車間際・発進直後に後方車両が接近したとき
・ 走行中にすべりやすい路面などでのブレーキ操作により、自車のタイヤがロックしたときに後方車両が接近したとき

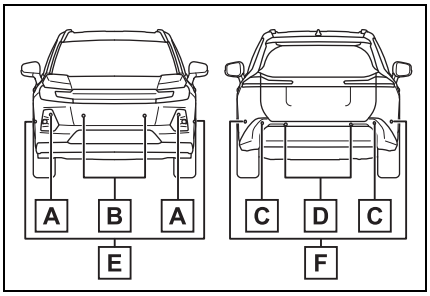
・洗車機で洗車しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディアディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

F リヤサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディアディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、

仕様により異なります。

▶ マルチメディアディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯 ★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.311）が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON ／ OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.72）が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.531）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON ／ OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。

⚠ 警告

- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- センサーやバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
  - シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
  - シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
  - シフトポジションが R にあるとき
- サイドセンサー（アドバンストパーク装着車）：
  - ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
  - シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
  - シフトポジションが R のとき
  - マルチメディアディスプレイが表示されているとき
  - フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

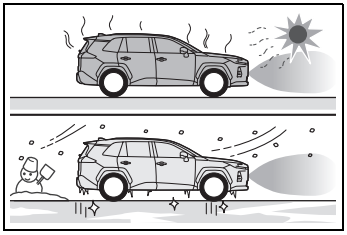
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●自車が旋回しながら接近しているとき

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

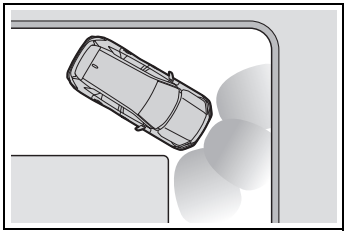
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴があるとき

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

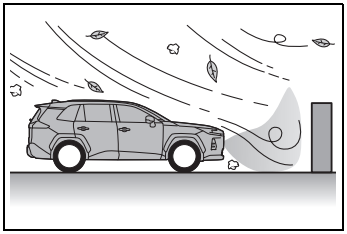
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

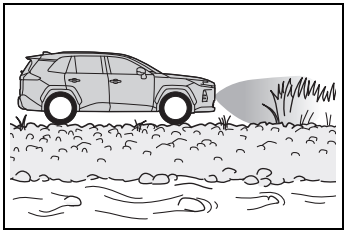
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



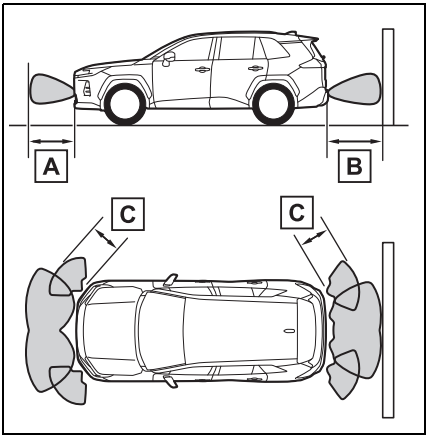
●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車



A 約 100cm

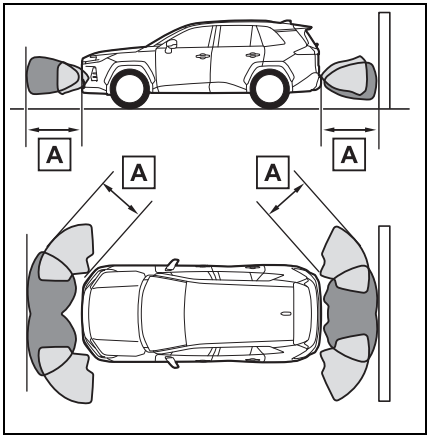
B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ アドバンストパーク装着車



A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.317）

▶ アドバンストパーク装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
フロント／リヤセンターセンサー、コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
フロント／リヤセンターセンサー、コーナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.317）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近付かない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）
- RCTA または RCD と同時に作動した場合、より衝突の可能性が高いとシステムが判断した対象を優先してブザーを鳴らします。

知識

■ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.531）

■ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディアディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

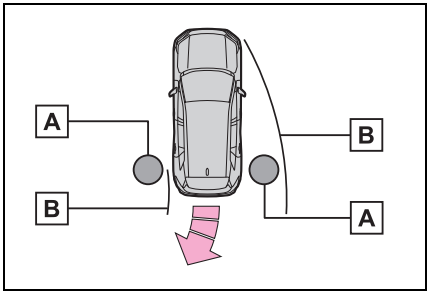
クリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

再度スイッチを押すと、解除されます

●次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
・ シフトポジションを切りかえたとき
・ 車速が一定値以上になったとき
・ パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

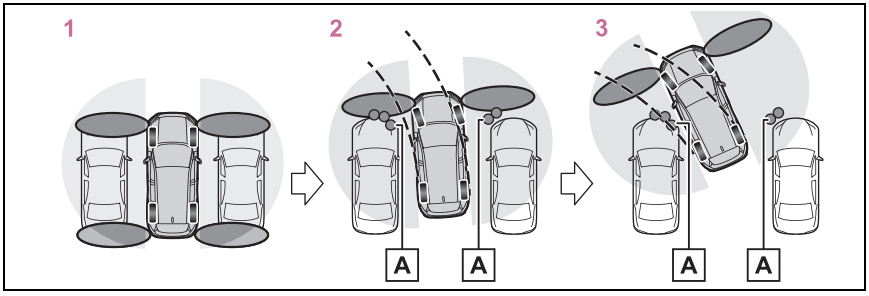
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- マルチメディアディスプレイが表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき
- 運転席・助手席・リヤ席のドアを完全に閉めているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

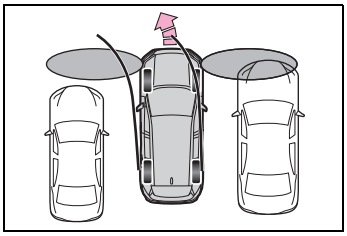
- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

⚠警告

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。
  下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーを格納しているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。
- 運転席・助手席・リヤ席のドアが開いているとき

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）

リヤクロストラフィックアラート（RCTA）は、車両後退時に後側方レーダーセンサーが接近する車両や自転車を検知すると、ドアミラーインジケーターとブザー、およびマルチメディアディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両や自転車の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

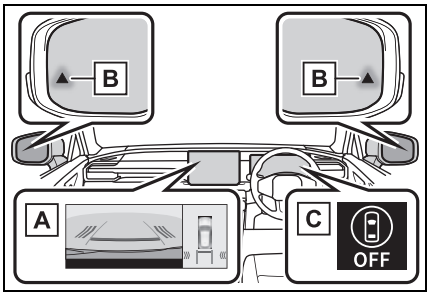
RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.291

システムの構成部品



A マルチメディアディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知したときは、マルチメディアディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.320）が点灯します。

イラスト※は両後方から車両や自転車が接近している例です。

※装備により、車両上部からの俯瞰映像が表示されない場合や、マルチメディアディスプレイに表示が出ない場合があります。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知したときは、接近方向のドアミラーインジケーター（→P.72）が点滅し、ブザーが鳴ります。

C 運転支援 OFF 表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援

OFF 表示灯（→P.72）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■後側方レーダーセンサーについて

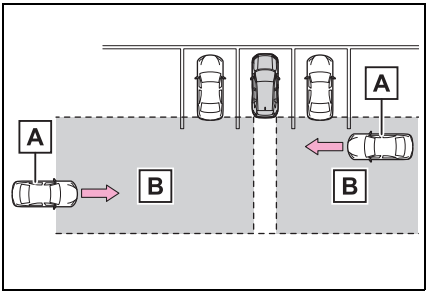
→P.291

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知し、ドアミラーのインジケーター、ブザー※、マルチメディアディスプレイ上の表示によってその車両や自転車の存在を運転者に知らせます。

※ ブザーは停車中のとき吹鳴しません。



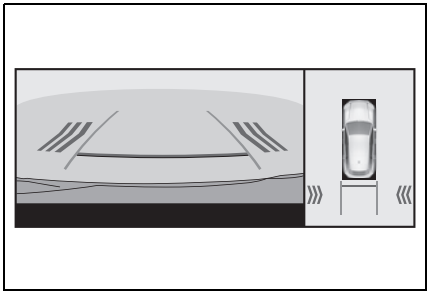
A 接近車両

B 接近する車両や自転車を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知したときは、マルチメディアディスプレイ上に次の表示をします。

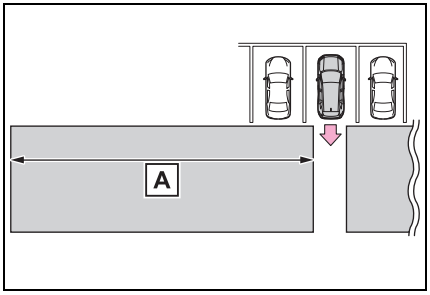
例：両方向から車両や自転車が接近しているとき



装備により、車両上部からの俯瞰映像が表示されない場合や、マルチメディアディスプレイに表示が出ない場合があります。

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両や自転車を検知します。



速度が速い車両や自転車に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近する車両や自転車の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	30m
8km/h（遅い）	4m

知識

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する車両や自転車の車速が約8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

● ドアミラーを格納していないとき

■ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.531）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

再度スイッチを押すと、解除されます

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

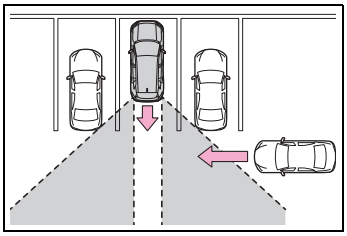
●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが検知しない車両や自転車について

RCTA 機能は、次のようなものを検知対象としません。

●真うしろから接近する車両や自転車

●障害物のためにセンサーが検知できない車両や自転車



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型のオートバイ・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両や自転車

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両や自転車 ※

●センサーと接近する車両や自転車との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

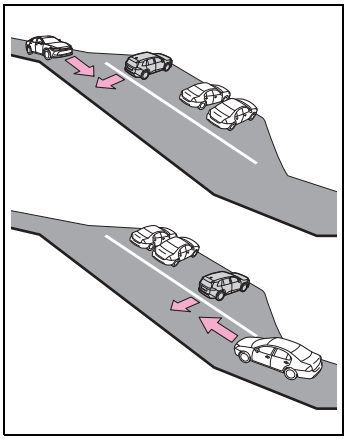
●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の車両や自転車が狭い間隔で連続して接近するとき

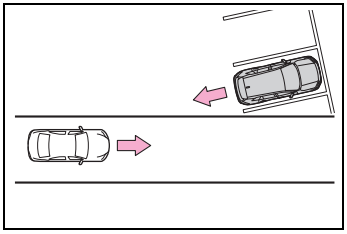
●車両や自転車が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが車両や自転車を検知できないとき

●けん引しているとき

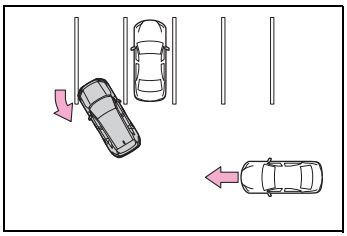
●検知範囲に入る車両や自転車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

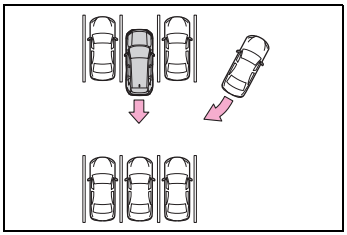
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



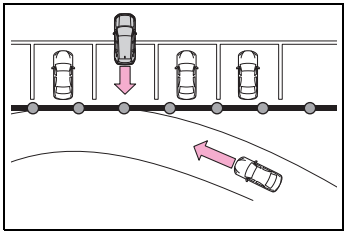
●旋回しながら車両や自転車が近付いてきたとき



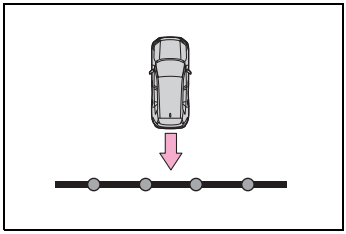
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

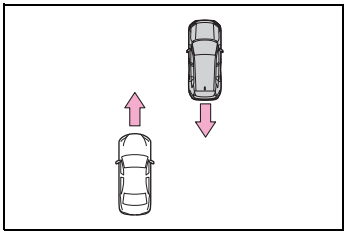


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

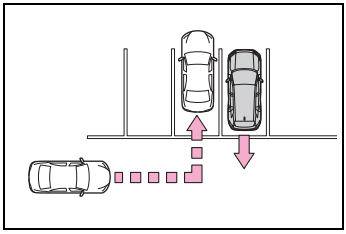


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●車両や自転車が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体がある

とき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●けん引しているとき

リヤカメラディテクション（RCD）

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディアディスプレイ上の表示により注意喚起を行います。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- バックドアを完全に閉めてください。

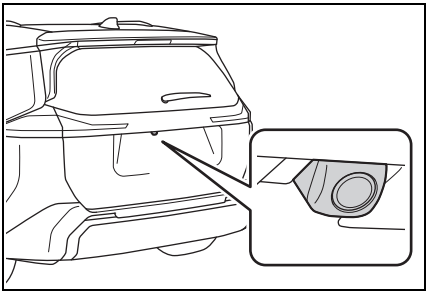
■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

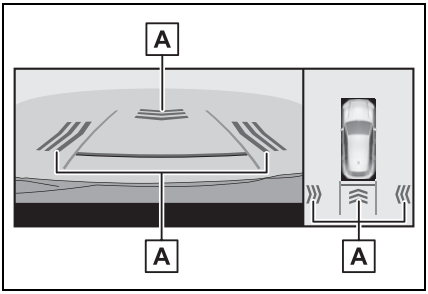
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

バックガイドモニター装着車の場合、車両上からの俯瞰画はありません。

システムを作動させるには

RCD の ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

RCD が OFF のとき、運転支援 OFF 表示灯（→P.72）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

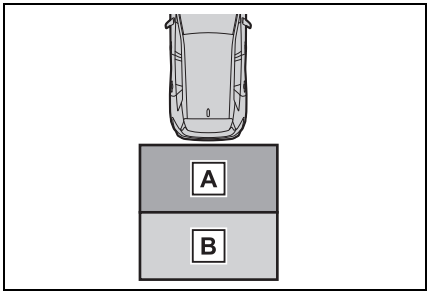
歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザー※とマルチメディアディスプレイの歩行者検知表示で運転者に注意を促します。

▶ 歩行者が A または B エリアにいるとき
ブザー：3 回吹鳴※
歩行者検知表示：点滅

▶ 歩行者が A エリアに向かって接近してくるとき
ブザー：くり返し吹鳴※
歩行者検知表示：点滅

※ ブザーは停車中のとき吹鳴しません。



知識

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパーク★が作動中でないとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.531）

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディアディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

再度スイッチを押すと、解除されます

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボードなどに乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘などにより体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・悪天候（雨、雪、霧など）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・けん引しているとき
・自車の中心から歩行者の位置がずれているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
・移動物（通行車両、バイクなど）
・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりやぬれた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
・リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき

・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・けん引しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

パーキングサポートブレーキ（PKSB）

パーキングサポートブレーキ（PKSB）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報とブレーキ制御で作動対象との衝突被害の低減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

● パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）：→P.331
● パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.335
● パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）：→P.336
● パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）：→P.331

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

⚠ 警告

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（PKSB）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害低減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●パーキングサポートブレーキ（PKSB）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき

●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

●自走式洗車機を利用するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

パーキングサポートブレーキ（PKSB）が OFF のとき、PKSB OFF 表示灯（→P.72）が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にし

た場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.531）から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。
（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディアディスプレイおよびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディアディスプレイ★表示：表示なし

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例：“ブレーキ！”※

※ グレード、オプションなどにより表示されない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（連続音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例：“ブレーキ！”※

※ グレード、オプションなどにより表示されない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（連続音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディアディスプレイ表示例：“ブレーキを踏んでください”※

※ グレード、オプションなどにより表示されない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”

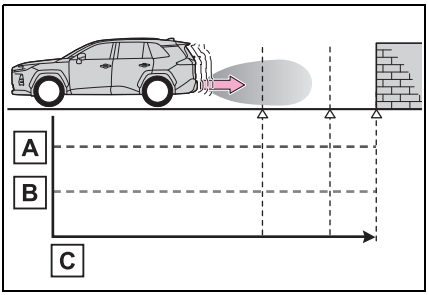
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ピー（連続音）

パーキングサポートブレーキ（PKSB）の作動について

パーキングサポートブレーキ（PKSB）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（パーキングサポートブレーキ［PKSB］非作動時）

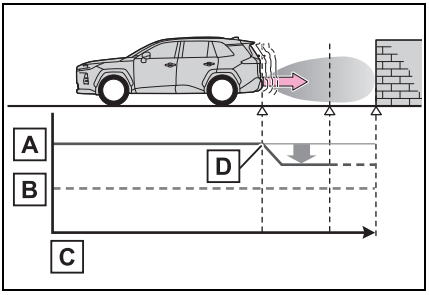


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



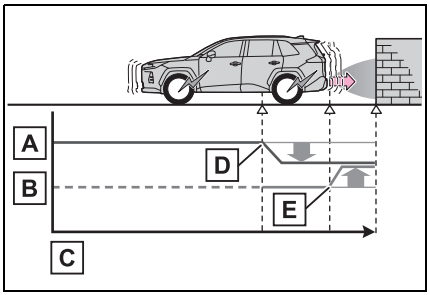
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時）



A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。運転中、自動的に初期化されるため、しばらく運転を続けてください。

■パーキングサポートブレーキ（PKSB）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（PKSB）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、パーキングサポートブレーキ（PKSB）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■パーキングサポートブレーキ（PKSB）作動後の復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（PKSB）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（PKSB）を復帰させたい場合は、再度パーキングサポートブレーキ（PKSB）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的にパーキングサポートブレーキ（PKSB）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。（→P.72）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON ／ OFF に関係なく（→P.311）、パーキングサポートブレーキ（PKSB）を停止させていなければ（→P.328）、ブレーキ制御とハイブリッドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）

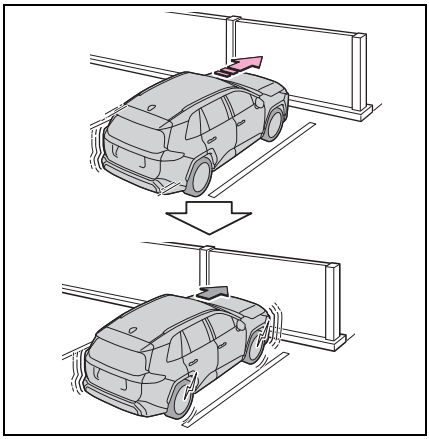
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

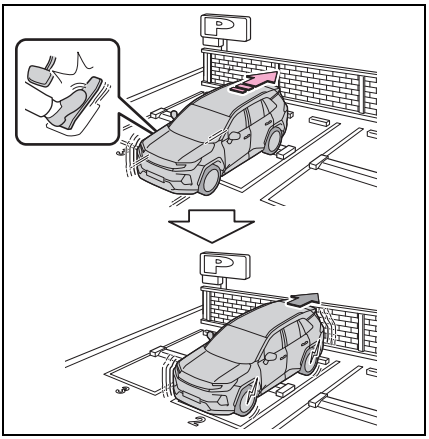
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

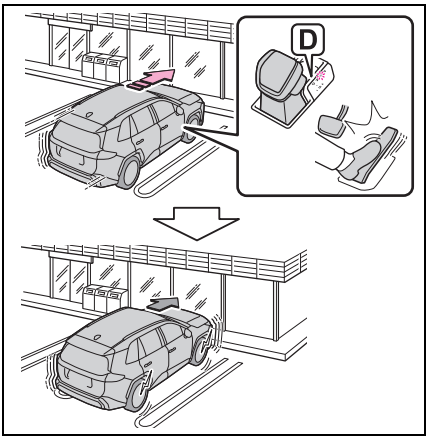
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



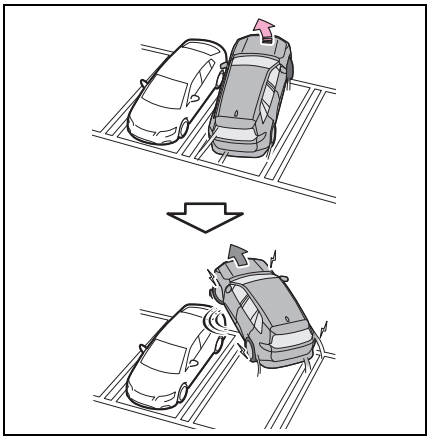
■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



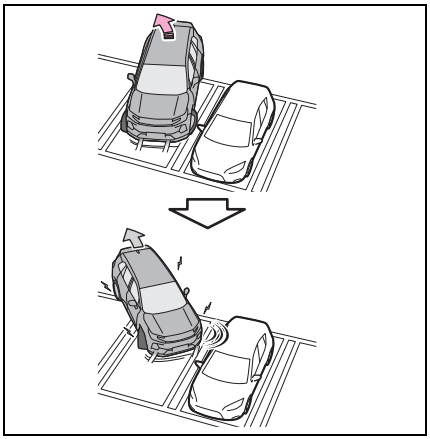
■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき



■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



システム作動例（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

センサーの種類

→P.310

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.311

⚠ 警告

■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（PKSB）が誤って作動したときは

→P.331

■洗車時の注意

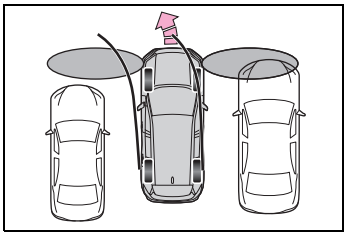
→P.312

■サイドセンサーまたはサイドカメラについて（アドバンストパーク装着車）

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



●サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき

●サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき

●ドアミラーを格納しているとき

●補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

●運転席・助手席・リヤ席のドアが開いているとき

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.70）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 前進するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 前進するあいだ

●運転席・助手席・リヤ席のドアを完全に閉めているとき

●ドアミラーを格納していないとき

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物※）の作動終了条件

※アドバンストパーク装着車

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物※）の検知範囲について

※アドバンストパーク装着車

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.315）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.313

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.314

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

●前後方静止物の作動条件（→P.333）に加えて、縦列駐車時など側方の幅寄せするとき（→P.361）

■サイドエリアの静止物の検知について（アドバンストパーク装着車）

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

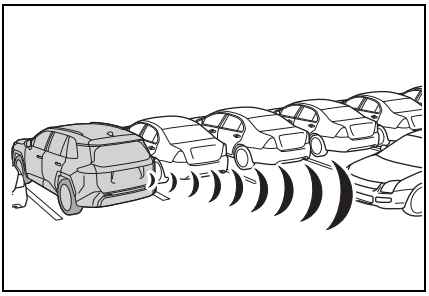
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両や自転車を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近する車両や自転車への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両や自転車を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、車両や自転車が接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



センサーの種類

→P.291

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

→P.291

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.70）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- パーキングサポートブレーキ（PKSB）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両や自転車の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 後側方からの接近する車両や自転車への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- 後側方からの接近する車両や自転車への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
- パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき

・自車後側方への接近する車両や自転車がなくなったとき

●ブレーキ制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.321

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

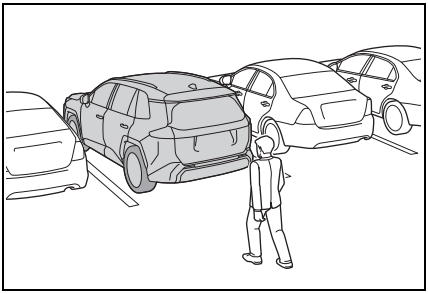
→P.322

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

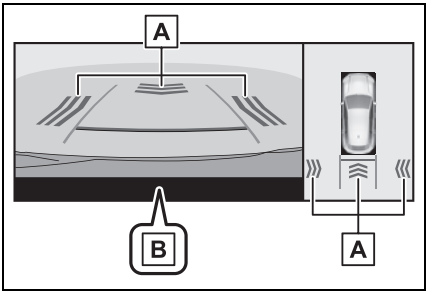
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディアディスプレイ上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例：“ブレーキ！”

⚠ 警告

■万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.324

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.70）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・自車後方に歩行者がいるとき
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●ハイブリッドシステム出力抑制制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・パーキングサポートブレーキ（PKSB）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.331

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.325）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

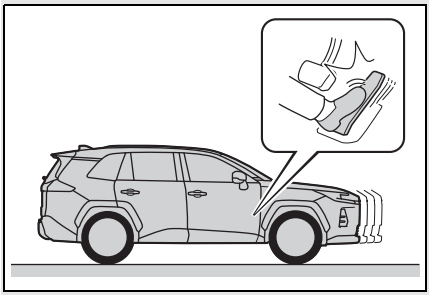
→P.326

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.326

急加速抑制

低速走行中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



機能一覧

■ 急加速抑制（操舵時）

前進中にハンドルを大きくまわした状態でアクセルペダルを速く強く踏み込んだときに作動します。

■ 急加速抑制（後退時）

後退中にアクセルペダルを速く強く踏み込んだときに作動します。

■ 急加速抑制（出庫時）

シフトポジションがPの状態でアクセルペダルを操作したあと、前進中または後退中にアクセルペダルを速く強く踏み込んだときに作動します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

●急加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

●急加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

●お客様ご自身で急加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急加速抑制が作動したとき

急加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急加速抑制（操舵時）によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●過積載やパンクで車両が傾いているとき

●けん引時

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき

●メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

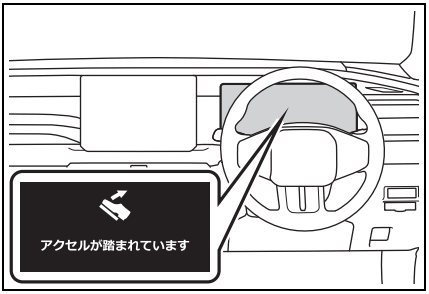
●事故や故障などによる走行不安定なとき

急加速抑制が作動したとき

急加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表

示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急加速抑制（操舵時）の作動条件

次の条件をすべて満たした場合に作動します。

- エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトポジションが D・S のとき
- エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフトポジションが D・B のとき
- 車速が低速のとき
- ハンドルを大きくまわしたとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- 急加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 急加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急加速抑制（操舵時）が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急加速抑制（操舵時）が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと一定時間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと一定時間
- 停車状態から発進したあと一定時間
- アクセルペダルを速く強く踏み込む前にアクセルペダルを一定量踏み込んでいた場合
- 急な上り坂に自車がいるとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき
- マルチテレインセレクトを選択しているとき

■急加速抑制（後退時）の作動条件

次の条件をすべて満たした場合に作動します。

- シフトポジションが R のとき
- 車速が低速のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- 急加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 急加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急加速抑制（後退時）が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急加速抑制（後退時）が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと一定時間

●停車状態から発進したあと一定時間

●アクセルペダルを速く強く踏み込む前にアクセルペダルを一定量踏み込んでいた場合

●急な上り坂に自車がいるとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき

●マルチテレインセレクトを選択しているとき

■急加速抑制（出庫時）の作動条件

次の条件をすべて満たした場合に作動します。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトポジションが P でアクセルペダルを所定時間踏み込み続けたあと、シフトポジションを D・S・R に変えたとき

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフトポジションが P でアクセルペダルを所定時間踏み込み続けたあと、シフトポジションを D・B・R に変えたとき

●車速が低速のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

●急加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき

●急加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急加速抑制（出庫時）が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急加速抑制（出庫時）が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●ハイブリッドシステム始動後に所定速度を上回る速度を出した場合

●急な上り坂に自車がいるとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき

●マルチテレインセレクトを選択しているとき

■急加速抑制が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では急加速抑制が正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響
・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面で急加速抑制が作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくても急加速抑制が作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●周辺環境の影響
・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき

・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右左折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

急加速抑制の設定を変更する

急加速抑制の作動／非作動はカスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.531）

急加速抑制を非作動に変更した場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.531）から作動に変更しないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

急加速抑制を非作動にすると、後退速度の抑制制御（→P.170）も連動して非作動になります。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。
プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サポキー）が必要です。プラスサポートおよびサポキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■ **機能の追加**

● 急アクセル時加速抑制

■ **音声案内シーンの追加**

対象機能：

● プリクラッシュセーフティ（PCS）
● 急アクセル時加速抑制
● パーキングサポートブレーキ（PKSB）

■ **通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定**

対象機能：

● レーンディパーチャーアラート（LDA）
● ブラインドスポットモニター

（BSM）

- プロアクティブドライビングアシスト（PDA）
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知

知識

■カスタマイズ初期値の変更

カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。

サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。

サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。

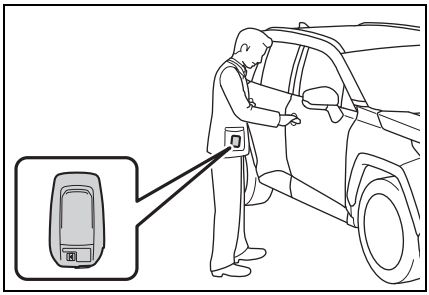
より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.105）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

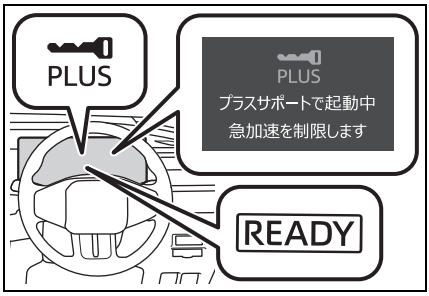


2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する（→P.172）

3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチの↩を押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します” のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

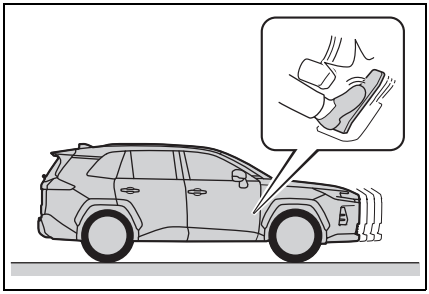
⚠ 警告

■プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.72）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km ／ h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。

⚠ 警告

●お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

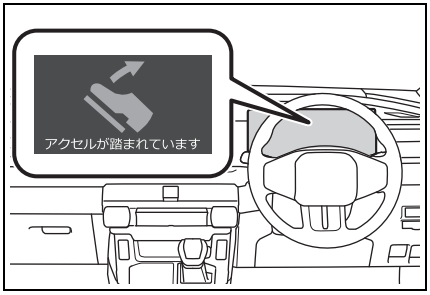
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

●シフトポジションがP・N以外のとき

●車速が約30km／h以下のとき

●アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約30km／h、後退時は約12km／h※までゆるやかに加速します。

●加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき

●加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

●方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間（前進時）

●ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間（前進時）

●急な上り坂に自車がいるとき

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両姿勢の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。

また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークは、その地域の道路交通法および規則に従ってご使用ください。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ リモート機能

アドバンストパークのリモート機能は、車外からスマートフォンを操作することで、ハンドル、シフトポジション、アクセルとブレーキ操作を遠隔でアシストし、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助するシステムです。

前後移動機能を除き、アシストが開始してから目標駐車位置到達まで方向指示灯を自動的に点滅させることにより、周囲へ駐車中であることをお知らせします。

使用前のご準備：→P.368

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.358）

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.360）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.361）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.364）

■ リモート機能

車外からスマートフォンを操作することで、画面上で確認した目標駐車位置付近への駐車や出庫を補助します。(→P.366)

知識

■商標について

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。トヨタ自動車株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。
- 使用中は必要に応じてブレーキを踏んで車両を減速、停車させてください。リモート機能を使用している場合は、リモート機能用のスマートフォン専用アプリ（以降、専用アプリ）の操作をやめて車両を停車させてください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 開始スイッチを押す前にブレーキペダルから足を離すとアシストが開始されず、車両が動いてしまう可能性があるためご注意ください。アシストが開始されるまでブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- 本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
  リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。
  - 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）
  - 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
  - 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
  - 背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）
  - 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
  - 地面に対し垂直でないもの

⚠ 警告

・ 障害物に対して斜めに接近するとき

・ 夜間など周囲が暗いとき

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

●周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

●マルチメディアディスプレイだけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

・ 駐車スペース選択中または作動中に、運転席のドアが開けられたとき

・ 駐車スペース選択中または作動中に、一定時間システムの指示に従わなかったとき

・ 駐車スペース選択中または作動中に、一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・ 駐車スペース選択中または作動中に、故障が発生したとき

・ 駐車スペース選択中に、アドバンストパークメインスイッチを押したとき

・ 駐車スペース選択中に、ドアミラーを格納したとき

・ 駐車スペース選択中に、アクセルを操作したとき

・ 駐車スペース選択中に、運転席シートベルトを外したとき

・ 駐車スペース選択中に、TRC または VSC を OFF にしたとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近付けないでください。また、お子さまがハンドルに近付かないよう注意してください。

・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

⚠警告

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
リモート機能を使用している場合は、専用アプリの操作をやめて車両を停車させてください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトが溶けているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき

・ドアミラーを格納しているとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨のとき

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強くあてて、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・けん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき

⚠警告

・区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リモート機能を使用するとき

●リモート機能はアドバンストパークの関連機能です。リモート機能を公道で使用する場合は、その地域の道路交通法および規則に従ってください。

●専用アプリの注意事項に同意いただいた方のみリモート機能がご利用いただけます。

●リモート機能は運転操作の一部です。必ず運転免許証を保有している運転者が操作してください。専用アプリ使用時は電子キーを必ず携帯してください。操作中は専用アプリ画面を注視せず、車両周辺を直接ご確認ください。緊急時には操作を中断し、車両を停止させてください。

●一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。

●システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。

●ボンネットが閉じていることをご確認の上、ご使用ください。

●リモート機能は、駐車や出庫の操作をスマートフォンによる遠隔操作でアシストするシステムです。リモート機能を使用するときは、運転者が電子キーとスマートフォンを保持した上で、車両周辺の安全確認を行ってください。

●リモート機能使用中はスマートフォンの操作をやめることで車両を停止することができます。また、専用アプリで停止操作を行うことや電子キーを使った解錠やドアを開けることでも車両を停止することができます。

●障害物などに接触しそうなときは、スマートフォンの操作をやめて、必要に応じてリモート機能を中止してください。

●スマートフォンの操作方法によらずシステムで一定の速度となるように制御されます。

●スマートフォンの画面を注視して、車両を走行させることは絶対にしないでください。

●走行時は必ず目視で周辺の安全を直接確認してください。

●車内に人やペットが残っている状態でリモート機能を使用しないでください。

●万一の時は電子キーのスイッチを操作するか、ドアを開けて車両を停止させてください。

●リモート機能を使用する際は、スマートフォンと最新の専用アプリが必要です。
アプリストアから、専用アプリをダウンロードしてください。

●専用アプリへの車両登録時は車両と接続している他のアプリを OFF にしてください。

⚠ 警告

●リモート機能を使用する場合は、Apple CarPlay ／ Android Auto ™の接続を OFF にしてください。

・ Apple CarPlay は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

・ Android Auto ™は、Google LLC の商標です。

●駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。

●リモート機能作動中は平坦ですべりにくい路面でのみ使用してください。駐車スペースが下り坂または上り坂にあるような場合では使わないでください。

●リモート機能使用中に故障またはシステムの限界が検知された場合は、以下の処理が自動的に行われます。

・ アシストを中止する

・ 車両を停止する

・ シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかける

・ パワースイッチを OFF にする（一部の故障ではパワースイッチを OFF にしない、またはできないことがあります。スマートフォン上のメッセージに従って乗車し、処置を実施してください。）

・ 車両が施錠されたままになる

●リモート機能開始時は電子キーのワイヤレス機能で解錠操作をしてください。

●リモート機能使用中は、運転者は車両から約 6m 以上離れて立たないでください。約 6m 以内であっても一定距離以上離れるとリモート機能が中断され、スマートフォンにメッセージが表示されることがありますが、車両に近付くことでアシストを再開できます。

●リモート機能使用中はヘッドライトを自動で点灯します。

●異常終了時は非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。非常点滅灯の消灯条件は以下項目です。

・ ドアを開く

・ 非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅開始から 3 分が経過

●以下の車両状態からのみリモート機能を開始できます。

・ ハイブリッドシステム始動中に、アシストモードを選択後

・ パワースイッチが OFF の時

⚠ 注意

■アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

■リモート機能を使用するとき

●使用前にスマートフォンの電池残量をご確認ください。リモート機能作動中にスマートフォンの電池が切れてしまうとアシストを中断します。また、開始時にスマートフォンの電池残量が 20%以上ない場合、リモート機能をご利用いただけません。

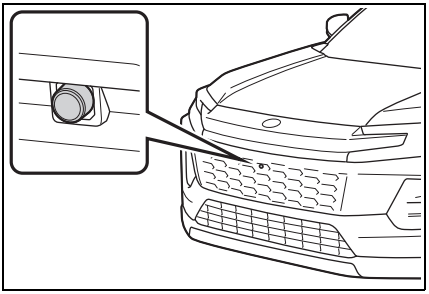
⚠ 注意

- 使用前にスマートフォンの Bluetooth® を ON にしてください。Bluetooth® 接続機能 OFF の状態ではリモート機能をご利用いただけません。
- 使用中にスマートフォンの Bluetooth® を OFF にしたり、マルチメディアシステムとの接続を OFF にしないでください。車両と Bluetooth® 接続できていない状態ではリモート機能を使用できません。
- リモート機能使用中に電話がかかってきた場合など、他のアプリが起動した場合は、リモート機能は中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すれば、アシストを再開できます。3 分以上経過した場合は、アシストを中止します。
- リモート機能使用中にスマートフォンのホームボタンや電源ボタンを押して、画面ロック状態になった場合はリモート機能を中断します。3 分未満で専用アプリの利用を再開すれば、アシストを再開できます。3 分以上経過した場合は、アシストを中止します。
- リモート機能使用中に専用アプリを強制終了しないでください。強制終了した場合は、アシストを中止します。
- 低温環境下では、補機バッテリー充電のため、システム開始までに時間がかかる場合があります。
- 補機バッテリーの電圧が低下した場合、アシストを中止します。
- 下り勾配では、平坦な道路にくらべ、走行車速が遅くなり、障害物までの接近距離が遠くなります。
- システム異常時には、シフトポジションが P または、パーキングブレーキで車両を停車後、パワースイッチを OFF して、システムを中止することがあります。その場合は、トヨタ販売店で点検を実施してください。
- システム不調時には、一時的にアシストを中断する場合があります。システムが復帰すれば、再開できますので、スマートフォン画面の内容に従い、再開操作をしてください。
- リモートスタートが作動している場合はリモート機能が正常に作動しない場合があります。
- リモート機能終了時は、法規によりパーキングブレーキをロックします。凍結により、パーキングブレーキを解除できない場合がありますので、寒冷地でのご使用はお控えください。また、凍結した場合、パーキングブレーキ解除時に音がする場合がありますが、性能に問題はありません。
- 電池切れの電子キーではリモート機能を使用しないでください。

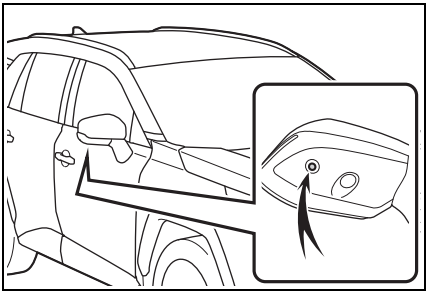
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

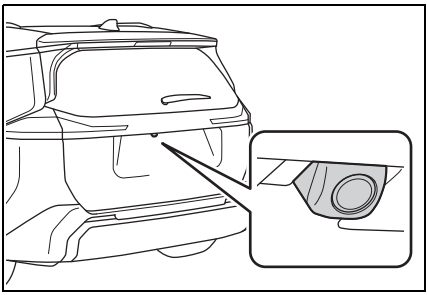
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.310

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」のパノラミックビューモニターを参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき

・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
・カメラのレンズが傷ついたり、汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面がぬれて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■センサーの検知について

→P.312

■センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.313

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.313

■衝突の可能性がなくてもアシストが作動しない状況

→P.314

⚠警告

■カメラとセンサーの取り扱いについて

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.311）

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

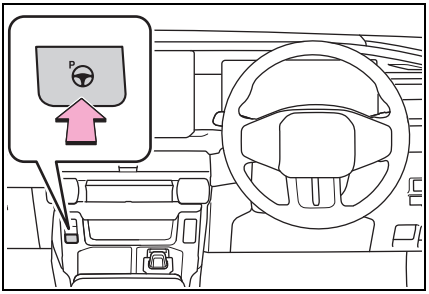
・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

アドバンストパークの ON／OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

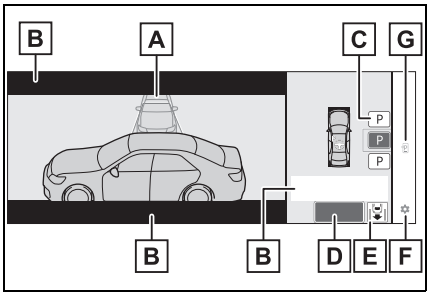
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびバックドアが閉まっている
- ドアミラーが電動格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS／VSC／TRC／PCS／PKSB が作動していない
- マルチテレインセレクトが作動していない
- けん引していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディアディスプレイのメッセージを確認してください。（→P.373）

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディアディスプレイに表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

：並列前向き／バック駐車機能への切りかえ

D “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

E 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

F カスタマイズ設定スイッチ

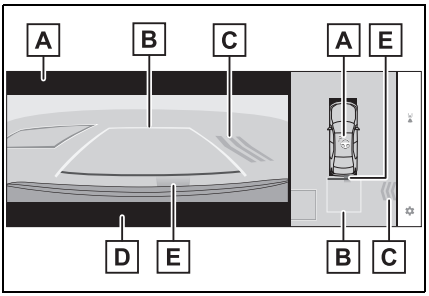
アドバンストパークの設定画面に切りかわります。(→P.371)

G リモート機能開始スイッチ★

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ガイド画面（後退時）



A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※ と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.310

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→P.311）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■アドバンストパーク作動中にマルチメディアディスプレイが黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

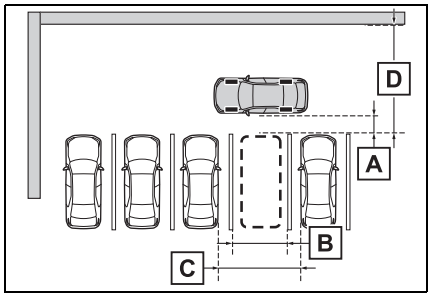
アドバンストパークの並列前向き／バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けます。



A 約 1m ※

B 区画線あり：約 2.5m ※

C 隣接車両あり：約 3m 以上 ※

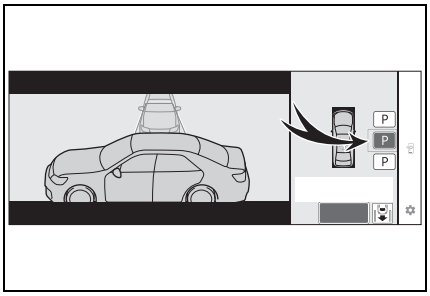
D バック駐車：約 5.5m 以上 ※

前向き駐車：約 7.5m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

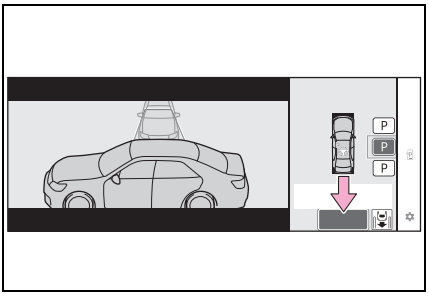
3 マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する



- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Pにタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。
- 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、もしくはにタッチすると、駐車向きが変更できます。
- 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。
- 駐車スペースを選択しているときにブレーキペダルを離しても車両は停車しようとし続けます。別の駐車スペースへの移動などのため、システムを終了する際は、ブレーキペダルを踏んだ状態でアドバンストパークメインスイッチを押してください。

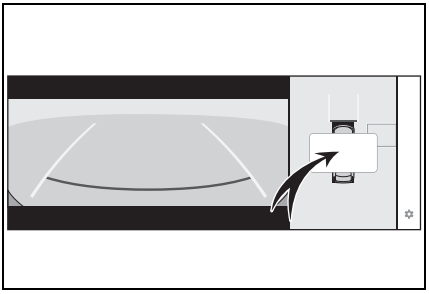
4 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



5 “発進するにはブレーキを離してください” の表示を確認してからブレーキペダルを離す

“前進します” または “後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。



アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

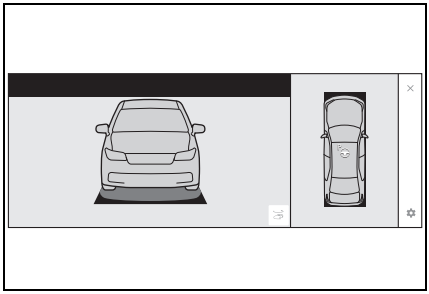
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.359

6 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの に タッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディアディスプレイの “再開” スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

■並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

⚠注意

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

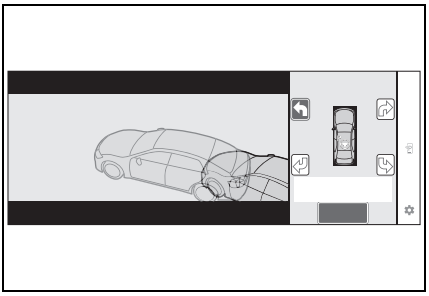
アドバンストパークの並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

2 マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

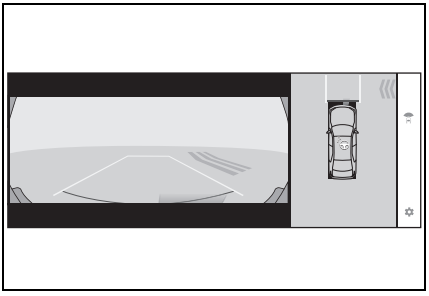


3 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

4 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



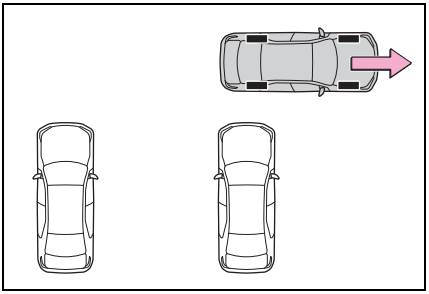
アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.359

5 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.359

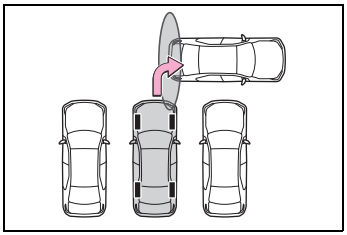
■並列前向き／バック出庫機能について

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

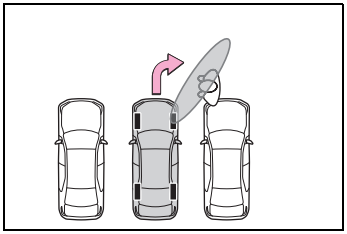
■並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

次のような状況では並列前向き／バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



●フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ブレーキが作動したとき

→P.359

アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

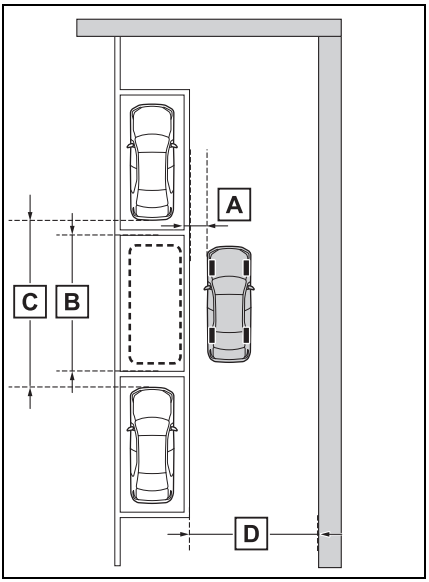
目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

アシストが開始されるまで、ブレーキペ

ダルをしっかり踏み続けます。



A 約 1m ※

B 区画線あり：約 6m ※

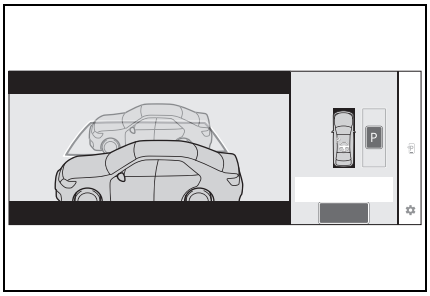
C 駐車車両あり：約 7m 以上 ※

D 約 4.5m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

3 マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

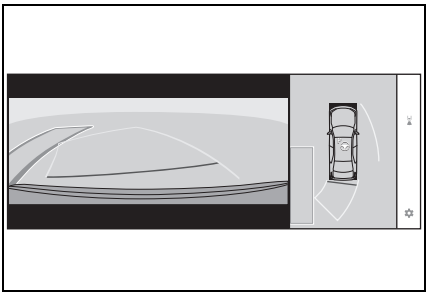


- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 並列前向き／バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、Pにタッチすると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。
- 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディアディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。
- 駐車スペースを選択しているときにブレーキペダルを離しても車両は停車しようとし続けます。別の駐車スペースへの移動などのため、システムを終了する際は、ブレーキペダルを踏んだ状態でアドバンストパークメインスイッチを押してください。

4 “開始” スイッチにタッチする

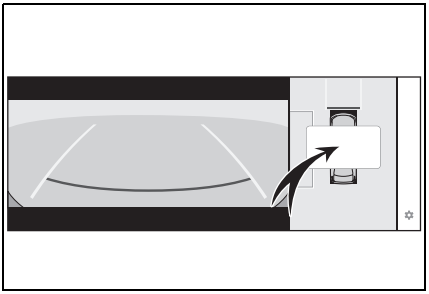
“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



5 “発進するにはブレーキを離してください” の表示を確認してからブレーキペダルを離す

“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。



アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

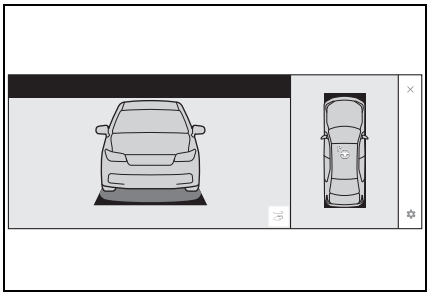
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.359

6 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディアディスプレイの に タッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



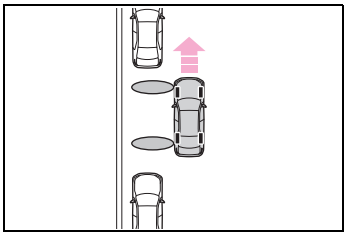
知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.359

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ブレーキが作動したとき

→P.359

注意

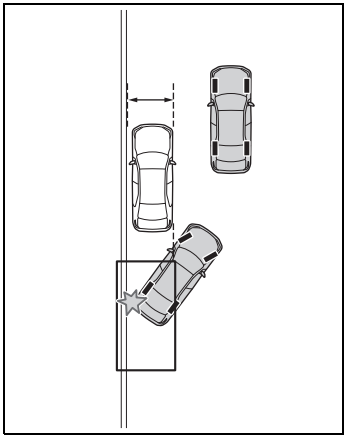
■縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。

⚠注意

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

●隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

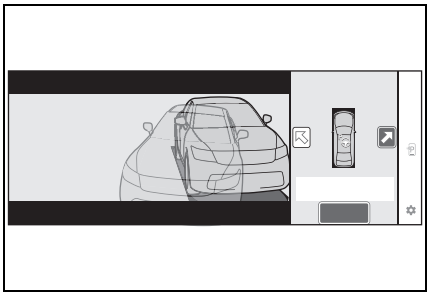
アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

2 マルチメディアディスプレイが出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



3 マルチメディアディスプレイ上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

4 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

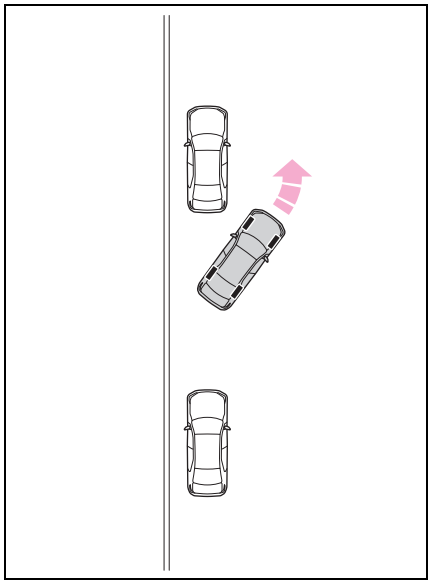
アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.359

5 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。

ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.359

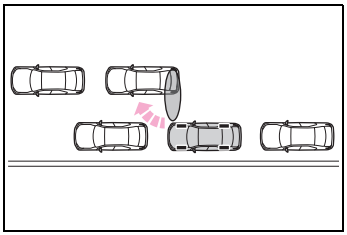
■縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

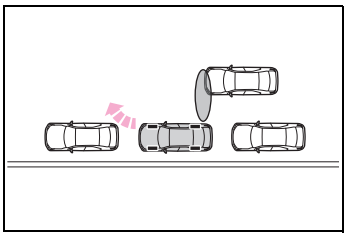
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

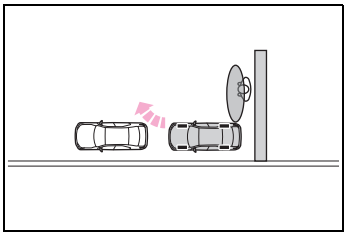
●出庫方向に信号待ちの車両があるとき



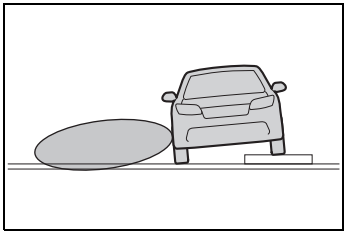
●出庫方向の後方に車両が待っているとき



●フロントまたはリヤのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



●車両の前方に駐車車両がないとき

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎているとき

■ブレーキが作動したとき

→P.359

アドバンストパークのリモート機能を使う

スマートフォン操作で駐車機能／出庫機能を遠隔操作することができます。またガレージなどへの前後移動も遠隔操作でアシストできます。

リモート機能を使用して駐車する

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、スマートフォン操作で駐車機能を遠隔操作することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する（→P.358, 361）

2 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

3 マルチメディアディスプレイに駐車可能なスペースが表示されたことを確認する（→P.358, 361）

4 スイッチにタッチし、“並列駐車／縦列駐車” にタッチする

5 “設定完了” にタッチする

6 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

障害物が進行方向に存在する場合は、先に障害物を移動させてください。障害物は降車後に移動させることもできます。

7 車外でスマートフォン画面の駐車スペースを確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

8 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、駐車をアシストします。車両の横に立ち、車両と一緒に移動するとアシストが中断しにくくなります。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

再びスマートフォン画面の操作を行い車両を動かす場合、車両が動く前に自動でドアが施錠されます。

9 駐車位置に到着すると、シフトポジションが P になり、パーキングブレーキで車両停止後、パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠される

スマートフォンに完了画面が表示されます。

知識

■障害物があっても駐車機能を使用できる場合

●白線で構成される駐車スペースへの駐車機能を使用する場合、駐車スペース内に障害物があってもそのスペースを目標枠として設定できます。これは車いす用の駐車スペース内にパイロンが置かれているときであっても、車内で駐車スペース設定をし、降車後に障害物を移動することで支援を継続するための機能です。

●アドバンストパークでの並列駐車では片側 3 枠ずつの最大 6 枠の駐車枠を検出可能ですが、リモート機能では片側 1 枠ずつの検出となります。

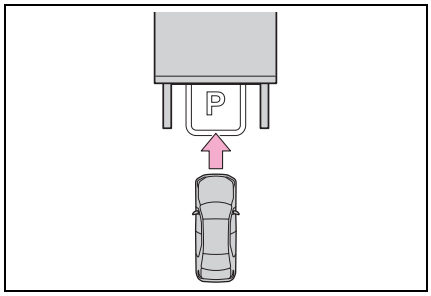
■ブレーキが作動したとき

→P.359

リモート機能を使用して前後移動する

停車後に前後移動機能を使用して、ガレージなどへの移動をアシストします。

1 アシストを開始したい場所に車両を停車する



2 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

3 スイッチにタッチし、“前後に移動”にタッチする

4 必要に応じて方向キーで調整し、“設定完了”にタッチする

5 車内から電子キーとスマートフォンを持って降車し、スマートフォンの専用アプリを起動する

6 車外でスマートフォン画面の進行方向を確認し、スマートフォン画面で開始操作をする

車両から約 50cm 以上離れて、進行方向に立たないように開始してください。

7 車両周辺の安全を確認し、車外でスマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、前後移動をアシストします。車両の横に立ち、車両と一緒に移動するとアシストが中断しにくくなります。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

8 スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行う

パワースイッチが OFF になり、自動でドアが施錠されます。

知識

■進行方向の変更

前後移動機能では、アシスト中に進行方向を切りかえることができます。

後方に壁があるときなどに、スマートフォン画面で進行方向の切りかえ操作を行って車両を少し前進させて荷物を入れたあと、もとの場所にもどすといった使

い方ができます。

■ブレーキが作動したとき

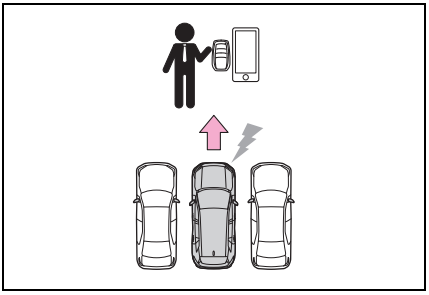
→P.359

リモート機能を使用して出庫する

パワースイッチが OFF の車両に対して、並列／縦列駐車した状態からの出庫をアシストできます。
前後移動選択の際の移動距離は開始位置から進行方向に対して最大 7m で、スマートフォン操作で進行方向を切りかえることができます。

1 駐車中の車両に近付き、専用アプリを起動する

専用アプリが接続できない場合は、電子キーで解錠操作を行ってください。



2 スマートフォン画面で開始操作をする

車両のパワースイッチが ON になります。

3 出庫可能な方向が表示されたことを確認し、出庫したい方向を選択し、決定する

4 車両周辺の安全を確認し、スマートフォン画面を操作する

操作を継続することで車両が動き、出庫をアシストします。車両の横に立ち、車両と一緒に移動するとアシストが中断しにくくなります。

スマートフォン画面の操作を中止することで、アシストを中断し、車両を停止させることができます。

アシスト中であっても、途中終了や方向転換ができます。

5 アシスト完了位置まで移動し、電子キーを持って車両に乗り込む

途中でアシストを完了したい場合は、スマートフォンで途中終了操作をするか、車両に乗り込むことでアシストを終了できます。

知識

■ブレーキが作動したとき

→P.359

リモート機能の使用前のご準備

■ 使用前のご準備

リモート機能を使用する際は、事前に以下の手順を行ってください。

1 アプリストアから専用アプリをダウンロードする

2 車両のパワースイッチを ON にし、マルチメディアシステムとスマートフォンのペアリング登録を実施する

ペアリング登録については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照ください。

3 専用アプリを立ち上げ、車両登録を実施する

4 ペアリング登録された車両がスマートフォン画面に表示されるため、車両を選択する

新規車両登録画面では、車両の名前や画

像の変更が可能です。

メニュー画面から車両を追加することも可能です。

■ リモート機能の ON ／ OFF

1 マルチメディアディスプレイの⚙にタッチして、“Advanced Park” にタッチする

2 “Remote Park” の ON ／ OFF を選択する（初期設定は ON）

3 アドバンストパークメインスイッチを押す（→P.355）

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。

4 マルチメディアディスプレイに表示される🅿スイッチにタッチする

⚠注意

■リモート機能について

●電子キーをポケットなどに携帯した状態で、リモート機能を使用してください。

●電子キーとスマートフォンなどを重ねて持つと、電子キーが検知できない場合があります。

●デジタルキー設定車：デジタルキーのみの携帯では リモート機能は使用できません。必ず運転者が電子キーを携帯してください。

●車に乗り込んでリモート機能を終了する際は、キーが車内にあり全てのドアが閉まっていることを確認してください。
パワーイージーアクセスシステム設定車の場合、車に乗り込んでリモート機能を終了した後は、シートベルトを着用するかブレーキを踏むとシートリターン制御が実施されます。

●リモート機能終了または中止によりパワースイッチを OFF した場合、自動でドアが施錠しますが、ドアが開いている場合など施錠できないことがあります。リモート機能終了後は車両の状態を確認してください。

●リモート機能終了または中止により自動でドアが施錠した際、車内に人がいた場合は警報が鳴る場合があります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

●スマートエントリー & スタートシステムの機能が正常に働かないおそれのあるとき（→P.126）

●近くにインバータ式蛍光灯があるとき

■電波が及ぼす影響について

→P.129

■電子キーの電池の消耗について

●リモート機能使用中は、電子キーと電波の送受信を行うため、電池を消耗します。

●電池が切れたとき：→P.456

■センサーが正常に作動しないおそれのある状況（→P.313）

●リモート機能使用中は車両周辺の視界が制限されることがあります。リモート機能使用時は以下の確認を行ってください。

⚠注意

・車両と車両の周囲が最もよく見えること
・車両の進路に人／動物、または物体がないこと
・車両との適切な距離を維持し、運転者も他の道路使用者も危険にさらされるおそれがないこと
・車両の周囲には常に注意をして、危険の可能性がないこと
・必要に応じて、リモート機能を中止すること

アドバンストパークを中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはバックドアを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを電動格納した
- TRC ／ VSC を OFF にした
- TRC ／ VSC ／ ABS が作動した
- マルチテレインセレクトスイッチを押した
- けん引している
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディアディスプレイ上で “中止” にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディアディスプレイの指示に従うことでアシストを再開できます。
また、アシストが中断されている時にブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した

■ リモート機能のアシストが中止されるとき

次のような状況のとき、リモート

機能のアシストを中止します。

システムが解除されているため、キーを持って車両に乗り込み、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークのアシスト中止条件を満たした場合、一部例外としてドアを開いた場合や運転席シートベルトをはずした場合は中断します。
- リモート機能を起動してから 5 分以上が経過したとき
- 何も操作をせずに 3 分が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の走行操作をしても走行できずに、30 秒が経過したとき
- スマートフォン画面で車両の電源をオフにする操作を行ったとき
- 専用アプリが強制終了されたとき
- 急勾配のとき
- リモート機能中断中に車内で電子キーを検知したとき
- 外気温がマイナス10℃以下のとき

■ リモート機能のアシストが中断されるとき

次のとき、アシストを中断します。

- スマートフォンとマルチメディアシステムとの Bluetooth® 通信が切断されたとき
- スマートフォンの操作が中断されたとき
- 専用アプリのバックグラウンド移行（電話ボタンやホームボタン押下など）
- 電子キーが検知できないとき
- 前後の移動先に障害物があるとき
- アシスト走行中に車両が操作されたとき
- 走行中に電子キーの操作があったとき
- 走行中にドアの解錠操作があったとき
- 走行中にドアを開いたとき

アドバンストパークの設定を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押し（→P.355）、マルチメディアディスプレイの⚙にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ Remote Park

リモート機能の ON ／ OFF を設定できます。

■ 音声案内

音声案内の ON ／ OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐

車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能なときに、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能なときに、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

⚠ 注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

専用アプリの設定を変更する

■ クリアランスソナー警告音のON／OFF（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソナー警告音のON／OFFを設定できます。

■ クリアランスソナー警告音の音量調整（スマートフォンでの設定）

専用アプリからクリアランスソ

ナー警告音の音量を設定できます。

マルチメディアディスプレイに表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディアディスプレイに表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません” が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません” が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません” が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません” が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました” が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディアディスプレイの “再開” スイッチにタッチしてください。

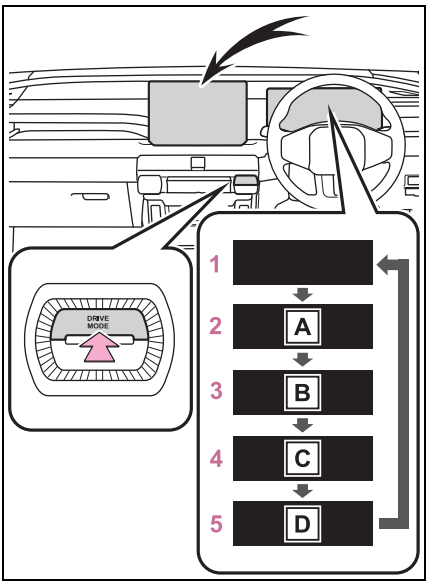
ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

走行モードを選択するには

ドライブモードセレクトスイッチを押すと、走行モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)

選択中のモードがマルチメディアディスプレイまたは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



A ECO

B SPORT

C SNOW

D CUSTOM

1 NORMAL モード

通常の走行に適しています。

2 ECO モード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン(暖房/冷房)の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

マルチインフォメーションディスプレイにエコドライブモード表示灯が点灯します。

3 SPORT モード

ステアリングのフィーリング、およびハイブリッドシステムの制御により、エンジンを高回転域で作動させることで、より応答良くかつ力強い加速を可能にします。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

マルチインフォメーションディスプレイにスポーツモード表示灯が点灯します。燃費向上および騒音低減のため、通常走行時はノーマルモード/エコドライブモードを使用してください。

4 SNOW モード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに適しているモードです。

SNOW モード表示灯が点灯します。

5 CUSTOM モード

マルチメディアディスプレイを操作して、パワートレーン制御・ステアリング制御・エアコンの各作動内容を設定することで、お好みの設定内容で走行することができます。(→P.548)

カスタムモード表示灯が点灯します。

知識

■ECO モード時のエアコン作動について

ECO モードは、暖房/冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

●エコ空調モードを OFF にする（→P.395）

●風量を調整する（→P.394）

●ECO モードを解除する

■走行モードの自動解除

●次のモードは、パワースイッチを OFF にすると自動で解除され、ノーマルモードにもどります。
・ SPORT モード
・ SNOW モード
・ CUSTOM モード

●次のモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）
・ NORMAL モード
・ ECO モード

■カスタマイズ機能

カスタムモードの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.548）

マルチテレインセレクト

マルチテレインセレクトは、路面状況に合わせて 4WD・ブレーキ・駆動力などを制御します。ぬかるんだ路面や砂地、または荒れた路面などを走行するときに、使用してください。

⚠警告

■マルチテレインセレクトをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●MUD&SAND 表示灯／ROCK&DIRT 表示灯が点灯していることを確認してから走行してください。

●マルチテレインセレクトは、車両の限界性能を高める装置ではありません。路面状況や走行ルートをあらかじめよく確認した上で、安全に注意して走行してください。

各モードの制御について

路面状況に合ったモードを選択してください。

■ MUD&SAND モード

タイヤが埋まるような砂地路や泥濘路などの走行抵抗の大きい路面での走行に適しています。

■ ROCK&DIRT モード

未舗装の林道のような凹凸のある路面での走行に適しています。

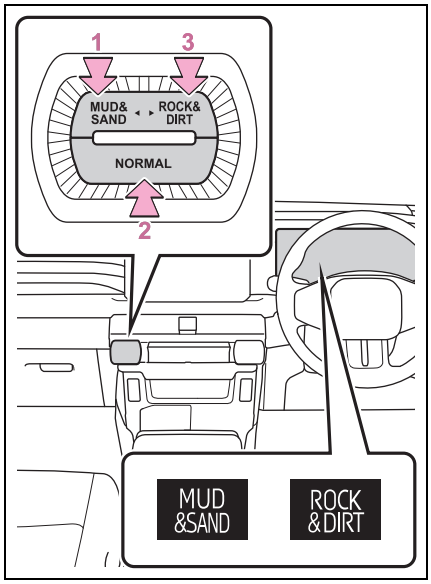
■ NORMAL モード

一般道での走行に適しています。

オフロード以外では、ノーマルモードで走行してください。

モードを切りかえるには

スイッチを押すと、次のようにモードが切りかわります。



1 MUD&SAND モードに切りかわる
2 NORMAL モードに切りかわる
3 ROCK&DIRT モードに切りかわる

モードが切りかわると、表示灯・警告灯の状態が次のようにかわります。

・ MUD & SAND モード

MUD&SAND モード表示灯・VSC OFF 表示灯（→P.72）・PCS 警告灯（→P.71）が点灯する。

・ ROCK&DIRT モード

ROCK&DIRT モード表示灯が点灯する。

・ NORMAL モード

上記の表示灯・警告灯が消灯する。

知識

■マルチテレインセレクトについて

●マルチテレインセレクトは悪路を走行する場合のみに使用し、通常走行時は NORMAL モードで走行してください

●MUD&SAND モード／ ROCK&DIRT モードは、悪路での走破性を高めるため、駆動力を最大限に利用できるように車両を制御します。そのため、NORMAL モードの状態にくらべて、十分な燃費性能が発揮できない場合があります。

■マルチテレインセレクトのブレーキ制御が作動したとき

マルチテレインセクトのブレーキ制御が作動すると、スリップ表示灯が点滅します。

■MUD＆SANDモード／ROCK＆DIRTモードの 4WD 制御について

それぞれ、各モードに切りかえたあと、次の車速をこえたときはノーマルモード時と同等の 4WD 制御になります。

●MUD＆SANDモード:車速が約40㎞/h 以上

●ROCK＆DIRTモード:車速が約25㎞/h 以上

上記の車速を下まわると、自動的に各モードの 4WD 制御に復帰します。

■TRC OFF 表示灯が点灯したとき

ブレーキが高温のため、マルチテレインセレクトのブレーキ制御が一時的に停止されています。

すみやかに安全な場所に停車して、マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えるまでお待ちください。

■自動でNORMALモードに切りかわるとき

次の場合は、自動で NORMAL モードに切りかわります。

●走行モードを切りかえたとき (→P.374)

●パワースイッチを OFF にしたとき

■MUD&SAND モード／ ROCK&DIRT モードでの走行中の振動や音

マルチテレインセレクトが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

●車体やハンドルに振動を感じる

●エンジンルームからの音が聞こえる

■スリップ表示灯が点灯しているとき

システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各モードの表示灯が点灯しないとき

NORMAL モード以外のモードを選択した際に、各モードの表示灯が点灯しないときは、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■マルチテレインセレクトを正常に作動させるために

マルチテレインセレクトを長時間連続で使用しないでください。走行状態によっては関連部品の負荷が高くなり、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

ダウンヒルアシストコントロールシステム

急な下り坂を一定の低速度で走行することができます。システムはブレーキペダルとアクセルペダルを操作しておらず、かつ車速が 30km/h 以下のときに使用できます。

⚠ 警告

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使うときは

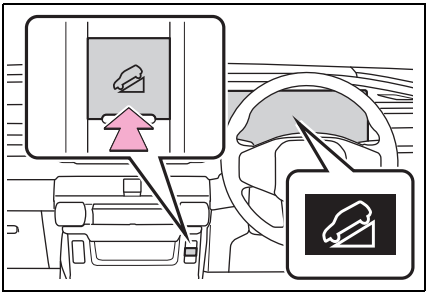
ダウンヒルアシストコントロールを過信しないでください。車両性能の限界を高めるためのものではないので、常に路面状況をよく確認した上で、安全運転を心がけてください。

ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

DAC スイッチを押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯すれば、作動可能状態です。

システムが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。このとき制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。また、作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。



ダウンヒルアシストコントロールシステムの解除

DAC スイッチをもう一度押す。

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、解除されると消灯します。

表示灯が点滅している最中はシステムは作動しません。システムを作動させたいときは、もう一度スイッチを押します。

知識

■ダウンヒルアシストコントロールシステムを使用するときは

ダウンヒルアシストコントロールシステムはシフトポジションが P または N 以外のときに作動します。

■ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、システムが作動しません
・シフトポジションが P にあるとき
・車速が約 30km/h をこえたとき
・ブレーキシステムが異常過熱したとき

●次の場合は、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅しますが、システムは作動します
・シフトポジションが N にあるとき

ダウンヒルアシストコントロールシステムは徐々に作動を解除します。解除中はダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅します。

■長時間の使用について

ダウンヒルアシストコントロールシステムが長時間作動すると、ブレーキシステムが異常過熱するおそれがあるため、ブザーが鳴り機能が自動的に解除されます。この場合、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点滅し、TRC OFF 表示灯が点灯します。（通常走行は可能です）

しばらくして、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯にかわり、TRC OFF 表示灯が消えれば、システムが使用可能となります。

■作動音や振動について

●エンジン始動時や発進直後に、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ダウンヒルアシストコントロールシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■システムに異常があるときは

次の場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●パワースイッチをONにしてもダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●DAC スイッチを押しても、ダウンヒルアシストコントロールシステム表示灯が点灯しない

●スリップ表示灯が点灯する

警告

■正しく作動しないおそれのある状況

次の路面を走行する場合、車両を一定の低速度に維持できないことがあり、乗員が重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●泥、砂利の道路などのすべりやすい路面

●凍結路

●未舗装路

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS ・TRC ・VSC ・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側にふくらむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four（電気式 4WD システム）

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

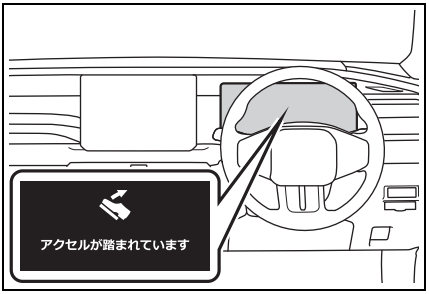
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



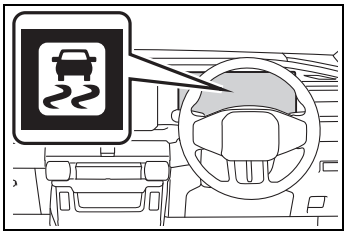
■ ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）

旋回開始時に前外輪および後内輪にブレーキ制御をおこなうことで、急なロール姿勢の変化を抑え、快適な姿勢を保てるようにサポートします。

知識

■TRC・VSC・ABS・マルチテレインセレクトが作動しているとき

TRC・VSC・ABS・マルチテレインセレクトが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

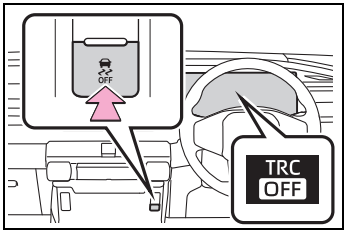


■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す



TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に OFF を押し 3 秒以上保持する

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が

点灯します。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュセーフティ（PCS）の一部機能の作動も停止します。（→P.228）

■ OFF を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●前進での上り坂発進時にシフトポジションが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトポジションが R のとき
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない
- ●パワースイッチが ON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●前進での上り坂発進時にシフトポジションが D などの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトポジションが R 以外のとき
- ●アクセルペダルを踏んだ
- ●ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した
- ●パワースイッチが OFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- ●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー”という音）
- ●ハイブリッドシステム停止後1～2分後経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- ●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側にふくらんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 0 ㎞ /h になったとき

●作動して一定時間経過したとき

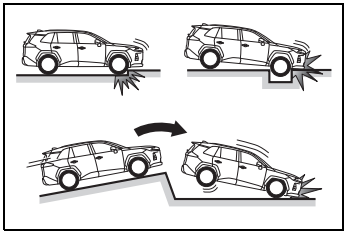
●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※とき

※アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）の作動条件

次のときシステムが作動します。

●車速が約 40km/h 以上

●ブレーキペダルを踏んでいない

●一定以上のハンドル操作をシステムが検出したとき

●スリップ表示灯が点灯、点滅していないとき（ABS や VSC,TRC など車両安定化制御中は作動しません）

■ブレーキ車両姿勢制御（ロール制御）の解除条件

次のときシステムが解除されます。

●VSC/TRC が作動禁止状態

●ブレーキペダルを踏んでいる（レーダークルーズコントロールなどの自動ブレーキ中も作動しません）

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

● “4WD システム高温 高負荷走行を控えてください”

4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム高温 2WD 走行に切替わりました”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。※

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検”

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

⚠警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

⚠ 警告

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストがひんぱんに作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
(→P.529)
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

⚠警告

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。（→P.374）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→P.78）

シフトポジションの変更

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。シフトポジションを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早

めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON ／ OFF

必要時以外は冷房・除湿スイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）※ を使用してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.448）

※ Adventure グレード専用ホイール装着の 235/60R18 タイヤ・235/50R20 タイヤは、周辺部品と十分なすき間が確保できないため、タイヤチェーンを取り付けないでください。

知識

■タイヤチェーンについて（Adventure グレード専用ホイール装着の 235/60R18 タイヤ・235/50R20 タイヤ装着車を除く）

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後0.5 ～ 1.0km走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーンを装着するとき（Adventure グレード専用ホイール装着の 235/60R18 タイヤ・235/50R20 タイヤ装着車を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 警告

●レーントレーシングアシスト（LTA）を使用しない

⚠ 注意

■タイヤチェーンの使用について（Adventure グレード専用ホイール装着の 235/60R18 タイヤ・235/50R20 タイヤ装着車を除く）

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげになるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

⚠ 注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。

また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム

・アドバンストパーク（リモート機能付）★

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※ をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトポジションを P にした状態でシフトポジションが動かないことを確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

5-1. エアコンの使い方
“All auto” 制御 392
オートエアコン 393
ステアリングヒーター／シートヒーター & フロントシートベンチレーション 400
5-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 403
5-3. 収納装備
収納装備一覧 406
ラゲージルーム内装備 410
5-4. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 415
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム 425
正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは 434

“All auto” 制御★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、シートヒーターやシートベンチレーション・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

“All auto” 制御を使用する

オプション画面（→P.397）で“All auto” を（作動）にする

エアコン・シートヒーター／シートベンチレーション・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作しても、操作した機能以外のオート設定は継続します。

各システムの作動について

■ エアコン（→P.393）

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ シートヒーター／シートベンチレーション（→P.400）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気が OFF になることもあります。助手席のシートヒーターやシートベンチレーションは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ ステアリングヒーター（→P.400）

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

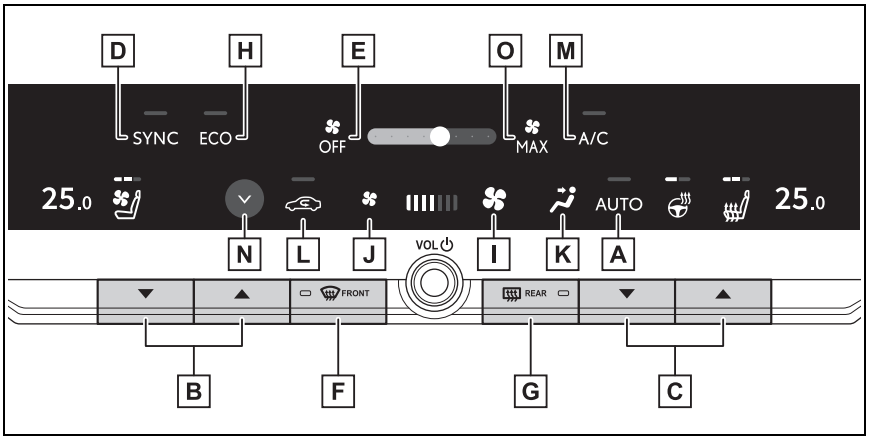
■シートヒーター／シートベンチレーションの作動について

シートヒーター／シートベンチレーションのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

オートエアコン

AUTO スイッチを ON にすることで、設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



A AUTO スイッチ

B 助手席側温度調整スイッチ

C 運転席側温度調整スイッチ

D SYNC スイッチ

E OFF スイッチ

F フロントデフロスタースイッチ

G リヤウインドウデフォッガー& ミラーヒータースイッチ

H エコ空調スイッチ

I 風量増スイッチ

J 風量減スイッチ

K 吹き出し口切りかえスイッチ

L 内外気切りかえスイッチ

M 冷房・除湿スイッチ

N エアコンオプション画面表示スイッチ

O MAX スイッチ

■ 温度を調整する

SYNC スイッチのインジケーターが点灯しているときは、運転席側の設定温度調整に合わせて助手席側の設定温度が調整されます。

SYNC スイッチのインジケーターが消灯しているときに、SYNC スイッチを選択すると、SYNC スイッチのインジケーターが点灯し、助手席側の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

助手席側温度調整スイッチを操作すると SYNC スイッチのインジケーターが消灯し、助手席側の設定温度だけを調整できます。冷房・除湿スイッチのインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

設定温度表示部にタッチして操作バーを表示させ、“＋”または“－”部を押すか、操作バー上の丸表示を上下にスライドすることでも、設定温度を調整できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは、風量増スイッチを選択する、または風量調整スイッチのアイコンを右へスライドさせます。風量を減らすときは風量減スイッチを選択する、または風量調整スイッチのアイコンを左へスライドさせます。

OFF スイッチを選択すると、ファンが止まります。

風量調整スイッチのアイコンを一番左にスライドさせることでも、ファンを停止することができます。

MAX スイッチを選択すると、風量が最大になります。

風量調整スイッチのアイコンを右にいっぱいまでにスライドさせることでも、風量を最大にすることができます。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを選択する

選択すると吹き出し口が切りかわります。

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風／ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

内外気切りかえスイッチを選択す

る

スイッチを選択するたびに内気循環／外気導入が切りかわります。内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 冷房・除湿機能を使用する

冷房・除湿スイッチを選択する

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを選択する

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

知識

■ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。
エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する
・エコ空調モードを解除する

●エコドライブモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でもエコ空調スイッチを選択するとエコ空調モードを解除することができます。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動で外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生する臭いを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.451

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを選択する
2 温度を設定する
3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを選択する

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

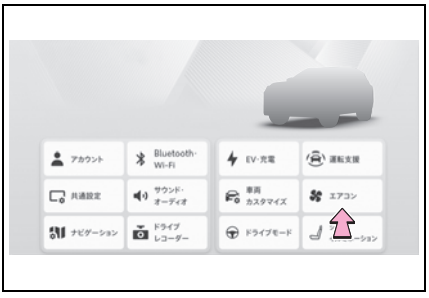
エアコン操作画面について

■ 表示のしかた

▶ メインメニュー

1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから⚙を選択する

2 サブメニューの “エアコン” を選択する

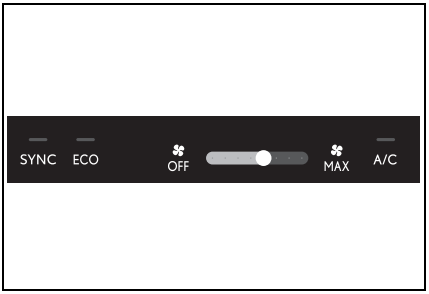


3 各画面を選択する

▶ オプション画面

エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.393）

■ エアコン操作オプション画面



各機能の ON ／ OFF を切りかえる

選択するたびに、機能の ON ／ OFF が切りかわります。

機能が ON のとき、インジケーターが点灯します。

・ A/C：冷房・除湿機能（→P.395）
・ ECO：エコ空調モード（→P.395）
・ SYNC：SYNC モード（→P.394）

■ オプション画面

各機能の◯（作動）／◯（非作動）を切りかえることができます。



A “All auto” 制御★（→P.392）

B S-FLOW モード（→P.399）

C ウインドシールドデアイサー（→P.398）

D ナノイー X※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

知識

■ナノイー X※1, 2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。

この装置は運転席側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます※3。

●ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。

●ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。

次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
・ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2ナノイー X は、ナノイーにくらべて、効果のもとである OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

⚠警告

■ナノイー X 発生装置について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠注意

■ナノイー X 発生装置の損傷を防ぐために

運転席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくおそれがあります。

ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

1 エアコンオプション画面表示スイッチを選択する（→P.393）

2 オプション画面を選択する（→P.397）

3 “デアイサー” スイッチを選択する

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

⚠警告

■ウインドシールドデアイサーが作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）を使用する

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

オプション画面のスイッチの（作動）／（非作動）を選択し、送風を切りかえます。

- （作動）：フロント席のみへの送風
- （非作動）：全席への送風

知識

■送風の自動制御について

- 室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤドアを開けると、全席への送風に切りかわります。

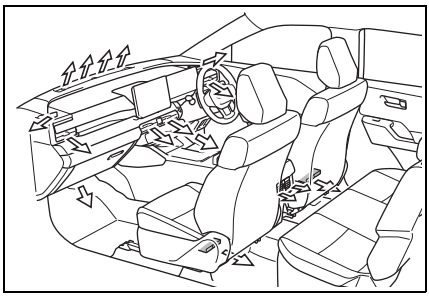
■送風を自動制御にもどすには

1 スイッチが（非作動）の状態でパワースイッチを OFF にする。
2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

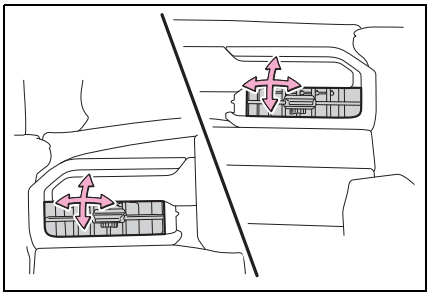
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



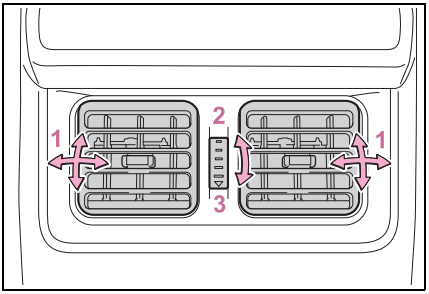
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

風向きの調整



● リヤ

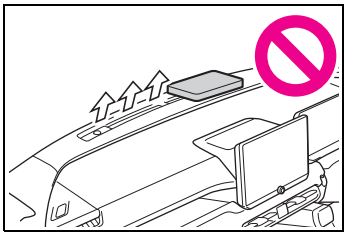


1 風向きの調整
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター／シートヒーター & フロントシートベンチレーション★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● フロントシートベンチレーション

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

⚠ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

■異常過熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

⚠注意

■シートヒーター & シートベンチレーションの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーターを使うには

マルチメディアディスプレイの AUTO（“All auto” 装着車）または（“All auto” 非装着車）を選択する。

スイッチを選択すると、作動状態が次のように切りかわります。

“All auto” 装着車：AUTO→強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

“All auto” 非装着車：強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

知識

■ステアリングヒーターの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

ステアリングヒーターの温度を設定できます。（→P.531）

シートヒーターを使うには

■ フロントシート

マルチメディアディスプレイの を選択し、を選択する（“All auto” 装着車）または（“All auto” 非装着車）を選択する。

スイッチを選択すると、作動状態が次のように切りかわります。

“All auto” 装着車：AUTO→強（3 個点灯）→中（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

“All auto” 非装着車：強（2 個点灯）→弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（赤）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

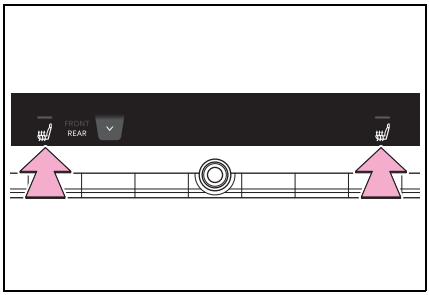
■ リヤシート★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ マルチメディアディスプレイで操作するには（フロント席）

マルチメディアディスプレイの REAR を選択し、を選択する。

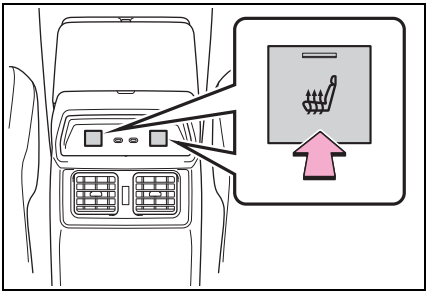
リヤシートヒーター作動中はレベルインジケーター（赤）が点灯します。



▶ シートヒータースイッチで操作するには（リヤ席）

スイッチを押してシステムの ON ／ OFF を切りかえる

リヤシートヒーター作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■シートヒーターの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■カスタマイズ機能

フロントシートヒーターの温度を設定できます。（→P.531）

シートベンチレーション

マルチメディアディスプレイの を選択し、 を選択する。

スイッチを選択すると、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は、スイッチ上のインジケーターと、レベルインジケーター（青）が点灯します。AUTO 作動中は “AUTO” が点灯します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

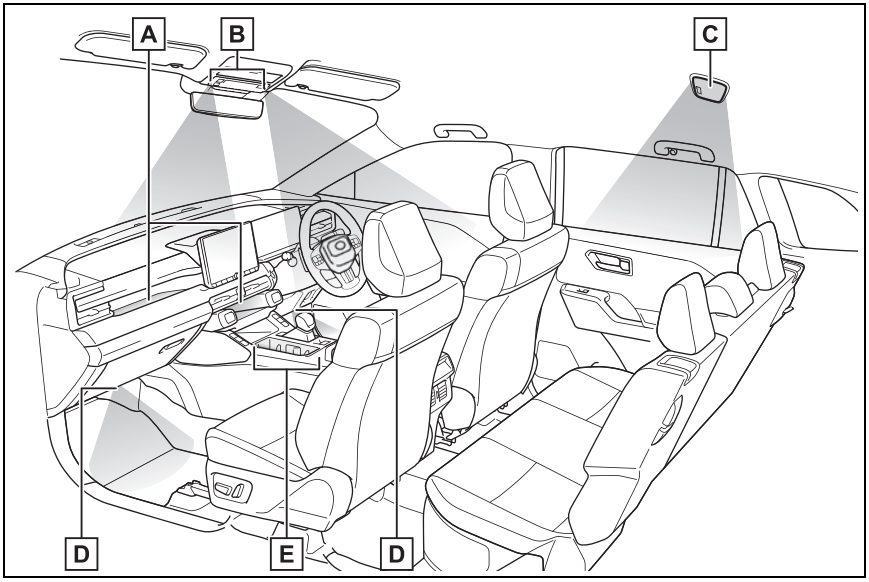
フロントシートベンチレーションが強のとき、エアコンの風量に応じてフロントシートベンチレーションの風量が強くなります。

■カスタマイズ機能

フロントシートベンチレーションの風量を設定できます。（→P.531）

室内灯一覧

室内灯の位置



A オープントレイ照明★※

B フロントインテリアランプ・パーソナルランプ（→P.404, 405）

C リヤインテリアランプ（→P.404）

D 足元照明※

E フロントカップホルダー照明※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※いずれかのドアを解錠したとき点灯し、シフトポジションが P 以外のときに明るさが暗くなります。

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合は、約 10 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります）

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.531）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

インテリアランプを操作するには

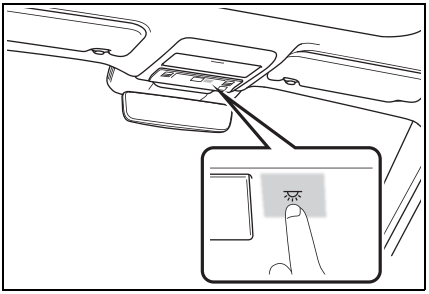
■ フロントインテリアランプ

スイッチにタッチする

タッチするたびに点灯・消灯が切りかわります。

リヤインテリアランプも連動して点灯・消灯する

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



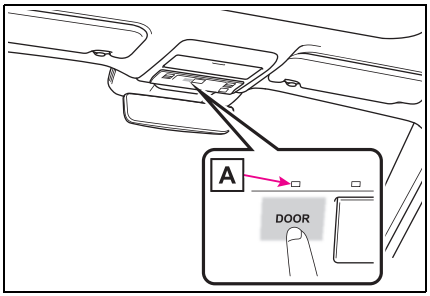
■ ドアポジション（ドア連動）の ON ／ OFF を切りかえる

ドア連動スイッチにタッチする

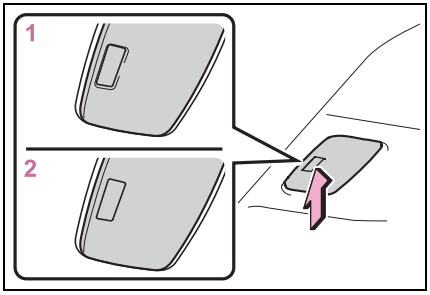
ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

タッチするたびにドアポジションの ON ／ OFF が切りかわります。

ドアポジションが ON のとき、スイッチ上の表示灯 A が点灯します。



■ リヤインテリアランプ



1 ランプを点灯する

2 ドア連動を ON にする（ドアポジション）

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

知識

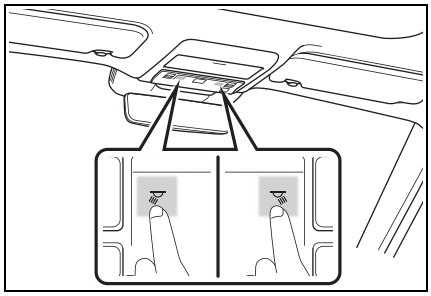
■フロントインテリアランプのスイッチ・ドア連動スイッチが正常に反応しない状況について

- スイッチに水や汚れなどが付着しているとき
- ぬれた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

パーソナルランプを操作するには

スイッチにタッチする

タッチするたびに点灯・消灯が切りかわります。



知識

■パーソナルランプのスイッチが正常に反応しない状況について

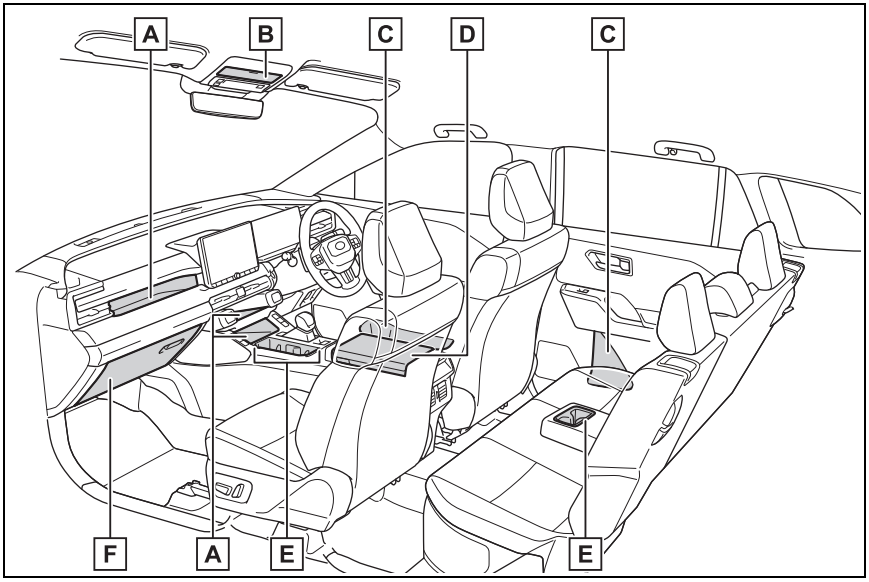
●スイッチに水や汚れなどが付着しているとき

●ぬれた手で操作したとき

●手袋などを装着しているとき

収納装備一覧

収納装備の位置



A オープントレイ（→P.409）

B 小物入れ（→P.409）

C ボトルホルダー（→P.408）

D コンソールボックス（→P.407）

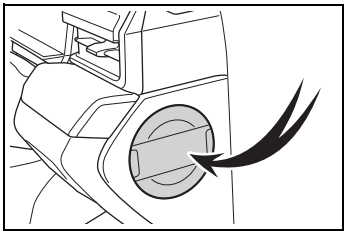
E カップホルダー（→P.408）

F グローブボックス（→P.407）

知識

■販売店オプション用品取り付けスペースについて

運転席側インストルメントパネルの側面にある丸い凹みは、販売店オプション用品の取り付け専用スペースです。取り付け可能な用品などの詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。



⚠ 警告

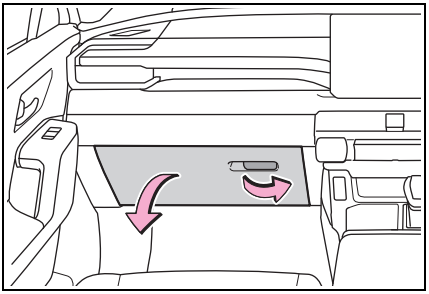
■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックスを使うには

レバーを引いて開ける



⚠ 警告

■グローブボックスを使用しないときは

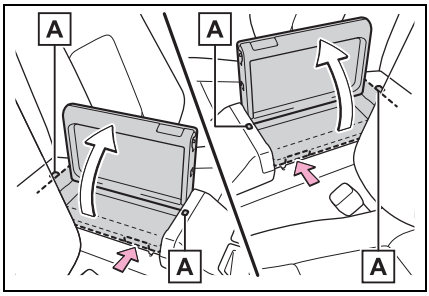
グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックスを使うには

ボタンを押してフタを開ける

左右どちらからでも開けることができます。

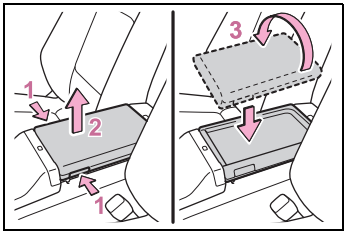
ロック解除時はインジケーター[A]が赤表示になります。



知識

■コンソールボックストレイについて

停車時のみ、コンソールボックスのフタを取りはずし、裏返して取り付けることで、コンソールボックストレイとして使用することができます。



1　フタを解錠する

両側のボタンを同時に押して解錠する

2　フタをはずす

3　フタを裏返して取り付ける

警告

■走行中の警告

●コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●走行時にトレイ上部にもの置かないでください。
急ブレーキや急旋回時などに、置いていたものが体にあたったり、飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

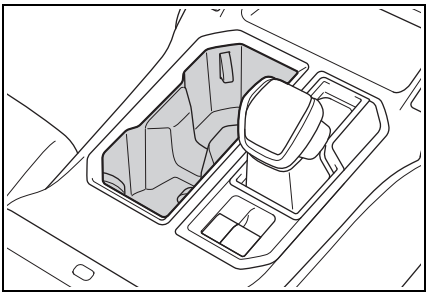
■コンソールボックスの損傷を防ぐために

●コンソールボックスが開いた状態で、開いている方向に無理な力をかけないでください。

●取りはずしてもとにもどすときは無理な力をかけずに、位置に合わせてフタをはめてください。

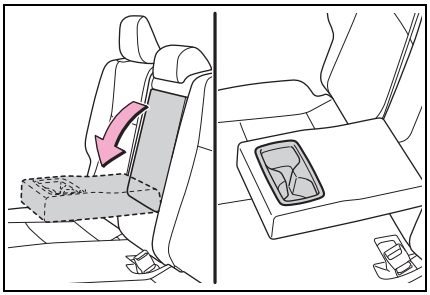
カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

アームレストを手前に倒す



知識

■カップホルダーを使用しないときは（フロント）

カップホルダー内を清掃するために、仕切り部を取りはずすことができます。

警告

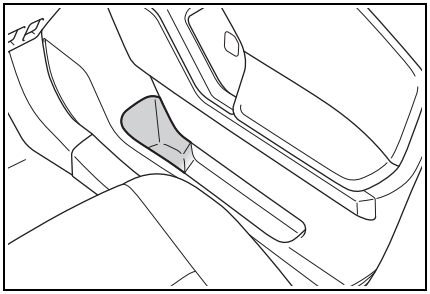
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

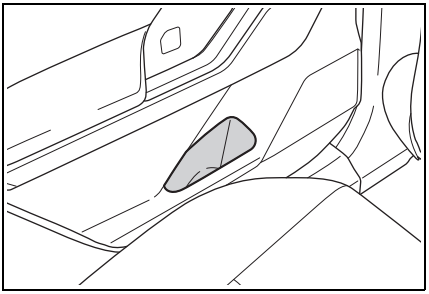
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

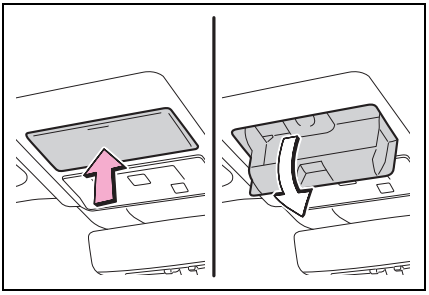
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れを使うには

フタを押して開ける



警告

■小物入れを使用しないときは

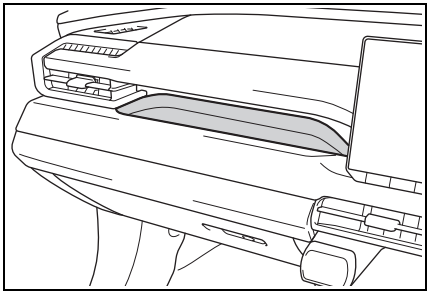
小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■収納してはいけないもの

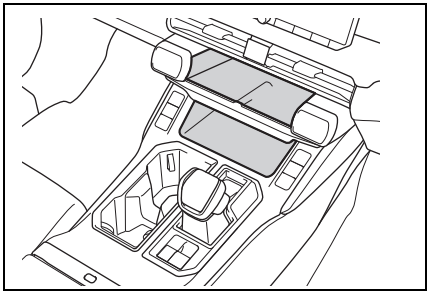
小物入れには 200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、フタが開き収納されているものが飛び出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

オープントレイを使うには

■ 助手席



■ フロントコンソール



ワイヤレス充電器（おくだけ充電）は、P.417 を参照してください。

⚠ 警告

■収納してはいけないもの

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛びだし、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

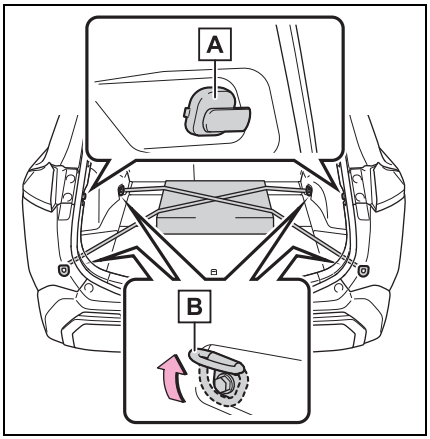
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



A アッパーフック（ユーティリティフック）

B ロアフック

⚠ 警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

⚠ 注意

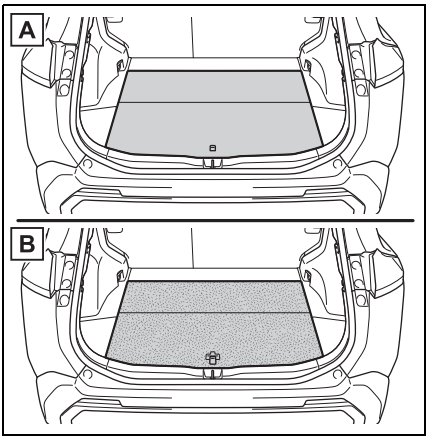
■アッパーフック（ユーティリティフック）の破損を防ぐために

4 kg以上のものをアッパーフック（ユーティリティフック）に吊り下げないでください。

デッキボードを使うには

■ デッキボードの表裏を入れかえる

用途に応じて、デッキボードの裏面（樹脂面）を上側にして使用することもできます。

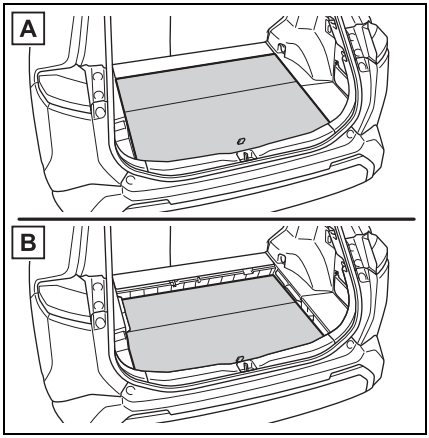


A 表面

B 裏面（樹脂面）

■ 床面の高さを調節する

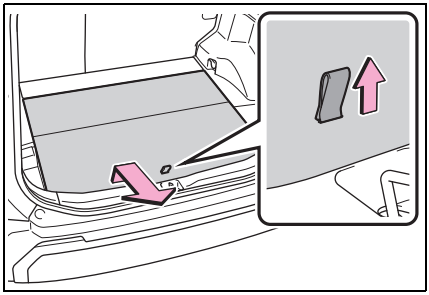
デッキボードのセット位置を変更することで、床面の高さを調節できます。



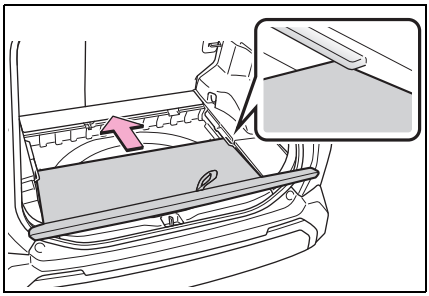
A 上段

B 下段

1 ストラップを引き、デッキボードを取りはずす



2 デッキボードの端を下段の溝に入れて前方へスライドさせる



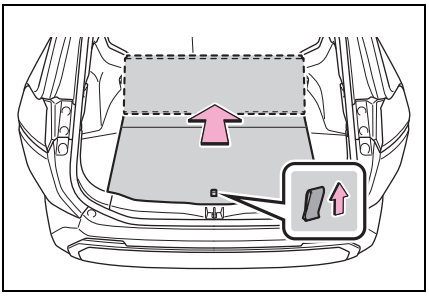
■ デッキボードを立てる

工具の取り出しやデッキアンダー

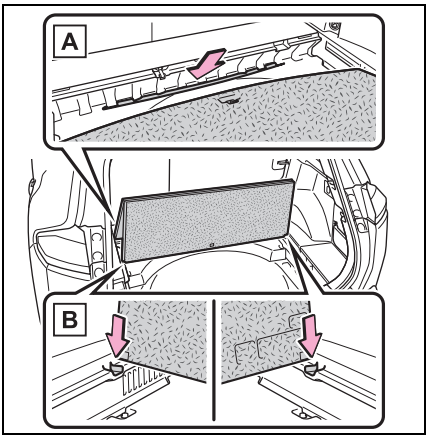
トレイ★を使用するときなど、デッキボードを立てた状態で保持することができます。

デッキボードを裏面（樹脂面）で使用しているときは、デッキボードを裏返してください。

1 ストラップを引いてデッキボードを持ち上げて、前方に折りたたむ



2 デッキボードの先端を溝（A）に入れ、デッキボードを立てた状態にしてデッキボードの端を溝（B）に挿し込む



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。指をはさむなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

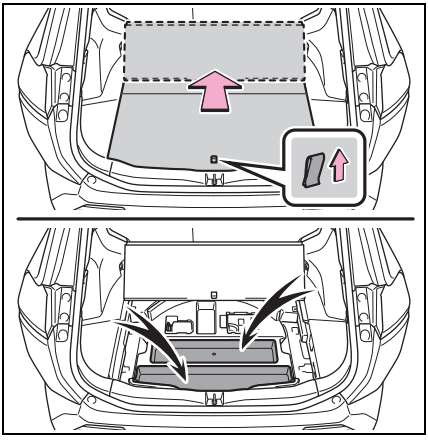
デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

デッキアンダートレイ★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ストラップを引き上げ、車両前方に向けてデッキボードを折りたたむ

デッキボードを裏面（樹脂面）で使用しているときは、デッキボードを取りはずしてください。

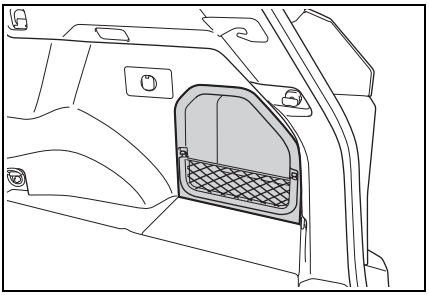


⚠ 警告

■走行中の警告

デッキボードを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、デッキアンダートレイに収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

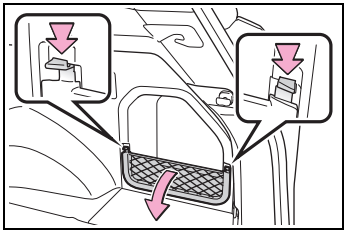
ラゲージサイドトレイを使うには



知識

■ラゲージサイドトレイのセパレーターについて

セパレーターを取りはずすことができます。

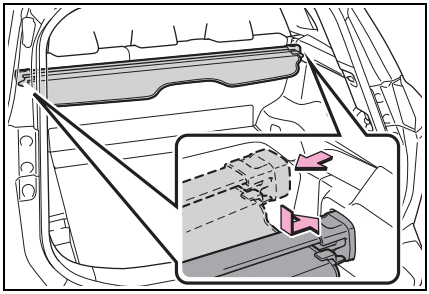


ツメを押しながら取りはずす

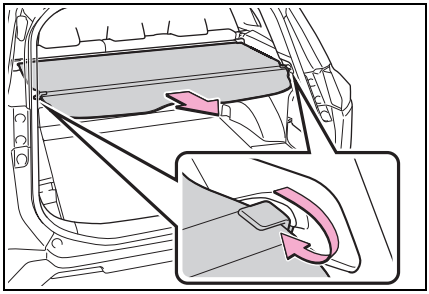
トノカバーを使うには

■ トノカバーを取り付けるときは

1 左右の先端を押しながら、取り付け用の溝にはめる

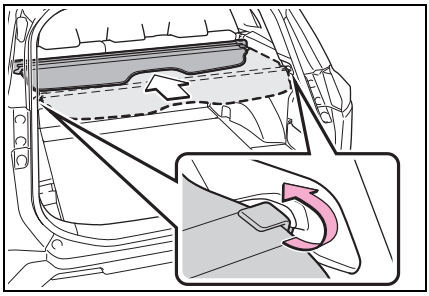


2 トノカバーを引き出して、左右のホルダーにツメをかける

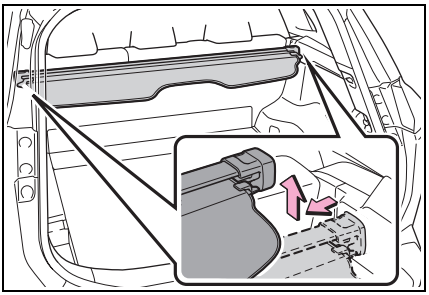


■ トノカバーを取りはずすときは

1 トノカバーを左右のホルダーから取りはずし、巻き取る



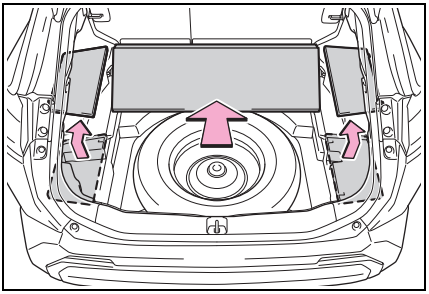
2 左右の先端を引き、取り付け用の溝からはずす



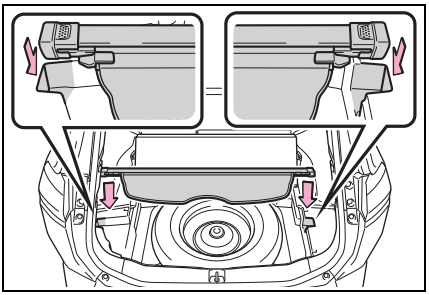
■ 収納するときは

1 ストラップを引き上げ、サイドデッキボードを取りはずす

デッキボードを裏面（樹脂面）で使用しているときは、デッキボードを取りはずしてください。



2 左右の先端を押しながら、取り付け用の溝にはめる



⚠ 警告

■ トノカバーを取り付けるとき

トノカバーがしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■ トノカバーを使用するときは

- トノカバーの上には何も置かないでください。
  急ブレーキや急旋回時などに、置いたものが飛んだり、乗員に当たったりするおそれがあります。また、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノカバーの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。
  トノカバーが破損しお子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

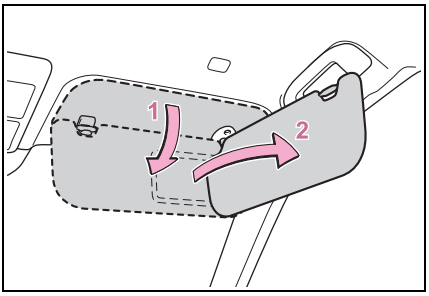
⚠ 注意

■ トノカバーの損傷を防ぐために

トノカバーの上には何も置かないでください。トノカバーを巻き取るときに置いたものが挟まり、トノカバーの損傷・異音の発生につながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには



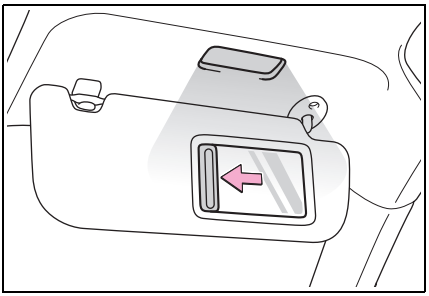
1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティミラーランプが点灯したままのときは、約 10 分後に自動消灯します。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

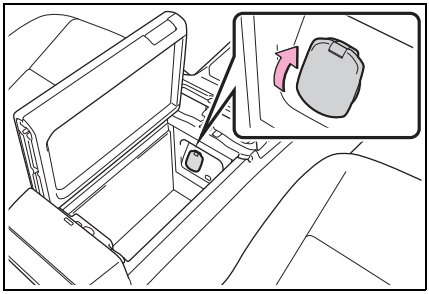
アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10 A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

■ コンソールボックス内

フタを開ける



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチが ACC 、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。
接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■アクセサリーソケットを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12 V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

充電用 USB Type-C 端子を使うには

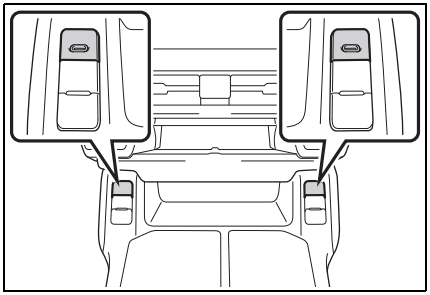
15W：DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。

45W：DC15V/3A（消費電力 45W）の電源としてお使いください。

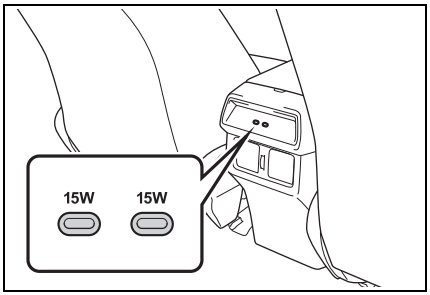
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■ 充電用USB Type-C端子を使用するには

▶ フロント



▶ リヤ（15W のみ）



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC 、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

- 15W：DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
  45W：DC15V/3A（消費電力 45W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）を使うには

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

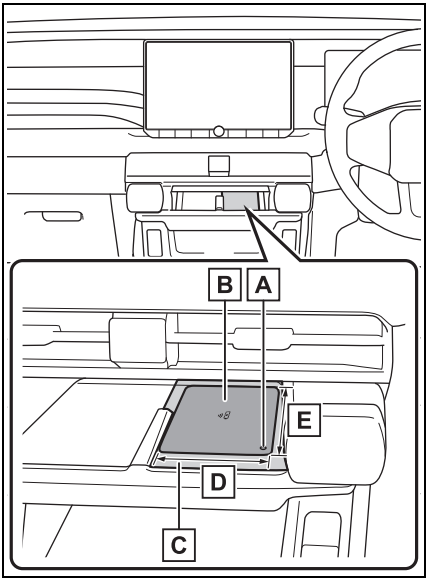
「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の商標です。

「Qi」ID：14561

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 充電エリア※

C 充電トレイ

D 約 82 mm

E 約 150 mm

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電トレイの中央付近にある充電エリア内を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアから外れた場合、充電は自動的に停止します。

また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

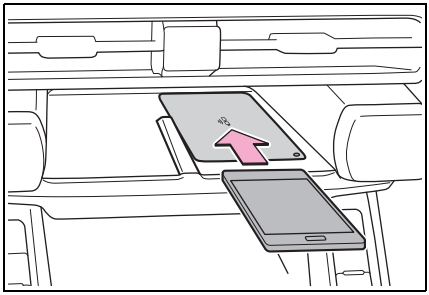
■ 充電する

充電トレイに携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、面機器の中央が充電エリアの中央にくるように置いください。携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央にくるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。充電が行われないときは、作動表示灯が緑色と橙色の点灯をゆるやかにくり返し、充電コイルの作動音がくり返し聞こえることがあります。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

■ 急速充電機能

● 次の携帯機器に対しては急速充電が行えます。

・ WPC の Ver1.3.3 に準拠した、急速充電に対応した携帯機器

・ 7.5W 充電に対応した iOS を搭載している iPhone（iPhone 8 以降の機種）

・ Galaxy 独自の急速充電規格に対応した携帯機器

● 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ACC OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電不可状態）※1
	待機中（充電可能状態）※2
	充電完了時 ※3
橙（点灯）	充電中
橙 2 回点滅後、点灯	充電周波数切替

※1スマートエントリー&スタートシステムがキー検出を行う条件が成立している状態

※2待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電エリアに置いても、加熱されることはありません。

※3携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	車両とワイヤレス充電器の通信不良 **→ ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。** パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.172）
緑（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	ワイヤレス充電器の通信異常 **→ ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。** パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.172）

作動表示灯	想定される原因・対処方法
緑（点灯）	スマートエントリー＆スタートシステムが電子キーの検出を行っている **→ 電子キーの検出が完了するのをお待ちください。**
	異物検知： ①充電前に充電エリア内に金属製の異物があり、異物検知機能が働いた **→ 充電エリア内にある異物を取り除いてください。** ② Qi2 や MagSafe の金属リングの付いたケースを装着していて、充電が停止した **→ ケースを取りはずす**
	携帯機器のずれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が大きい、又はケースが厚いため、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた **→ 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒後に充電トレイの中央付近に置き直してください。 また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。**
	携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した **→ 携帯機器の仕様のため、設定を確認してください。**
	電子キーの検出状態が継続： 車両カスタマイズによってマルチメディア機能を利用しているとき、電子キーが確定されず検出状態が継続された **→ パワースイッチ押下により ACC または ON モードにし、電子キーの照合を完了させてください。**
	ムービングメカの異常： ムービングメカの異常でコイルが動かなくなった **→ 置き直ししても、コイルの稼働音が聞こえない場合は、トヨタ販売店にご相談ください**
	Qi 非対応端末： 置いても、緑点灯のままかわらない **→ ご使用の端末が Qi の BPP または EPP に対応しているか WPC の Web サイトをご確認ください**

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止 **→ いったん充電を停止し、携帯機器を充電エリアから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。**

知識

■使用条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器（Qi2 の MPP 仕様を除く）を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 および 2.0.0 以降に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

●ただし、以下の携帯機器に対しては、5W をこえる充電に対応しています。

・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
・ Galaxy は、Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
・ WPC 規格の Ver1.3.3 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■スマートエントリー&スタートシステムの使用について

電子キーが車外に持ち出されたときなど、充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行うために、一時的に充電を停止します。

■AM 受信連動機能

AM 放送を試聴しているときに充電を行い、ノイズ音が混入した場合は、手動による周波数切りかえを実施してください。

1 充電中の端末をトレイから降ろす
2 作動表示灯が緑点灯にかわり、ノイズ音が消えたことを確認する
3 トレイから降ろした端末をもどし、作動表示灯が橙色に 2 回点滅し、点灯するか確認する
2 回点滅し、ノイズ音が消えた場合、周波数切りかえは完了です。
4 2 回点滅せず、橙色点灯し、ノイズ音が出ている場合は、再度手順 1 からの操作を行い 2 回点滅することを確認する

■充電中についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるためファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、ワイヤレス充電器の電源 ON 中にパワースイッチを押して ACC や ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は “カチッ” や “ジー” と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.442

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

●携帯機器が満充電のとき

●有線接続で携帯機器を充電中のとき

●充電エリアと携帯機器の間に異物があるとき

●充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき

●炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35 ℃以上になっているとき

●携帯機器の充電面を上にして置いたとき

●折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアから外れているとき

●携帯機器が充電トレイよりも大きいとき

●携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上あるとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のようなものが挟まれているとき
・厚みがあるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション
・指リング（含むポップソケット）やストラップなどのアクセサリー
・レンズ部に凸形状があるケースやカバー
・レンズ面を保護するカバー
・滑り止めマット

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア
・金属製のデコレーション（含む MagSafe ／ Qi2 用の金属製リングシール）
・金属製のケースやカバー（含む MagSafe ／ Qi2 用の金属製リングが付いたもの）
・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●2つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

●S ペン（Galaxy 端末付属のタッチペン）内蔵の端末（Note シリーズ等）をご使用の場合、S ペンを挿入したままトレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■スマートフォンの OS を更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■商標について

●iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のラ

イセンスにもとづき使用されています。

●Galaxy は、Samsung Electronics Co.,Ltd. の商標または登録商標です。

⚠ 警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

●充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない

●充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

●携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側に、アルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない

MagSafe ／ Qi2 用の後付け用金属製リングおよび、純正品以外のケースも発熱する危険性があるため、ご使用を控えてください。

●小物入れがわりにものを置かない

●強い力や衝撃をかけない

●分解や改造、取りはずしをしない

●指定された携帯機器以外は充電しない

●磁気を帯びたものを近付けない

●充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない

●布などをかぶせて充電しない

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

⚠ 注意

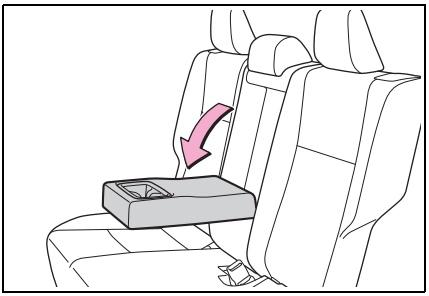
●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用する



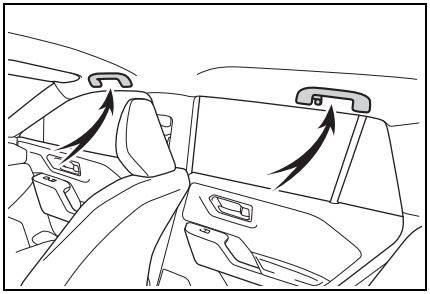
⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

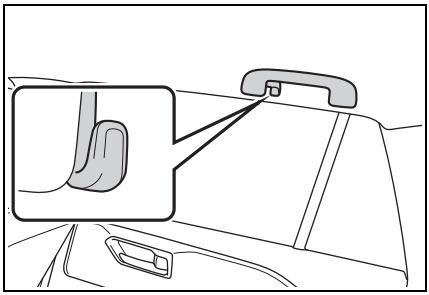
⚠ 注意

■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

リヤドアの上にあるアシストグリップには、コートフックが付いています。



⚠警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）・非常時給電システム

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.426）
災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.427）

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。（→P.427）

燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

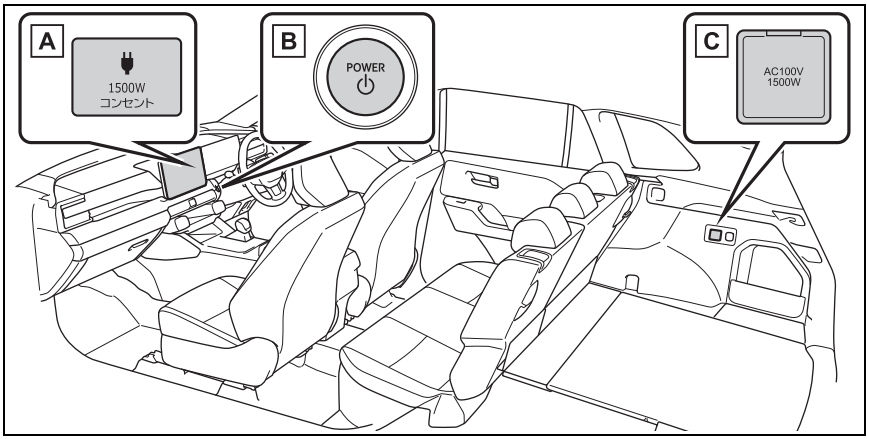
必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- ボンネットが閉まっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



A “1500W コンセント” スイッチ

B パワースイッチ（→P.172）

C コンセント

アクセサリーコンセントを使用するには

■ コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.172）

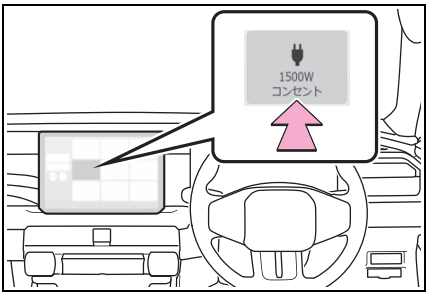
2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、マルチメディアディスプレイのクイックコントロール画面 ※ を表示する

※ 詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

3 “1500W コンセント” にタッチする

“1500W コンセント” をタッチするたびにコンセントの ON ／ OFF が切り

かわります。



4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.428）

■ コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 マルチメディアディスプレイのクイックコントロール画面※を表示する

※詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

3 “1500W コンセント” にタッチする

4 コンセントから電源プラグを取りはずす

5 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

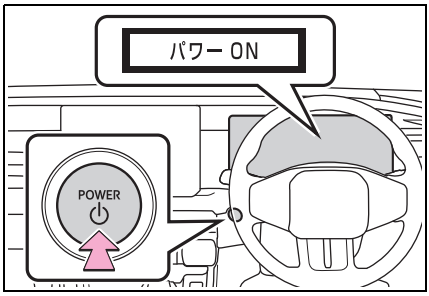
■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする（→P.175）
（パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す※）

※ ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。（→P.175）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



2 マルチメディアディスプレイのクイックコントロール画面※を表示する

※詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

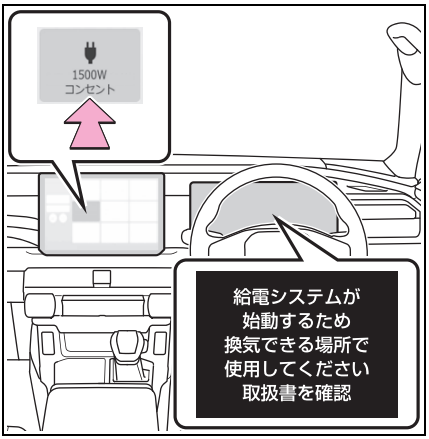
3 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、“1500W コンセント” に、約 1 秒間隔で 3 回連続タッチする。

マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

タッチの間隔が 2 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

“1500W コンセント” を 4 回以上連続でタッチすると、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直して

ください。



4 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む（→P.428）

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源をOFFにする

2 マルチメディアディスプレイのクイックコントロール※画面を表示する

※詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

3 “1500W コンセント” にタッチする

4 コンセントから電源プラグを取りはずす

5 コンセントのフタを閉める

6 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

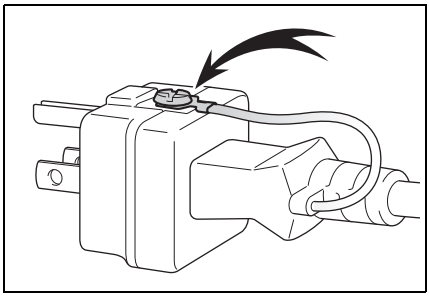
1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

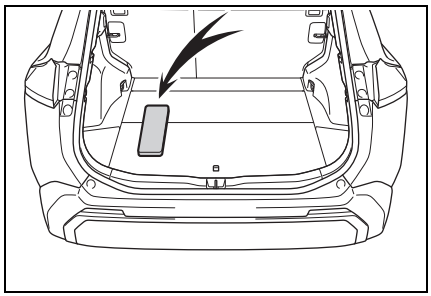
アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用するとき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

外部給電アタッチメントは、ラゲージルームに搭載されています。



知識

■アクセサリーコンセント・非常時給電システムについて

●AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。

●複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●コンセントの使用中、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントの使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

●非常時給電システムの使用中は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリーコンセント・非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●メカニカルキー（→P.512）でドアを

施錠・解錠することができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに「キーが見つかりません キーの所在を確認してください」と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプについては、P.196 を参照してください。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

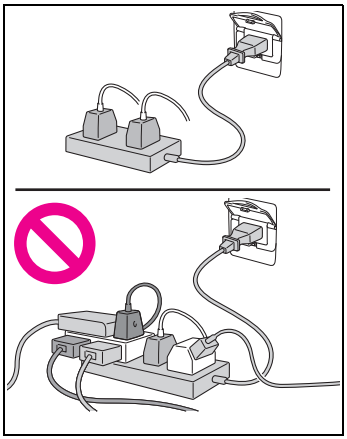
●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

⚠警告

●電気製品の電源プラグをコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■アクセサリーコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

●給電中は車内にとどまらないでください。
給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

●ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。
給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

■電源周波数について

●工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●コンセントの使用中は車両から離れないでください。

⚠警告

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

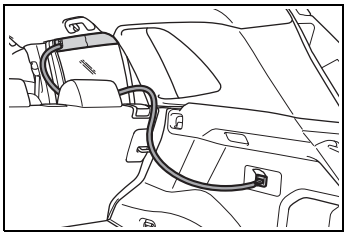
●傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の浸入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



・誤って車両を発進させない

●給油や洗車は行わないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。

●状況によってはエンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。

●エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。過熱した排気管で発火するおそれがあります。

●腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。

●駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

■走行中に使用するとき

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

・落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合

・やけどなどのおそれがある場合
（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

⚠ 警告

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

■ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■駐車中または停車中に使用するとき

●長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

●特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からにおいが発生したりする場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント（AC100V 1500W）または非常時給電システムが使用できないときは

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池などが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池などが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。“1500W コンセント” が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W をこえている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度“1500W コンセント” をタッチしてください。

考えられる原因	対処法
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 “1500W コンセント” をタッチしてください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。(→P.172) マルチインフォメーションディスプレイに “パワー ON” と表示されていることを確認してください。
“1500W コンセント” をタッチする間隔が長すぎる、または “1500W コンセント” を 3 回より多くタッチしている	“1500W コンセント” は 2 秒以上間隔を開けずに 3 回連続でタッチしてください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池などが高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池などが低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W をこえている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

■ “シフトポジション切りかえにより給電停止しました” と表示されたとき（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車）

考えられる原因	対処法
シフトポジションが P から切りかわった	シフトポジションを P にもどしたあと、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 438
内装の手入れ 442

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 444
ガレージジャッキ 446
ウォッシャー液の補充 447
タイヤについて 448
タイヤ空気圧について 450
エアコンフィルターの交換 451
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 453
電子キーの電池交換 456
ヒューズの点検・交換 458
電球（バルブ）の交換 461

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うとき

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：自動洗車機を利用するときなど、N ポジションに保持したままにする必要があるときは、P.183を参照してください。

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.126）

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール非装着車）

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない

・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ホイール・ホイールキャップについて（マット塗装ホイール装着車）

マット塗装のホイール・ホイールキャップの場合はお手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

●水洗いで早めに汚れを落としてください。
汚れがひどい場合は、中性洗剤を薄めて使用してください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流し、やわらかい布で水滴をふき取ってください。

●スポンジまたはやわらかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。

●マット塗装の損傷や艶が出ることを防ぐために、次のことをお守りください。
・コーティング剤やワックスは使用しない
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・タイヤクリーナやタイヤワックスを付着させない
・乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
・自動洗車機を使用する際は、ホイール専用ブラシでの洗浄は行わない
・高圧式スプレーガンやスチームクリーナは使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠警告

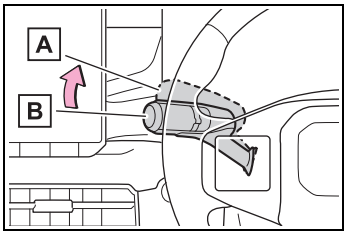
■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■フロントバンパー・リヤバンパーについて

フロントバンパーまたはリヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- BSM
- 後方車両への接近警報
- RCTA
- 安心降車アシスト
- 後方車両接近告知
- 周辺車両接近時サポート
- セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）
- PKSB
- クリアランスソナー

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - 海岸地帯を走行したあと
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

⚠注意

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■自動洗車機を使用するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水をあてないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

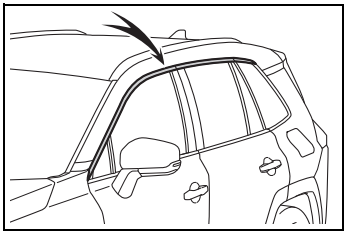
●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

■黒色ステンレスモール★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

図で示す部品には、黒色ステンレスの表面処理を施しています。

塗装の損傷を防ぐため、研磨剤などで表面をこすらないでください。塗装がムラになることがあります。



内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1 % にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.63) 駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.34) 電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器（おくだけ充電）(→P.417) をぬらさないでください。
  発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
  - シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

⚠ 注意

・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

・ ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.218)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

⚠ 注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

合成皮革部分の手入れをするには

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る

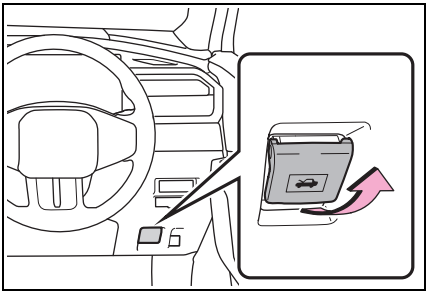
● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

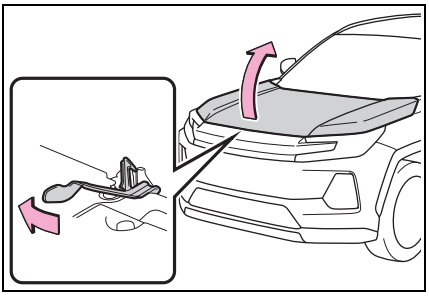
ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

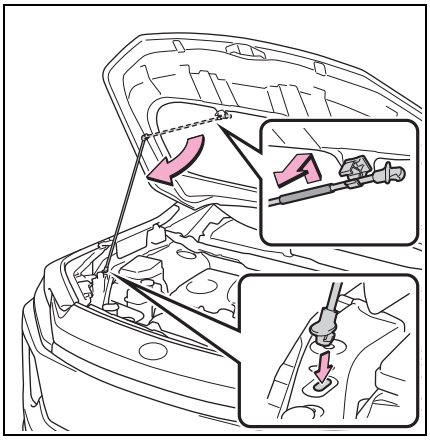
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引いてボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

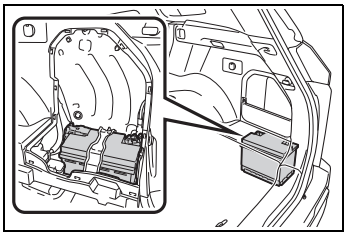


知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルーム（運転席側）のラゲージサイドトレイ内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→P.514）



⚠警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

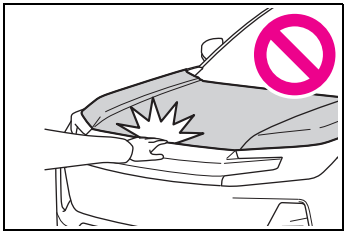
- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.444

⚠注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

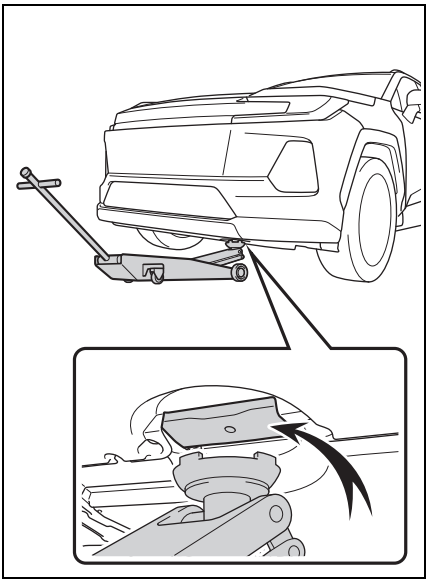
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

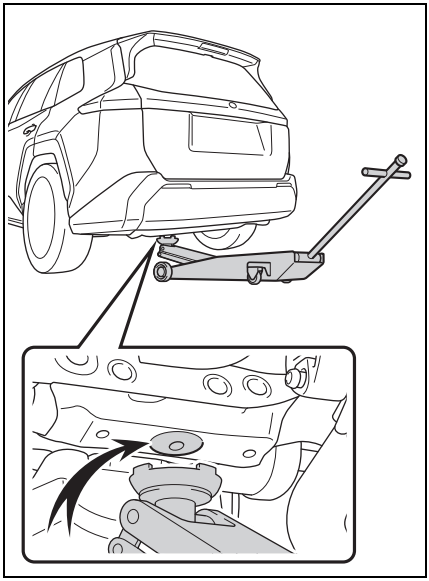
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



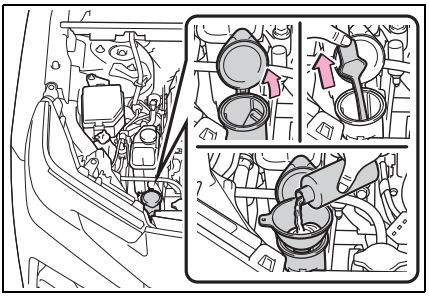
■ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充するには

液面がLOWの位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充してください。

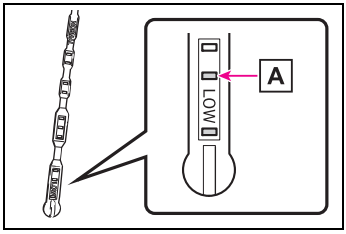


知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。



A 現在の液量

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステムが作動しているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。目安として、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

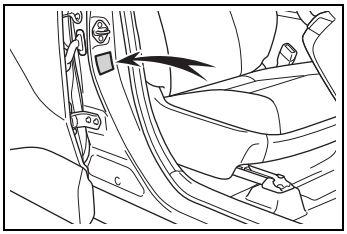
前輪：260kPa（2.6kg/cm^2）※

後輪：260kPa（2.6kg/cm^2）※

応急用★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

⚠ 警告

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ交換時の注意

ねじ部にオイルやグリースを塗らないでください。ナット部を締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

⚠ 注意

■走行中に空気もれが起こったら

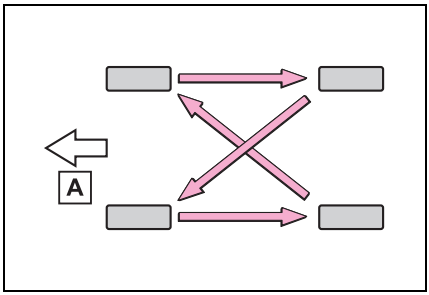
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



A 前側

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→P.529)

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

⚠警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

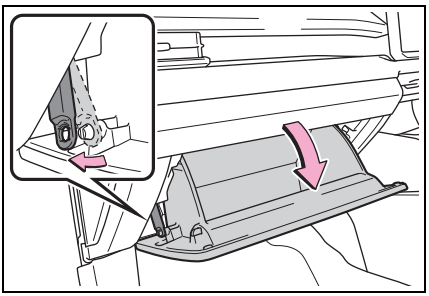
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

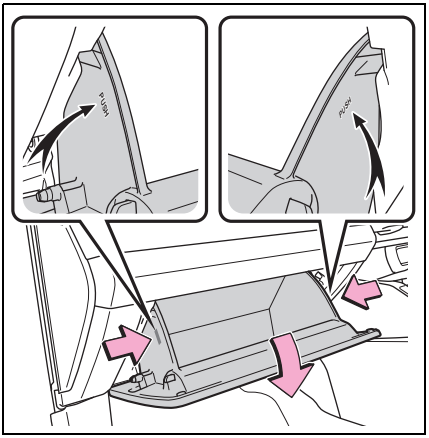
交換するには

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

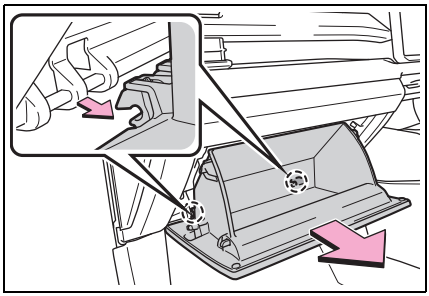


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる

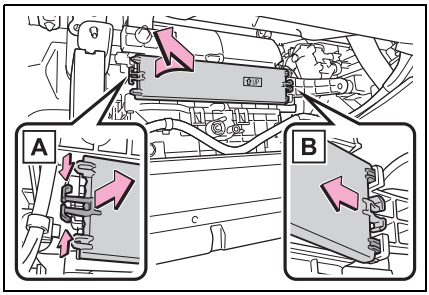


4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

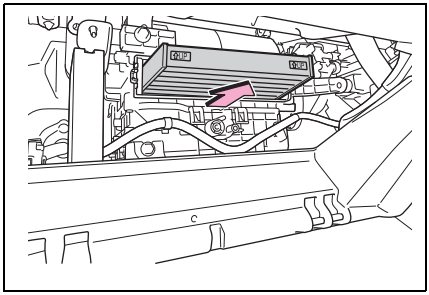
軽く引いても結合部がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす



6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する



7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20000km[10000km※1]ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

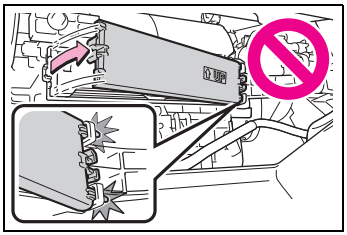
- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→P.451）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの損傷を防ぐために

フィルターカバーを取りはずす際にフィルターカバーのツメに無理な力が加わらないように注意してください。ツメが損傷するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。

ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000 km ごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは

すみやかに清掃してください。
警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

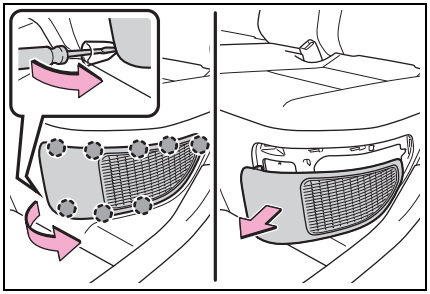
清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 吸入口カバーを取りはずす

図の位置にドライバーを挿し込んで引き、図で示す 8ヶ所のツメをはずしてから、吸入口カバーを手前に引いて取りはずします。

傷が付くのを防ぐため、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。

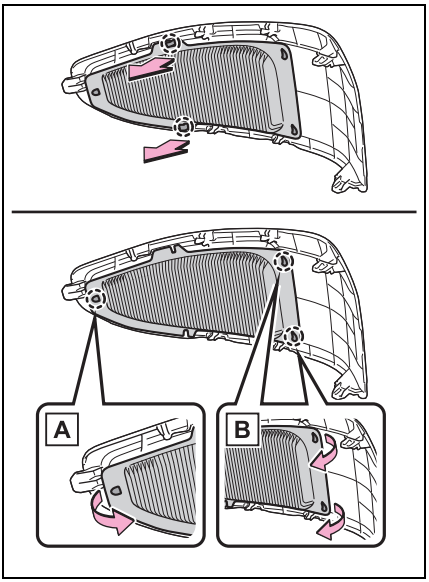


3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

中央部（2ヶ所）から、A 部、B 部の順番でツメの固定をはずします。

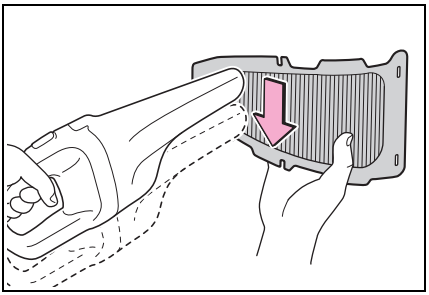
吸入口カバーにほこりがたまっていると

きは、掃除機などで取り除いてください。



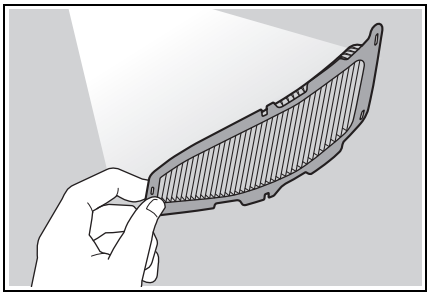
4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

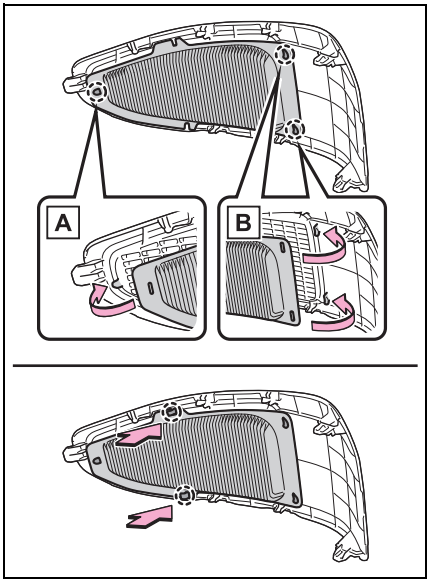
ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



6 吸入口カバーにフィルターを取り付ける

B 部から A 部、中央部（2ヶ所）の順番で、吸入口カバーのツメに取り付けます。

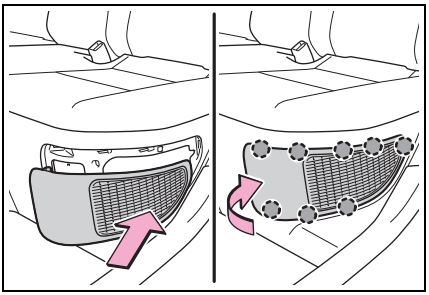
フィルターがずれたり変形したりしていないことを確認してください。



7 吸入口カバーを取り付ける

吸入口カバー右端のツメを挿し込んでから、図で示す 8ヶ所のツメを取り付けま

す。



▶ マルチインフォメーションディスプレイに「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」と表示されていたとき

8 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

⚠警告

■吸入口の清掃をするときは

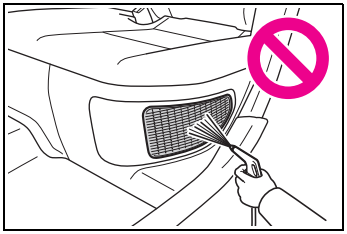
- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。
フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない

⚠ 注意

- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

知識

■電子キーの電池が消耗しているとき

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

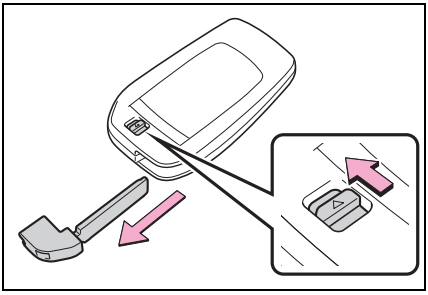
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

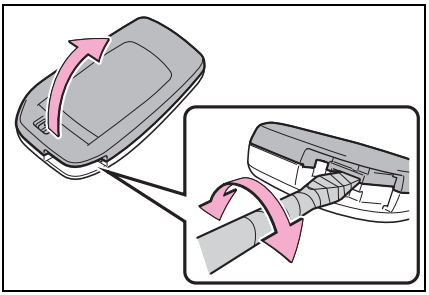
1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

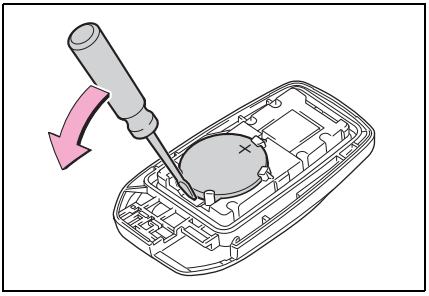


3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

⚠警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

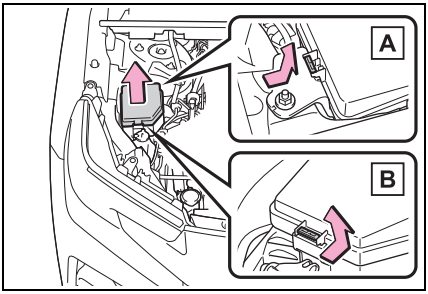
ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

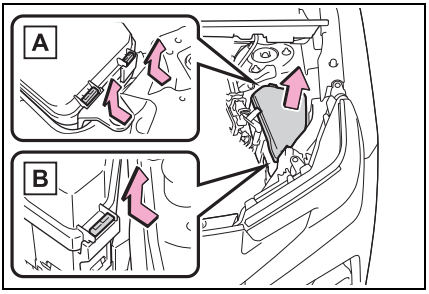
▶ エンジンルーム（運転席側）

ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



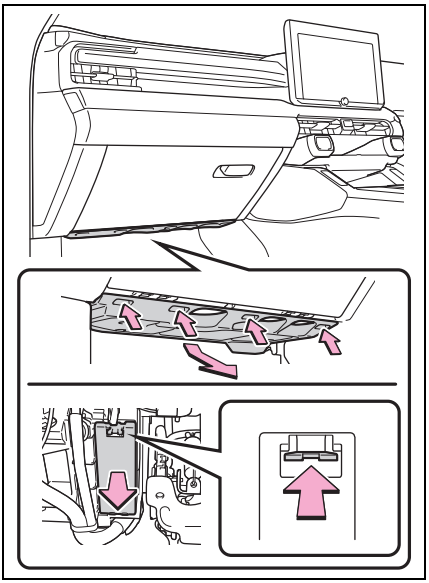
▶ エンジンルーム（助手席側）

ツメ A と B を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。



▶ 助手席足元

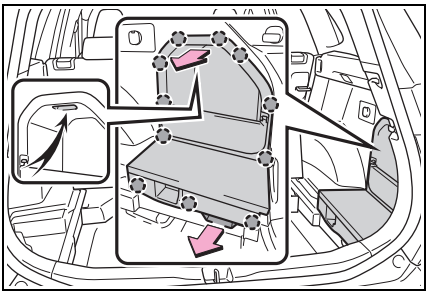
足元のカバーを取りはずします。



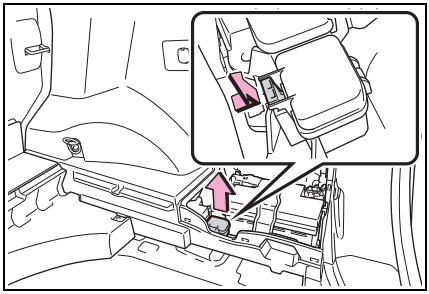
▶ ラゲージルーム

デッキボードを引き上げます。
(→P.411)

11 ケ所ツメを引いてはずし、サイドデッキボードを取りはずします。

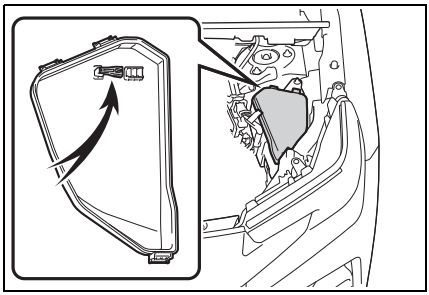


ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げます。



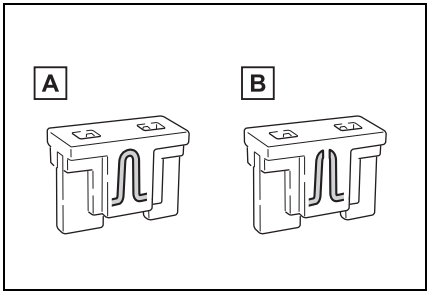
3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.461)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンルームのヒューズボックスの損傷を防ぐために

ヒューズボックスを開けるときは、ツメのロックを完全にはずしてからカバーを持ち上げてください。ツメが損傷するおそれがあります。

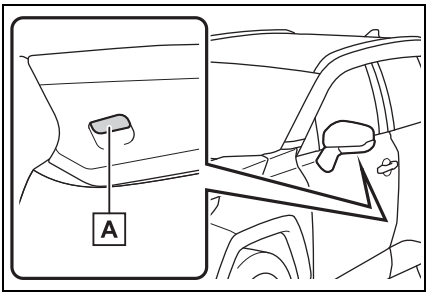
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P.530）

電球の位置



A ドアミラー足元照明

■ トヨタ販売店で交換が必要なランプ

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 方向指示灯／非常点滅灯
- 車幅灯
- デイタイムランニングランプ
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- リヤフォグランプ
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

知識

■LED ランプについて

ドアミラー足元照明以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ランプなどの電装部品を交換するとき

→P.460

電球交換をするには

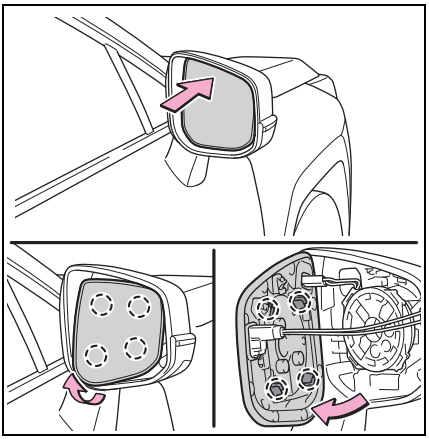
■ ドアミラー足元照明

1 ミラーの上端を押して鏡面を上向きにし、ミラー裏側のツメ（4ヶ所）をはずす

ミラーを手前に引き出すようにして、2ヶ所ずつツメをはずします。

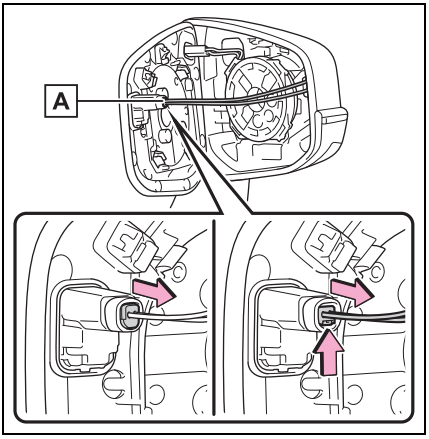
ミラーが急に落下しないよう、慎重に作

業してください。



2 裏面にあるコネクター[A]のカバーをはずし、コネクター[A]を取りはずす

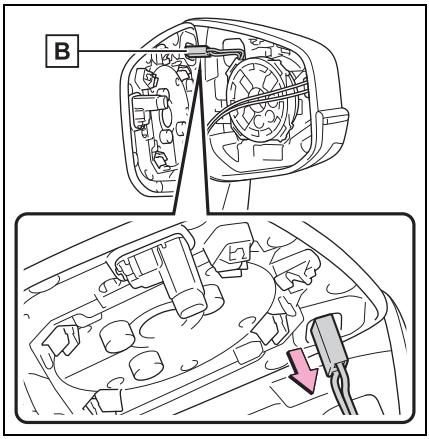
組み付け時にコネクターの接続方向を間違えないように位置を確認しておきます。



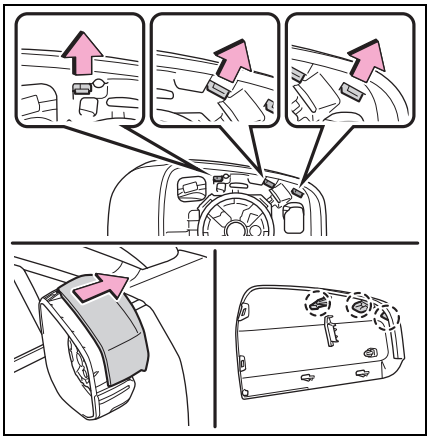
3 裏面にあるコネクター[B]の接続をはずし、ミラーを取りはずす

組み付け時にコネクターの接続方向を間違えないように位置を確認しておきます。

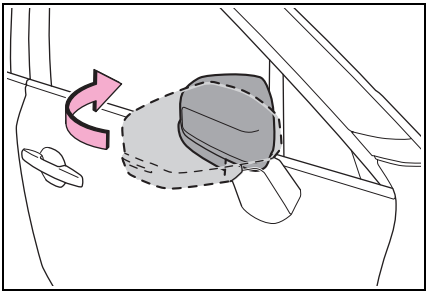
ミラーを落とさないように、慎重に作業してください。



4 ミラーカバーの裏側のツメをはずして、ミラーカバーを取りはずす



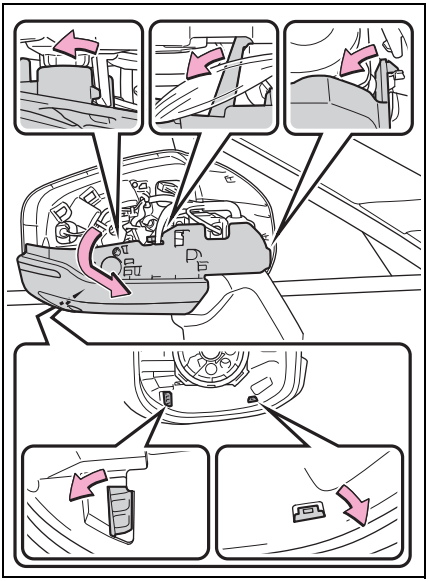
5 ランプユニットを取りはずす前に、ミラー本体を格納する



6 ランプユニットを取りはずす

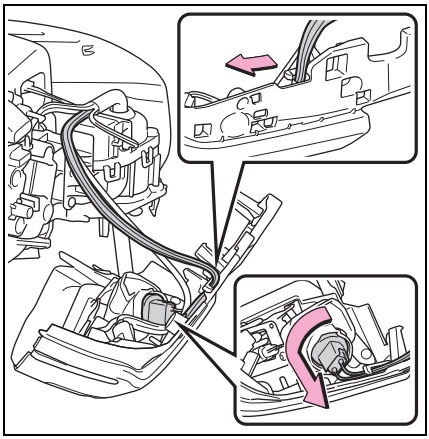
マイナスドライバーでツメ（5ヶ所）をはずします。

ツメを損傷しないよう、慎重に作業してください。

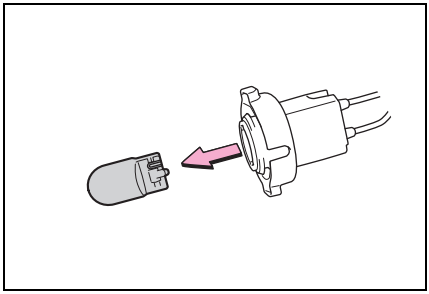


7 ソケットを取りはずす

ソケットをまわす前に、配線をクリップからはずします。



8 電球を取りはずす



9 新しい電球を取り付け、ソケットをランプユニットに挿し込み右にまわして取り付ける

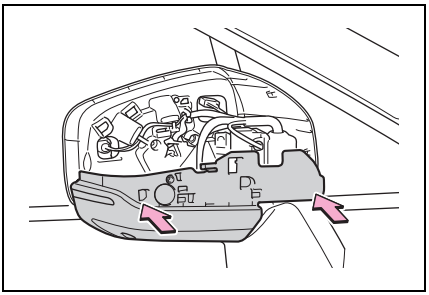
ソケットを取り付けたあとは、配線をも

とどおりにクリップで固定します。

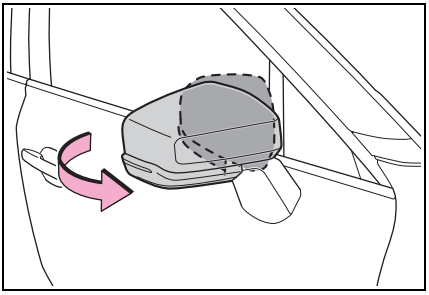


10ランプユニットを取り付ける

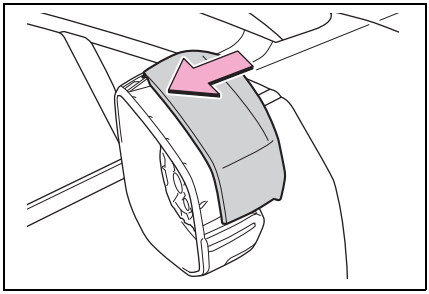
ランプユニットの裏側のツメ（5ヶ所）がしっかりとかみ合っていることを確認してください。



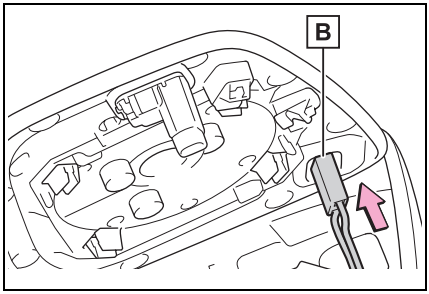
11ミラー本体を復帰状態にもどす



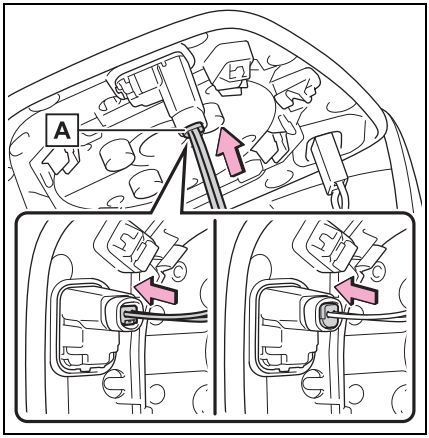
12ミラーカバーを取り付ける



13ミラーのコネクター[B]を接続する



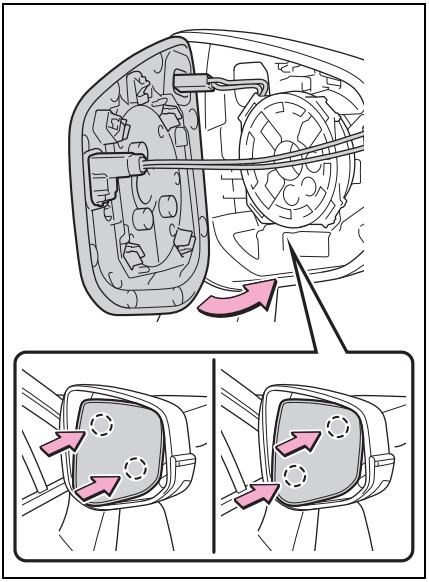
14ミラーのコネクター[A]を接続して、コネクター[A]のカバーを取り付ける



15 ツメの位置を合わせ、対角の2ヶ所ずつ順番に鏡面を押し込んで、ミラーを固定する

必ず図の順序で2ヶ所を同時に押し込み、パチッと音がしてツメが固定されたことを確認してください。

音が確認できないときは、無理に押し込まずにいったんミラーをはずして、ツメの位置が合っているか確認してください。



⚠警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

●発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 468
非常点滅灯（ハザードランプ） 469
発炎筒 469
車両を緊急停止するには 470
水没・冠水したときは 471
車中泊が必要なときは 472

7-2. 緊急時の対処法

けん引について 473
警告灯がついたときは 478
警告メッセージが表示されたときは 485
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車） 492
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車） 503
ハイブリッドシステムが始動できないときは 509
キーをなくしたときは 511
給油扉が開かないときは 511
電子キーが正常に働かないときは 512
補機バッテリーがあがったときは 514
オーバーヒートしたときは 519
スタックしたときは 522

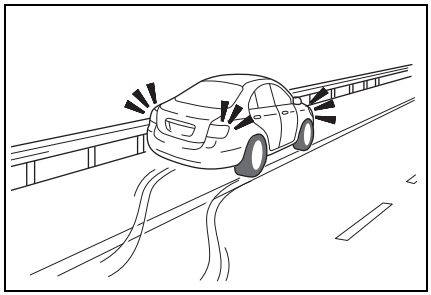
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.469）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

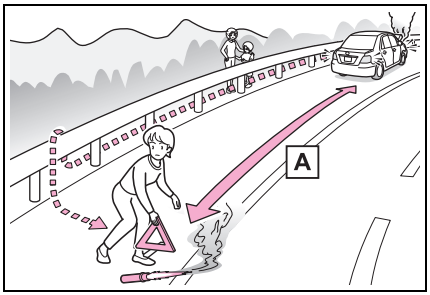
1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.469）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

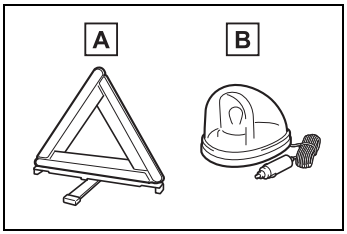
3 その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

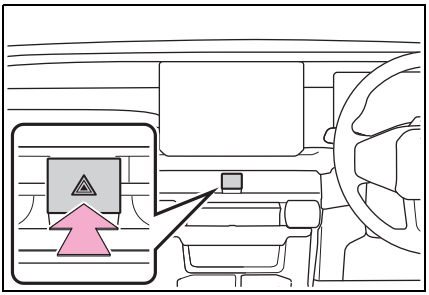
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

●ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります

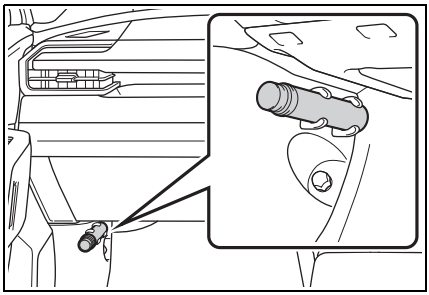
●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります）

発炎筒

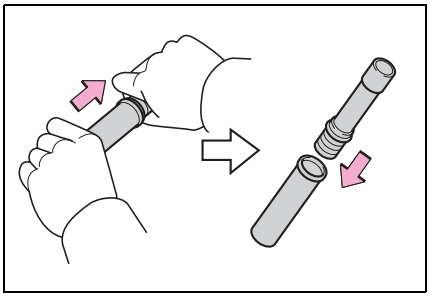
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



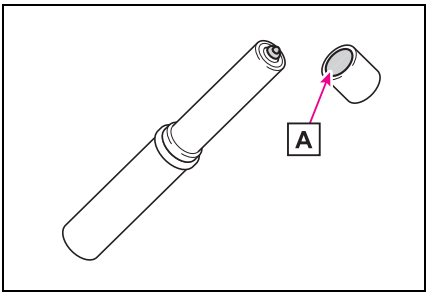
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N に入れる

▶ シフトポジションが N に入った場合

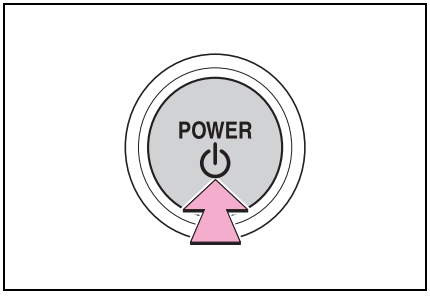
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトポジションが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

知識

■緊急停止したときは

補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

⚠警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、補機バッテリーの残量や使用状況によっては、車両が停止する前にハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になるおそれがあるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアをこえると

水位がフロアをこえて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスとリヤウインドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

●詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

他車によるけん引が不可能な状況（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.174）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.65）
- スマートエントリー&スタートシステムに異常があるとき（→P.512）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.514）

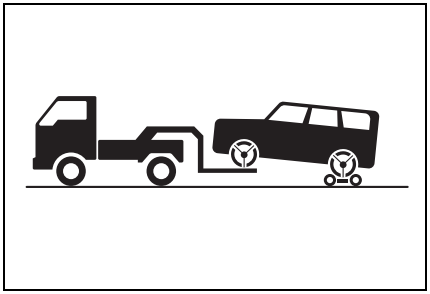
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

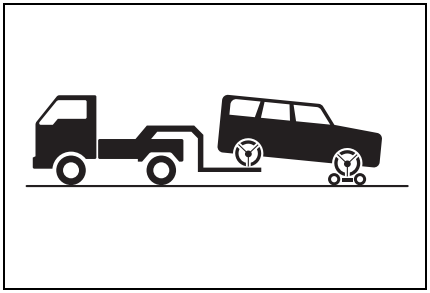
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



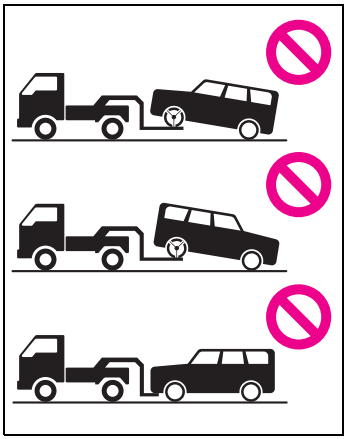
台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

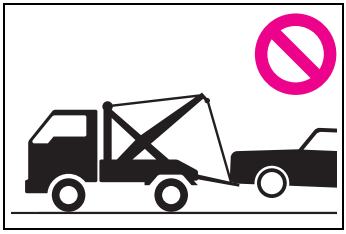
4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



⚠ 注意

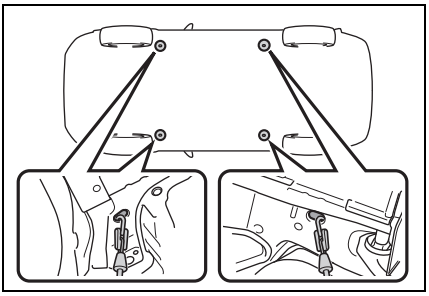
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

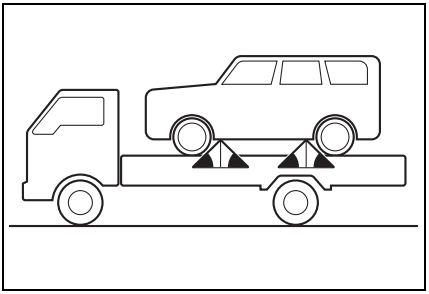


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



⚠ 注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

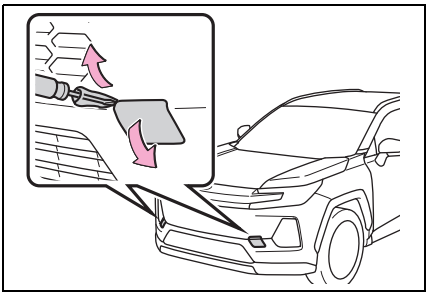
1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、けん引フックを取り出す（→P.494, 503）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

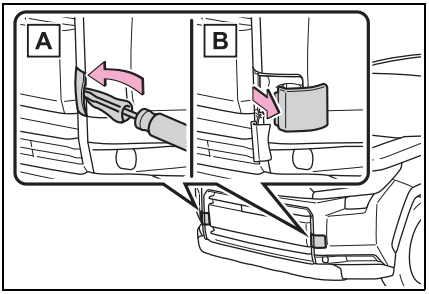
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ ADVENTURE グレードを除く



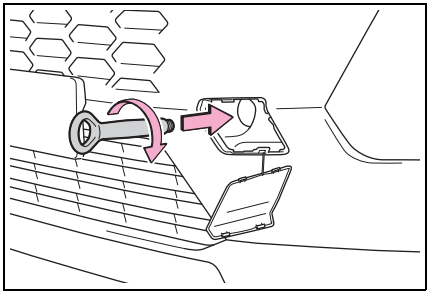
▶ ADVENTURE グレード

A のフタをはずしてから B のフタをはずす

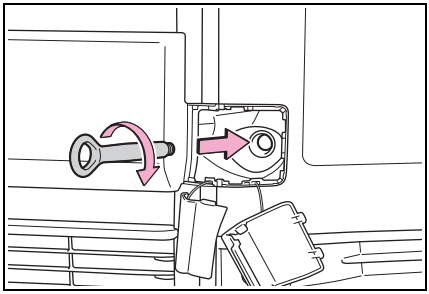


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

▶ ADVENTURE グレードを除く

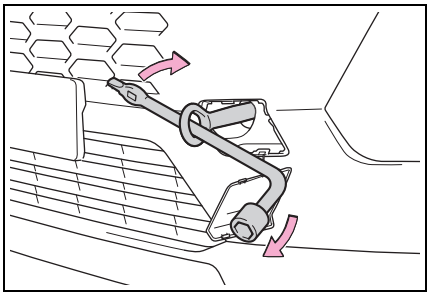


▶ ADVENTURE グレード

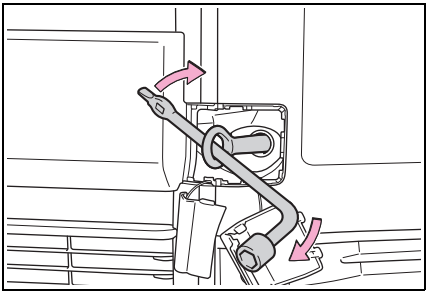


4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

▶ ADVENTURE グレードを除く



▶ ADVENTURE グレード

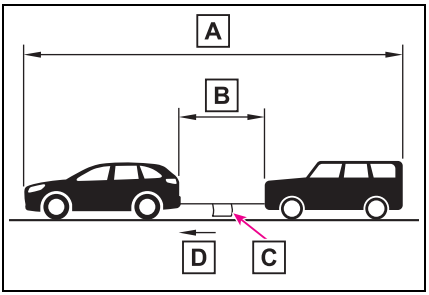


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.189）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車）：→P.180

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

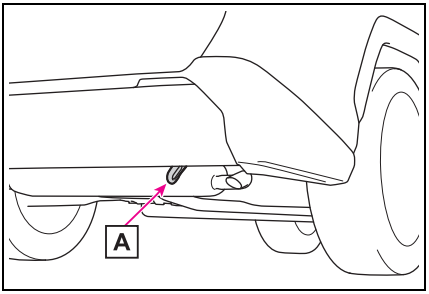
■ホイールナットレンチについて

応急用タイヤ装着車：ラゲージルームに搭載されています。（→P.503）

タイヤ パンク応急修理キット装着車：トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	●パーキングブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●回生ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	マルチインフォメーションディスプレイに “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” が表示されている場合： 補機バッテリーあがりのおそれ **→ P.514** マルチインフォメーションディスプレイに “補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認” が表示されている場合： 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。（→P.486）**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.519）に従ってください。**

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの過熱 **→ 安全な場所に停車し、対処方法（→P.520）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS &ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （赤色）  （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	プリクラッシュセーフティ（PCS）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** プリクラッシュセーフティが OFF のときや機能が制限されているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	レーントレーシングアシスト（LTA）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	レーンディパーチャーアラート（LDA）の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	クルーズコントロールの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ レーダークルーズコントロールエコランモード表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	レーダークルーズコントロールエコランモードの異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ 運転支援警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●後方車両への接近警報 ●リヤカメラディテクション（RCD） ●ブラインドスポットモニター（BSM） ●リヤクロストラフィックアラート（RCTA） ●安心降車アシスト ●ドライバー異常時対応システム（EDSS） ●セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） ●休憩提案 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

■ ドライバーモニター警告灯（警告ブザー）★

警告灯	警告内容・対処方法
	ドライバーモニター注意喚起機能の異常が考えられます。 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.485）**

■ PKSB OFF 表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください” が表示されている： パーキングサポートブレーキ（PKSB）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” が表示されている： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.485）**

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時(エレクトロシフトマチックタイプシフト非装着車のみ) **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 **→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	燃料の残量が約 9.5L 以下になった **→ 燃料を補給する**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。このとき、補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンのなど一部機能の作動を制限することがあります。

⚠ 警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき※

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

※ 警告灯は赤色と黄色が、警告ブザーは単発音と断続音があります。

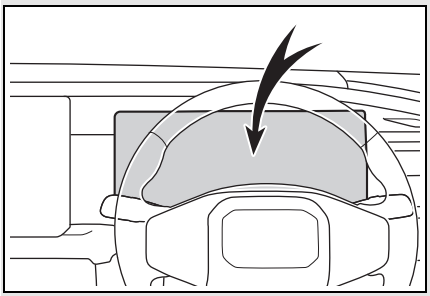
⚠警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたときは

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

・プリクラッシュセーフティ（PCS）やレーダークルーズコントロールなどの運転支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。

メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。
・ブレーキオーバーライドシステムが作動したときに、警告メッセージが表示されます。(→P.164)
・ドライブスタートコントロール・パーキングサポートブレーキ（PKSB）が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→P.169)。画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

●シフト操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフト操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
・“ハイブリッドシステム故障”
・“エンジン系故障”
・“バッテリー系故障”
・“アクセル系故障”
・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
・“エンジン冷却水高温”（→P.519）
・“シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”※
・“P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”※
・“シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”※
・“シフトシステム故障 取扱書確認”※
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”※
・“バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認」※

※エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“エンジン油圧不足”
・“故障のためブレーキ力が低下”

●“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは、冷却用の吸入口／フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。
・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れている場合は、P.453 を参考に清掃を行ってください。

・駆動用電池冷却用吸入口／フィルターが汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。

・数秒後※に表示が消えたときは：
約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

・表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.514）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

● “補機バッテリー充電システム異常 安全な場所に停車し 取扱書を確認” が表示されたときは

充電系統が故障している可能性があります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。メッセージが表示されているときは、補機バッテリーの消費電力を抑えるためにエアコンなどの一部機能の作動を制限することがあります。

● “ブレーキを踏み電子キーでカップホルダ内の マークに触れてください” が表示されたときは車両のシステムが電子キーを検知できていない状態です。

P.513 の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” または “シフトシステム故障 走行を継続できません” が表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■シフト操作に関するメッセージが表示されたときは（エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車）

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ “駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは

シフトポジションが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトポジションが N では充電できないため、停車するときはシフトポジションを P にしてください。

■ “ハイブリッドシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.519

■ “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは

一定時間シフトポジションが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■“駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

シフトポジションがP以外でパワースイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はPにしてください。

■“N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトポジションがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションをDまたはRにしてください。

■“停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。

アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■“補機バッテリー充電量低下 電源 OFF してください” が表示されたときは

●ACC カスタマイズが ON のときは、パワースイッチを OFF にする

●ACC カスタマイズが OFF のときは、マルチメディアを OFF にする

■“バッテリー保護のため自動で電源を Off しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。
この場合、次回のハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■“エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■“降車時支援機能を一時停止します降車の際は接近車両にご注意ください” が表示されたときは

安心降車アシストの機能が一時停止していることがあります。降車時の接近車両にご注意ください。

■“降車時支援機能を停止します” が表示されたときは

パワースイッチを OFF にしたあと、安心降車アシストの作動条件を満たさなくなったときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.298

■運転支援システムに関するメッセージが表示されたときは

機能停止や故障を示すメッセージと関連するシステムのアイコンが一緒に表示されます。

●プリクラッシュセーフティ（PCS）

●レーンディパーチャーアラート（LDA）

●レーントレーシングアシスト（LTA）

●レーンチェンジアシスト（LCA）

- オートマチックハイビーム（AHB）
- アダプティブハイビームシステム（AHS）★
- レーダークルーズコントロール
- クルーズコントロール
- レーダークルーズコントロールエコランモード
- ロードサインアシスト（RSA）
- 発進遅れ告知
- プロアクティブドライビングアシスト（PDA）
- フロントクロストラフィックアラート（FCTA）★
- アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★
- ドライバー異常時対応システム
- 休憩提案
- ブラインドスポットモニター（BSM）
- リヤクロストラフィックアラート（RCTA）
- 後方車両への接近警報
- 安心降車アシスト
- クリアランスソナー
- パーキングサポートブレーキ（PKSB）
- リヤカメラディテクション（RCD）
- 周辺車両接近時サポート
- 急加速抑制
- ドライバーモニター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次の対処法に従ってください。

- 補器バッテリー電圧を確認する
- Toyota Safety Senseで使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.218）
- センサーとカメラに付着物がないか確認し、ある場合には取り除いてください。

クリアランスソナーセンサー：→P.310

サイドカメラ、リヤカメラ、フロントカメラ★：→P.353

リヤカメラ：→P.353

ブラインドスポットモニターセンサー：→P.292

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。

クリアランスソナー、パーキングサポートブレーキ（前後静止物，周囲静止物）：→P.313

リヤクロストラフィックアラート、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）：→P.321

パーキングサポートブレーキ（後方歩行

者)、リヤカメラディテクション：→P.326

ブラインドスポットモニター：→P.294

後方車両への接近警報：→P.301

安心降車アシスト：→P.299

後方車両接近告知：→P.303

周辺車両接近時サポート：→P.307

セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応）：→P.309

●地図情報取得の妨げとなる製品を取り付けている場合は取り除いてください。（例：TV キャンセラーなど）
TSS 制御ユニット冷却用の吸入口がふさがれていないか確認し、該当する場合はふさいでいるものを取り除いてください。
センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次の対処法に従ってください。

●ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

●エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

●ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

●周辺環境が悪天候 (大雨、雪、霧など) 状態から回復したときに機能停止が解消される。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次の対処法に従ってください。

●炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる。

●特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。

●極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる。

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

次の対処法に従ってください。

●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.218）

●砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次の対処法に従ってください。

●レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.218）

●レーダの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは★

リヤカメラ、サイドカメラ、またはフロ

ントカメラの汚れや付着物を取り除いてください。汚れを取り除いたあとも、復帰までに一定の時間がかかります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■“機能停止 バッテリー脱着により学習中 走行を続けてください”が表示されたときは

ステアリング舵角中立点が初期化されている可能性があり、運転中に自動的に調整しています。しばらく運転を続けてください。

■“機能停止 ドライバーモニター作動温度範囲外 常温までお待ちください”が表示されたときは★

ドライバーモニターカメラの温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■“機能停止 ドライバーモニターカメラ視界不良 取扱書を確認”が表示されたときは★

ドライバーモニターカメラのレンズが汚れている可能性があります。レンズを傷付けないよう乾いたやわらかい布で汚れをふき取ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■“条件を満たしていないため 開始できません 取扱書を確認”が表示されたときは

LCA の作動条件を満たしていないため使用できません。（→P.243）

次の作動条件を満たしているときに、再度方向指示レバーを操作してください。

●システムが車線を変更する側の白線を破線と認識している。

●エンジン始動後、システムが一度でも車両後方の移動物を検知している。

■“ソナーに水滴，雪等が付着しています”が表示されたときは

次の対処法に従ってください。

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告ブザーについて

→P.484

⚠警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは

→P.484

⚠注意

■“電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です”がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

■ “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書確認ください” がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■ “駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。
- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.493）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する

● 非常点滅灯を点滅させる（→P.469）

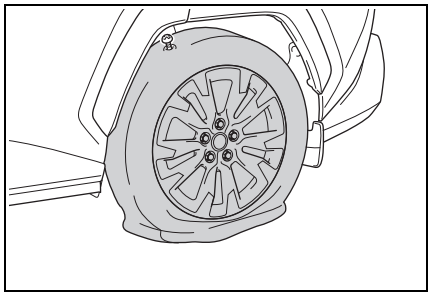
● パワーバックドア装着車は設定を OFF にする（→P.123）

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

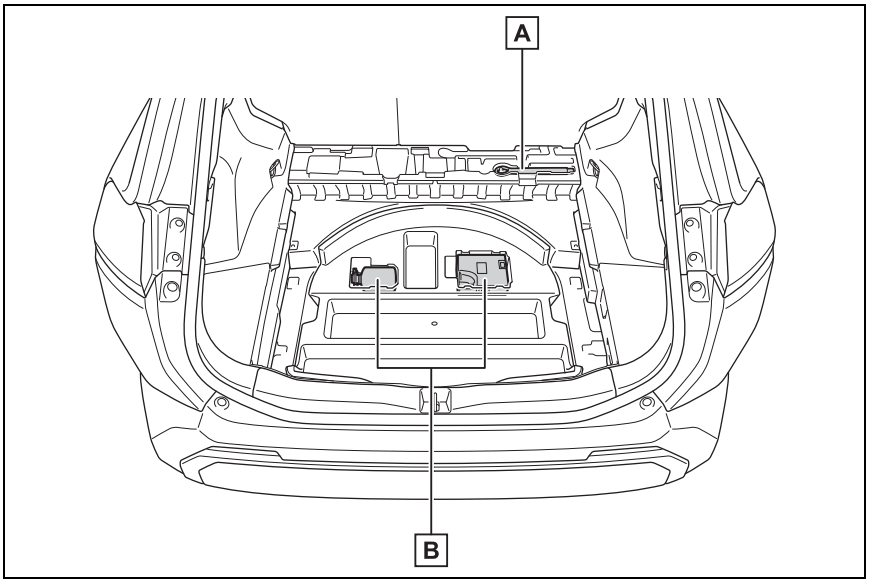
●ホイールが破損しているとき

●2本以上のタイヤがパンクしているとき

●1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

●補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

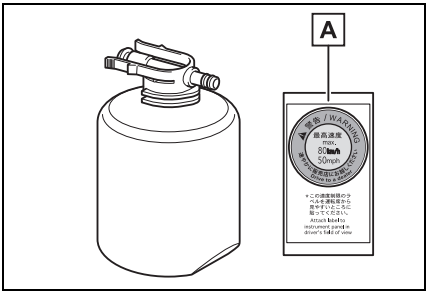


A けん引フック

B タイヤパンク応急修理キット

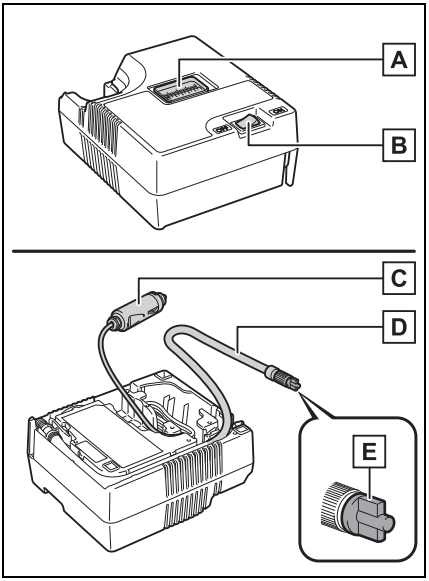
タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル



A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー



A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

⚠ 警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出して破損し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

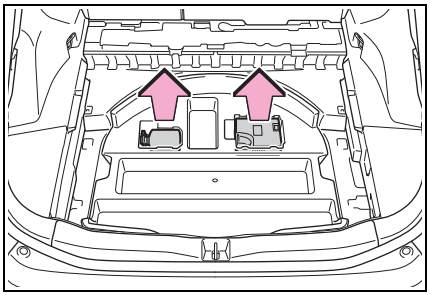
●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットを取り出すには

1 デッキボードを開く
（→P.411）

2 デッキアンダートレイから応急修理キットを取り出す

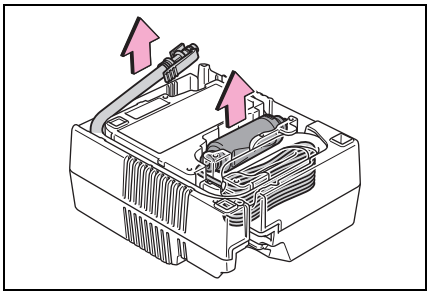


応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 10 へ）

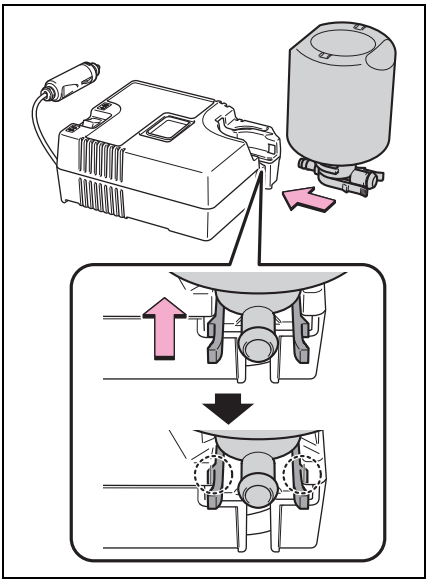
2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



3 ボトルをコンプレッサーに接続する

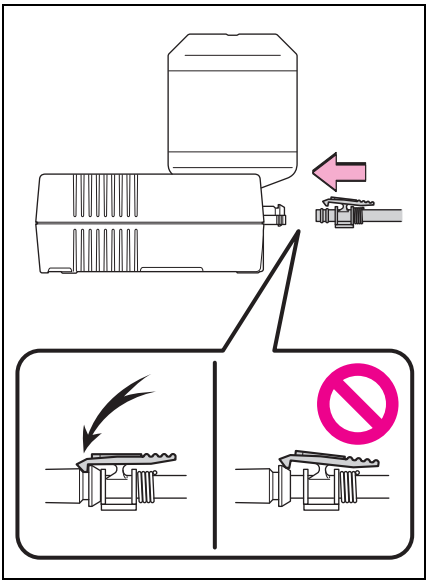
図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してくださ

い。

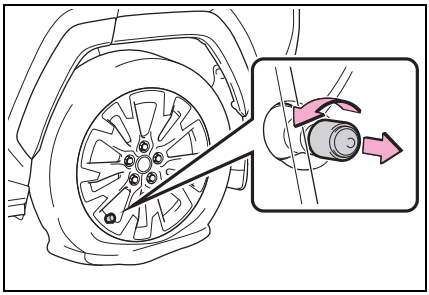


4 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

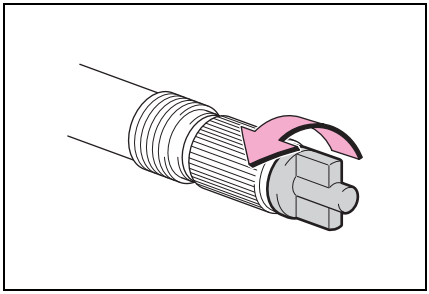


5 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



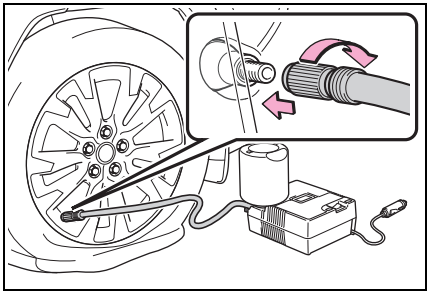
6 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

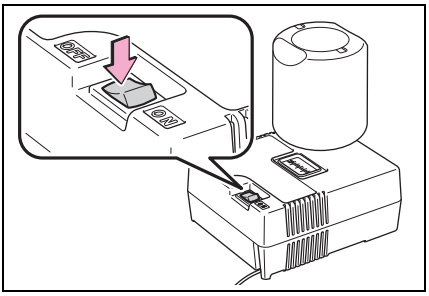


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

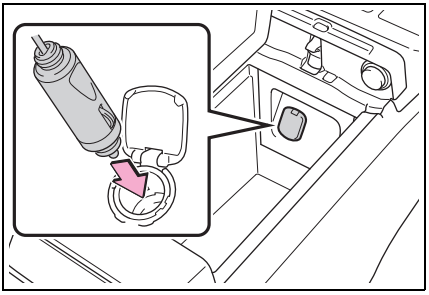
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



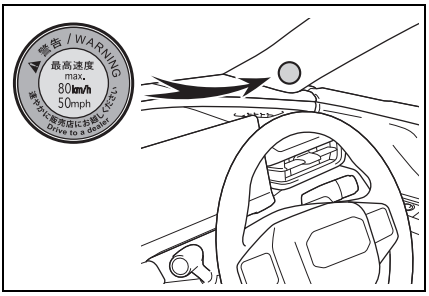
8 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.415）

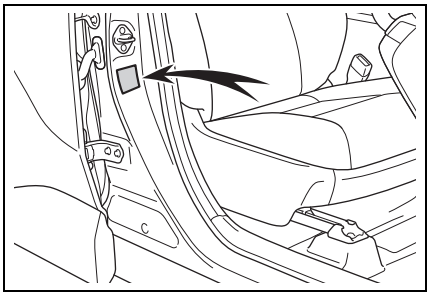


10運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける



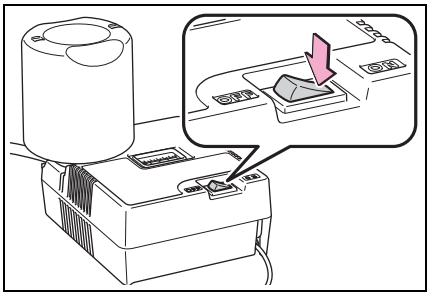
11タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認すること ができます。（→P.448）

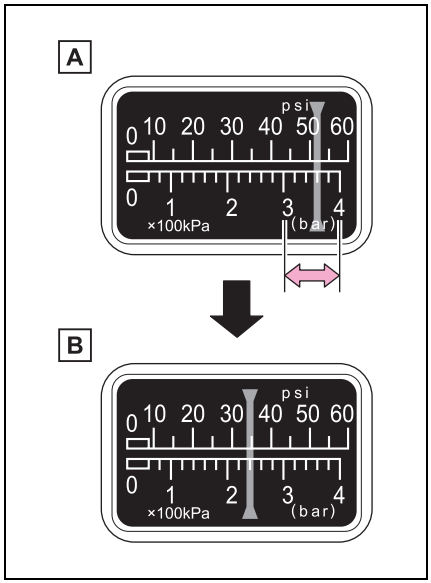


12ハイブリッドシステムを始動する（→P.172）

13コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

（→P.448, 500）

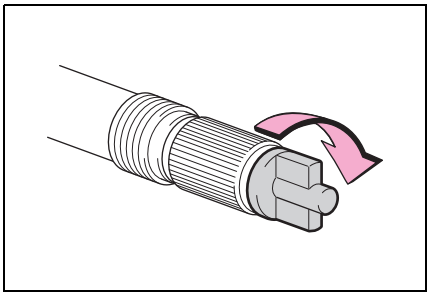
15コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



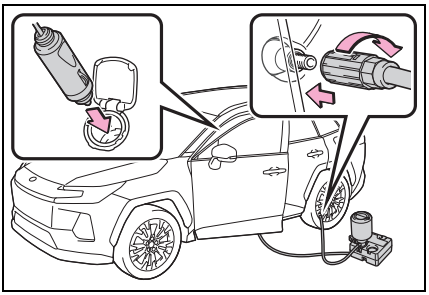
18いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

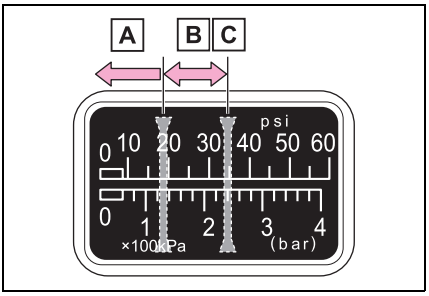
20走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がし

キャップを取りはずしてください。



21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する



A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

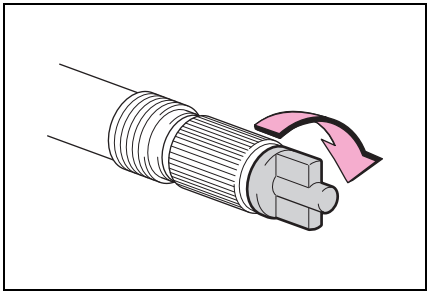
B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.448）の場合：手順 **23** へ

22 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、走行距離が約 100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

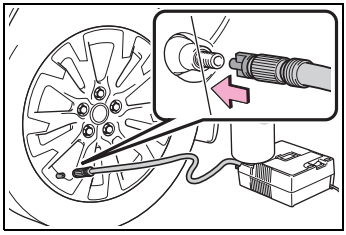
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

⚠警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

⚠ 警告

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・ 空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P.448 を参照してください）

⚠ 警告

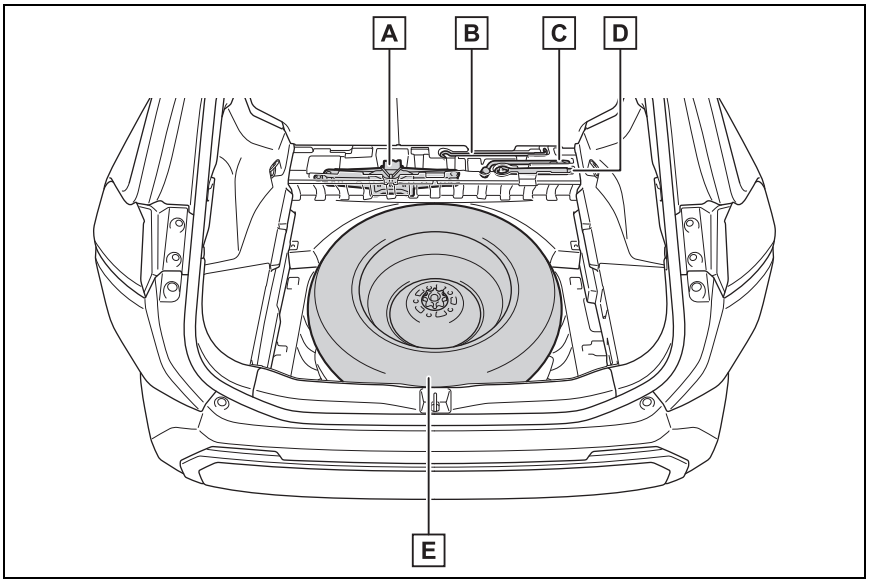
■タイヤがパンクしたとき

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.469）
- パワーバックドアの設定を OFF にする（→P.123）

工具とジャッキの位置



A ジャッキ

B ジャッキハンドル

C ホイールナットレンチ

D けん引フック

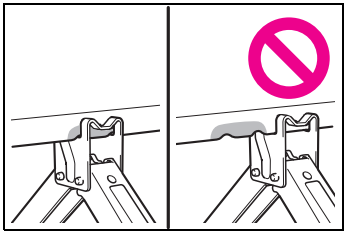
E 応急用タイヤ

⚠ 警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける

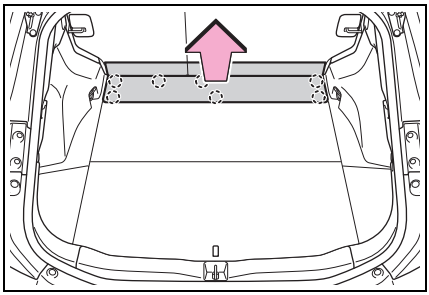


- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキ・工具を取り出すには

1 ボードを取りはずす

7 ケ所ツメを引いてはずし、ボードを取りはずします。

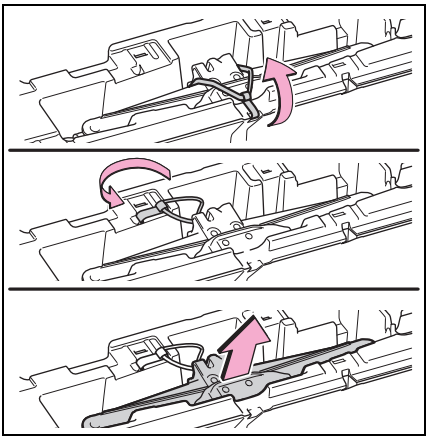


2 ゴムバンドを取りはずし、ジャッキを取りはずす

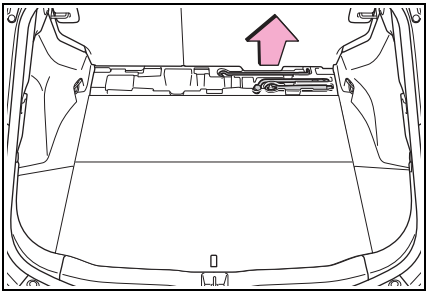
ジャッキを取り出したあとは、ゴムバンドのフックを、一時的に図で示す穴に引っ掛けておいてください。

ジャッキを収納するときは、ジャッキを回して動かなくなるまで縮めたあと、デッキアンダートレイに押し込んでから

ゴムバンドで固定してください。



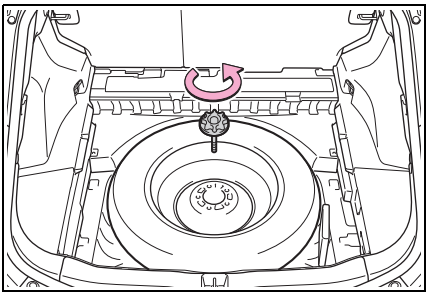
3 工具を取り出す



応急用タイヤを取り出すには

1 デッキボードを開く（→P.411）

2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



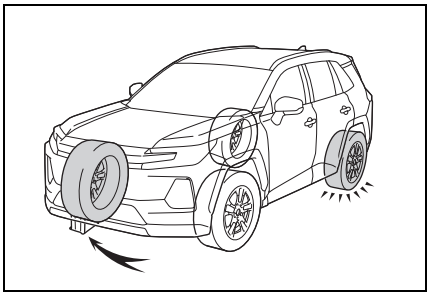
警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

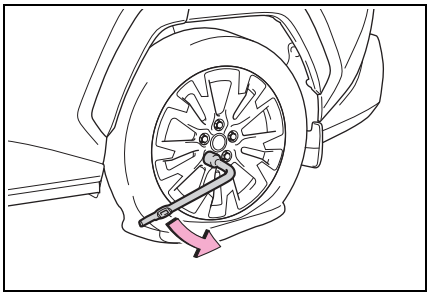
1 輪止め※をする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

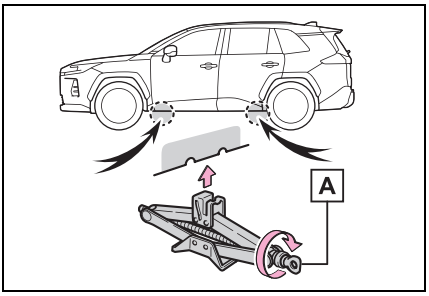
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

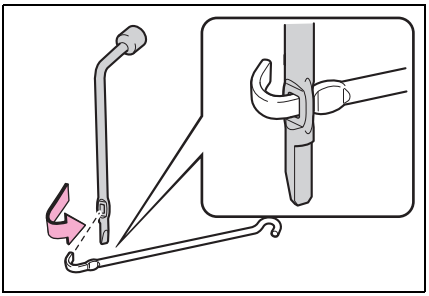


3 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける

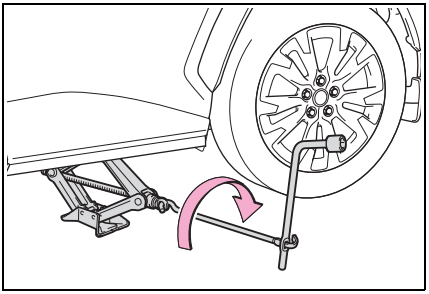
ジャッキセット位置は車両下部の図の位置にあります。



4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

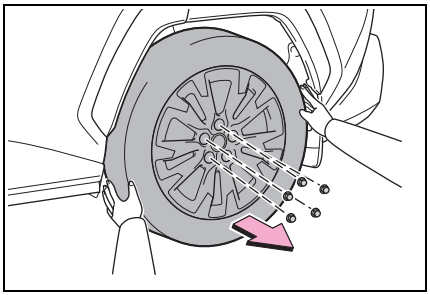


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



⚠警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：103N・m（1050kgf・cm）

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

⚠ 警告

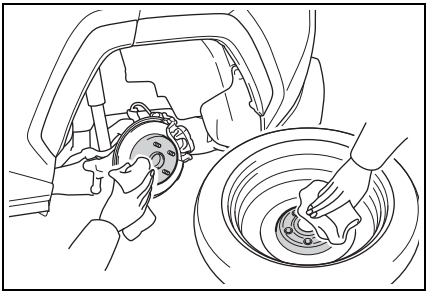
■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.123）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤを取り付けるには

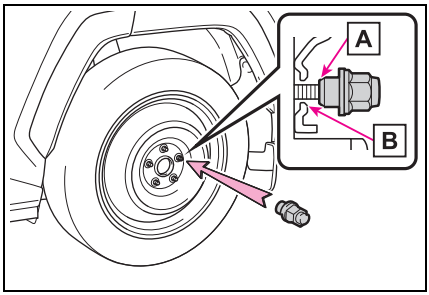
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

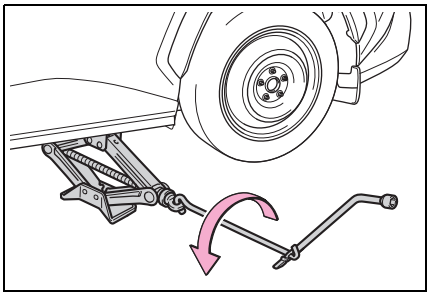


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部A がホイールのシート部B に軽くあたるまでまわします。

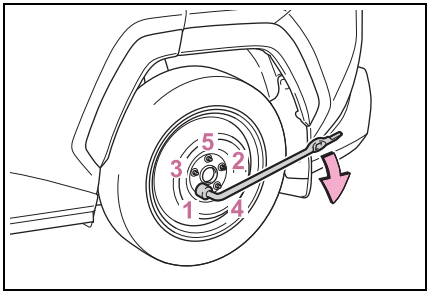


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

●タイヤの側面に TEMPORARY USE

ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。

●空気圧を必ず点検してください。（→P.529）

■応急用タイヤを装着しているとき

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときはご注意ください。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき（チェーン装着可能な車両のみ：→P.388）

1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

⚠警告

■応急用タイヤを使用するとき

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。

●同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。

●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

●摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS

・VSC

・TRC

・プリクラッシュセーフティ（PCS）

・PKSB

・アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■応急用タイヤ装着中の注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

⚠注意

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.172）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.512）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.65）
- エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.182）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.510）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.514）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.514）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.188）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチを ACC※1 にする※2

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※1 カスタマイズメニューで ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.532）

※2 ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に次の手順を実施してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

■キーを紛失したとき

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

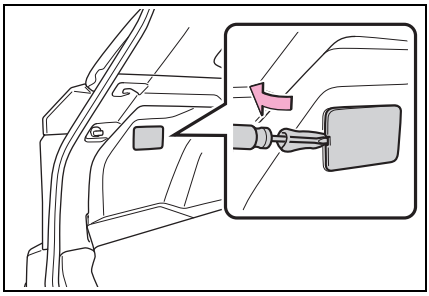
給油扉が開かないときは

給油扉オープナースイッチを押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

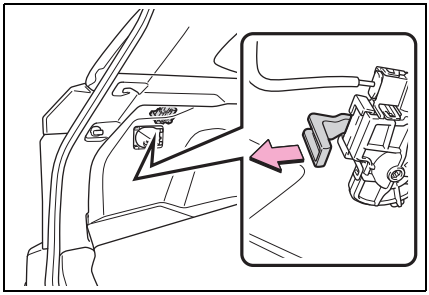
給油扉を開くには

1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを引く



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.126）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないとき

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.538）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.126）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.126）

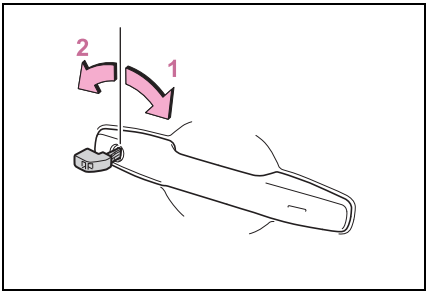
注意

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

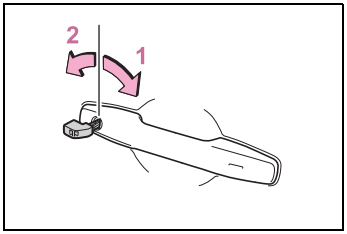
メカニカルキー（→P.100）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）



1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

知識

■キー連動機能



1 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※
2 ドアガラスとパノラマムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

⚠ 警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやパノラマムーンルーフ★を操作するとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアガラスやパノラマムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

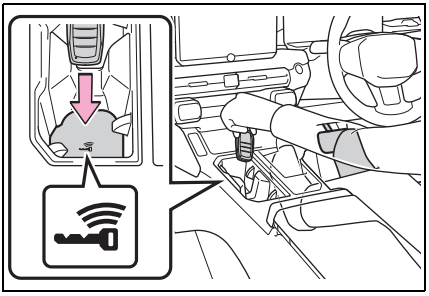
ハイブリッドシステムを始動するには

1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルをしっかりと踏む

2 電子キーをカップホルダー底面にある マークにかざす

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルを踏み、パワースイッチを短く確実に押す

電子キーをかざす場合はかざし位置との間に金属物や障害物がないことを確認してください。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.456）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.66）

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.175）

補機バッテリーがあがったときは

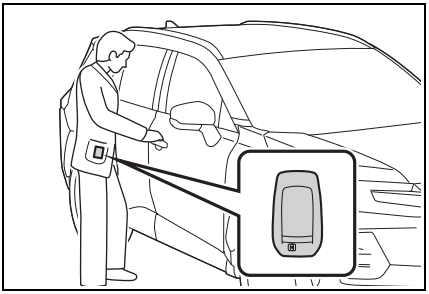
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

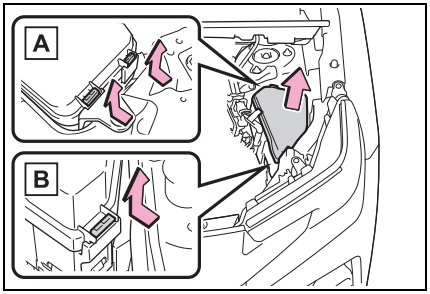
1 キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.67)

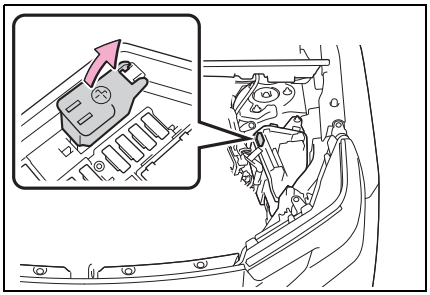


2 ボンネットを開けて(→P.444)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメ[A]と[B]を押してロックを完全にはずしてから、カバーを持ち上げます。

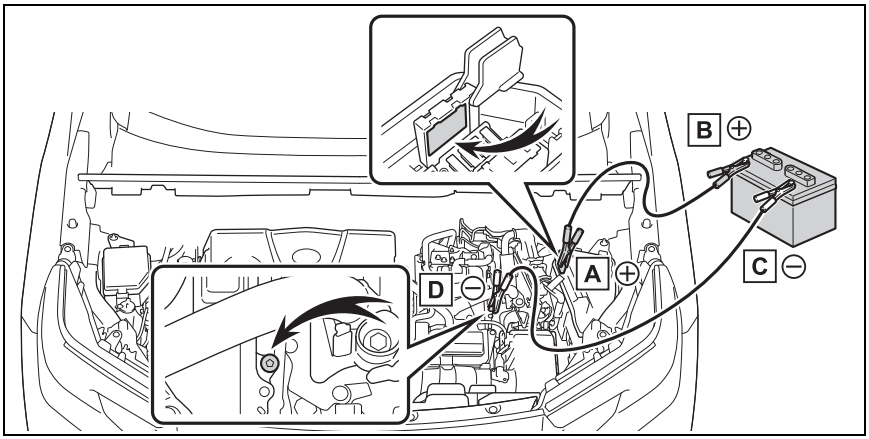


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子のカバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。
- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオなどの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.556）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→P.444

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠・施錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作でハイブリッドシステムを始動できなかった場合は、電子キーが正常に働かないときの手順（→P.513）で、始動操作を行ってください。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、車両は補機バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー装着車：補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。

・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

・適切な補機バッテリーをご使用いただかない場合は、補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

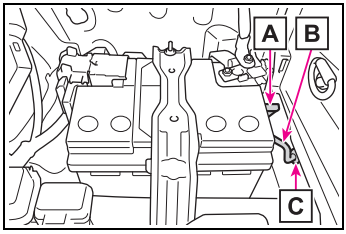
●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリー

を使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。

・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります）



A 排気穴

B 排気ホース

C 車両穴部

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、補機バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

●誤って補機バッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤って補機バッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

警告

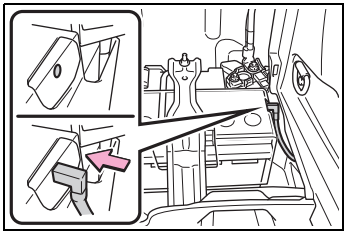
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、補機バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンなどに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.75）の表示がレッドゾーンを示したり、ハイブリッドシステムの出力が低下したりする（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温　安全な場所に停車して取扱書を確認してください” または “ハイブリッドシステム高温出力制限中です” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

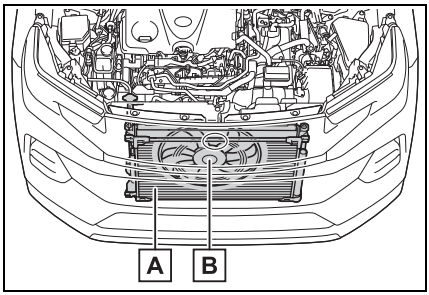
対処するには

■ 水温計の表示がレッドゾーンを示したり、マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温” が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

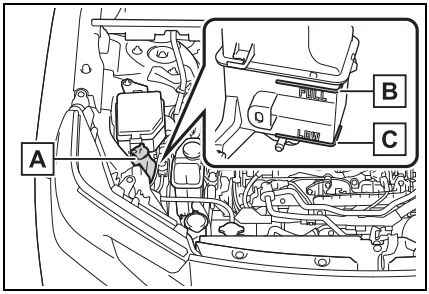


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

B “FULL”（上限）

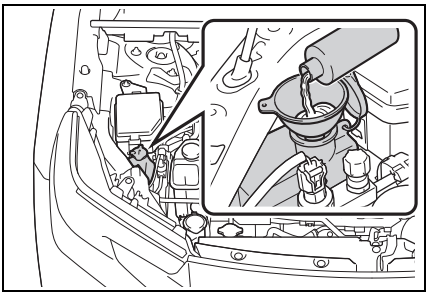
C “LOW”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け

てください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの “エンジン冷却水高温” 表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡してください。
表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

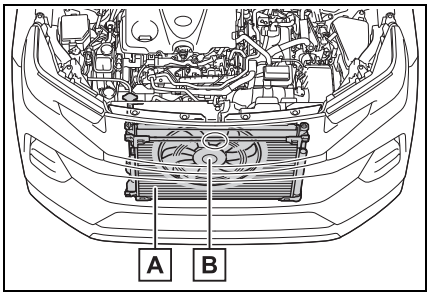
■ マルチインフォメーションディスプレイに “ハイブリッドシステム高温出力制限中です” が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

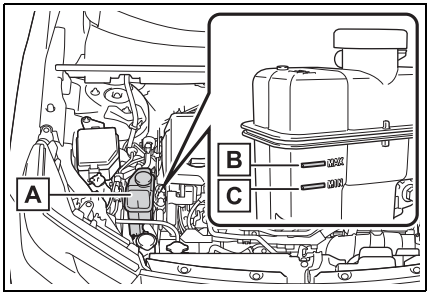
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



A ラジエーター

B ファン

4 冷却水の量がリザーバータンクの “MAX”（上限）と “MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



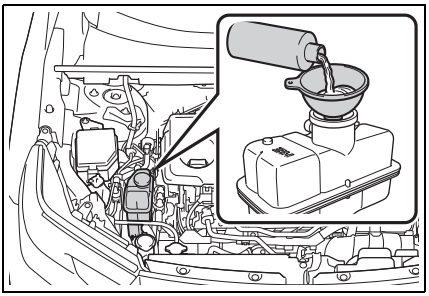
A リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。
応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡してください。

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

⚠注意

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションをPにして、ハイブリッドシステムを停止する

エレクトロシフトマチックタイプシフトレバー非装着車：シフトポジションをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

2 前輪周辺の土や雪などを取り除く

3 前輪の下に木や石などをあてがう

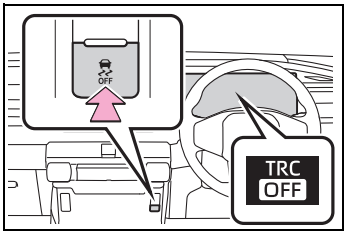
4 ハイブリッドシステムを再始動する

5 シフトポジションをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF を押して TRC を OFF にしてください。（→P.380）



⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 526
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能..... 531
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目..... 556
8-4. オープンソースソフトウェア
フリー／オープンソースソフトウェア情報..... 557

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	55

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

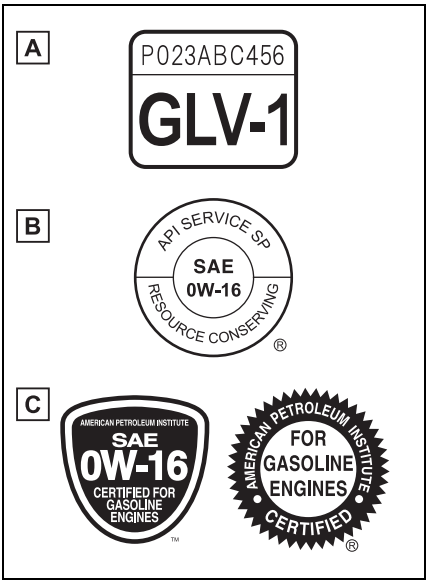
エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル GLV-1 0W-8 — JASO GLV-1, SAE 0W-8 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	4.0	4.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

JASO GLV-1 規格に合致したオイルをご使用ください。
JASO GLV-1 0W-8 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性を発揮できます。
JASO GLV-1 SAE 0W-8 が入手困難な場合は、以下のオイルもご使用いただけます。
0W-16：API 規格 SP/RC 、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6B
0W-20、5W-30：API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6A
なお、JASO 規格合格油の缶には JASO GLV-1 マークがついています。



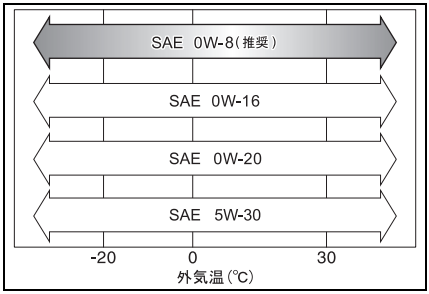
A JASO GLV-1 マーク

B API マーク

C ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-8 で説明します）：

- 0W-8 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-8 の 8 は、高温時の粘度特性を示しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	パワーコントロールユニット
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12 ℃ 濃度 50%　－ 35 ℃	6.0	1.7

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE	3.67

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター）

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード WS	1.7

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	72

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	235/60R18 103H	18 × 7 1/2J	260(2.6)	260(2.6)
	235/50R20 104V	20 × 7 1/2J	260(2.6)	260(2.6)
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4T	420(4.2)	
	T165/90D18 107M	18 × 4T	420(4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク［N・m（kgf・cm）］	
標準タイヤ	103N・m（1050kgf・cm）
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球	W（ワット）数
ドアミラー足元照明	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
			フロント	リヤ	
RAV4	AXAN64	A25A-FXS（2.5L ガソリン）	1VM	4NM	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。(→P.159)

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

設定を変更するには

■ マルチメディアディスプレイで設定するには

▶ メインメニューの⚙から設定する

1 マルチメディアディスプレイの⚙をタッチする
2 設定を変更したいカテゴリーを選択する
3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
4 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、●(作動)・○(非作動)を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、画面上のアイコンをドラッグしてレベルを調整します。

▶ アドバンストパーク★の設定を変更する

1 アドバンストパークメインスイッチを押す
2 マルチメディアディスプレイの⚙にタッチし、“Advanced Park” にタッチする

★:グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの∧または∨を押してコンテンツ表示エリア(左)から⚙を選択し、OKを押す
2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して変更する項目を選択する
3 ON / OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチのOKを押してご希望の設定に切りかえる
4 詳細設定が可能な機能では、OKを押し続けて設定画面を表示する

詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイス文を参考に設定を行ってください。

前の画面にもどる、もしくは設定を終了する場合は、↩スイッチを押します。

知識

■カスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行ってください。

警告

■カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズ設定を行うとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

マルチメディアディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイで設定変更する

A マルチメディアディスプレイで設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

■ 先読みエコドライブ（→P.59）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先読みエコドライブ	●する ●しない	○	—
エリア適応 EV ドライブ※	●する ●しない	○	—

※ 先読みエコドライブを「する」にしたときに設定できます。

■ パワースイッチ（→P.172）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ACC カスタマイズ ACC の ON ／ OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	—

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ（→P.75, 80）

機能の内容 ※1			カスタマイズ設定	A	B
メーター輝度			●標準 ●任意の輝度	—	○
言語			●日本語 ●英語 ●中国語 ●韓国語	—	○
単位			●km/L ●L/100km	—	○
メータータイプ設定	シンプル	シンプル表示	●あり ●なし	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○
	1 メーター	1 メーター表示	●あり ●なし	—	○
		アナログメーター切替	●スピードメーター ●ハイブリッドシステムインジケータ	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○
	2 メーター	2 メーター表示	●あり ●なし	—	○
	ナビ★	ナビゲーション表示	●あり ●なし	—	○
		ウィジェット	●あり ●なし	—	○

機能の内容 ※1				カスタマイズ設定	A	B
メータータイプ設定	運転支援システム情報	運転支援システム情報		●あり ●なし	—	○
		ウィジェット		●あり ●なし	—	○
	ECO	ECO 表示		●あり ●なし	—	○
		ウィジェット		●あり ●なし	—	○
		燃費	グラフ情報切替	●燃費推移 ●過去燃費	—	○
			燃費推移削除	●する ●しない	—	○
			過去燃費更新	●する ●しない	—	○
			過去燃費削除	●する ●しない	—	○
EV インジケーター				●あり ●なし	—	○

機能の内容 ※1			カスタマイズ設定	A	B
インフォメーション設定	燃費グラフ	燃費グラフ表示	●あり ●なし	—	○
		グラフ情報切替	●始動後平均燃費 ●リセット間平均燃費 ●給油後平均燃費	—	○
	エコジャッジ	エコジャッジ表示	●あり ●なし	—	○
		アクセルガイド	●あり ●なし	—	○
	EV 比率表示		●あり ●なし	—	○
	ナビゲーション表示★		●あり ●なし	—	○
	オーディオ表示		●あり ●なし	—	○
	ドライブインフォ表示		●あり ●なし	—	○
	TRIP A 表示		●あり ●なし	—	○
	TRIP B 表示		●あり ●なし	—	○
	エネルギーモニター表示		●あり ●なし	—	○
	4WD 作動状態表示		●あり ●なし	—	○
ドライブインフォ項目選択（上段）※2			●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○
ドライブインフォ項目選択（下段）※2			●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○

機能の内容 ※1		カスタマイズ設定	A	B
TRIP A 項目選択（上段）※2		●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○
TRIP A 項目選択（下段）※2		●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○
TRIP B 項目選択（上段）※2		●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○
TRIP B 項目選択（下段）※2		●走行時間 ●平均車速 ●走行距離	—	○
割込表示	交差点案内	●あり ●なし	—	○
	電話	●あり ●なし	—	○
	オーディオ操作	●あり ●なし	—	○
	ボリューム操作	●あり ●なし	—	○
	音声操作	●あり ●なし	—	○
カレンダー ※3		—	—	○
提案サービス ※5		●常に On ●停車中のみ On ●Off	○	—
警報音量 ※4		●レベル 1 ●レベル 2 ●レベル 3	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1機能についての詳しい説明は P.86 を参照してください

※2上段と下段ともに同じ項目を表示させることはできません。

※3マルチメディアシステムの設定で、時計の GPS 補正を OFF にした場合にのみ、設定が可能になります。

※4機能によっては、ブザー音量が異なって聞こえる場合があります。

※5マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ヘッドアップディスプレイ（HUD）★（→P.91）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ヘッドアップディスプレイ表示 ※	●あり ●なし	—	○
ヘッドアップディスプレイの明るさ	●標準 ●任意の明るさ	—	○
ヘッドアップディスプレイの表示位置	●標準 ●任意の位置	—	○
ヘッドアップディスプレイ表示タイプ ※	●スタンダード ●フル ●ミニマム	—	○
ヘッドアップディスプレイの傾き調整	●標準 ●任意の位置	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドアロック（→P.105, 512）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
オートドアロック機能 ※	●シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック） ●車速感応オートドアロック ●なし	○	—
オートドアアンロック機能 ※	●シフトレバーをＰにしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック） ●運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック） ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤシートリマインダー（→P.108）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤシートリマインダー	●ON ●OFF	○	○

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.100, 125）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル 0（なし）～ 7	○	—
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	—
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 ※	●なし ●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム（→P.125）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	○	—
解錠されるドアの選択 ※	●全てのドア ●運転席のドア	○	—
降車オートロック機能	●あり ●なし	○	○
接近時オートアンロック	●あり ●なし	○	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ デジタルキー（→P.101）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
デジタルキー	●あり ●なし	○	—

■ ワイヤレスドアロック（→P.100）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
2 回操作アンロック ※	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーバックドア（→P.111）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
パワーバックドア機能	●あり ●なし	○	○
パワーバックドア全開時の開度	●1 ～ 5 ●お好みの位置（高さ）※	○	○
ハンズフリーパワーバックドアの作動	●あり ●なし	○	○

※ バックドア下部のスイッチ操作で設定します。（→P.124）

■ パワーイージーアクセスシステム★（→P.155）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
降車時の運転席シート前後移動量 ※	●少ない ●標準 ●OFF	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.195）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
コンライト点灯照度※	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ アダプティブハイビームシステム（AHS）★（→P.198）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
スイブル機能	●On ●Off	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 急加速抑制（→P.338）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
急加速抑制※	●On ●Off	○	—

※ ドライブスタートコントロールの ON・OFF も連動します。

■ プリクラッシュセーフティ（PCS）（→P.228）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プリクラッシュセーフティ	●On ●Off	○	—

■ フロントクロストラフィックアラート（FCTA）★（→P.257）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
フロントクロストラフィックアラート※	●On ●Off	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンディパーチャーアラート（LDA）（→P.246）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンディパーチャーアラート（LDA）※	●On ●Off	○	—
逸脱抑制アシスト※	●警報 ●ハンドル支援 ●警報 & ハンドル支援	○	—
支援タイミング※	●遅い ●標準 ●早い	○	—
警報手段※	●ハンドル振動 ●ブザー ●ハンドル振動 & ブザー	○	—
障害物先読みアシスト (OAA)※	●On ●Off	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーンチェンジアシスト（LCA）★（→P.242）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
レーンチェンジアシスト※	●On ●Off	○	—

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ レーダークルーズコントロール（DRCC）（→P.263）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
加速度※	●弱 ●中 ●強	○	—
カーブ速度抑制※	●Off ●弱 ●中 ●強	○	—
クルーズコントロールへ切替	●On ●Off	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ プロアクティブドライビングアシスト（PDA）（→P.253）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
プロアクティブドライビングアシスト (PDA)※	●On ●Off	○	—
支援レベル※	●弱 ●中 ●強	○	—
操舵アシスト (SA)※	●On ●Off	○	—
減速アシスト (DA)※	●On ●Off	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ **発進遅れ告知機能（→P.259）**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
先行車発進告知※	●Off ●遅い ●標準 ●早い	○	—
信号切替り告知※	●Off ●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ **ロードサインアシスト（RSA）（→P.260）**

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ロードサインアシスト（RSA）※	●ON ●OFF	○	—
制限速度注意喚起※	●Off ●表示 ●表示 & ブザー	○	—
制限速度注意喚起タイミング※	●制限速度 +2km/h ●制限速度 +5km/h ●制限速度 +10km/h	○	—
進入禁止・赤信号注意喚起※	●Off ●表示 ●表示 & ブザー	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ITS Connect★（→P.284）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ITS Connect	●On ●Off	○	—
支援タイミング	●遅い ●早い	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）★（→P.280）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）※	●On ●Off	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ドライバーモニター（→P.226）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ドライバーモニターカメラ★	●On ●Off	○	—
注意喚起感度★	●高い ●低い ●Off	○	—
休憩提案	●On ●Off	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ブラインドスポットモニター（BSM）（→P.290）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ※1	●暗い ●明るい	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
接近車両を知らせるタイミング（感度）※1	●遅い ●標準 ●早い	○	—
ブザー警報 ※1, 2	●あり ●なし	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2ブザー警報をなしに設定するとディスプレイ表示もなしになります

■ 安心降車アシスト（→P.296）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
安心降車アシスト機能	●On ●Off	○	—
接近車両検知の感度 ※	●低い ●標準 ●高い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 後方車両接近告知（→P.302）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
後方車両接近告知機能 ※	●あり ●なし	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）※	●遅い ●標準 ●早い	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 周辺車両接近時サポート（→P.304）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
周辺車両接近時サポート機能 ※	●あり ●なし	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ クリアランスソナー（→P.310）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
クリアランスソナー機能 ※1	●ON ●OFF	○	—
ブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○
フロントセンターセンサーの検知開始距離 ※1, 3	●近い ●標準	○	—
リヤセンターセンサーの検知開始距離 ※1, 3	●近い ●標準	○	—
クリアランスソナー 3D 壁表示 ※1, 3	●ON ●OFF	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています

※3パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ パーキングサポートブレーキ（PKSB）（→P.327）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
パーキングサポートブレーキ（PKSB）機能 ※	●ON ●OFF	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤカメラディテクション（RCD）（→P.324）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤカメラディテクション機能	●ON ●OFF	○	—
リヤカメラディテクション作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ リヤクロストラフィックアラート（RCTA）（→P.319）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
リヤクロストラフィックアラート機能	●ON ●OFF	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

■ トヨタチームメイト アドバンストパーク★（→P.280）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
Remote Park	●あり ●なし	○	—
音声案内	●あり ●なし	○	—
速度モード	●遅め ●標準 ●速め	○	—
障害物回避距離	●標準 ●遠い	○	—
優先駐車方法	●並列 ●縦列	○	—
優先駐車向き	●前向き ●バック	○	—
優先出庫方向（並列）	●左 ●右	○	—
優先出庫方向（縦列）	●左 ●右	○	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
駐車時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—
出庫時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—
駐車進路調整	●－３（内側）～＋３（外側）	○	—
道幅調整	●狭い ●やや狭い ●標準	○	—
駐車位置調整（前向き）	●－３（後）～＋３（前）	○	—
駐車位置調整（バック）	●－３（後）～＋３（前）	○	—
後部取付部品設定	●10cm ●20cm ●30cm ●40cm ●取付なし	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブモードセレクトスイッチ（→P.374）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
カスタムモード時のパワートレーン制御	●NORMAL ●SPORT ●ECO	○	—
カスタムモード時のステアリング制御	●NORMAL ●SPORT	○	—
カスタムモード時のエアコン制御	●NORMAL ●ECO	○	—

■ エアコン（→P.393）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	●する ●しない	○	—
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	●する ●しない	○	—
駐車時、自動で外気導入に切りかわる	●する ●しない	○	—

■ ステアリングヒーター・フロントシートヒーター & シートベンチレーション★（→P.400）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整※	●− 2（涼しめ）～+ 2（暖かめ）	○	—
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整※	●− 2（涼しめ）～+ 2（暖かめ）	○	—
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整※	●− 2（涼しめ）～+ 2（暖かめ）	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ イルミネーション（→P.403）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B
ドアの開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒	○	—
乗降時おもてなし	●On ●Off	○	—
照度調整	●任意の照度	○	—

トヨタ販売店で設定変更する

項目名称	項目説明
内気循環／外気導入自動切り替え	AUTO スイッチ ON もしくはパワースイッチ ON に連動して、内気循環と外気導入を自動で切り替える機能の設定
AUTO スイッチ連動	AUTO スイッチを ON にしたとき、自動で A ／ C スイッチを ON にする機能の設定
自動ステアリングヒーター調節	ステアリングヒーター AUTO モードのとき、温度値を 5 段階に設定
自動シート温度調節（助手席）	シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の助手席シート温度を 5 段階に設定
自動シート温度調節（運転席）	シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の運転席シート温度を 5 段階に設定
リヤシートリマインダー機能	リヤシートリマインダー機能（後席置き忘れ防止機能の設定）有無の設定
メカニカルキー 2 回操作ドアアンロック機能	運転席ドアをメカニカルキーで解錠したとき、1 回目の操作で運転席ドアのみ解錠され、2 回目の操作ですべてのドアが解錠される機能の設定
接近時室内灯点灯機能	ワイヤレスリモコンを携帯して車両に接近すると室内灯が点灯する機能の設定
アンロック時室内灯点灯機能	解錠操作に連動して室内灯が点灯する機能の設定
パワースイッチ OFF 時室内灯点灯機能	パワースイッチ ON の状態からパワースイッチ OFF の操作に連動してルームランプ／足元照明が点灯する機能の設定
接近時室外照明点灯機能	ワイヤレスリモコンを携帯して車両に接近したとき、室外照明が点灯する機能の設定
解錠時室外照明点灯機能	解錠したとき、室外照明が点灯する機能の設定
メカニカルキー連動パワーウィンドウ閉機能	メカニカルキーで施錠方向に回し続けたとき、窓を自動で閉める機能の設定
メカニカルキー連動パワーウィンドウ開機能	メカニカルキーで解錠方向に回し続けたとき、窓を自動で開ける機能の設定

項目名称	項目説明
ワイヤレス機能連動パワーウィンドウ閉機能	ワイヤレスリモコンで施錠を押し続けたとき、窓を閉める機能の設定
ワイヤレス機能連動パワーウィンドウ開機能	ワイヤレスリモコンで解錠を押し続けたとき、窓を開ける機能の設定
ワイヤレス連動開時のムーンルーフ作動方向設定	ワイヤレスリモコンを操作し続けたとき、ムーンルーフをスライド作動させるかチルト作動させるかの設定
メカニカルキー連動開時のムーンルーフ作動方向設定	メカニカルキーに連動して、ムーンルーフをスライド動作するかチルト動作するかの設定
パワーウィンドウ作動	パワースイッチを ACC または OFF したとき、一定時間パワーウィンドウを作動可能とする機能の設定
ブザーアンサーバック機能	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー & スタートシステム操作で施錠／解錠したとき、ブザーを吹鳴させる機能の設定
半ドア警告ブザー機能	いずれかのドアが開いているとき、ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー & スタートシステム操作で施錠するとブザーが吹鳴する設定
スマートエントリー & スタートシステム アンロック　ドア解錠 2 段階操作	運転席のドアハンドルアンロックセンサー操作で解錠するとき、触り方に応じてドアの解錠範囲を切替る事ができます。 ・ 短触り：運転席ドアのみ解錠 ・ 長触り：すべてのドアを解錠
ランプ消し忘れ防止機能	ランプスイッチが AUTO 位置のとき、ヘッドランプ／テールランプを OFF するタイミングの設定
LED デイタイムランニングランプ機能	LED デイタイムランニングランプ機能有無の設定
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	ランプスイッチが AUTO 位置のとき、ワイパーに連動してヘッドランプを点灯する機能の設定
ヘッドランプ点灯時間延長機能	パワースイッチを OFF にしたあと、パッシング操作にて点灯させたヘッドランプが自動的に消灯するまでの時間設定

項目名称	項目説明
メカニカルキーでのオートアラーム解除機能	メカニカルキーでの解錠時にオートアラームを解除する機能の設定
オートロック連動機能	ドアを自動で施錠する機能の設定
オートアンロック連動機能	ドアを自動で解錠する機能の設定
室内灯点灯時間設定	室内灯が自動で点灯したとき、自動で消灯するまでの時間の設定
室内灯点灯設定	室内灯が自動で点灯する機能全般を有効にする設定
全室内灯輝度調整	全室内灯の輝度を設定
室内灯 Welcome & Goodbye スイッチ設定	乗降に連携して室内灯を点灯する機能の設定
ワイヤレスリモコン 2 回操作アンロック機能	ワイヤレスリモコンで解錠したとき、1 回目の操作で運転席ドアのみ解錠され、2 回目の操作ですべてのドアが解錠される機能の設定
ワイヤレスリモコンオートロック時間設定	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー & スタートシステム操作でドアを解錠した後ドアを開けなかったとき、自動的に施錠されるまでの時間の設定
非常点滅灯アンサーバック機能	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー & スタートシステム操作で施錠／解錠したとき、非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる機能の設定
ブザーアンサーバック音量設定	ワイヤレスリモコンで施錠／解錠したとき、吹鳴するブザー音量の調節
ワイヤレスリモコンオートロック機能	ワイヤレスリモコン及びスマートエントリー & スタートシステム操作でドアを解錠した後、ドアを開けなかったとき、自動的に施錠する機能の設定
ライトセンサー感度調整	ライトセンサーの明るさ感度を設定
降車時運転席シート移動量調節	パワースイッチが OFF のとき、運転席シートとハンドルが乗降しやすい位置に自動で調整される際の移動量を設定
パワーバックドア ブザー機能	パワーバックドアシステム作動中のブザー吹鳴の設定
パワーバックドア　ブザー音量	パワーバックドア機能のブザー音量の設定

項目名称	項目説明
パワーバックドア　ワイヤレスワンモーション機能	パワーバックドアワイヤレスワンモーション機能の設定
パワーバックドア ウォークアウェイ クローズ & ロック機能	を押し車から離れたとき、バックドアが閉じると同時にロックがかかる機能の設定
パワーバックドア　クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能	パワーバックドアクローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能有無の設定
ハンズフリー クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能	ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能有無の設定
降車オートロック機能	降車オートロック機能有無の設定
パワーバックドア作動中降車オートロック機能	パワーバックドア閉作動中の降車オートロック機能の設定
接近時オートアンロック機能	車両に接近したとき、自動でドアを解錠する機能の設定
スマートエントリー & スタートシステム機能キャンセル	スマートエントリー & スタートシステム機能を全て無効にする設定
スマートエントリー & スタートシステム：アンロックセンサー長触り時間の設定	ドアハンドルアンロックセンサーを長触りする時間の設定。
スマートエントリー & スタートシステム：ロックセンサー長触り時間の設定	ドアハンドルロックセンサーを長触りする時間の設定
デジタルキー機能	デジタルキーの機能有無の設定
デジタルキー電波範囲の設定（開始位置）	デジタルキーの位置判定を開始するエリアの設定
デジタルキー電波範囲の設定（停止位置）	デジタルキーの位置判定を停止するエリアの設定
デジタルキー車室内エリア設定	デジタルキーの室内作動エリアの設定
デジタルキー車室外エリア設定	デジタルキーの室外作動エリアの設定
スマートエントリー & スタートシステム機能節電制御	長期間駐車する場合に、ワイヤレスリモコンの電池消耗と車両の補機バッテリー上がりを防止する機能の設定
デジタルキー 節電モード設定	デジタルキーで一定時間操作がないとき、スマートフォンのバッテリー消耗を抑える時間、及び車両の補機バッテリーの消耗を抑える時間の設定

項目名称	項目説明
ブザーアンサーバック機能（スマートエントリー & スタートシステム操作）	スマートエントリー & スタートシステム操作で解錠／施錠したとき、ブザーを吹鳴させる機能の設定
ブザーアンサーバック機能（ワイヤレスリモコン操作）	ワイヤレスリモコンの操作で解錠／施錠したとき、ブザーを吹鳴させる機能の設定
ハザードアンサーバック（スマートエントリー & スタートシステム操作）	スマートエントリー & スタートシステムの操作で解錠／施錠したとき、非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる機能の設定
ハザードアンサーバック（ワイヤレスリモコン操作）	ワイヤレスリモコンの操作で解錠／施錠したとき、非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させる機能の設定
スマートエントリー & スタートシステムオートロック機能	スマートエントリー & スタートシステム操作でドアを解錠した後ドアを開けなかったとき、自動的に施錠する機能の設定
ワイヤレスリモコンオートロック機能	ワイヤレスリモコン操作でドアを解錠した後ドアを開けなかったとき、自動的に施錠する機能の設定
スマートエントリー & スタートシステムオートロック時間設定	スマートエントリー & スタートシステム操作でドアを解錠した後ドアを開けなかったとき、自動的に施錠されるまでの時間の設定
ワイヤレスリモコンオートロック時間設定	ワイヤレスリモコン操作でドアを解錠した後ドアを開けなかったとき、自動的に施錠されるまでの時間の設定
スマートエントリー & スタートシステム半ドアウォーニング機能	いずれかのドアが開いているとき、スマートエントリー & スタートシステム操作で施錠するとブザーが鳴る機能の設定
ワイヤレスリモコン半ドアウォーニング機能	いずれかのドアが開いているとき、ワイヤレスリモコン操作で施錠するとブザーが鳴る機能の設定
ワイヤレスリモコン 2 回操作アンロック機能	ワイヤレスリモコンで解錠したとき、1 回目の操作で運転席ドアのみ解錠され、2 回目の操作ですべてのドアが解錠される機能の設定
スマートエントリー & スタートシステムアンロック適用ドア変更	スマートエントリー & スタートシステム操作時の解錠ドアを変更する設定

項目名称	項目説明
降車オートロック機能	降車オートロック機能有無の設定
接近時オートアンロック機能	接近時オートアンロック機能有無の設定
後方車両接近告知機能	後方車両接近告知機能の設定。
周辺車両接近時サポート機能	周辺車両接近時サポート (録画機能、通報提案機能) の設定。
後方車両接近告知作動タイミング	後方車両接近告知の作動タイミングを変更する設定。
ドアミラーインジケーターの輝度設定	ドアミラーインジケーターの輝度を設定。
ブラインドスポットモニター検知距離	ブラインドスポットモニターの検知距離を設定。
ブラインドスポットモニター追加警告	ブラインドスポットモニターのインジケーターに合わせて他の警告を追加する設定
パワーバックドア キックセンサー感度調整	パワーバックドアのキックセンサーの感度を変更する機能の設定

知識

■車両カスタマイズについて

●スマートエントリー&スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯)」·「作動の合図音量（ブザー音量の調整)」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	P.120
ドアミラー	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.148
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P.149
パノラマムーンルーフ★		P.153
クリアランスソナー	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.312
パーキングサポートブレーキ（PKSB）		P.330
リヤカメラディテクション（RCD）		P.325
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）		P.321

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フリー／オープンソースソフトウェア情報

メーターディスプレイ

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/

https://www.aisin.com/info/digitalkey/oss/toyata_gen2/

https://www.tokai-rika.co.jp/en/products/opensource/digitalkey

デジタルインナーミラー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6/

Toyota Safety Sense

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/adu/toyota/

ITS Connect

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

https://www.denso.com/global/en/opensource/v2x/toyota/

ウォーターポンプ

インバータウォーターポンプは、オープンソースソフトウェアのライセンスが適応されたソフトウェアを含みます。

このようなオープンソースソフトウェアのライセンス情報は以下の URL で入手することができます。

https://www.aisin.com/info/ewp/license001.html

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 560
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 562
アルファベット順さくいん 565
五十音順さくいん 566

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.511）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.511）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.456）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.175）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.126）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.109）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.172）
- シフトポジションは P になっていますか？（→P.179, 182）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.125）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.513）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.514）



パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.151）



パワースイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.176）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.562）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.478、485をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

● タイヤパンク応急修理キット装着車：
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.492）

● 応急用タイヤ装着車：
車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.503）



立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.522）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.66
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.485
	窓・パノラマムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P.150，153
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.66
	後方から自動車・自転車が接近している	P.297
パワースイッチをOFFにしたとき	リヤシートリマインダー機能が作動した	P.108
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.456
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.107
	電子キーを車内に置き忘れている	P.125

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.109
	パーキングブレーキが解除されていない	P.191
	シートベルトを着用していない※1	P.484
シフトポジションの切りかえをしたとき	無効なシフト操作をした※2	P.181
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.167

状況	原因	詳細
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.270
前方の障害物と衝突しそうになったとき	プリクラッシュセーフティ（PCS）が作動した	P.229
車線から逸脱しそうになったとき	レーントレーシングアシスト（LTA）を使用している	P.238
車線変更時、後方から車が接近しているとき	レーンチェンジアシスト（LCA）★を使用している	P.242
低速で交差点などへ進入するとき、交差する車両の接近を検知したとき	フロントクロストラフィックアラート（FCTA）★が作動した	P.257
前の車が発進または信号が青に替わっても停車し続けたとき	発進遅れ告知機能が作動した	P.259

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	ロードサインアシスト（RSA）が作動した	P.260
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.277
自車の後方から接近してくる車両を検知したとき	後方車両接近告知が作動した	P.302
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.310
後退時に左右から接近する車両や自転車を検知したとき	リヤクロストラフィックアラート（RCTA）が作動した	P.319
後退時に自車後方の歩行者を検知したとき	リヤカメラディテクション（RCD）が作動した	P.324
駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合	パーキングサポートブレーキ（PKSB）が作動した	P.327

状況	原因	詳細
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect ★が作動した	P.284
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		

※1助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

※2シフトポジションの切り替えが無効になるときや、自動的に N ポジションに切りかわる場合があります。その場合は適切なシフトポジションに切りかえてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A ／ C
（エアコン）.....393
AHB
（オートマチックハイビーム）..202
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
.....198
All auto.....392
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....290
EDR
（イベントデータレコーダー）.....8
EV
（エレクトリックビークル）.....177
FCTA
（フロントクロストラフィックアラート）.....257
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）.....91
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....527
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....42
ITS Connect 284
通信利用型レーダークルーズコントロール.....271
LCA
（レーンチェンジアシスト）.....242
LDA
（レーンディパーチャーアラート）
.....246
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....461
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....238
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..228
PDA
（プロアクティブドライビングアシスト）.....253
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....327
RCD
（リヤカメラディテクション）..324
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....319
RSA
（ロードサインアシスト）.....260
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....34
Toyota Safety Sense
AHB（オートマチックハイビーム）
.....202
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....198
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）.....257
LCA（レーンチェンジアシスト）
.....242
LDA（レーンディパーチャーアラート）.....246
PDA（プロアクティブドライビングアシスト）.....253
クルーズコントロール 274
ソフトウェアアップデート.....225
トヨタセーフティーセンス.....217
ドライバーモニター 226
ドライバー異常時対応システム
.....277
発進遅れ告知機能 259

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....514
アームレスト.....424
アウターミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....319
安心降車アシスト.....296
格納のしかた.....148
操作.....147
BSM（ブラインドスポットモニター）290
ミラーヒーター.....395
アクセサリーコンセント.....425, 434
正常に使用できない.....434
アクセサリーソケット.....415
アクセサリーモード.....175
アクティブコーナリングアシスト（ACA）.....379
アシストグリップ.....424
足元照明.....403
アダプティブハイビームシステム（AHS）.....198
アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）.....280
アドバンストパーク
（トヨタ チームメイトアドバンスドパーク）.....347
縦列出庫機能.....364
縦列駐車機能.....361
設定変更.....371
中止／中断.....370
並列前向き／バック出庫機能.....360
並列前向き／バック駐車機能.....358
リモート機能.....366
アラーム
オートアラーム.....66
音さくいん.....562
警告ブザー.....478, 485
安心降車アシスト.....296
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....379
アンテナ
スマートエントリー&スタートシステム.....125

い

イージークローザー
バックドア.....116
ECB
（電子制御ブレーキシステム）.....379
EV ドライブモード.....177
E-Four
（電気式 4WD システム）.....379
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....172
自動電源 OFF 機能.....176
車両を緊急停止するには.....470
モード切りかえ.....175
位置交換（タイヤローテーション）.449
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム.....65
イルミネーテッドエントリーシステム.....403
インジケーター（表示灯）.....72
ITS Connect アイコン.....285
EV インジケーター.....57
EV ドライブモード.....177
運転支援 OFF.....74
AHS.....198
AHB.....202
エコドライブモード.....374
LCA.....245
LTA.....241
LDA.....251
CUSTOM モード.....374

クリアランスソナー OFF.....311
クリアランスソナー検知.....311
クルーズコントロール.....274
車間距離.....265
スポーツモード.....374
スマートエントリー&スタートシステム.....172
スリップ.....482
セキュリティ.....65, 66
ダウンヒルアシストコントロールシステム.....377
TRC OFF.....380
低温.....79
ドアミラーインジケーター.....290, 296, 319
トヨタチームメイト アドバンスト ドライブ（渋滞時支援）.....283
ドライバーモニター OFF.....226
パーキングブレーキ.....188
ハイビーム.....197
ハイブリッドシステムインジケーター..78
PKSB OFF.....328
PCS.....237
VSC OFF.....380
フロントフォグランプ.....205
プラスサポート.....342
ブレーキホールド作動.....192
ブレーキホールドスタンバイ.....192
リヤフォグランプ.....205
レーダークルーズコントロール.....265
レーダークルーズコントロールエコランモード.....269
READY.....172
インテリアランプ.....404
インナーミラー.....138

う

ウインカー（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....461
方向指示レバー.....187
ウインドウ
ウォッシャー.....206, 209
パワーウインドウ.....149
リヤウインドウデフォッガー.....395
ウインドウロックスイッチ.....151
ウォーニングランプ（警告灯）.71, 478
ウォッシャー
液の補充.....447
スイッチ.....206, 209
タンク容量.....529
冬の前の準備・点検.....388
動けなくなったときは（スタック）.522
運転
雨の日の運転.....164
運転を補助する装置.....379
寒冷時の運転.....388
正しい運転姿勢.....29
手順.....163
ハイブリッド車運転のアドバイス.....386
運転支援システム情報表示.....88, 213
運転席シートベルト非着用警告灯...484

え

エアコン
All auto 制御.....392
エコ空調モード.....395
オートエアコン.....393
曇り取り（フロントガラス）.....395
曇り取り（リヤウインドウ）.....395
ナノイー X.....397
フィルターの清掃.....451
フロント席集中送風モード（S-FLOW）.....399

エアコン・デフォッガー.....395
エアバッグ
SRS エアバッグ警告灯.....479
改造・廃棄.....39
作動条件.....35
正しい姿勢.....29
配置.....34
ACA
（アクティブコーナリングアシスト）...379
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....379
エコモード.....185
S-VSC
（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）.....379
LED デイライト.....196
エレクトリックパワーステアリング（EPS）
機能.....379
パワーステアリング警告灯.....480
エンジン
イモビライザーシステム.....65
エンジン警告灯.....479
オーバーヒート.....519
緊急時の停止方法.....470
タコメーター.....75
ハイブリッドシステムが始動できない509
ハイブリッドシステムの始動方法.....172
パワースイッチ（イグニッションスイッチ／エンジンスイッチ）.....172
ボンネット.....444
エンジンオイル
冬の前の準備・点検.....388
メンテナンスデータ.....526
油圧警告灯.....479
容量.....526
エンジン回転計（タコメーター）.....75
エンジンスイッチ（パワースイッチ）
.....172
自動電源 OFF 機能.....176
車両を緊急停止するには.....470
モード切りかえ.....175
エンジンフード（ボンネット）
開け方.....444
警告音.....109
エンジンルーム.....444
エンジンルームから蒸気が出ている...519

お

オイル（エンジンオイル）.....526
応急用タイヤ
空気圧.....448, 529
交換方法.....503
オーディオ連携画面.....84
オートアラーム.....66
オートエアコン.....393
オートドアロック・アンロック機能110
オートマチックハイビーム（AHB）202
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）.....197
オーバーヒート.....519
オープナー
給油扉.....212
バックドア.....112
ボンネット.....444
オープントレイ.....409
オープントレイ照明.....403
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.417
お子さまを乗せるとき
ウインドウロックスイッチ.....151
お子さまの安全のために.....41
キーの電池.....457
シートベルトの着用.....32
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告.....400
チャイルドシート.....42

チャイルドシートの取り付け 42
チャイルドプロテクター 109
電動サンシェードに関する警告..... 154
発炎筒の取り扱いに関する警告..... 470
パノラマムーンルーフに関する警告... 154
パワーウインドウに関する警告..... 150
補機バッテリーに関する警告 517

か

カーテンシールドエアバッグ..... 34
カーペット
洗浄 442
フロアマットの取り付け方 28
外気温度表示 75
..... 75
回生ブレーキ 57
外装の電球（バルブ）
交換要領 461
ワット数 530
ガス欠になったとき 61
カスタマイズ機能 531
型式 530
カップホルダー 408
カメラ
サイドカメラ..... 353
前方カメラ 218
デジタルインナーミラー 144
ドライバーモニター..... 226
フロントカメラ..... 353
リヤカメラ 353
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）..... 395
ガラスの曇り取り
前方カメラ取り付け部..... 221
ガレージジャッキ 446
冠水路走行..... 169
寒冷時の運転..... 388

き

キー
キーナンバープレート 98
キーの構成..... 98
キーレスエントリー 100, 125
キーをなくした..... 511
正常に働かない..... 512
施錠・解錠ができない 512
電子キー 98
電池が切れた..... 456, 512
ハイブリッドシステムが始動できない509
メカニカルキー..... 100
ワイヤレスリモコン 100
キーレスエントリー
スマートエントリー&スタートシステム 125
ワイヤレスドアロック 100
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）.. 167
キックセンサー..... 114, 115
ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能..... 115
急加速抑制..... 338
給油
給油扉が開けられない 511
給油のしかた..... 211
メンテナンスデータ 526
緊急時シートベルト固定機構..... 32
緊急始動機能（ハイブリッドシステム）..... 510
緊急時の対処
オーバーヒートした..... 519
キーの電池が切れた..... 456, 512
キーをなくした..... 511
警告灯がついた..... 478
警告メッセージが表示された..... 485
けん引..... 473

故障したときは....468
車中泊が必要なときは....472
車両を緊急停止する....470
水没・冠水したときは....471
スタックした....522
電子キーが正常に働かない....512
ハイブリッドシステムが始動できない509
発炎筒....469
パンクした....492, 503
補機バッテリーがあがった....514
緊急停止システム....64
緊急ブレーキシグナル....379

く

空気圧（タイヤ）....448, 529
クーラー....393
駆動用電池....61
警告メッセージ....64
充電について....57
搭載位置....61
冷却用吸入口....63
冷却用吸入口の清掃....453
曇り取り
前方カメラ取り付け部....221
フロントガラス....395
ミラーヒーター....395
リヤウインドウデフォッガー....395
クラクション（ホーン）....137
クリアランスソナー....310
巻き込み警報機能....317
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ....195
電球（バルブ）の交換....461
クリップ
フロアマット....28
クルーズコントロール
クルーズコントロール....274
レーダークルーズコントロール....263
グローブボックス....407

け

警音器（ホーン）....137
計器類（メーター）....75
マルチインフォメーションディスプレイ....80
メーター....75
警告灯....71, 478
運転支援....481
ABS &ブレーキアシスト....480
SRS エアバッグ....479
LTA....480
LDA....480
エンジン....479
クリアランスソナー OFF 表示灯....482
クルーズコントロール....481
レーダークルーズコントロールエコランモード....481
高水温....479
シートベルト非着用....484
充電....478
スリップ表示灯....482
ドライバーモニター....481
ドライブスタートコントロール....483
燃料残量....483
パーキングブレーキ表示灯....483
ハイブリッドシステム過熱....479
パワーステアリング....480
PKSB....482
PKSB OFF 表示灯....482
PCS....480
プリテンショナー....479
ブレーキ....478
ブレーキオーバーライドシステム....483
ブレーキホールド作動表示灯....483
ペダル誤操作....483
油圧....479

レーダークルーズコントロール.....481
警告ブザー
運転支援.....481
LTA.....480
LDA.....480
クルーズコントロール.....481
レーダークルーズコントロールエコランモード.....481
高水温.....479
シートベルト非着用.....484
シフトダウン制限.....181
車線逸脱警報（LDA）.....246
衝突警報（PCS）.....229
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....270
手放し運転警告（LDA）.....248
ドライバーモニター.....481
ドライブスタートコントロール.....483
パーキングブレーキ未解除走行時.....191
ハイブリッドシステム過熱.....479
パノラマムーンルーフ開.....153
パワーステアリング.....480
半ドア.....107, 125
半ドア走行時.....109
ブレーキ.....478
ブレーキオーバーライドシステム.....483
ブレーキホールド.....483
ペダル誤操作.....483
ボンネット開.....109
窓開.....150
油圧.....479
リバース.....179, 185
レーダークルーズコントロール.....481
警告メッセージ.....485
警告メッセージ表示画面.....89
化粧ミラー（バニティミラー）.....415
けん引
けん引のしかた.....473

こ

交換
キーの電池.....456
タイヤ.....503
電球（バルブ）.....461
ヒューズ.....458
工具（ツール）.....494, 503
降車オートロック機能.....105
航続可能距離.....78, 82, 88
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）.....169
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....461
高電圧部位.....61
後方車両接近告知.....302
作動条件.....303
後方車両への接近警報.....300
コートフック.....424
子供専用シート
取り付け方.....43
小物入れ.....409
コンセント
アクセサリーコンセント.....425, 434
コンソールボックス.....407
コンライト（自動点灯・消灯装置）.195

さ

サービスプラグ.....61
サイドエアバッグ.....34
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....461
方向指示レバー.....187
サイドミラー（ドアミラー）
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....319
安心降車アシスト.....296
格納のしかた.....148

操作 147
BSM（ブラインドスポットモニター）290
ミラーヒーター 395
三角表示板（停止表示板）..... 468
サンシェード
ルーフ 152
サンバイザー 415

し

シート
シートヒーター 400
シートベンチレーション 400
正しい運転姿勢 29
チャイルドシート 42
調整 131
手入れ 442
パワーイージーアクセスシステム 155
ヘッドレスト 135
ポジションメモリー 155
メモリーコール機能 157
シートヒーター 400
All auto 制御 392
シートベルト
お子さまの着用 31, 32
緊急時シートベルト固定機構 32
高さ調節 33
正しく着用するには 32
着け方・はずし方 32
手入れ 442
妊娠中の方の着用 31
非着用警告灯 484
シートベルト非着用警告灯 484
シートベルトプリテンショナー
機能 33
プリテンショナー警告灯 479
シートベンチレーション（シートベンチレーター）
All auto 制御 392
シートベンチレーション 400
事故が発生したとき（ハイブリッドシステムの注意）..... 62
室内灯 403
始動のしかた 172
シフトポジション 179, 182
シフトレバー 179, 182
シフトポジションの切りかえ ... 179, 182, 183
シフトレンジの切りかえ 181
操作 179, 182
リバース警告ブザー 179, 185
シフトロックシステム 180
締め付けトルク（ホイール）..... 507
ジャッキ
ガレージジャッキ 446
車載ジャッキ 503
ジャッキハンドル 503
車幅灯
電球（バルブ）の交換 461
ランプスイッチ 195
車両型式 530
車両仕様（スペック）..... 526
車両情報表示画面 84
車両接近通報装置 58
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 470
充電用 USB 端子 416
収納装備 406
周辺車両接近時サポート （録画機能、通報提案機能）..... 304
作動条件 306
瞬間燃費 82, 88
仕様（車両仕様）..... 530
衝撃感知ドアロック解除システム ... 107
初期化
パノラマムーンルーフ 153
パワーウインドウ 149

初期設定.....556
パワーバックドア.....120
助手席シートベルト非着用警告灯...484
信号切替り告知機能.....259

す

水温表示.....75
スイッチ
EV ドライブモード.....177
アダプティブハイビームシステム.....199
イグニッション.....172
ウインドウロック.....151
ウインドシールドデアイサー.....398
ウォッシャー.....206, 209
エコモード.....185
LTA.....240
オートマチックハイビーム.....202
クルーズコントロール.....274
シート調整.....131
シートヒーター.....400
シートベンチレーション.....400
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）.....265
ステアリングヒーター.....400
TRC OFF.....380
デジタルインナーミラー.....139, 140
電動サンシェード.....152
ドアミラー.....147
ドアロック.....109
ドライブモードセレクト.....374
パーキングブレーキ.....188
ハザードランプ.....469
バックドアオープン.....113
パワー.....172
パワーウインドウ.....149
パワーバックドア.....113
非常点滅灯（ハザードランプ）.....469
VSC OFF.....380
フォグランプ.....205
ブレーキホールド.....192
方向指示レバー.....187
ホーン（警音器）.....137
ポジションメモリー.....156
メーター操作.....81
ランプ.....195
リヤウインドウデフォッガー.....393
レーダークルーズコントロール.....263
ワイパー.....206, 209
ワイヤレス充電器.....417
スタック.....522
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）.379
ステアリングヒーター.....400
All auto 制御.....392
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....137
ステアリングヒーター.....400
パワーイージーアクセスシステム.....155
ポジションメモリー.....156
メーター操作.....81
メーター操作スイッチ.....81
ストップランプ（制動灯）
電球（バルブ）の交換.....461
レーダークルーズコントロール.....264
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....388
スピードメーター.....75
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧.....448, 529
交換方法.....503
スペック（車両仕様）.....526
スマートエントリー&スタートシステム
アンテナの位置.....125
カスタマイズ設定.....531
緊急始動機能.....510
警告ブザー.....125
警告メッセージ.....485

作動範囲 112, 125
正常に働かないとき 512
節電機能 126
電波がおよぼす影響について 129
ドアの解錠・施錠 105
ハイブリッドシステムの始動 172
バックドアの施錠・解錠 112
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換 461
ランプスイッチ 195

せ

清掃
アルミホイール 438
外装 438
シートベルト 442
内装 442
レーダーセンサー 219, 291
制動灯
電球（バルブ）の交換 461
レーダークルーズコントロール 264
セカンダリーコリジョンブレーキ（停車中後突対応） 308
セカンダリーコリジョンブレーキ 380
セキュリティインジケーター 65, 66
接近警報（レーダークルーズコントロール） 270
接近時オートアンロック機能 106
設定画面 86
先行車発進告知機能 259
センサー
インナーミラー 138
キックセンサー 114, 115
後側方レーダー 219
前側方レーダー 219
前方カメラ 219
前方レーダー 219
デジタルインナーミラー 144
パワーバックドア 117
ライトセンサー 196
洗車 438
前照灯（ヘッドランプ）
オートレベリングシステム 197
電球（バルブ）の交換 461
ライトセンサー 196
ランプ消し忘れ防止機能 197
ランプスイッチ 195

そ

走行情報表示画面 82
走行モード（ドライブモード） 185, 374
速度計（スピードメーター） 75

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換 461
方向指示レバー 187
タイヤ
応急用タイヤ 503
空気圧 450, 529
交換 448, 503
チェーン 388
点検 448
パンクしたときは 492, 503
パンク応急修理キット 492
冬用タイヤ 388
ホイールサイズ 529
ローテーション（位置交換） 449
タイヤが空まわりする（スタックした） 522
タイヤチェーン 388
ダウンヒルアシストコントロールシステム 377
タコメーター 75

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....388
チャイルドシート
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け53
シートベルトでの固定.....51
選択方法.....42
チャイルドプロテクター.....109
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）
操作.....188
冬季の注意.....389
パーキングブレーキ表示灯.....483
ブレーキ警告灯.....478
未解除走行時警告ブザー.....191

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール.....271
ツール（工具）.....494, 503

て

提案サービス機能.....89
TRC
（トラクションコントロール）...379, 522
停止表示板（三角表示板）.....468
ディスプレイ
ヘッドアップディスプレイ.....91
マルチインフォメーションディスプレイ.....80
手入れ
アルミホイール.....438
外装.....438
シートベルト.....442
デジタルインナーミラー.....144
内装.....442
レーダーセンサー.....219, 291
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換.....461
ランプスイッチ.....195
デジタルアウターミラー
BSM（ブラインドスポットモニター）290
デジタルインナーミラー.....139
デジタルキー.....101
デッキアンダートレイ.....412
デッキフック（荷物固定用フック）.410
デッキボード.....411
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）.....395
電気式 4WD システム（E-Four）....379
電気モーター.....56, 61
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）.....461
ワット数.....530
点検基準値（メンテナンスデータ）.526
電子キー
作動範囲.....125
正常に働かないとき.....512
節電機能.....126
電池が切れた.....456
電池交換（キー）.....456
電動サンシェード
操作.....152
挟み込み防止機能.....153
電動パーキングブレーキ
操作.....188
冬季の注意.....389
パーキングブレーキ表示灯.....483
ブレーキ警告灯.....478
未解除走行時警告ブザー.....191

と

ドア
オートドアロック・アンロック機能...110
降車オートロック機能.....105
衝撃感知ドアロック解除システム.....107

スマートエントリー&スタートシステム 125
チャイルドプロテクター 109
ドアガラス 149
ドアロックスイッチ 109
バックドア 111
ロックレバー 109
ワイヤレスリモコン 105
ドアミラー
RCTA 319
安心降車アシスト 296
格納のしかた 148
操作 147
BSM（ブラインドスポットモニター） 290
ミラーヒーター 395
ドアミラー足元照明
電球（バルブ）の交換 461
ワット数 530
盗難防止装置
イモビライザーシステム 65
オートアラーム 66
時計 75
トップテザーアンカレッジ 54
トノカバー 413
トヨタチームメイト アドバンスト ドライブ（渋滞時支援） 280
トヨタチームメイトアドバンストパーク 347
ドライバー異常時対応システム 277
ドライバーモニター 226
ドライビングポジション 155
パワーイージーアクセスシステム 155
ポジションメモリー 156
メモリーコール機能 157
ドライブスタートコントロール
急発進の抑制制御 169
後退速度の抑制制御 170
ドライブモードセレクトスイッチ ... 374
トラクションコントロール（TRC） 379
トランスミッション 179, 182
シフトダウン制限警告ブザー 181
操作 179, 182, 183
メンテナンスデータ 528

な

内装
収納装備 406
手入れ 442
ナノイー X 397
ナビゲーションシステム連携表示 84, 91

に

ニーエアバッグ 34
荷物
積むときの注意 170
荷室内装備 410

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック） 522

ね

燃費
給油後平均燃費 88
瞬間燃費 88
燃費グラフ 82
燃費情報 82
平均燃費 88
燃料
給油 211
種類 526
燃料計 75
燃料残量警告灯 483
容量 526

燃料計 75

の

NORMAL モード 375

は

パーキングサポートブレーキ（PKSB） 327
後方接近車両 335
後方歩行者 336
前後方静止物／周囲静止物 331
パーキングブレーキ
操作 188
冬季の注意 389
パーキングブレーキ表示灯 483
ブレーキ警告灯 478
未解除走行時警告ブザー 191
パーソナルランプ 405
排気ガス 40
ハイビーム（ヘッドランプ）
AHB（オートマチックハイビーム） 202
AHS（アダプティブハイビームシステム） 198
電球（バルブ）の交換 461
ランプスイッチ 195
ハイブリッドシステム
EV ドライブモード 177
運転のアドバイス 386
オーバーヒート 519
回生ブレーキ 57
ガス欠になったとき 61
緊急始動機能 510
緊急時の停止方法 470
緊急停止システム 64
駆動用電池冷却用吸入口 63
高電圧部位 61
サービスプラグ 61
事故が発生したとき 62
始動できないときは 509
始動方法 172
車両接近通報装置 58
充電 57
注意 61
特徴 56
特有の音と振動 57
パワー（イグニッション）スイッチ 172
補機バッテリーがあがった 514
メンテナンス・修理・廃車するとき 58
ハイブリッドシステムインジケーター 78
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 461
ハザードランプ（非常点滅灯）
緊急ブレーキシグナル 379
スイッチ 469
電球（バルブ）の交換 461
挟み込み防止機能
電動サンシェード 153
パノラマムーンルーフ 153
パワーイージーアクセスシステム 156
パワーウインドウ 149
パワーバックドア 117
ポジションメモリー 157
メモリーコール機能 158
発炎筒 469
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 461
バックドア
イージークローザー 116
オープンスイッチ 113
キックセンサー 114, 115
バックドアが開かないとき 120
バックドアハンドル 114
パワーバックドア 112
ハンズフリーパワーバックドア 114, 115

ラゲージルームランプ 116
バッテリー（駆動用電池）
警告メッセージ 64
充電について 57
搭載位置 61
冷却用吸入口 63
冷却用吸入口の清掃 453
バッテリー（補機バッテリー）
充電警告灯 478
搭載位置 444
補機バッテリーがあがった 514
補機バッテリーを交換する 516
バニティ（化粧用）ミラー 415
バニティミラーランプ
装備について 415
パノラマムーンルーフ
初期化 153
操作 152
挟み込み防止機能 153
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 461
ワット数 530
パワーイージーアクセスシステム ... 155
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 151
閉めることができないときは 149
初期化 149
操作 149
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ... 150
挟み込み防止機能 149
巻き込み防止機能 149
パワーコントロールユニット 61
パワースイッチ
自動電源 OFF 機能 176
車両を緊急停止するには 470
モード切りかえ 175
パワーステアリング
EPS 379
パワーステアリング警告灯 480
パワーバックドア
クローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能 113
パンクした
応急用タイヤ装着車 503
タイヤパンク応急修理キット装着車 ... 492
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 461
ランプスイッチ 195
ハンズフリーパワーバックドア 114, 115
ハンズフリークローズ&ロック（ウォークアウェイ）機能 115
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 137
ステアリングヒーター 400
パワーイージーアクセスシステム 155
ポジションメモリー 156
メーター操作 81
メーター操作スイッチ 81

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） 379
ヒーター
オートエアコン 393
シートヒーター 400
ステアリングヒーター 400
前方カメラ 221
ミラーヒーター 395
非常時給電システム 425
正常に使用できない 434
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ 469
電球（バルブ）の交換 461
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換 461

ランプスイッチ....195
ヒューズ....458
表示灯....72
日よけ（サンバイザー）....415
ヒルスタートアシストコントロール379

ふ

VSC
（ビークルスタビリティコントロール）379
ブースターケーブルのつなぎ方....514
フォグランプ
スイッチ....205
電球（バルブ）の交換....461
ブザー
RCD（リヤカメラディテクション）....325
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）....320
FCTA（フロントクロストラフィックアラート）....257
音さくいん....562
クリアランスソナー....315
高水温....479
シートベルト非着用警告....484
シフトダウン制限警告....181
車線逸脱警報機能（LDA）....246
衝突警報（PCS）....229
接近警報（レーダークルーズコントロール）....270
手放し運転警告（LDA）....248
ドライバー異常時対応システム....277
ドライバーモニター....226
ドライブスタートコントロール....483
パーキングブレーキ未解除走行時警告191
発進遅れ告知機能....259
パノラマムーンルーフ開警告....153
パワーステアリング....480
半ドア警告....107
半ドア走行時警告....109
PKSB（パーキングサポートブレーキ）....329
ブレーキ....478
ブレーキオーバーライドシステム....483
ブレーキホールド....483
窓開警告....150
油圧....479
リバース警告....179, 185
フック
コートフック....424
デッキフック....410
フロアマット固定フック....28
フューエルメーター....75
フューエルリッド（給油口）
給油扉が開かない....511
給油のしかた....211
冬の前の準備（寒冷時の運転）....388
冬用タイヤ....388
ブラインドスポットモニター（BSM）....290
プラスサポート....342
プリクラッシュセーフティ（PCS）228
機能....228
ブレーキ
回生ブレーキ....57
緊急ブレーキシグナル....379
パーキングブレーキ....188
ブレーキ警告灯....478
ブレーキホールド....192
メンテナンスデータ....528
ブレーキアシスト
ABS &ブレーキアシスト警告灯....480
機能....379
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる....167
ブレーキフルード....528
ブレーキホールド....192
プロアクティブドライビングアシスト

（PDA）.....253
フロアマット.....28
フロントカップホルダー照明.....403
フロントクロストラフィックアラート（FCTA）.....257
フロントシート
シートヒーター.....400
シートベンチレーション.....400
正しい運転姿勢.....29
調整.....131
手入れ.....442
パワーイージーアクセスシステム.....155
ヘッドレスト.....135
ポジションメモリー.....156
メモリーコール機能.....157
フロントフォグランプ
スイッチ.....205
電球（バルブ）の交換.....461
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....461
方向指示レバー.....187

へ

平均燃費.....82, 88
ヘッドアップディスプレイ.....91
運転支援システム表示.....94
設定.....93
走行状況表示.....91
ナビゲーションシステム連携.....91
ポジションメモリー.....156
割り込み表示.....94
ヘッドランプ
電球（バルブ）の交換.....461
ライトセンサー.....196
ランプ消し忘れ防止機能.....197
ランプスイッチ.....195
ヘッドランプオートレベリングシステム.....197
ヘッドレスト.....135
ベンチレーター（シートベンチレーション）.....400

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....503
メンテナンスデータ.....529
ホイールナットレンチ.....494, 503
方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....461
方向指示レバー.....187
ホーン（警音器）.....137
補機バッテリー
充電警告灯.....478
搭載位置.....444
補機バッテリーがあがった.....514
補機バッテリーを交換する.....516
ポジションメモリー.....155
保証.....10
ボトルホルダー.....408
ボンネット（エンジンフード）
開け方.....444
警告音.....109

ま

マイセッティング.....159
MUD&SAND モード.....375
マルチインフォメーションディスプレイ.....80
運転支援システム情報.....88
オーディオ連携.....84
警告メッセージ.....485
車両情報表示.....84
設定.....86
走行情報表示.....82

提案サービス機能.....89
ナビゲーションシステム連携.....84
メーター操作スイッチ.....81
マルチテレインセレクト.....375

み

ミラー
インナーミラー.....138
デジタルインナーミラー.....139
ドアミラー.....147
バニティミラー.....415
ミラーヒーター.....395

む

ムーンルーフ
初期化.....153
操作.....152
挟み込み防止機能.....153

め

メーター（計器類）
警告灯.....71, 478
警告メッセージ.....485
ハイブリッドシステムインジケーター.....78
表示灯.....72
マルチインフォメーションディスプレイ.....80
メーター操作スイッチ.....81
メーター
運転支援システム情報表示.....88
エコアクセルガイド／エコジャッジ.....82
エネルギーモニター.....85
オーディオシステム連携表示.....84
計器類.....75
始動後走行時間／ EV 走行比率.....84
設定.....86
地図表示.....88
提案サービス機能.....89
時計.....75
ドライブインフォメーション.....84
トリップインフォメーション.....84
ナビゲーションシステム連携表示.....84
燃費画面.....88
燃費グラフ.....82
ハイブリッドシステムインジケーター.....78
パワースイッチを OFF にしたときに表示される項目.....90
表示を切りかえるには.....81
ブランク（非表示）.....86
マルチインフォメーションディスプレイ.....80
メーター操作スイッチ.....81
4WD 作動状態表示.....85
メカニカルキー.....100
メモリーコール機能.....157
メンテナンスデータ.....526

も

モーター（電気モーター）.....56, 61
モーターでの走行（EV ドライブモード）.....177

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....531
雪道ですべって動けない（スタックした）.....522
油脂類.....526

よ

4WD 作動状態表示.....85

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 461
ランプスイッチ 195
ラゲージサイドトレイ 413
ラゲージフック 410
ラゲージルーム 410
ラゲージルームランプ 116
ラジエーター
オーバーヒート 519
メンテナンスデータ 528
ランプ
AHB（オートマチックハイビーム） 202
AHS（アダプティブハイビームシステム） 198
インテリアランプ 403
室内灯 403
電球（バルブ）の交換 461
パーソナルランプ 405
非常点滅灯（ハザードランプ） 469
フロントフォグランプ 205
ヘッドランプ（前照灯） 195
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー） 187
ライトセンサー 196
ラゲージルームランプ 116
ランプ消し忘れ防止機能 197
リヤフォグランプ 205
ワット数 530
ランプ消し忘れ防止機能 197

り

リヤアームレスト 424
リヤウインドウデフォッガースイッチ 395
リヤカメラデテクション（RCD） 324
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 319
リヤシート 132
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ... 484
リヤディファレンシャル
メンテナンスデータ 528
リヤフォグランプ
スイッチ 205
電球（バルブ）の交換 461
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換 461
方向指示レバー 187

る

ルームミラー（インナーミラー） 138

れ

冷却水
冬の前の準備 388
メンテナンスデータ 528
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート 519
メンテナンスデータ 528
レーダークルーズコントロール 263
接近警報 270
レーダー 218
レーンチェンジアシスト（LCA） 242
レーンディパーチャーアラート（LDA） 246
レーントレーシングアシスト（LTA） 238
レバー
シフト 179, 182
ハンドル位置調整 137
方向指示 187
ボンネット解除 444
ロック（ドア） 109

ろ

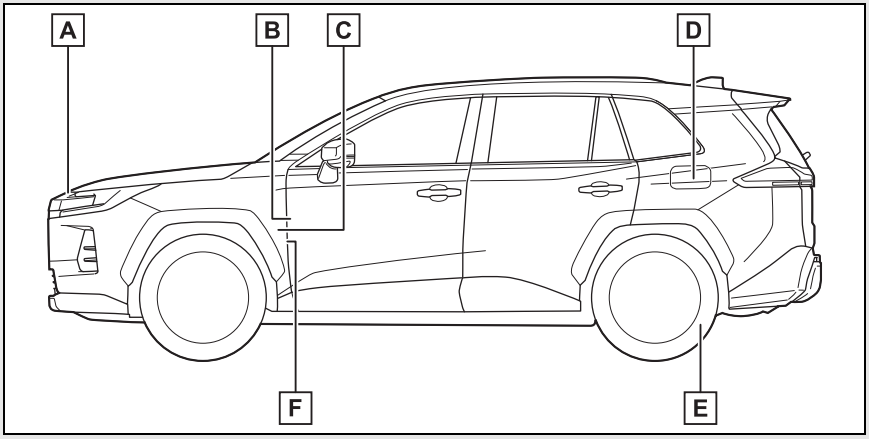
ロードサインアシスト（RSA）.....260
ロック
ウインドウロック.....151
スマートエントリー&スタートシステム.....125
チャイルドプロテクター.....109
ドア.....105
バックドア.....111
ワイヤレスリモコン.....100
ROCK&DIRT モード.....375

わ

ワイパー & ウォッシャー
ウインドシールドデアイサー.....398
ウォッシャー液の補充.....447
フロント.....206
リヤ.....209
ワイパーブレード（寒冷地用）.....389
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.417
ワイヤレスリモコン
作動の合図.....107
操作.....100
電池の交換.....456
半ドア警告ブザー.....107
ワックス.....438
ワット数.....530

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



A ボンネットフック（→P.444）

B パワーバックドアスイッチ（→P.113）

C 給油扉オープナースイッチ（→P.212）

D 給油口（→P.212）

E タイヤ空気圧（→P.529）

F ボンネット解除レバー（→P.444）

燃料の容量（参考値）	55L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P.529
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.0 L オイルとオイルフィルター交換時：4.3 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル 推奨： GLV-1 0W-8 JASO GLV-1, SAE 0W-8 適合： SP 0W-16 API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 SP 0W-20 API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 SP 5W-30 API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
フリーコール 0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォーム
によるお問い合わせ

チャットによる
お問い合わせ

手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp



Publication No. M42M70V
01-2611
RAV4 (HEV)